

Web 対応型 遠隔監視制御システム

コルソス CSDX シリーズ

- ▶ コルソス CSDX
- ▶ コルソス CSDX(P)
- ▶ コルソス CSDX(D)
- ▶ コルソス CSDX(S)

総合説明書

2017.4 Ver.7.01

お買い上げいただきありがとうございます。
ご使用になる前に本書をよくお読みのうえ正しくお使いください。
また、本書は大切に保管してください。



ニカド電池及びニッケル水素電池の
リサイクルにご協力ください。

はじめに

このたびは、「コルソス CSDX シリーズ」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書は、機能動作や操作方法を説明した「機能編」、設置工事やシステムデータ設定の方法を説明した「工事編」、その他関連事項を説明した「その他」と、コルソス CSDX シリーズを取り扱う上で必要な内容をまとめた「総合説明書」となっております。ご使用になる前に、本書をよくお読みになり、正しくお取り扱いください。また、お読みになった後も必要な時にすぐに見られるよう大切に保管してください。

本書の適用範囲

品名	型名	バージョン	記事
コルソス CSDX 通報装置	CSAD-1A 通報装置	1.24140310～	
コルソス CSDX(P) 通報装置	CSAD-4A 通報装置	4.24140310～	
コルソス CSDX(D) 通報装置	CSAD-3A 通報装置	3.24140310～	
コルソス CSDX(S) 通報装置	CSAD-2A 通報装置	2.24140310～	

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

技術基準等適合認定について

認証機器名：CSAD-1A 通報装置、CSAD-2A 通報装置、CSAD-4A 通報装置

認証番号：A02-0692JP

輸出する際の注意事項

本製品（プログラム含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

ご注意

- 本書の内容の一部または全部をバックアップ以外の目的で無断転載・無断複製することはメディアを問わず、禁止されています。
- 本製品の故障や誤動作、停電あるいは天災などにより本製品が使用できなくなった場合、それに付随的に生じる損害に対しては、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本製品は事故発生を防止する物ではありません。従いまして、万一事故が発生し、損害が生じましても、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。

- Microsoft および Windows は、米国およびその他の国における Microsoft 社の登録商標です。
- Netscape は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation 社の登録商標です。
- CF および CompactFlash は、米国 SanDisk 社の商標です。
- 「DoPa/ドゥーパ」「Mobile Ark/モバイルアーク」「DoPa MAX/ドゥーパマックス」「FOMA/フォーマ」は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。
- AIR-EDGE はウィルコム株式会社の登録商標です。
- MELSEC は三菱電機株式会社の商標です。
- その他、本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。なお本書では、™、©、®マークは明記しておりません。

安全上のご注意 —必ずお読みください—

安全にお使いいただくために必ずお読みください

絵表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、次のような表示をしています。

表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
 お願い	本商品が本来の性能が発揮できなかったり、機能停止をまねく内容を示しています。

■ 設置上の注意

⚠ 警告

- 表示された電源電圧以外の電圧でご使用にならないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- タコ足配線はしないでください。テーブルタップなどが過熱・劣化し、火災の原因となります。
- 電源コードや配線の上に重いものをのせる無理に曲げる、無理に引っ張る、ねじるなどはしないでください。電源コードや配線を断線させ火災、感電、故障の原因となります。
- 濡れた手で電源コードや電源プラグにさわったり、機器を操作しないでください。感電の原因となります。
- 次のような場所には設置しないでください。火災、感電、故障の原因となります。
 - ・直射日光や暖房器具等で高温・多湿になる場所
 - ・湿気の多い場所や、水、油、薬品などがかかる恐れのある場所
 - ・著しく温度が低下する場所
 - ・テレビ、ラジオ、無線機など磁気、電波を発生する場所
 - ・違法電波を受ける場所
 - ・腐食性ガスのある場所
- 周辺装置を架空配線する場合は、避雷器など十分な対策を行ってください。火災、感電、故障の原因となります。
- 指定以外の停電用電池をご使用にならないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- 停電用電池接続コネクタを金属でショートさせないでください。火災、感電、故障の原因となります。

⚠ 注意

- 機器本体は振動や衝撃等によって落下しないようにしっかりと壁に固定してください。機器が落下して、けがの原因となることがあります。
- 機器本体をぐらついた台の上や傾いた所、また振動や衝撃の受けやすい場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 電源コードを高温の発熱体や熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて火災、感電の原因となることがあります。
- 機器本体の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと機器内部に熱がこもり、火災、故障の原因となることがあります。
- 機器本体を移動させる場合には、電源コードを抜き、外部の接続線はずしたことを確認の上、行ってください。コードを傷つけますと、火災、感電の原因となる場合があります。

STOP お願い

- 本装置と同じ回線には他の電話装置を接続（直列、並列を問わず）しないでください。誤動作の原因となります。他の電話装置を接続する場合は、本装置の外付電話装置端子に接続してください。
- 通報先に「110」「119」など警察、消防機関は設定しないでください。

■ 運用上の注意

⚠ 警告

- 機器本体の上に物をのせないでください。中に入った場合、火災、感電、故障の原因となります。
- お客様ご自身で機器本体を分解し機器内部の清掃、修理、点検、改造を行うことはしないでください。火災、感電、故障の原因となります。分解された製品は修理に応じられない場合があります。
- 機器本体に水をかけたり、通風孔などの開口部から金属類や紙などの燃えやすいものを侵入させないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- 機器本体を倒したり、落下させたり、物をぶつけるなどの衝撃を与えないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- 停電用電池は絶対に分解しないでください。発熱、発火、破裂の原因となります。電解液は強アルカリ性ですので皮膚や衣類を傷める原因となります。万一液が身体についたら水でよく洗い流してください。
- 停電用電池を他の充電装置で充電しないでください。発熱、発火、破裂の原因となります。
- 本装置カバー内には、リチウム電池が搭載されていますが、交換する必要はありません。リチウム電池を間違えて交換すると爆発する危険がありますのでご注意ください。
- 停電用電池は火中に投入しないでください。発熱、発火、破裂の原因となります。

⚠ 注意

- 長時間機器をご使用にならない場合には電源を切り、安全のため電源コードを抜いてください。

STOP お願い

- 本装置に接続する周辺装置は、運用中は常時電源の入った状態にしておいてください。誤動作の原因となります。

■ メンテナンスについて

STOP お願い

- 機器本体の汚れを取る場合は、薄めた台所用中性洗剤を布に含ませよく絞ってから拭き取り、その後、乾いた布で拭くようにしてください。ベンジン、シンナー、アルコールなどの薬品や、科学雑巾のご使用は絶対に避けてください。本機の外装を変質、変色させる原因となります。
- 機器本体に接続する周辺機器（センサなど）には耐用年数が定められているものがあります。耐用年数経過後の周辺機器は接続しないでください。誤動作の原因となります。
- 停電用電池は、規定の交換時期を経過した場合、交換してください。停電用電池については、販売店または最寄りの弊社窓口にお問い合わせください。
- 確実な運用を保持するため、定期的な点検を行ってください。

■ 保管について

お願い

- 製品を保管する場合は、梱包状態のまま保存してください。保存場所は、各機器の使用と同等の環境（温度：0℃～50℃、湿度：20%～85%）を維持できる場所に保存してください。詳しくは、販売店もしくは最寄りのご相談窓口にご相談ください。

■ 異常時の対処

警告

- 万一、機器本体内に水や金属、紙などの燃えやすい物が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源コードを抜いてご使用を中止し、販売店もしくは最寄りのご相談窓口までご連絡ください。そのままご使用になりますと火災、感電、故障の原因となります。
- 万一次のような異常状態を発見したら、すぐに電源スイッチを切り、電源コードを抜いてご使用を中止し、販売店もしくは最寄りのご相談窓口までご連絡ください。そのままご使用になりますと火災、感電、故障の原因となります。
 - ・煙が出ている
 - ・へんな臭いがする
 - ・異常音がでていた
 - ・異常に高温になっている
 - ・その他上記以外で異常と思われる状態

目次

はじめに.....	2
安全上のご注意 ー必ずお読みくださいー.....	3
目次.....	7
製品について.....	9
製品概要.....	9
製品ラインアップ.....	10
製品構成品.....	11
オプション・関連品/保守用品等.....	12
システム構成.....	13
装置構成.....	13
システム構成例.....	15
主な仕様.....	16
各部の名称とはたらき.....	18

機能編

通信ネットワークを収容する.....	22
本装置の通信ポートの条件および必要な機器.....	23
通信ネットワーク（ポート）による機能制限.....	24
アナログポートの回線断線検出機能.....	25
入力状態などを監視する.....	26
監視できる要因（起動要因）.....	26
デジタル入力端子の監視.....	28
アナログ入力端子の監視.....	29
通報する：基本事項.....	31
通報モードを切替える.....	32
通報できる要因（通報要因）.....	34
通報内容の種類（通報方式）.....	36
通報動作の開始.....	37
通報内容の送付.....	37
通報内容にアナログ値など計算結果をいれる.....	38
通報内容に現在状態を付加する.....	40
通報内容に日報・月報を付加する.....	42
通報要因の複数発生時に一括で通報する.....	44
通報する順序.....	46
通報完了条件（通報グループ）.....	47
通報を取り消す.....	48
通報を一時的に停止する（メンテナンスモード）.....	49
通報する：音声.....	51
音声通報のシーケンス概要.....	51
音声通報メッセージ.....	52
音声通報の終了条件.....	53
通報する：Eメール.....	54
Eメール通報のシーケンス概要.....	55
Eメール通報内容.....	57
Eメール通報の終了条件.....	58
通報する：FAX.....	59
FAX通報のシーケンス概要.....	59
FAX通報内容.....	60
FAX通報の終了条件.....	65

通報する：DTMF.....	66
DTMF通報のシーケンス概要.....	67
DTMF通報内容.....	68
DTMF通報の終了条件.....	71

デジタル出力を制御する.....	72
デジタル出力を制御する方法.....	73
デジタル出力の出力動作方式.....	74
連動できる要因（デジタル出力連動要因）.....	75

監視データを記録する.....	78
記録できる項目と最大件数.....	78
記録の有効/無効.....	79
記録の方法および内容.....	79
記録の確認方法.....	83

コントロールする：基本事項.....	84
コントロールする方法.....	85
コントロールできる内容.....	86

コントロールする：ブラウザ.....	87
ブラウザコントロールの準備.....	89
ブラウザコントロールを開始する.....	94
ブラウザコントロールを終了する.....	96
メニュー画面について.....	97
現在の入力状態などを表示する.....	98
通報などの履歴を表示する.....	100
帳票（日報・月報）を表示する.....	109
端末情報を表示する.....	116
システムデータを設定する.....	116
デジタル出力を制御する.....	117
端子の積算値をクリアする.....	119
履歴・帳票データをクリアする.....	121
時計を設定する.....	123
バージョン情報を表示する.....	125
社名ロゴについて.....	126
エラー画面について.....	127

コントロールする：DTMF音声.....	129
DTMF音声コントロールの手順.....	130
サービス番号と応答内容.....	133
コントロールする：DTMFデータ.....	135
DTMFデータコントロールの手順.....	136
サービス番号と応答内容.....	137
データフォーマット（現在状態情報）.....	139

端子を増設する.....	140
対応シーケンサ.....	140
増設できる端子.....	141
本装置のシーケンサからのデータ読み出し処理.....	143
本装置のシーケンサへのデータ書き込み処理.....	144

参考.....	145
ランプ表示 一覧.....	145
ボタン動作 一覧.....	146

工事編

設置工事を実施する.....	148
設置工事の手順.....	148
設置工事前の確認をする.....	149
工事内容の確認.....	149
手配品の確認.....	149
設置場所の確認.....	149
配線方法の確認および配線孔の確保.....	150
本装置を取付ける.....	151
本装置の取付け.....	151
停電用電池を取り付ける.....	152
CFカードを取り付ける.....	153
シリアルポートに機器を接続する.....	155
通信ネットワークを接続する.....	157
アナログポート利用.....	157
LANポート利用.....	158
CFカードスロット利用.....	158
シリアルポート利用.....	158
センサなどの機器を接続する.....	159
配線端子ユニット.....	159
配線の収束.....	161
デジタル入力接続.....	162
アナログ入力接続.....	163
デジタル出力接続.....	166
外部電源出力接続.....	167
アースを接続する.....	168
電源を接続する.....	169
AC電源の接続.....	169
DC電源の接続.....	171
電源を入れる/切る.....	172
電源を入れる（装置を起動する）.....	172
電源を切る（装置をシャットダウンする）.....	173
データを設定する：基本操作.....	174
システムデータ設定の手順.....	174
設定値の設定や入力の方法.....	177
簡単設定について.....	178
データを設定する：設定内容.....	180
設定種別一覧.....	180
端末IDの設定.....	181
LANポートの設定.....	182
アナログポートの設定.....	183
シリアルポートの設定.....	184
CFカードスロットの設定.....	185
デジタル出力の設定.....	186
通報共通の設定.....	188
ダイヤル先の設定.....	190
Eメール通報先の設定.....	191

データ通報先の設定.....	191
通報グループの設定.....	192
デジタル入力の設定.....	197
アナログ入力の設定.....	201
定時刻の設定.....	206
停電・復電の設定.....	208
ローバッテリーの設定.....	210
モード切替の設定.....	212
シーケンサ共通の設定.....	215
ビットデバイスの設定.....	217
ワードデバイスの設定.....	218
アナログ応答の設定.....	220
PHS応答の設定.....	221
DoPa/FOMA応答の設定.....	222
DTMFコントロールの設定.....	223
データコントロールの設定.....	224
ブラウザコントロールの設定.....	225
日報スタイルの設定.....	226
列設定（日報）.....	227
月報スタイルの設定.....	228
列設定（月報）.....	229
異常帳票スタイルの設定.....	230
現在状態帳票スタイルの設定.....	231
データを設定する：共通設定方法.....	232
通報先設定の考え方.....	232
入力端子計算式の設定方法.....	233
音声メッセージの設定方法.....	234
現在状態画面の表示色の設定方法.....	238
帳票の設定方法.....	239
マクロについて.....	250
シーケンサプログラムについて.....	263
データを設定する：セーブ/ロードする.....	267
データのセーブ（コルソス → PCやCFカード）.....	267
データのロード（PCやCFカード → コルソス）.....	270

動作チェックを実施する.....	275
運用を開始する.....	277
参考.....	278
データ設定がうまくできなかったら.....	278

その他

保守メンテナンス.....	284
停電用電池の交換.....	284
CFカードの交換.....	285
システムデータの初期化.....	287
故障かなと思われたら.....	288
アフターサービス.....	292
寸法図.....	293

製品について

製品概要

コルソス CSDX は、外部に接続したセンサや計測装置等の稼動状況等を常時監視し、必要に応じて記録したり、各種通信インフラを利用して監視情報を通知する装置です。

通信インフラとして、一般電話回線・LAN・PHS・DoPa・FOMA など、通知先（方法）として、電話機（音声）・センタ装置（データ）・汎用機器（E メール）・ファクシミリ（FAX）が利用でき、多様な通知パターンを実現できます。（※1）

また遠隔操作で、現在状態モニタ、デジタル出力制御、記録データの取得などが行えます。操作手段として電話機・ファクシミリ（DTMF）、センタ装置（データ）、汎用機器（ブラウザ）が利用できます。（※2）

なおコルソス CSDX の製品ラインアップには、FAX 通報機能に対応した CSDX、標準品である CSDX (P)、LAN・無線通信 IF のみに対応した CSDX (D)、シーケンサを接続することで監視端子数を増やすことができる CSDX (S)、の 4 タイプがあります。

- ※1. 通信インフラにより通信先(方法)の機能制限があります。なお通信インフラは一部を除き併用が可能です。
- ※2. 遠隔操作機器(方法)によりコントロール項目の機能制限があります。

製品ラインアップ

コルソス CSDX シリーズの製品ラインアップは、以下の通りです。

品名	型名	概要
コルソス CSDX 通報装置	CSAD-1A 通報装置	CSDX(P)より、入出力点数が多く、またFAX 通報機能にも対応しています。
コルソス CSDX(P) 通報装置	CSAD-4A 通報装置	標準品です。
コルソス CSDX(D) 通報装置	CSAD-3A 通報装置	CSDX(P)からアナログIFを除き、LAN・無線通信IFのみに対応しています。
コルソス CSDX(S) 通報装置	CSAD-2A 通報装置	シーケンサを接続することで監視端子数の増設が可能です。

機能概要比較

項目	CSDX	CSDX(P)	CSDX(D)	CSDX(S)
通信IF				
アナログ	○	○	×	○
LAN	○	○	○	○
PHS	○	○	○	○
DoPa	○	○	○	○
FOMA	○	○	○	○
入出力IF				
デジタル入力	16	8	8	16
アナログ入力	8	8	8	8
デジタル出力	8	4	4	8
シーケンサ接続	×	×	×	○
通報方式				
音声 (アナログのみ)	○	○	×	○
Eメール	○	○	○	○
データ	○	○	○	○
FAX (アナログのみ)	○	×	×	×
DTMF (アナログのみ)	○	○	×	×
コントロール方式				
DTMF 音声 (アナログのみ)	○	○	×	○
ブラウザ	○	○	○	○
データ	○	○	○	○
DTMF データ (アナログのみ)	○	○	×	×

製品構成

本製品の構成部品です。本製品に以下構成部品が全て揃っていることをご確認ください。

品名	数量	記事
通報装置 本体	1台	
必ずお読みください(冊子)	1枚	安全上のご注意が記載されています。
総合説明書 CD-ROM	1枚	本書が収録されています。
停電用電池	1個	指定品 Ni-Cd 電池。停電バックアップ電池です。
壁掛け用木ネジ	4本	本体壁掛け取付用ネジです。 4.1mm×16mm
壁掛け工事シート	1枚	本体壁掛け取付時の工事補助シートです。
電流調整ドライバー	1本	アナログ入力の電流調整ボリューム調整用です。
注意シール	3枚	設置後、回線ケーブルなどに貼り付けてください。
保証書	1枚	

オプション・関連品/保守用品等

本製品に関するオプション品、保守品などです。
販売店または最寄りの弊社窓口にお問い合わせください。

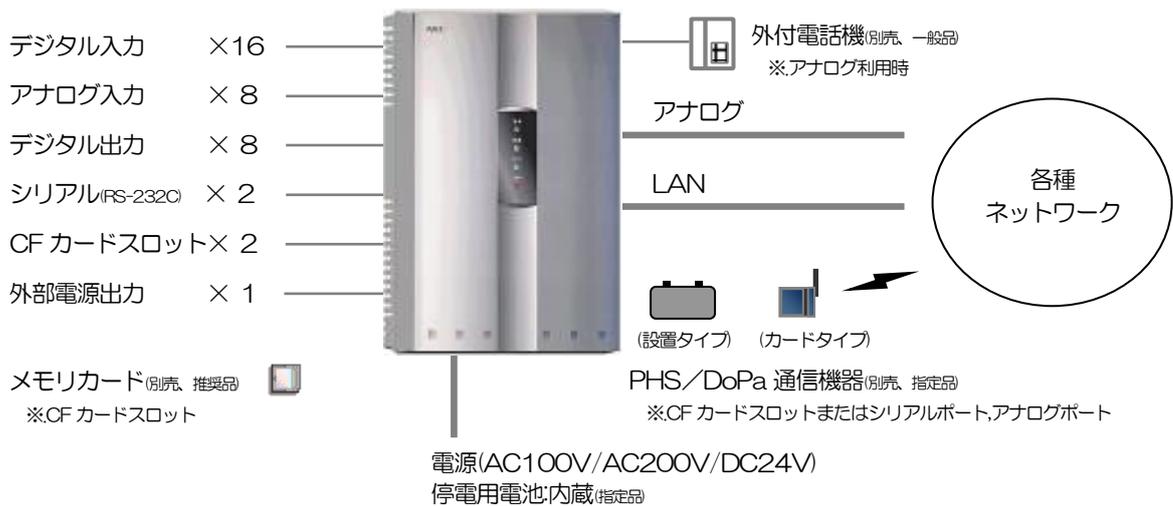
項目	概要および対応品名	記事・注意等
オプション・関連品		
メモリカード (CFカード)	コンパクトフラッシュメモリカード(空き容量 12MB以上)です。 履歴の拡張、また帳票作成などを行う場合に必要となります。 ・推奨品についてはお問い合わせください。	履歴・帳票について、 P78 。
PHS 通信機器	通信ネットワークとして「PHS」を収容する場合には、以下のいずれかの機器が必要となります。	PHS について、 P22 。
カードタイプ (CFカード)	・対応機器：AIR-EDGE AH-N401C (ウィルコム(株)) AIR-EDGE AX420N (ウィルコム(株))	設置環境により、別途アンテナが必要な場合があります。
設置タイプ (アナログポート)	・対応機器：PAU アナログ対応シリーズ ※: PHS Access Unit (NEC マグナスコミュニケーションズ(株))	CSDX(D)は使用できません。 別途アンテナ、電源(停電対応含む)などが必要な場合があります。
DoPa 通信機器	通信ネットワークとしてNTT ドコモ「DoPa」を収容する場合には、以下のいずれかの機器が必要となります。	DoPa について、 P22 。
カードタイプ (CFカード)	・対応機器：DoPa MAX 2896F ((株)NTT ドコモ)	設置環境により、別途アンテナが必要な場合があります。
設置タイプ (シリアルポート)	・対応機器：DoPa Mobile Ark 9601KO、UM-ADP・D (株)NTT ドコモ)	別途アンテナ、電源(停電対応含む)なども必要です。
FOMA 通信機器	通信ネットワークとしてNTT ドコモ「FOMA」を収容する場合には、以下のいずれかの機器が必要となります。	FOMA について、 P22 。
カードタイプ (CFカード)	・対応機器：FOMA P2402、FOMA P2403 ((株)NTT ドコモ)	設置環境により、別途アンテナが必要な場合があります。
設置タイプ (シリアルポート)	・対応機器：UM01-KO、UM01-F、UM02-KO、UM02-F、 UM03-KO ((株)NTT ドコモ)	別途アンテナ、電源(停電対応含む)なども必要です。
長時間停電用電池	停電保証時間を長時間にするニッケル水素電池です。 停電保証時間：待機状態で6時間 ・品名：HHR-21HF26G1 (1.9Ah/14.4V) ・交換時期：3年毎 (平均使用温度 30℃以下の場合)	弊社品番：PW-CS01-01 確実な停電保証を保持するため、 規定の交換時期に必ず交換してください。
保守用品 (本製品に標準で添付または実装されています)		
停電用電池	停電バックアップ用のニカド電池です。 停電保証時間：待機状態で1時間 ・品名：12KR-600AAH-NTS (600mAh/14.4V) ・交換時期：3年毎	弊社品番：PW-CS06-01 確実な停電保証を保持するため、 規定の交換時期に必ず交換してください。
ヒューズ	外部電源出力用のヒューズです。 ・型名：5.2φ×20mm 0.1A/250V (市販品)	
その他		
センタ装置	本装置とのデータ通信および各種アプリケーションが搭載された専用センタ装置です。	
シーケンサ (シリアルポート)	CSDX(S)と接続することにより、監視端子数を増設することができます。 ・対応機器：MELSEC-A シリーズ、MELSEC-Q シリーズ、 MELSEC-QnA シリーズ、MELSEC-FX シリーズ (三菱電機(株))	CSDX(S)のみ使用できます。

上記以外の製品 (TA やルータなどのネットワーク機器など) についても、お問い合わせください。

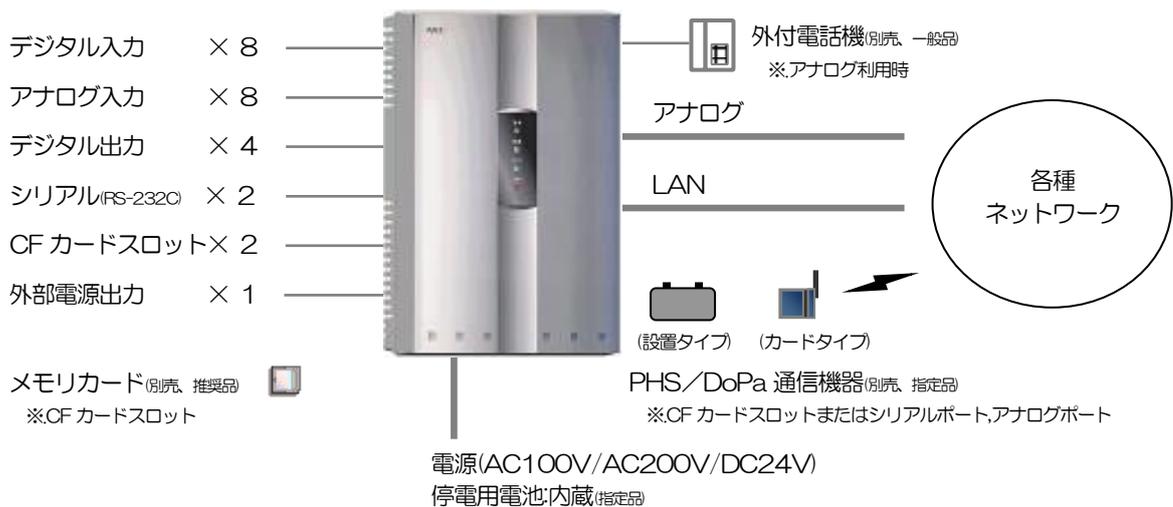
システム構成

装置構成

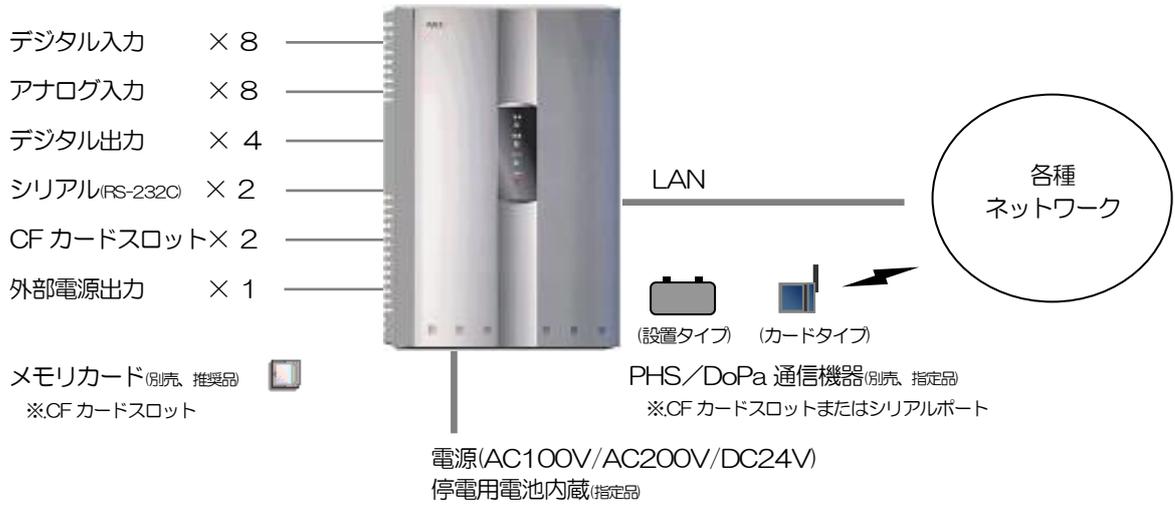
1 CSDX



2 CSDX(P)

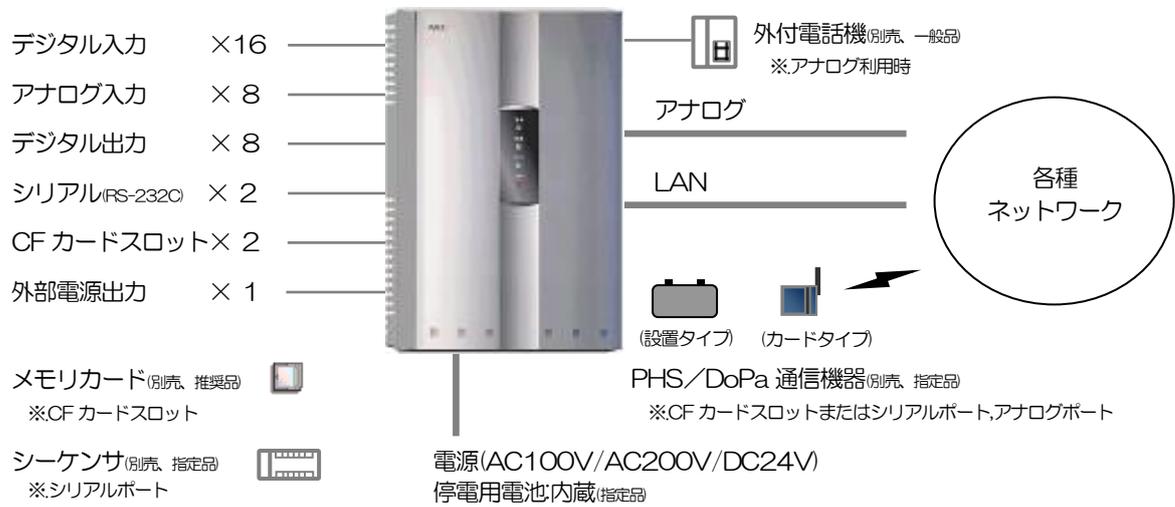


3 CSDX(D)

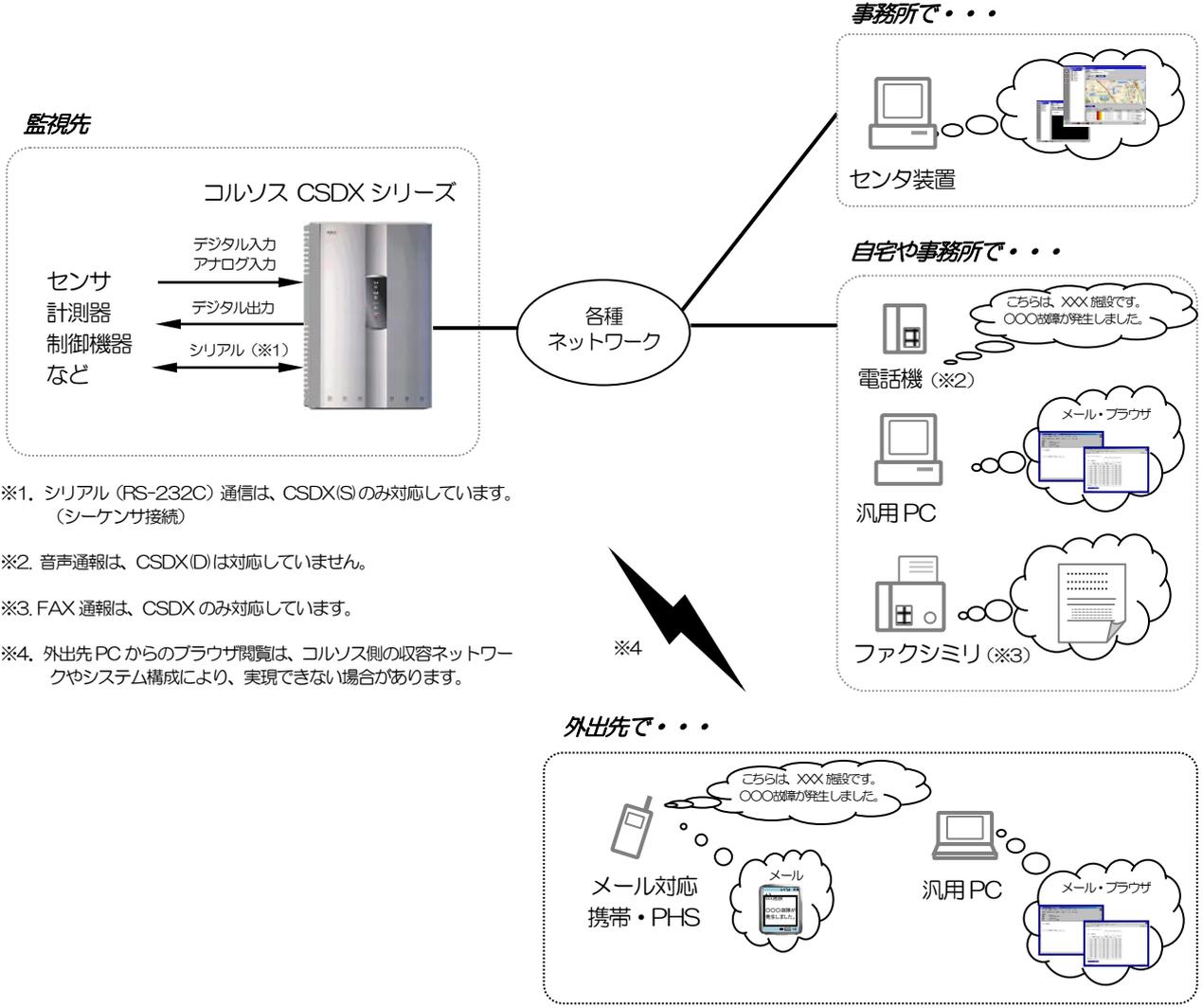


指定品について、「製品について オプション・関連品/保守用品等」(P12)をご覧ください。

4 CSDX(S)



システム構成例



主な仕様

項目		主な仕様				
		CSDX	CSDX(P)	CSDX(D)	CSDX(S)	
基本性能	電源	動作電源	AC100V±10%/AC200V±10%/DC24V±10%			
		停電保証	Ni-cd 電池(指定品)により、停電時 1 時間(※)待機後、3 回の通報動作を保障 (外部電源出力未使用時) ※.オプション電池により、6 時間可。			
	消費電力・電流	AC100V 時	待機時：13VA(16VA) 動作時：14VA(17VA)	待機時：13VA(16VA) 動作時：14VA(17VA)	待機時：10VA(12VA) 動作時：11VA(13VA)	待機時：13VA(16VA) 動作時：14VA(17VA)
		AC200V 時	待機時：21VA(24VA) 動作時：22VA(25VA)	待機時：21VA(24VA) 動作時：22VA(25VA)	待機時：19VA(22VA) 動作時：20VA(23VA)	待機時：21VA(24VA) 動作時：22VA(25VA)
		DC24V 時	待機時：230mA(310mA) 動作時：260mA(340mA)	待機時：230mA(310mA) 動作時：260mA(340mA)	待機時：160mA(230mA) 動作時：180mA(250mA)	待機時：230mA(310mA) 動作時：260mA(340mA)
			※()内：外部出力 100mA 使用時			
	動作環境	温度：0℃～50℃ 湿度：20%～85% (結露しないこと)				
	外形・重量	外形寸法	210mm(W) × 300mm(H) × 65mm(D)			
		重量	1.6Kg (停電用電池含む)			
	筐体材質	難燃 PS				
筐体色彩	グレー (マンセル値 5.5GY 7.6/0.2)					
技術基準適合認定 認証番号	A02-0692JP ※CSDX(D)は技術基準対象外					
インターフェース	ユーザーIF	ランプ	POWER/LINE/MODE/CHECK 本体カバー内部：LAN/CF1/CF2			
		ボタン	本体カバー内部：MAIN_SW/SOFT_SW/SET/CANCEL			
		スピーカ等	内蔵スピーカ、ブザー			
	デジタル・アナログIF	デジタル入力	16 ch	8ch	8ch	16 ch
		<ul style="list-style-type: none"> 入力形式：無電圧接点入力 入力方式：イベント/パルス積算/時間積算 端子毎選択 最小検出時間：イベント：300ms パルス：10ms 運転：1s 				
		アナログ入力	8 ch ※ ティップスイッチ設定により端子毎にデジタル入力へ変更可 (出荷時は全端子デジタル入力に設定済み)			
		<ul style="list-style-type: none"> 入力形式：電圧/電流入力 端子毎選択 ※.非絶縁 入力レベル：電圧：DC 0-5V/1-5V 電流：DC 0-20mA/4-20mA 分解能：10bit 				
		デジタル出力	8 ch	4 ch	4 ch	8 ch
	<ul style="list-style-type: none"> 出力形式：トランジスタ出力 出力方式：連続/ワンショット 端子毎選択 					
	増設 (シーケンサ接続)	不可			(最大増設数 64ch)	
<ul style="list-style-type: none"> 対応シーケンサ：三菱電機(株) MELSEC シリーズ シーケンサ接続：シリアル(RS-232C)利用 増設端子種別：デジタル入力/アナログ入力/デジタル出力混在可 						
その他IF	シリアル (RS-232C)	2 ch ・コネクタ：D-Sub9 ピン(オス)				
	CF カード スロット	2 Slot ・対応カード：Type II				
	外部電源出力	1ch ・出力レベル：DC12V±10%/100mA ・出力方式：常時出力				

主な仕様

項目		主な仕様			
		CSDX	CSDX(P)	CSDX(D)	CSDX(S)
通信機能	ネットワークIF	アナログ/LAN/DoPa /PHS/FOMA 他	アナログ/LAN/DoPa /PHS/FOMA 他	LAN/DoPa/PHS / FOMA 他	アナログ/LAN/DoPa /PHS/FOMA 他
		<ul style="list-style-type: none"> アナログはモデム内蔵。 PHS、DoPa、FOMA は別途通信機器（指定品）が必要。 ネットワークIF の併用可。（ただし一部除く） 			
	通報方式	音声/Eメール/データ /DTMF/FAX	音声/Eメール/データ /DTMF	Eメール/データ	音声/Eメール/データ
		<ul style="list-style-type: none"> 音声/FAX/DTMF 通報は、アナログポートのみ。 			
	通報機能	最大宛先数	ダイヤル先：16 宛先、Eメールアドレス：32 宛先、データIPアドレス：8 宛先 ※.ダイヤル先は、音声、FAX、DTMF 通報宛先、またプロバイタなどへのダイヤルアップ宛先に使用。		
	通報内容	デジタル入力通報(イベント・パルス積算・時間積算)/アナログ入力通報(閾値イベント)/定時通報(指定時刻・指定間隔・日報・月報帳票など)/停電通報/モード切替通報/ローバッテリー通報 他 ※.通報方式により機能制限有り。			
リモートコントロール機能	コントロール方式	DTMF 音声/ブラウザ/データ/DTMF データ	DTMF 音声/ブラウザ/データ/DTMF データ	ブラウザ/データ	DTMF 音声/ブラウザ/データ
	コントロール内容	現在状態確認/日報・月報確認/システムデータ設定/デジタル出力制御/各種履歴確認 他 ※.コントロール方式により機能制限有り。			
記録機能	記録データ保存	内蔵メモリ および CF メモリカード			
	記録データ項目	通報履歴/動作履歴/コントロール履歴/日報・月報用データなど			

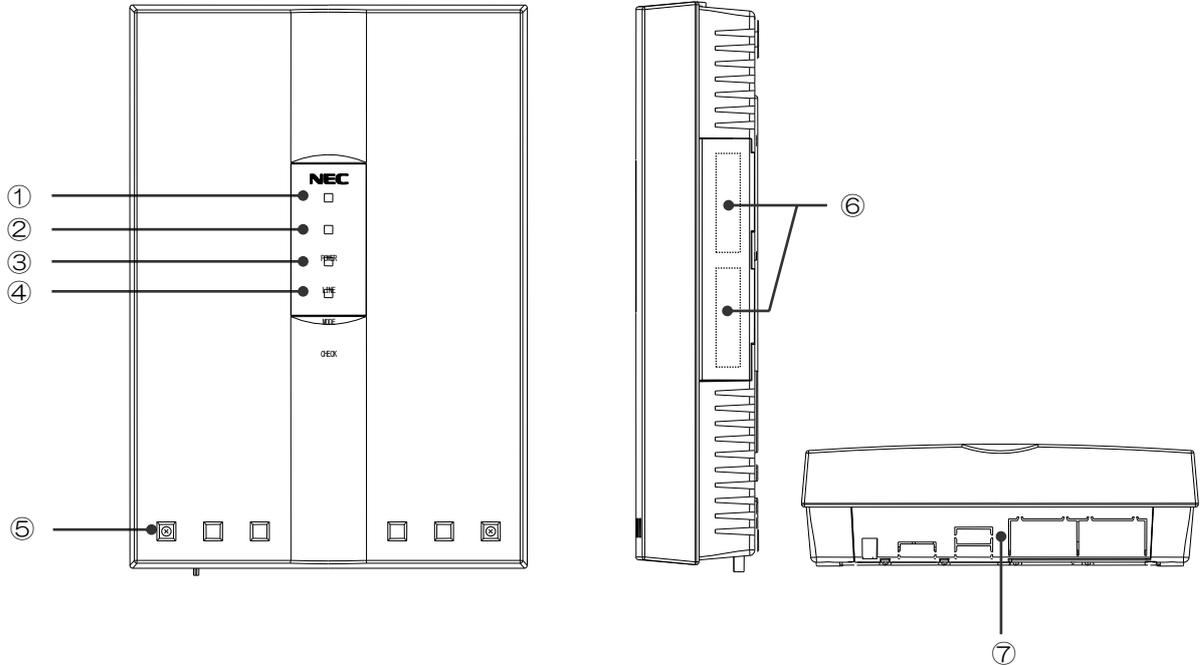
通信詳細仕様		
通報	音声 ※.CSDX(D)は未対応	<ul style="list-style-type: none"> メッセージ方式：テキスト音声合成方式
	Eメール	<ul style="list-style-type: none"> サポートプロトコル：PPP、TCP/IP、SMTP 認証方式：なし/SMTP 認証/POP 認証 (POP BEFORE SMTP) ※SSL 通信には対応していません。
	データ	<ul style="list-style-type: none"> サポートプロトコル：PPP、TCP/IP、独自
	FAX ※.CSDX のみ対応	<ul style="list-style-type: none"> 形式：送信専用 G3 機 通信速度：9600/7200/4800/2400bps (自動フォールバック) 原稿サイズ：A4 (210mm×297mm) 走査線密度：主走査(水平) 8dot/mm 副走査(垂直) ファイン 7.7 本/mm (通常時) ノーマル 3.85 本/mm データ圧縮方式：モディファイドハフマン (MH)
	DTMF ※.CSDX(D)、(S)は未対応	<ul style="list-style-type: none"> プロトコル：独自 送信DTMF 時間：100ms 以上 (設定)
コントロール	DTMF ※.CSDX(D)は未対応	<ul style="list-style-type: none"> プロトコル：独自 受信DTMF 時間：100ms 以上 受信DTMF レベル：-35dbm~0dbm
	ブラウザ	<ul style="list-style-type: none"> Web サーバ/PPP サーバ：内蔵 サポートプロトコル：PPP、TCP/IP、HTTP
	データ	<ul style="list-style-type: none"> サポートプロトコル：PPP、TCP/IP、独自

上記仕様は、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

 指定品について、「製品について オプション・関連品/保守用品」(P12)をご覧ください。

各部の名称とはたらき

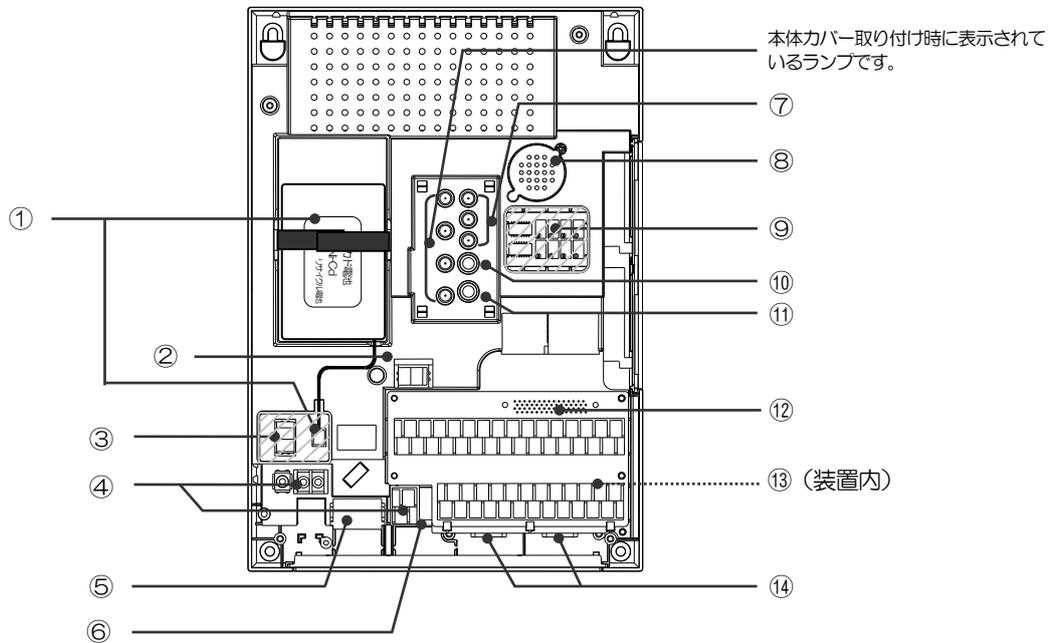
1 本体カバーを取り付けた状態



- ① **POWERランプ (青) (P145,172)**
装置起動中（供給電源動作中）は点灯します。
停電時（バッテリー動作中）は点滅します。
- ② **LINEランプ (赤) (P145,34)**
通報起動で点滅、アナログ回線を使用している場合に点灯します。
- ③ **MODEランプ (緑) (P145,32)**
通報モードがモード 1 の時は点灯、モード 2 の時は消灯、切替遅延中は点滅します。
(1→2 は遅い点滅、2→1 は早い点滅)
- ④ **CHECKランプ (赤) (P145,25,49)**
回線断検出中は点灯します。またメンテナンスモード中は点滅します。
CHECK ランプが点灯または点滅している場合は、装置を確認してください。
- ⑤ **本体カバーおよび止めネジ (P151)**
ボタン操作やメンテナンスを行う場合、止めネジ(2箇所)を緩め、カバーを外してください。

- ⑥ **CFカードスロット1・2およびCFカードカバー (P78,153)**
コンパクトフラッシュカードのスロットです。
(上:スロット1、下:スロット2)
PHS 通信機器や DoPa 通信機器、メモ리카ードなどを使用することができます。
なお、スロットにより対応カードが決まっています。
- ⑦ **配線孔および配線孔カバー (P150)**
下面配線用の配線孔および配線孔カバーです。
配線孔カバーは本体カバーを外した状態で取り外しができます。
内部には壁面配線孔もあります。

2 本体カバーを取り外した状態



① 停電用電池／接続コネクタ (P152)

停電時の装置バックアップ電池です。
停電時、1時間の待機後3回の通報動作が可能です。

② SOFT_SW (P172)

MAIN_SWがON状態において、装置のON(起動)/OFF(シャットダウン)を行うスイッチです。スイッチOFF時には、シャットダウン処理を行い、装置を正常に終了します。

③ MAIN_SW (P172)

装置への電源供給をON(入)/OFF(切)するスイッチです。
MAIN_SWは、緊急の場合を除き、SOFT_SWをOFF状態で操作してください。
SOFT_SWがON状態で、MAIN_SWをOFFにすると、シャットダウン処理が行えず、装置故障の原因となります。
通常の装置再起動などは、必ず②SOFT_SWで行ってください。

④ AC電源入力端子／アース端子 ／DC電源入力端子 (P168)

AC電源端子またはDC電源端子のどちらか一方に電源ケーブルを接続してください。(初期状態では、AC電源端子に付属の電源ケーブルが接続されています。)アース端子は、アース線を必ず接続してください。

⑤ アナログ回線コネクタ／外付電話機コネクタ (P22,157)

アナログ回線および外付電話機と接続します。

※、CSDX(D)は対応していません。

⑥ LANコネクタ (P22,158)

10BASE-T規格対応のLANと接続します。

⑦ 内部表示LED (P145)

本体カバーを取り外した時のみ見えるランプです。上から順に以下の通りです。

- ・ **CFカード1アクセスランプ (赤)**
CFカード1との通信時に点滅します。
- ・ **CFカード2アクセスランプ (赤)**
CFカード2との通信時に点滅します。
- ・ **LANランプ (緑)**
LAN接続時に点灯します。

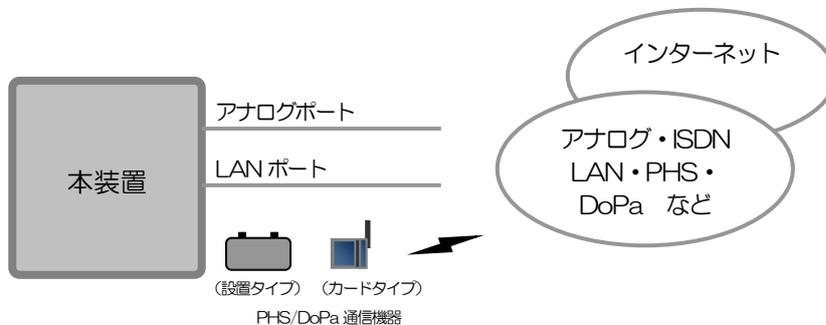
- ⑧ **スピーカ (P237)**
音声メッセージの確認用です。
- ⑨ **アナログ入力設定スイッチ／電流調整ボリューム (P163)**
アナログ入力の端子切替用ディップスイッチと入力電流調整用ボリュームです。
- ⑩ **SETボタン (P146,32)**
本装置の通報モードを切替える時に押します。2秒以上押す毎に通報モード1または2が交互に切り替わります。
なお通報モードの切替は、外部スイッチや内蔵カレンダーでも可能です。
- ⑪ **CANCELボタン (P146,48,49)**
回線断警報音を強制的に停止する場合、現在の通報や保留している通報を取り消す場合、また装置状態をメンテナンスモード（システム一時停止状態）にする場合に押します。
押すと警報音停止、続けて2秒以上押すと通報取り消し、さらに続けて3秒以上押すとメンテナンスモードとなります。
- ⑫ **配線端子ユニット (P159)**
デジタル入力、アナログ入力、デジタル出力、電源出力の配線端子ユニットです。

※. 製品により、端子数に違いがあります。
- ⑬ **内蔵ブザー (P146,25)**
装置内に内蔵されています。
回線断検出時に警報音を送出します。
- ⑭ **シリアル(RS-232C)コネクタ (P155)**
RS-232Cポートです。
(左:ポート1、右:ポート2)
DoPa Mobile Ark、シーケンサ(CSDX(S)のみ)などを接続することができます。なお、ポートにより対応機器が決まっています。

機能編

通信ネットワークを収容する

本装置には、各種通信ネットワークを収容する通信ポートが内蔵されています。
通信ポートに通信ネットワークを収容し、本装置から通報したり、本装置をコントロールすることができます。



ご注意

- 下表の通り、製品により収容できない通信ネットワークがあります。

項目	CSDX	CSDX(P)	CSDX(D)	CSDX(S)
通信IF				
アナログ	○	○	×	○
LAN	○	○	○	○
PHS	○	○	○	○
DoPa	○	○	○	○
FOMA	○	○	○	○

本装置の通信ポートの条件および必要な機器

本装置は、以下の通信ポートを利用して、各種通信ネットワークを収容することができます。

1 アナログポート ※ CSDX (D) は対応していません。

一般電話回線（アナログ）に加え、電話システムや TA、ルータなどのネットワーク機器を接続することができます。下表の仕様にあったアナログポートを搭載した機器に接続して下さい。

項目	条件	記事
回線電圧	20~53V	20V未滿で回線断を検出してしまう場合は、回線断検出なしの設定が可能です。
着信信号	送出電圧	本装置から発信のみの運用では、対象外です。
	周波数	
	形式	
極性反転	有り	無い場合、タイマやDTMFによる相手応答検出となります。
停電動作	1時間保証	本装置は標準バッテリーで1時間の停電保証です。

2 LANポート

10BASE-T 規格に対応した LAN ポートへ接続することができます。本装置は下表の仕様となっています。ご注意ください。

項目	仕様	記事
対応規格	10BASE-T	
IP アドレス	固定 (DHCP 未対応)	ネットワーク管理者等に確認してください。
PPPoE	未対応	ネットワーク機器で対応してください。

3 CF カードスロット 1 (指定品のみ対応可)

CF カードスロットには指定の通信カードを実装することができます。

項目	必要機器	記事
PHS (ウィルコム)	PHS カード	指定品を使用してください。
DoPa (NTT ドコモ)	DoPa カード	指定品を使用してください。
FOMA (NTT ドコモ)	FOMA カード	指定品を使用してください。

4 シリアルポート 1 (指定品のみ対応可)

シリアルポートには指定の通信機器を接続することができます。

項目	必要機器	記事
DoPa (NTT ドコモ)	DoPa 通信機器	指定品を使用してください。
FOMA (NTT ドコモ)	FOMA 通信機器	指定品を使用してください。

 指定品について、「製品について [オプション・関連品/保守用品](#) (P12) をご覧ください。

無線網 (PHS、DoPa、FOMA) の利用について

通信網の詳細、サービスエリア、契約等については、各社ホームページなどをご覧ください。

通信機器 (カード以外) に接続する場合の注意事項

通信機器の停電バックアップ対応、また他装置による回線使用頻度などを考慮してください。

通信ポートの併用について

以下のような併用が可能です。(CF カードとシリアルポートの併用はできません)

- ・アナログ + LAN + CF カード (PHS または DoPa または FOMA)
- ・アナログ + LAN + シリアルポート (DoPa または FOMA)

通信ネットワーク（ポート）による機能制限

通信ネットワークと通信ポートによる機能制限および主な注意点は、以下の通りです。
本項を良くお読みになり、運用に合わせた通信ネットワークを選択してください。

主な通信ネットワーク	通信ポート	必要機器	通報機能					コントロール機能		
			音声	Eメール	データ	FAX	DTMF	DTMF (音声・データ)	ブラウザ	データ
アナログ	アナログ	—	○	○※1	○※1	○	○	○	○※6	○※6
構内LANなど	LAN	各種ルータ	×	○※2	○※2	×	×	×	○※7	○※7
インターネット 常時接続	LAN	各種ルータ	×	○※3	○※3	×	×	×	○※8	○※8
PHS	アナログ	PAU (指定品)	○	○※1	○※1	○	○	○	○※6	○※6
	CFカード	PHSカード (指定品)	×	○※4	○※4	×	×	×	○※9	○※9
DoPa・FOMA	CFカード	通信カード (指定品)	×	○※5	○※5	×	×	×	○※10	○※10
	シリアル	通信機器 (指定品)	×	○※5	○※5	×	×	×	○※10	○※10

 通報機能、コントロール機能の詳細について、「[通報する：基本事項](#)」(P31)、「[コントロールする：基本事項](#)」(P84)をご覧ください。

- ※1. ISP やセンタは、モデム対応が必要です。
- ※2. 構内LAN上のメールサーバやセンタは、ローカル固定IPが必要です。
- ※3. センタには、グローバル固定IPが必要です。
- ※4. ISP やセンタは、PIAFS 対応が必要です。
- ※5. ISP の場合は、DoPa 対応が必要です。（DoPa インターネット接続サービス”mopera(モペラ)”推奨）
センタの場合は、ビジネス mopera アクセスプレミアムを契約した回線が必要です。
- ※6. 汎用PCやセンタは、モデム対応が必要です。
- ※7. 端末側は、ローカル固定IPが必要です。
- ※8. 端末側は、グローバル固定IPが必要です。
- ※9. 汎用PCやセンタは、PIAFS 対応が必要です。
- ※10. 汎用PCやセンタは、ビジネス mopera アクセスプレミアムを契約した回線が必要です。

 その他Eメール通報の注意点などについて、「[通報する：Eメール](#)」(P54)をご覧ください。

 その他ブラウザコントロールの注意点などについて、「[コントロールする：ブラウザ](#)」(P87)をご覧ください。

設定や工事に関して

- 通信ポートの配線について、「[通信ネットワークを接続する](#)」(P157)
- アナログポートに関する設定について、「[データを設定する：設定内容 アナログポートの設定](#)」(P183)
- LANポートに関する設定について、「[データを設定する：設定内容 LANポートの設定](#)」(P182)
- PHSに関する設定について、「[データを設定する：設定内容 CFカードスロットの設定](#)」(P185)
- DoPa・FOMAに関する設定について、「[データを設定する：設定内容 シリアルポートの設定](#)」(P184)、「[データを設定する：設定内容 CFカードスロットの設定](#)」(P185)

アナログポートの回線断線検出機能

本機能は、CSDX (D) は対応していません。(アナログポートなし)

『回線断検出機能』の設定によりアナログポートの回線断線を検出することができます。

1 回線断の検出

回線断状態が 30 秒継続した場合、回線断検出します。また回線断検出後、復旧状態が約 1 秒継続した場合、回線復旧検出します。

2 回線断を検出すると

➔ 回線断検出中は、CHECKランプが点灯します。

📖 CHECKランプについて、「各部の名称とはたらき」(P18)をご覧ください。

➔ 回線断・復旧検出時は、動作履歴に記録します。

📖 動作履歴について、「監視データを記録する」(P78)をご覧ください。

➔ 設定により、回線断検出中に本体より警報音を鳴動することができます。

本体内蔵ブザーが鳴動します。「ピー ピー ピー……」(0.2 秒 ON/0.2 秒 OFF)

警報音は回線復旧で自動停止します。なお、警報音鳴動中に「CANCEL」ボタン押すと強制的に停止することができます。

➔ 設定により、デジタル出力を連動することができます。(回線断連動)

📖 デジタル出力連動について、「デジタル出力を制御する」(P71)をご覧ください。

3 回線断検出有無による通報動作の違いについて

3-1 回線断検出を行っている場合

回線断検出後に発生した通報は保留します。回線復旧すると、保留している要因を通報します。

なお、回線断から回線断検出前(回線断状態 30 秒未満)に通報が発生した場合は、1 回目の通報動作で回線断を検出し、その後は保留されます。

1 回目の通報は、回線断により異常終了として記録されます。

3-2 回線断検出を行っていない場合

回線状態に関わらず通報動作を繰り返します。

繰り返す回数は、各通報グループの『発呼回数』で設定された回数です。

ご注意

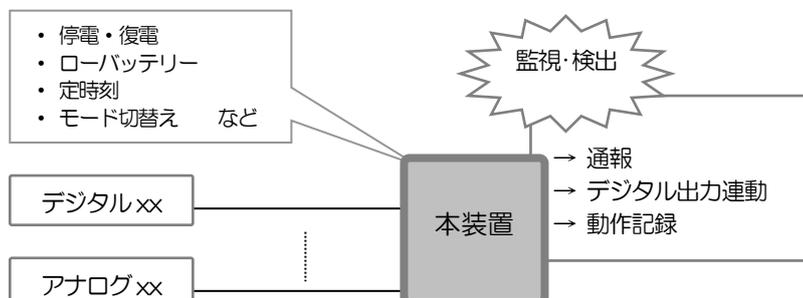
- PBX などの電話システムやネットワーク機器のアナログポートは、回線電圧が低い場合があり、待機状態でも回線断を検出してしまう場合があります。そのような現象が起きた場合は、『回線断検出機能』を《無》に設定してください。

📖 設定や工事に関して

- 回線断検出に関する設定について、「データを設定する：設定内容 アナログポートの設定」(P183)

入力状態などを監視する

本装置は、デジタル・アナログ・入力状態、装置状態、内蔵カレンダーなどを常時監視・検出することができます。検出時には、各設定により通信ネットワークを介して通報、デジタル出力を連動、履歴として記録することができます。



監視できる要因（起動要因）

監視できる要因は、下表の通りです。

要因	概要	要因数※1		
		CSDX	CSDX(P)/(D)	CSDX(S)
デジタル入力	デジタル入力端子毎に以下より 1 つ選択します。	16(24)	8(16)	16(24)
イベント	異常・復旧（メーク・ブレイク設定可）を検出します。			
パルス積算	メークした回数を積算し、異常値または異常値毎に検出します。			
時間積算	メークした時間を 1 秒単位で積算し、異常値または異常値毎に検出します。			
アナログ入力 ※1	各閾値(5 値)の異常・復旧を検出します。	8(0)	8(0)	8(0)
定時刻	指定時刻(指定日/毎月/毎日など)または指定間隔(XX 分)を検出します。	5	5	5
停電	本装置の停電・復電を検出します。	1	1	1
ローバッテリー	停電中（停電用電池動作中）の電池電圧低下を検出します。	1	1	1
モード切替	通報モード 1 または 2 の切替わりを検出します。	1	1	1
シーケンサ入力 ※2 (デジタル、アナログ)	接続したシーケンサのデジタル、アナログ端子状態を検出します。	—	—	64

※1. アナログ入力は、アナログ入力設定スイッチやシステムデータの設定によりデジタル入力（イベント・パルス・時間）と同等の入力としても利用することができます。デジタル入力端子の点数が不足している場合にご使用ください。
（ ）内はアナログ入力をデジタル入力として使用した場合の最大数。

※2. CSDX(S)は、シーケンサを接続することにより、デジタル入力、アナログ入力の要因数を増設することができます。

1 起動要因が発生すると

➔ 設定により、通報することができます。

📖 通報について、「[通報する：基本事項](#)」(P31)をご覧ください。

➔ 設定により、デジタル出力を連動することができます。（入力連動）

📖 デジタル出力連動について、「[デジタル出力を制御する](#)」(P71)をご覧ください。

➔ 検出する毎に動作履歴に記録します。（デジタル・アナログ入力は設定による）

📖 動作履歴について、「[監視データを記録する](#)」(P78)をご覧ください。

📖 設定や工事に関して

- 各要因の設定は、「[データを設定する：設定内容 デジタル入力の設定～モード切替の設定](#)」(P197～212)
- シーケンサ要因の設定について、「[データを設定する：設定内容 ビットデバイスの設定～ワードデバイスの設定](#)」(P217～218)

デジタル入力端子の監視

デジタル入力端子(内蔵)の監視方法については、以下の通りです。

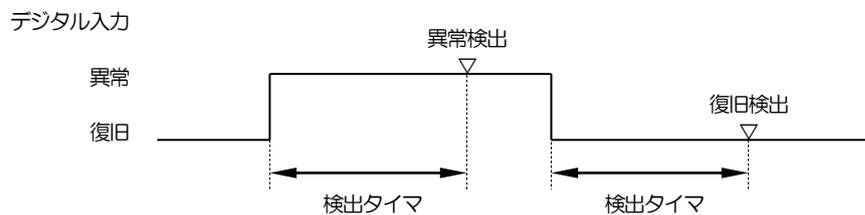
1 サンプルング・・・2ms

2 入力検出の条件

各デジタル入力の『異常モード』の設定により、以下の3つより選択できます。

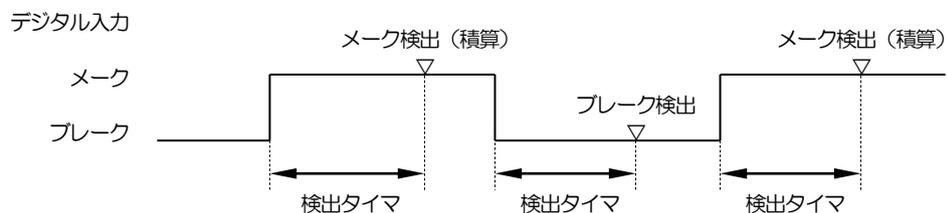
2-1 イベント（メークまたはブレイク）

メーク（またはブレイク）状態が『検出タイム』経過した場合、異常検出します。また異常検出後、ブレイク（またはメーク）状態が『検出タイム』経過した場合、復旧検出します。異常・復旧検出により、通報、デジタル出力連動、動作記録などが行えます。



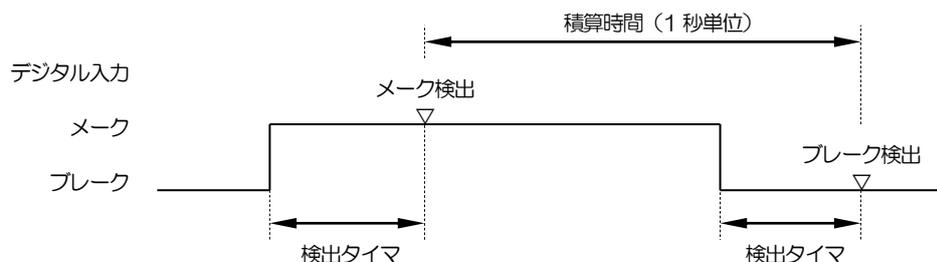
2-2 パルス積算（Max積算値：4,294,967,295回）

パルス積算は、メーク検出した回数を積算します。端子の積算値が、設定された『異常積算値』になった場合や『異常積算値毎』に該当した場合に異常検出します。異常検出により、通報、デジタル出力連動、動作記録などが行えます。なお復旧検出はありません。



2-3 時間積算（Max積算値：4,294,967,295秒=約130年）

時間積算は、メーク検出後1秒単位でメークした時間を積算します。端子の積算値が、設定された『異常積算値』になった場合や『異常積算値毎』に該当した場合に異常検出します。異常検出により、通報、デジタル出力連動、動作記録などが行えます。なお復旧検出はありません。



□ 設定や工事に関して

- デジタル入力の入力仕様および配線について、「センサなどの機器を接続する [デジタル入力の接続](#)」(P162)
- デジタル入力の設定について、「データを設定する：設定内容 [デジタル入力の設定](#)」(P197)

アナログ入力端子の監視

アナログ入力端子(内蔵)の監視方法は、以下の通りです。

1 分解能・・・10 bit

2 サンプリング・・・100ms

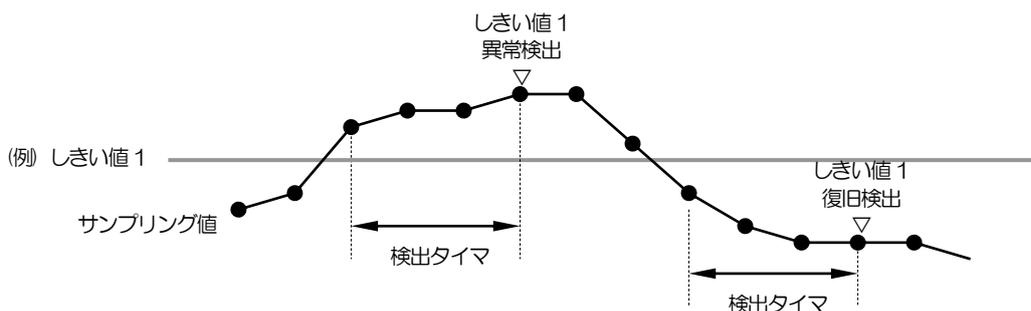
『端子用途』《アナログ電圧または電流》：100ms×前10回の平均値
 『端子用途』《デジタル》：100ms×1回の直値

3 入力検出の条件

各アナログ入力の『端子用途』『検出モード』の設定により、以下の7つ（アナログ4種類+デジタル3種類）より選択できます。

3-1 アナログ 電圧0-5V/電圧1-5V/電流0-20mA/電流4-20mA

アナログ入力をサンプリングした値（サンプリング値）が、各しきい値に設定された値を“超える”（または“下回る”）状態（しきい値により固定）が『検出タイム』経過した場合、異常検出します。
 また異常検出後、各しきい値に設定された値を“下回る”（または“超える”）状態が『検出タイム』経過した場合、復旧検出します。異常・復旧検出により、通報、デジタル出力連動、動作記録などが行えます。



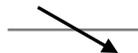
アナログのしきい値は、最大5つ

各しきい値は、下表の通り、異常・復旧検出します。各しきい値に検出する値（電圧値または電流値）を設定することができます。

High：サンプリング値が、しきい値を”下から上”へ越えること



Low：サンプリング値が、しきい値を”上から下”へ下回ること



しきい値	異常・復旧条件（固定）	
	異常	復旧
しきい値1(HH)	High	Low
しきい値2(H)	High	Low
しきい値3(L)	Low	High
しきい値4(LL)	Low	High
しきい値5(断線)	Low	High

電圧0-5V/1-5Vまたは電流0-20mA/4-20mAについて

0-5Vと1-5V（0-20mAと4-20mA）により、データ処理方法が異なります。
データ処理：動作記録データ・定時記録データ・通報データなど

『検出モード』	内 容
アナログ電圧 0-5V	しきい値の検出：電圧0~5Vを監視し、設定されたしきい値を超えたとき・下回ったとき データ処理：0-5V → 0-1023
アナログ電圧 1-5V	しきい値の検出：電圧0~5Vを監視し、設定されたしきい値を超えたとき・下回ったとき データ処理：1-5V → 0-1023とレベル変換
アナログ電流 0-20mA	しきい値の検出：電流0~20mAを監視し、設定されたしきい値を超えたとき・下回ったとき データ処理：0~20mA → 0-1023
アナログ電流 4-20mA	しきい値の検出：電流0~20mAを監視し、設定されたしきい値を超えたとき・下回ったとき データ処理：4~20mA → 0-1023とレベル変換

3-2 デジタル イベント/パルス積算/時間積算

アナログ入力をデジタル入力として使用できます。
ただし、サンプリングは100msとなります。

 デジタル入力の検出について、「入力状態などを監視する [デジタル入力端子の監視](#)」(P28)をご覧ください。

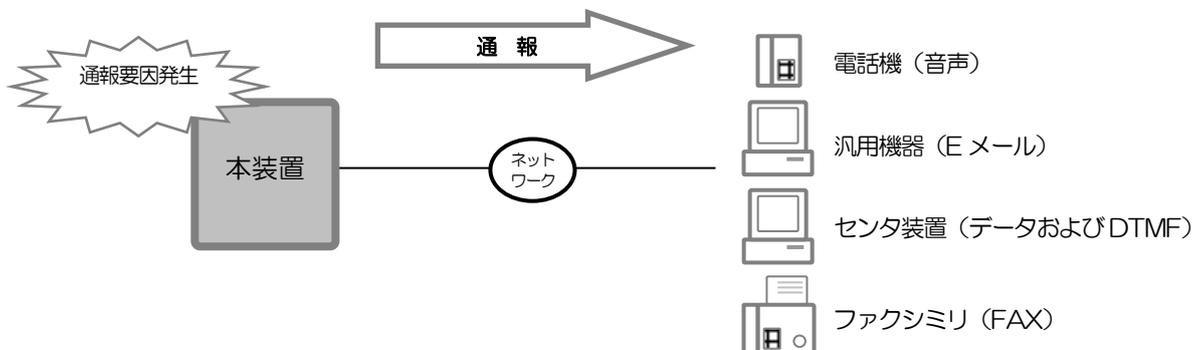
 設定や工事に関して

- アナログ入力の入力仕様および配線について、「センサなどの機器を接続する [アナログ入力の接続](#)」(P163)
- アナログ入力の設定について、「データを設定する：設定内容 [アナログ入力の設定](#)」(P201)

通報する：基本事項

本装置は、各種の設定により、通報要因の発生時に通信ネットワークを介して、電話機(音声)、汎用機器(Eメール)、センタ装置(データ・DTMF)、ファクシミリ(FAX)へ通報することができます。

各種の設定により、通報要因毎に様々な通報パターンを実現できます。



ご注意

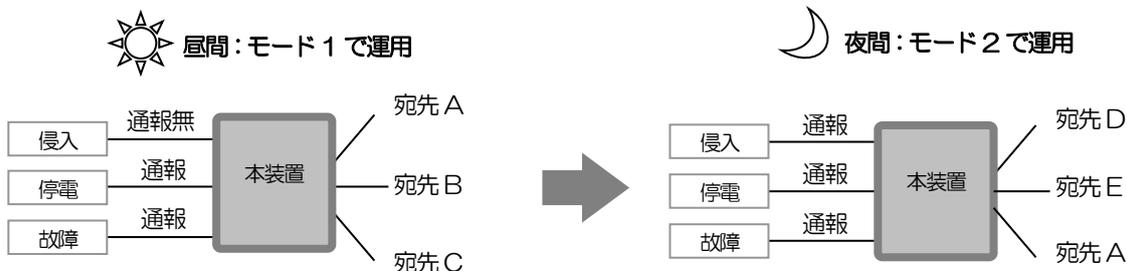
- 下表の通り、製品により対応していない通報方式があります。

項目	CSDX	CSDX(P)	CSDX(D)	CSDX(S)
通報方式				
音声 (アナログのみ)	○	○	×	○
Eメール	○	○	○	○
データ	○	○	○	○
FAX (アナログのみ)	○	×	×	×
DTMF (アナログのみ)	○	○	×	×

通報モードを切替える

通報モード 1 または 2 を切り替えることにより、平日と休日、昼間と夜間などで通報動作内容（通報有無や通報先）を切り替えることができます。

運用例 昼夜で切り替える



ご注意

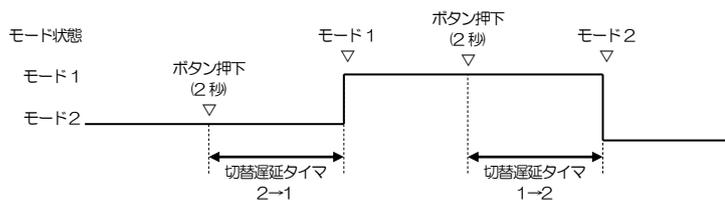
- 通報モードにより、通報動作内容は変わりますが、デジタル出力連動や記録はモードにより動作は変わりません。
- 通報モードによりデジタル出力連動の動作を切り替える場合は、モード切替のデジタル出力連動を組み合わせで利用してください。
- 異常（停電）通報後で復旧（復電）通報前にモードが切り替わった場合、復旧（復電）通報は、現在のモードに関係なく異常通報を行ったモードへ通報します。

1 通報モードを切り替える方法

設定により、以下の 3 つより選択できます。（併用はできません）

1-1 本体カバー内の「SET」ボタンで切り替える

「SET」ボタンを 2 秒以上押す毎にモード 1 と 2 が切り替わります。なお『モード 1→2 切替遅延タイム』、『モード 2→1 切替遅延タイム』の設定により、切り替えるまで遅延させることができます。



ご注意

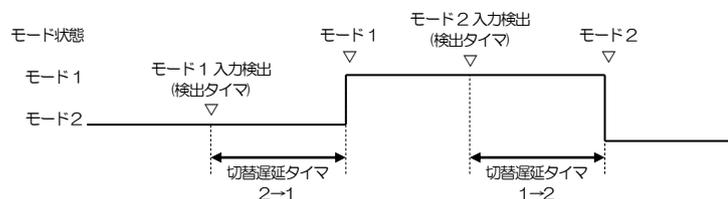
- SET ボタンは、外部から容易に変更できないようにするため、本体カバー内に收容されており、ボタンを押すには、本体カバーを外す必要があります。特に防犯上などの問題がない場合は、次項の「外部スイッチ」を利用してください。
- 切替遅延中に再度 SET ボタンを 2 秒以上押すと、切替え前のモードに戻ります。

1-2 デジタル入力端子に接続した「外部スイッチ」で切り替える

デジタル入力端子にスイッチを接続し設定すると、モード切替用スイッチとして利用できます。

ON/OFF（または OFF/ON）でモード 1/モード 2 を切り替えます。

なお『モード 1→2 切替遅延タイム』、『モード 2→1 切替遅延タイム』の設定により、切り替えるまで遅延させることができます。



ご注意

- スイッチは、ON/OFF 切替式スイッチを使用してください。
- ON（または OFF）および検出時間は、使用するデジタル入力の設定によります。
- 切替遅延中に再度外部スイッチを戻すと、切替え前のモードに戻ります。

1-3 本体内蔵の「カレンダー」で切り替える

本体内蔵のカレンダーを利用して、設定された月日(最大 30 日)、曜日、時刻などで自動的にモード 2 に切り替えます。(月日、曜日、時間は、組み合わせで設定できます。)

設定	モード切替動作
月日	設定された月日は、00 時 00 分より終日モード 2 状態となります。
曜日	設定された曜日は、00 時 00 分より終日モード 2 状態となります。
時間	『開始時刻』より『時間間隔』のみモード 2 状態となります。 ※、『月日』『曜日』で設定された日や曜日以外の日が対象です。

ご注意

- 実際に切り替わる時刻は、最大 5 秒程度遅れる場合があります。

2 通報モードを切り替えると

➔ MODEランプが、モード 1 中は点灯、モード 2 中は消灯します。

切替遅延中は、モード 1→2 は遅い点滅、モード 2→1 は早い点滅となります。

📖 MODEランプについて、「各部の名称とはたらき」(P18)をご覧ください。

➔ モードが切り替わる毎に動作履歴に記録します。

📖 動作履歴について、「監視データを記録する」(P78)をご覧ください。

➔ 設定により、デジタル出力を連動することができます。

📖 デジタル出力連動について、「デジタル出力を制御する」(P71)をご覧ください。

➔ 設定に従って、各通報先へ通報します。

📖 本項次ページ～「通報する：DTMF」(P66)をご覧ください。

📖 設定や工事に関して

- モード切替の設定について、「データを設定する：設定内容 モード切替の設定」(P212)

通報できる要因（通報要因）

各起動要因（要因数）の『モード 1 通報』『モード 2 通報』の設定により、通報する・しないを設定します。

要因	概要	要因数(※1)		
		CSDX	CSDX(P)/(D)	CSDX(S)
デジタル入力	デジタル入力端子毎に以下の3つより1つ選択します。	16(24)	8(16)	16(24)
イベント	異常・復旧(メーク・ブレイク設定可)により通報します。			
パルス積算	メークした回数を積算し、異常値または異常値毎に通報します。			
時間積算	メークした時間を1秒単位で積算し、異常値または異常値毎に通報します。			
アナログ入力 (※1)	各閾値(閾値 5 値)の異常・復旧により通報します。	8(0)	8(0)	8(0)
定時刻	指定時刻(指定日/毎月/毎日など)または指定間隔(XX分)により通報します。 ※FAX 日報や月報などの通報も本要因となります。	5	5	5
停電	本装置の停電・復電により通報します。	1	1	1
ローバッテリー	停電中(停電用電池動作中)の電池電圧低下により通報します。	1	1	1
モード切替	通報モード1または2の切替わりにより通報します。	1	1	1
シーケンサ入力 (※2) (デジタル、アナログ)	接続したシーケンサのデジタル、アナログ端子状態により通報します。	—	—	64

※1. アナログ入力は、アナログ入力設定スイッチやシステムデータの設定によりデジタル入力（イベント・パルス・時間）と同等の入力としても利用することができます。デジタル入力端子の点数が不足している場合にご使用ください。
()内はアナログ入力をデジタル入力として使用した場合の最大数。

※2. CSDX(S)は、シーケンサを接続することにより、デジタル入力、アナログ入力の要因数を増設することができます。

 シーケンサについて、「端子を増設する」(P140)をご覧ください。

1 通報要因が発生すると

➔ LINEランプが点滅します。（通報遅延中、保留中など）

アナログポートからの通報の場合、回線捕捉中は点灯に変わります。
その他のポートからの通報の場合は、点滅のままです。

📖 LINEランプについて、「各部の名称とはたらき」(P18)をご覧ください。

➔ 設定により、デジタル出力を連動することができます。（通報連動）

📖 デジタル出力連動について、「デジタル出力を制御する」(P72)をご覧ください。

➔ 設定に従って、各通報先へ通報します。

📖 本頁次ページ～「通報する：DTMF」(P66)をご覧ください。

➔ 通報終了時に通報結果を通報履歴に記録します。

📖 通報履歴について、「監視データを記録する」(P78)をご覧ください。

📌 ご注意

- 同時に同一通報要因が複数発生するのを防止する為、通報中（起動から通報完了までの間）に再度同一の通報要因が発生した場合（例えば、デジタル入力1の異常通報中に再度デジタル入力1の異常を検出した場合など）は、後から発生した通報は行いません。複数発生防止を行っている通報要因は、下表の通りです。下表以外の通報要因は、起動した要因を全て通報します。

通報要因	動作内容
デジタル入力通報	
イベント通報	異常通報中に同一端子の異常が発生した場合、その要因は通報しません。 ※、シーケンサによる増設端子も同様です。
アナログ入力通報	異常通報中に同一端子同一しきい値の異常が発生した場合、その要因は通報しません。 ※、シーケンサによる増設端子も同様です。
停電通報	停電通報中に再度停電が発生した場合、その要因は通報しません。
モード切替通報	モード1（または2）通報中に再度モード1（または2）が発生した場合、その要因は通報しません。

- 通報要因は基本的に発生順に通報しますが、通報要因が複数発生し保留状態となった場合、その中に停電通報とローバッテリー通報があると、発生時刻に関係なく停電通報を最優先に通報、ローバッテリー通報を次に通報します。なお、保留した原因（他の通報が通報中、回線断など）により、最優先とならない場合があります。

📖 設定や工事に関して

- 各要因の設定について、「データを設定する：設定内容 デジタル入力の設定～モード切替の設定」(P197～212)
- シーケンサ要因の設定について、「データを設定する：設定内容 ビットデバイスの設定～ワードデバイスの設定」(P217～218)

通報内容の種類（通報方式）

各通報グループの『通報方式』の設定により、各種通報方式を選択することができます。

1 音声通報 ※.CSDX（D）は対応していません。

電話機などへ音声メッセージで通報します。
なお、音声通報は本装置アナログポートからのみ送出できます。

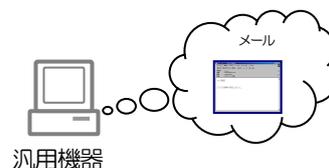
📖 詳しくは、「[通報する：音声](#)」(P51)をご覧ください。



2 Eメール通報

インターネットサービスプロバイダーなどのメールサーバへEメールで通報します。

📖 詳しくは、「[通報する：Eメール](#)」(P54)をご覧ください。



3 データ通報

センタ装置へデータで通報します。

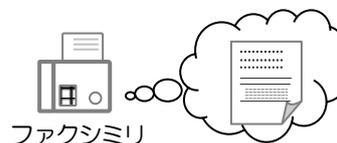
📖 詳しくは、弊社窓口へお問い合わせください。



4 FAX通報 ※.CSDXのみ対応しています。

ファクシミリへFAXで通報します。
なお、FAX通報は本装置アナログポートからのみ送出できます。

📖 詳しくは、「[通報する：FAX](#)」(P59)をご覧ください。



5 DTMF通報 ※.CSDX（S）および（D）は対応していません。

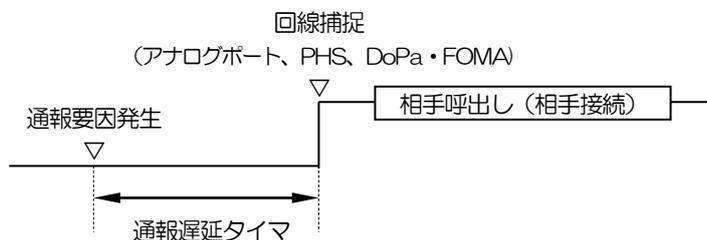
センタ装置へDTMF信号で通報します。

📖 詳しくは、「[通報する：DTMF](#)」(P66)をご覧ください。



通報動作の開始

通報要因が発生すると、『通報遅延タイム』や『通報優先』などの設定に従い回線を捕捉し、設定された宛先を呼び出します。



通報保留件数	MAX120 件	120 件を超えた場合は古い通報要因から上書きします。 なお停電通報は上書きされません。
--------	----------	---

ワンポイント

- 通報遅延タイムにより、通報起動から通報開始するまでの時間を遅らせることができます。この間に発生したデジタル・アナログ入力通報要因は、『一括通報』の設定により、設定されている通報パターン（通報グループおよび次通報）が全て同じであれば、回線を切断せずに一括で通報します。

なお、通報遅延タイムは、待機状態より、最初に起動した通報要因のみ適用されます。通報遅延タイム中に新たな通報要因が起動しても通報遅延タイムは延長されません。

一括通報の詳細について、「通報する：基本事項 通報要因の複数発生時に一括で通報する」(P44)をご覧ください。

- 『通報優先』の設定は、アナログポート、PHS、DoPa、FOMAに関する設定です。
アナログポート、PHS、DoPa、FOMAにおいて、通報開始時に回線が通報以外で使用（リモートコントロールやアナログポートで外付け電話機使用中）は、『通報優先』の設定により、回線を強制的に切断して通報することができます。

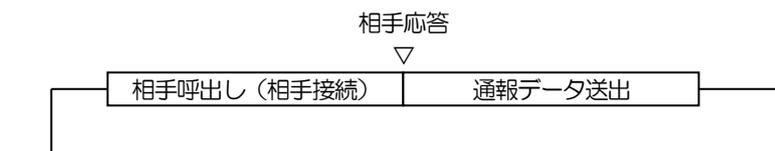
設定や工事に関して

- 上記の各種設定について、「データを設定する：設定内容 通報共通の設定」(P188)

通報内容の送出

設定された宛先を呼び出し、相手が応答すると、設定された通報内容を送出します。

また音声通報、Eメール通報、FAX 通報については、設定により通報内容にアナログ値などの計算結果を送出するようにしたり、送出する通報内容に付加情報を付けて通報したり、複数同時に発生した通報要因を一括で通報することができます。



- 音声通報の通報内容について、「通報する：音声 音声通報メッセージ」(P52)をご覧ください。
- Eメール通報の通報内容について、「通報する：Eメール Eメール通報内容」(P57)をご覧ください。
- FAX通報の通報内容について、「通報する：FAX FAX通報内容」(P60)をご覧ください。
- DTMF通報の通報内容について、「通報する：DTMF DTMF通報内容」(P68)をご覧ください。

通報内容にアナログ値など計算結果をいれる

音声、Eメール、FAX 通報のデジタル入力やアナログ入力通報においては、設定した音声メッセージやEメール通報内容に加え、該当端子の積算値やアナログ値を計算し、その計算結果を通報内容の一部として送出することができます。

1 送出できる計算結果

デジタル入力およびアナログ入力の通報要因起動時に検出した「積算値」や「アナログ値」を、各端子に設定されている『計算式』で計算した結果です。

『計算式』の内容および計算結果を送出するマクロ（計算式マクロ）を『音声通報メッセージ』や『Eメール・FAX 通報内容』に設定することで、通報の一部として送出することができます。

2 送出方法および動作例

1. 音声通報

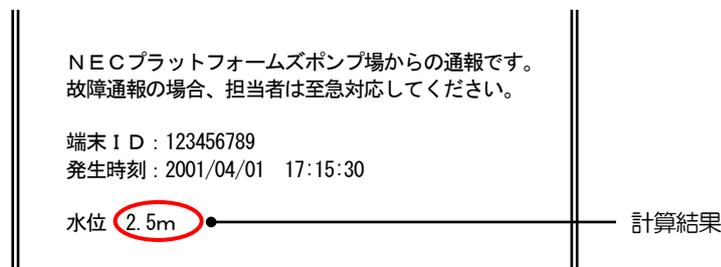
通報メッセージの間に計算結果を送出することができます。

「こちらは、NECプラットフォームズです。 水位が 2.5 メートルです。・・・」

📖 音声通報メッセージの詳細について、「通報する：音声 [音声通報メッセージ](#)」(P52)をご覧ください。

2. Eメール通報

通報メッセージの間に計算結果を表示することができます。



📖 Eメール通報内容の詳細について、「通報する：Eメール [Eメール通報内容](#)」(P57)をご覧ください。

3. FAX通報

通報メッセージの間に計算結果を表示することができます。

NECプラットフォームズポンプ場	2001/04/01 管理センター
異常帳票	
天気 ()	

端末 I D : 123456789	
発生時刻 : 2001/04/01 17:15:30	
水位 2.5m ●	計算結果

 FAX通報の通報内容について、「通報する：FAX FAX通報内容」(P60)をご覧ください。

ご注意

- 『計算式』を設定すると、ブラウザコントロール 現在状態画面の情報欄にも計算結果が表示されます。

設定や工事に関して

- 計算式の設定について、「データを設定する：共通設定方法 入力端子計算式の設定方法」(P233)
- デジタル入力・アナログ入力の設定について、「データを設定する：設定内容 デジタル入力の設定～アナログ入力の設定」(P197～201)
CSDX(S)をご利用の場合、「データを設定する：設定内容 ワードデバイスの設定」(P218)

通報内容に現在状態を付加する

音声、Eメール、FAX 通報、DTMF 通報（定時通報のみ）においては、各通報グループの『現在状態』の設定により、通報時に通報要因以外の現在状態を付けて通報することができます。

1 付加する現在状態

『運用』《有》に設定されているデジタル入力、アナログ入力、デジタル出力の現在状態とシステム（通報モード、停電・復電状態）の現在状態に対応する『通報メッセージ』です。

現在状態の有無は、通報グループ毎に設定します。『現在状態』を《有》に設定した通報グループは、グループ内の全ての宛先に付加情報を送信します。

2 通報方式毎の動作例

1. 音声通報

通報要因に続けて、付加情報を通報します。なお、一括通報の場合は、最後の通報要因起動時の現在状態を通報します。

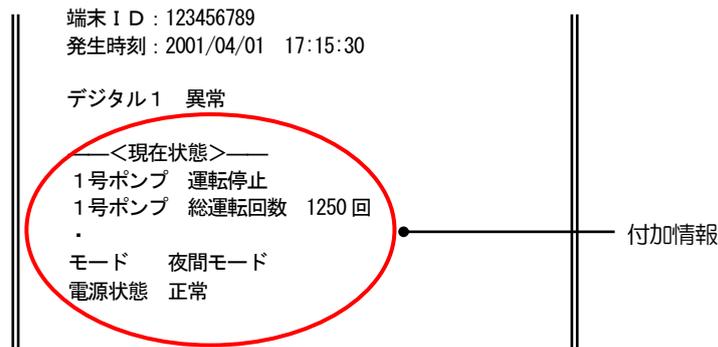
「こちらは、NECプラットフォームズです。1号ポンプが故障です。

**付加情報です。1号ポンプ運転停止です。1号ポンプ総運転回数は1250回です。・・・
夜間モードです。電源正常です。」**

📖 音声通報メッセージの詳細について、「通報する：音声 [音声通報メッセージ](#)」(P52)をご覧ください。

2. Eメール通報

通報要因に続けて、付加情報を追加表示して通報します。



📖 Eメール通報内容の詳細について、「通報する：Eメール [Eメール通報内容](#)」(P57)をご覧ください。

3. FAX通報

通報要因に続けて、付加情報を追加表示して通報します。



📖 FAX通報の通報内容の詳細について、「通報する：FAX FAX通報内容」(P60)をご覧ください。

4. DTMF通報

定時刻通報時のみ定時刻通報（現在状態付加時）のフォーマットに従い、現在状態を付加して通報します。その他要因の通報時は付加しません。

📖 DTMF通報内容の詳細について、「通報する：DTMF DTMF通報内容」(P68)をご覧ください。

📌 ご注意

- 付加する現在状態は、通報要因起動時の現在状態です。（保留などにより通報が遅れた場合でも、起動時の現在状態を送信します）また、異常状態、正常状態に関係なく送出します。

📌 設定や工事に関して

- 現在状態付加の設定について、「データを設定する：設定内容 通報グループの設定」(P192)
- 各通報要因の運用設定について、「データを設定する：設定内容 デジタル入力の設定～モード切替の設定」(P197～212)
CSDX(S)をご利用の場合、「データを設定する：設定内容 ビットデバイスの設定～ワードデバイスの設定」(P217～218)

通報内容に日報・月報を付加する

Eメール、FAX 通報においては、定時刻の『日報・月報 Eメール添付』、『日報・月報 FAX 帳票』の設定により、前日日報や前月月報を付けて通報することができます。

1 付加する日報・月報

Eメール通報およびFAX 通報について、定時通報が起動した日の前日日報または前月月報帳票を送信します。

2 通報方式毎の動作例

1. Eメール通報

日報・月報の有無は、定時通報毎に設定します。『日報・月報 Eメール添付ファイル』を《日報》または《月報》に設定した定時通報が起動すると、設定されている通報グループの内、データ・EメールグループのEメール宛先への通報時、帳票をCSV形式で添付したEメールを送信します。

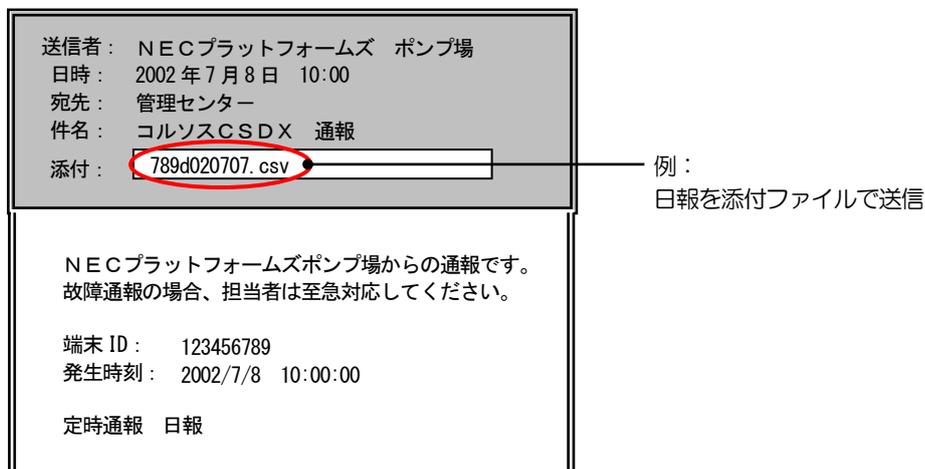
ファイル名

日報 : (端末ID 最大下3桁) d (年月日) . csv

例 端末ID「0123456789」で「02年7月7日」の日報の場合 : 789d020707.csv

月報 : (端末ID 最大下3桁) m (年月) . csv

例 端末ID「0123456789」で「02年6月」の月報の場合 : 789m0206.csv



📖 Eメール通報内容の詳細について、「通報する：Eメール Eメール通報内容」(P57)をご覧ください。

📖 CSVファイルのイメージについては、「コントロールする:ブラウザ 帳票(日報・月報)を表示する」(P109)をご覧ください。

ワンポイント

- CSV形式ファイルは、表計算ソフトなどで読み込み、加工が行えます。

2. FAX通報

日報・月報の有無は、定時通報毎に設定します。『日報・月報 FAX 帳票』を《日報》または《月報》に設定した定時通報が起動すると、設定されている通報グループの内、FAX グループへの通報時、帳票を送信します。

なお、FAX 通報グループの『現在状態』の設定により、送信される帳票は、以下のようになります。

定時通報の設定 『日報・月報 FAX 帳票』	通報グループ(FAX)設定 『現在状態付加』	出力される帳票	記事
《日報》または《月報》	《無》	日報または月報帳票のみ (1 ページ目～) ※. 定時通報帳票はありません。	
	《有》	定時通報帳票(現在状態付加) (1 ページ目) + 日報または月報帳票 (2 ページ目～)	

定時通報帳票

第1マンホールポンプ場 2005年11月2日
管理センター

異常帳票

天候()

承認	確認	確認	担当

端末ID : 123456789
発生時刻 : 2005/11/02 08:00:00
定時通報

<現在状態>

```

1号ポンプ 故障発生
2号ポンプ 正常
1号ポンプ 運転回数 206回
1号ポンプ 運転時間 18時間08分11秒
2号ポンプ 運転回数 218回
2号ポンプ 運転時間 18時間20分43秒
モード 1
復電

```

日報帳票

第1マンホールポンプ場 作成年月日：2005年11月2日
管理センター

日 報 2005年11月1日

天候()

承認	確認	確認	担当

時刻	1号ポンプ 運転回数 (回)	1号ポンプ 運転時間 (分:秒)	1号ポンプ 水量 (m ³)	2号ポンプ 運転回数 (回)	2号ポンプ 運転時間 (分:秒)	2号ポンプ 水量 (m ³)	総流量 (m ³)
00:00	2	2:03	1.5	1	1:55	1.4	2.9
01:00	2	4:26	3.2	0	0:16	0.2	3.4
02:00	0	0:31	0.4	0	0:00	0.0	0.4
03:00	0	0:00	0.0	0	0:00	0.0	0.0
04:00	0	0:00	0.0	1	3:05	2.2	2.2
05:00	2	2:20	1.1	1	2:23	1.1	3.4
06:00	0	0:00	0.0	0	0:00	0.0	0.0
07:00	1	1:56	1.4	1	0:43	0.5	1.9
08:00	1	2:44	2.0	2	5:31	4.0	6.0
09:00	0	0:00	0.0	0	0:42	0.5	0.5
10:00	0	0:00	0.0	0	0:00	0.0	0.0
11:00	1	1:51	1.4	1	2:04	1.5	2.9
12:00	1	2:58	2.1	1	3:02	2.2	4.3

 FAX通報の通報内容の詳細について、「通報する：FAX FAX通報内容」(P60)をご覧ください。

設定や工事に関して

- 日報・月報付加の設定について、「データを設定する：設定内容 定時刻の設定」(P206)
- 帳票の詳細について、「コントロール：プラザ 帳票 (日報・月報) を表示する」(P109)

通報要因の複数発生時に一括で通報する

通報共通設定の『一括通報』の設定により、通報要因発生から第 1 宛先に通報する間に保留となっている通報の内、ある条件を満たす通報について、回線を切断せずに一括して通報することができます。

1 一括通報の条件

『一括通報』《有》の場合、最初の通報要因発生から第 1 宛先に通報する間に保留となっている通報の内、以下2つの条件を両方とも満たす通報要因が発生した場合は一括で通報します。

なお、最初の通報要因発生から第 1 宛先に通報する時間を遅延させる『通報遅延タイム』設定もあります。

1. デジタル入力・アナログ入力の通報要因

上記以外の通報（定時刻、停電など）は一括通報の対象にはなりません。

2. 通報パターン（通報グループおよび次通報の設定）が全て同じ通報要因

全て同じでないと一括通報の対象にはなりません。

2 一括通報の方法および動作例

1. 音声通報

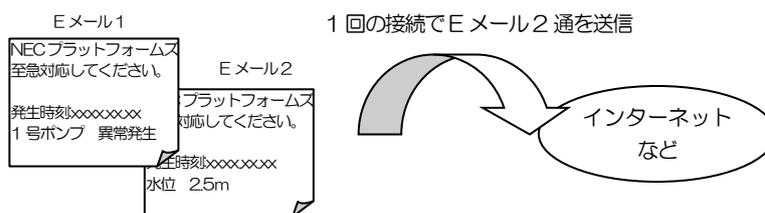
通報要因単位のメッセージを連続して送出します。

「こちらは、NEC プラットフォームズです。1号ポンプが故障です。水位が2.5メートルです。・・・」

 音声通報メッセージの詳細について、「通報する：音声 [音声通報メッセージ](#)」(P52)をご覧ください。

2. Eメール通報

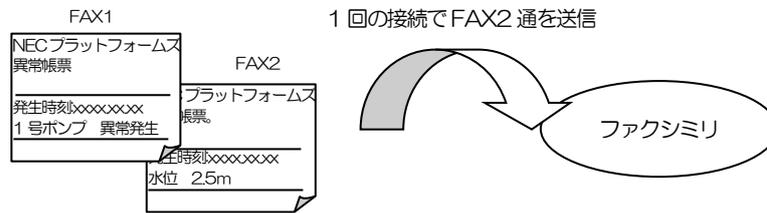
通報要因単位のEメールを複数作成し、同時に送信します。



 Eメール通報内容の詳細について、「通報する：Eメール [Eメール通報内容](#)」(P57)をご覧ください。

3. FAX通報

通報要因単位のFAX 帳票を複数作成し、同時に送信します。



📖 FAX通報の通報内容の詳細について、「通報する：FAX FAX通報内容」(P60)をご覧ください。

4. DTMF通報

一括通報のフォーマットで、同時に送信します。

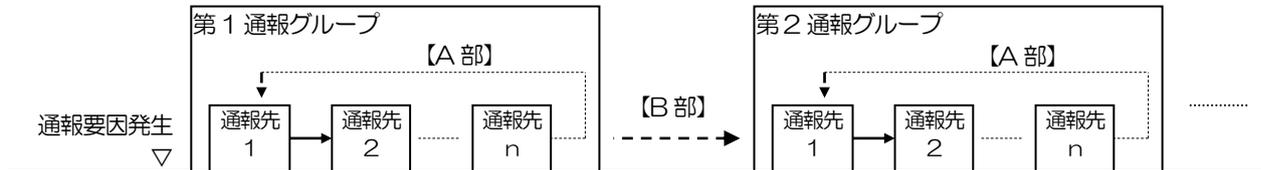
📖 DTMF通報の通報内容の詳細について、「通報する：DTMF DTMF通報内容」(P68)をご覧ください。

📖 設定や工事に関して

- 一括通報および通報遅延タイムの設定について、「データを設定する：設定内容 通報共通の設定」(P188)
- 通報要因および通報パターンの設定について、「データを設定する：設定内容 デジタル入力の設定～アナログ入力の設定」(P197～201) CSDX(S)をご利用の場合、「データを設定する：設定内容 ビットデバイスの設定～ワードデバイスの設定」(P217～218)

通報する順序

通報する順序は、各通報要因の『モード 1 通報』『モード 2 通報』に設定されている通報グループ順（最大 5 グループ）に通報します。なお、各通報グループや各通報要因の設定により、運用に合わせた通報パターンを実現できます。



【A部】

各通報グループの『通報完了条件』、『発呼回数』の設定により、通報異常終了先へ再通報。通報先と通報先の間隔は、アナログ設定の『回線開放タイマ』の設定によります。なお、アナログポートからの通報で、通報先が相手話中や相手不応答などの要因で終了し、次が同じあて先への再通報となる場合は、通報間隔が 60 秒固定となります。

【B部】

前の通報グループが異常完了した場合、また正常完了した場合でも各通報要因の『次通報』の設定が《有》の場合は次の通報グループへ通報。通報グループと通報グループの間隔は、アナログ設定の『回線開放タイマ』の設定によります。

前グループの通報完了結果	『次通報』設定	次グループへの通報
異常完了	—（設定に依存しない）	する
正常完了	有	する
	無	しない

📖 通報完了条件については、「通報する：基本事項 [通報完了条件（通報グループ）](#)」(P47)をご覧ください。

通報完了条件（通報グループ）

各通報要因には最大5つの通報グループを設定できます。

第一通報グループから通報を開始し、『通報完了条件』、『発呼回数』の設定により通報を完了し、通報結果として正常完了または異常完了かを判定します。

1 通報グループの通報完了結果および動作

1. 正常完了

本通報グループは正常完了したため、『次通報』の設定により、次の通報グループに通報します。

2. 異常完了

本通報グループは異常完了したため、無条件に次の通報グループに通報します。

2 通報グループの正常完了条件

正常完了の条件は、以下の通りです。

正常完了条件以外で完了した場合は、全て異常終了とします。

設定	正常完了条件
—	『通報完了条件』に設定された宛先数と通報の正常終了宛先数が一致した場合

3 1 通報先に対する終了条件（通報終了条件）

1つの通報先に対する終了条件は、各通報方式により異なります。

📖 「通報する：音声 音声通報の終了条件」(P53)、「通報する：Eメール Eメール通報の終了条件」(P58)、「通報する：FAX FAX通報の終了条件」(P65)、「通報する：DTMF DTMF通報の終了条件」(P71)をご覧ください。

📖 設定や工事に関して

- 各通報要因の設定について、「データを設定する：設定内容 デジタル入力の設定～モード切替の設定」(P197～212)
CSDX(S)をご利用の場合、「データを設定する：設定内容 ビットデバイスの設定～ワードデバイスの設定」(P217～218)
- 通報共通の設定について、「データを設定する：設定内容 通報共通の設定」(P188)
- 通報グループの設定について、「データを設定する：設定内容 通報グループの設定」(P192)

通報を取り消す

現在発生している通報（通報中や通報保留中）を取り消します。
動作チェックや保守メンテナンスを実施している際、誤って通報要因が発生してしまった場合などに、操作してください。

ご注意

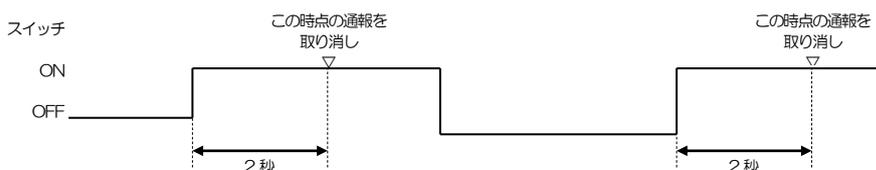
通報を取り消すと、通報中の要因だけでなく、保留している要因も取り消します。取り消してはいけない要因（真報）まで取り消す恐れがありますので、ご注意ください。
取り消し後は、動作履歴などを確認し、真報が発生していないなどを確認してください。

1 通報を取り消す方法

通報を取り消す方法は、以下の2通りです。（併用可能です）

1-1 本体カバー内の「CANCEL」ボタンで通報を取り消す

「CANCEL」ボタンを2秒間（5秒以内）押すと、その時点で発生している通報中および保留中の通報を全て取り消します。

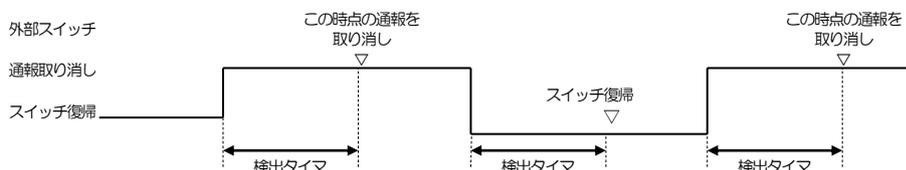


ご注意

- CANCEL ボタンは、外部から容易に変更できないようにするため、本体カバー内に収容されており、ボタンを押すには、本体カバーを外す必要があります。特に防犯上などの問題がない場合は、以下の「外部スイッチ」を利用してください。
- CANCEL ボタンは、5秒以上押すとメンテナンスモードに入りますので、ご注意ください。
- 本体ブザーによる回線断警報音が鳴動している場合、ボタンを押したときに警報音が停止します。
- CANCEL ボタンは、2秒押した時点のみ、通報を取り消します。CANCEL ボタンを押し続けても通報取り消し状態とはなりません。

1-2 デジタル入力端子に接続した「外部スイッチ」で通報を取り消す

デジタル入力端子にスイッチを接続し設定を行うと、通報取り消し用スイッチとして利用できます。
ON（またはOFF）の検出すると、その時点で発生している通報中および保留中の通報を全て取り消します。



ご注意

- スイッチは、ON/OFF プッシュスイッチを使用してください。
- ON（またはOFF）および検出時間は、使用するデジタル入力の設定によります。
- 外部スイッチでは、メンテナンスモードに入ることはできません。
- 外部スイッチは、ON（またはOFF）を検出した時点のみ、通報を取り消します。外部スイッチを入力し続けても通報取り消し状態とはなりません。

設定や工事に関して

- 外部スイッチの設定について、「データを設定する：設定内容 [通報共通の設定](#)」(P188)

2 通報を取り消すと

➔ 現在通報中および通報保留中の通報が全て取り消され、LINEランプが消灯します。

なお、アナログポートで着信自動応答中は、LINE ランプは点灯状態のままです。

📖 LINEランプについて、「各部の名称とはたらき」(P18)をご覧ください。

➔ 通報取り消し動作を動作履歴に記録します。

📖 動作履歴について、「監視データを記録する」(P78)をご覧ください。

➔ 取り消された通報を通報履歴に記録します。

📖 通報履歴について、「監視データを記録する」(P78)をご覧ください。

通報を一時的に停止する（メンテナンスモード）

メンテナンスモードにすることにより、通報動作を一時的に停止します。「CANCEL」ボタンを5秒以上押しとメンテナンスモードになり、全ての通報動作が停止します。

メンテナンスモード中に、「CANCEL」ボタンを押すと、通常モード（モード1または2）に戻ります。

なおメンテナンスモードは約2時間経過すると自動的に通常モードに戻ります。（忘れ防止）

動作チェックや保守メンテナンスを行う際、全ての通報を停止したい場合に操作してください。

ご注意

- メンテナンスモードにより停止する機能は、通報動作と回線断警報音です。その他動作（コントロールやデジタル出力連動や記録など）は、通常通り行います。
- メンテナンスモードにする前は、通報要因が発生していないことを確認してください。（まずは、LINEランプが点滅や点灯していないことを確認してください。ただし、LINEランプはアナログポート着信自動応答中も点灯しています。）
- メンテナンスモードにすると、全ての通報動作を行いませんので、メンテナンスモード終了時には、動作履歴などを確認し、真報が発生していないなどを確認してください。

1 メンテナンスモードにする方法

メンテナンスモードにする方法は、以下のみです。

1-1 本体カバー内の「CANCEL」ボタンでメンテナンスモードにする

「CANCEL」ボタンを5秒以上押しと、メンテナンスモードになります。

ご注意

- 通報取り消し用スイッチ（外部スイッチ）では、メンテナンスモードにすることはできません。
- 通報が発生している場合に行くと、押し続けている途中（2秒）で通報も取り消されます。
- 本体ブザーによる回線断警報音が鳴動している場合、ボタンを押したときに警報音が停止します。

2 メンテナンスモードにすると

➔ メンテナンスモード中は、CHECKランプが点滅します。

📖 CHECKランプについて、「各部の名称とはたらき」(P18)をご覧ください。

➔ 全ての通報動作が停止します。

メンテナンスモードにより停止する機能は、通報動作と回線断警報音です。
その他動作（コントロールやデジタル出力連動や記録など）は、通常通り行います。

➔ メンテナンスモードの開始を動作履歴に記録します。

メンテナンスモード終了時は、通常モード（モード1またはモード2）が記録されています。

📖 動作履歴について、「監視データを記録する」(P78)をご覧ください。

3 メンテナンスモードを終了する方法

メンテナンスモード中は、通報動作を行いませんので、メンテナンスモードの必要がなくなった場合は、メンテナンスモードを終了してください。なお、メンテナンスモードは、2時間経過すると自動的に通常モードに戻ります。

3-1 本体カバー内の「CANCEL」ボタンで通常モードにする

メンテナンスモード中に「CANCEL」ボタンを押すと、通常モードに戻ります。

3-2 2時間経過で自動的に通常モードに戻る

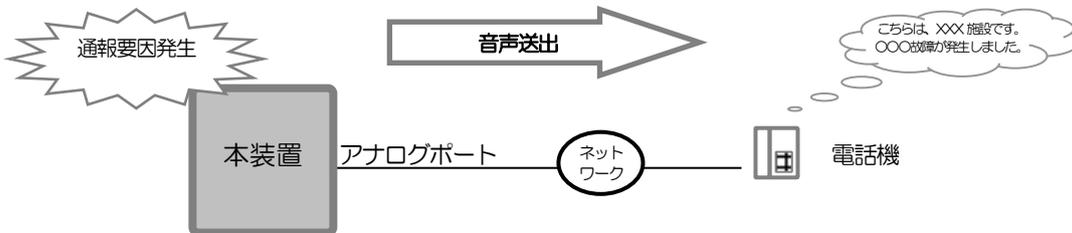
メンテナンスモード開始から2時間経過すると、自動的に通常モードに戻ります。

通報する：音声

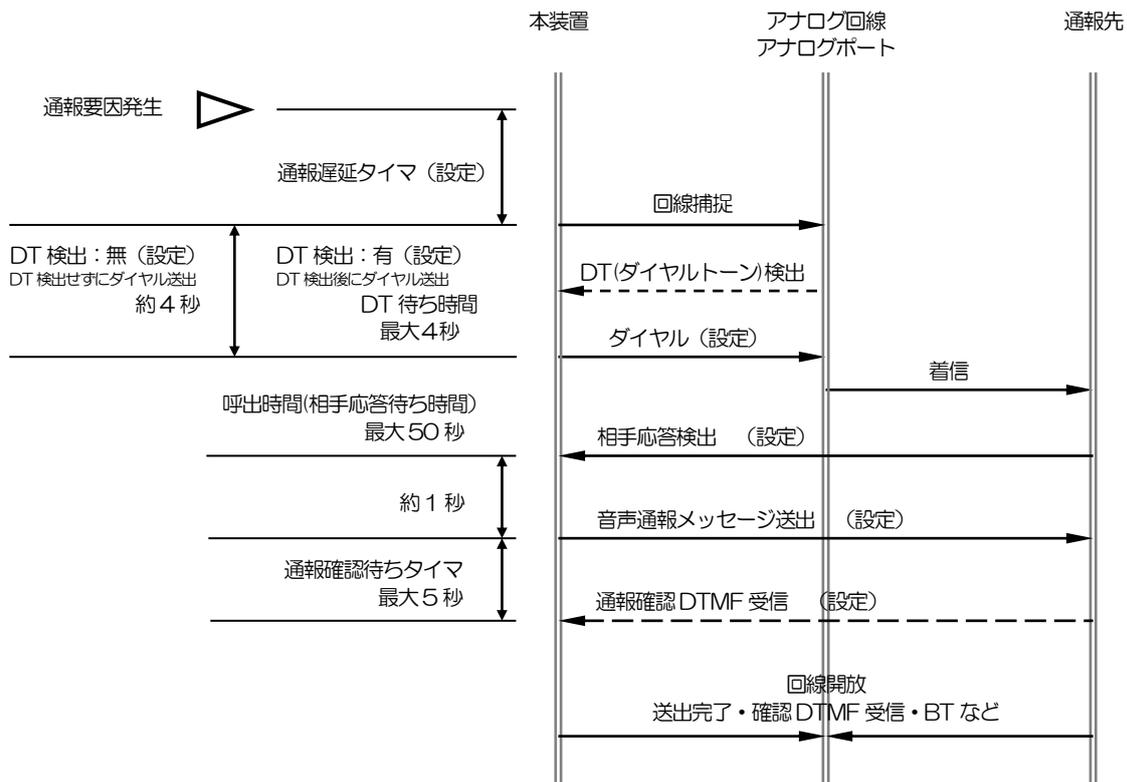
本機能は、CSDX（D）は対応していません。

各通報要因を電話機などへ音声メッセージで通報します。

音声通報は、本装置のアナログポートからのみ送出できます。LANポート、また PHS、DoPa・FOMA などシリアルポートや CF カードスロットを利用する回線からは、送出できません。



音声通報のシーケンス概要



ご注意

- 『DT 検出』《有》の場合、DT 待ち時間（最大4秒）以内に DT を検出できない場合は、一度回線を開放しDT 検出無でダイヤルします。
- 自動ダイヤル後、BT（ピットーン）を検出した場合は、回線を開放します。
- 自動ダイヤル後、呼出時間（最大50秒）以内に相手応答を検出できない場合は、回線を開放します。
- 通報確認 DTMF は、相手応答の方法により、有り・無しを選択できます。

📖 通報確認 DTMF について、「通報する：音声 [音声通報の終了条件](#)」(P53)をご覧ください。

📖 設定や工事に関して

- DT 検出の設定について、「データを設定する：設定内容 [アナログポートの設定](#)」(P183)

音声通報メッセージ

本装置の音声通報メッセージは、テキスト音声合成方式を採用しています。
音声通報メッセージは以下のフォーマットで送ります。通報時には、以下のフォーマットを『音声メッセージ送出回数』で設定した回数分繰り返します。

1 音声通報メッセージのフォーマット

【A】：ID 音声メッセージ 【B】：通報要因メッセージ 【C】：付加情報メッセージ

こちらは〇〇施設です。△△設備が故障です。付加情報です。××設備が正常です、……。

【A】 ID音声メッセージ：全ての通報に共通で送出するメッセージです。

【B】 通報要因メッセージ：各通報要因に設定されたメッセージです。

【C】 付加情報メッセージ：設定により、各端子の現在状態を送ります。

付加情報を送出する場合、「付加情報です」が固定で送出されます。

📖 「通報する：基本事項 [通報内容に現在状態を付加する](#)」(P40)をご覧ください。

2 一括通報時の通報メッセージ

上記【B】部で複数の要因メッセージを続けて送ります。付加情報メッセージは、最後の起動要因発生時点の現在状態を送ります。

📖 一括通報について、「通報する：基本事項 [通報要因の複数発生時に一括で通報する](#)」(P44)をご覧ください。

📖 設定や工事に関して

- IDメッセージの設定について、「データを設定する：設定内容 [端末IDの設定](#)」(P181)
- 各通報要因メッセージの設定について、「データを設定する：設定内容 [デジタル入力の設定～モード切替の設定](#)」(P197～212)
CSDX(S)をご利用の場合は、「データを設定する：設定内容 [ビットデバイスの設定～ワードデバイスの設定](#)」(P217～218)

音声通報の終了条件

通報が終了すると通報結果として、正常終了または異常終了かを判定します。

1 音声通報の通報終了結果および動作

1. 正常終了

通報が正常に終了したため、正常終了宛先として1カウントされます。再通報の対象になりません。

2. 異常終了

通報が正常に終了しなかったため、再通報の対象になります。

2 音声通報の正常終了条件

正常終了の条件は、『応答検出方式』『通報確認 DTMF』の設定により、以下の通りです。
正常終了条件以外で終了した場合は、全て異常終了とします。

『応答検出方式』	『通報確認 DTMF』	正常終了条件
《極性反転》	《無》	付加情報メッセージを除く音声通報メッセージを1回以上送出完了した場合。
	《有》	音声通報メッセージを『音声メッセージ送出回数』送出中に『通報確認 DTMF』信号を受信した場合。
《DTMF》 《オーディオ》 《タイマ》	《有》	

ご注意

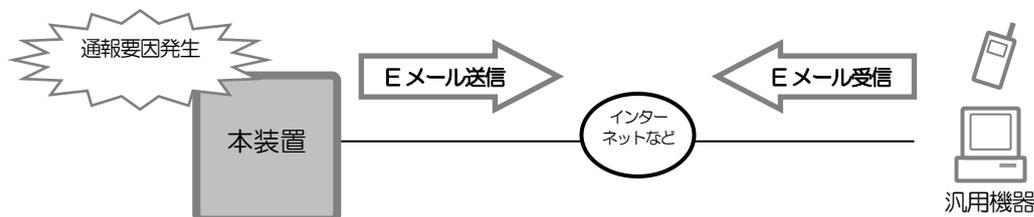
- 《タイマ》《DTMF》《オーディオ》に設定した場合は、必ず『通報確認 DTMF』を設定してください。『通報確認 DTMF』を《無》にすると、正しく通報できない場合があります。
- 通報確認 DTMF は、音声通報メッセージ送出中も受信できます。音声メッセージ送出中に受信すると、現在送出しているフレーズを送出後、本装置より切断します。なお、通報確認 DTMF 受信時に「正常終了」と判定しますので、受信後に通報先から切断しても「正常終了」とします。

設定や工事に関して

- 上記の各種設定について、「データを設定する：設定内容 [通報グループの設定](#) (P192)

通報する：Eメール

各通報要因をインターネットサービスプロバイダーなどのメールサーバへEメールで通報します。Eメール通報は、全ての通信ポートから送出できます。

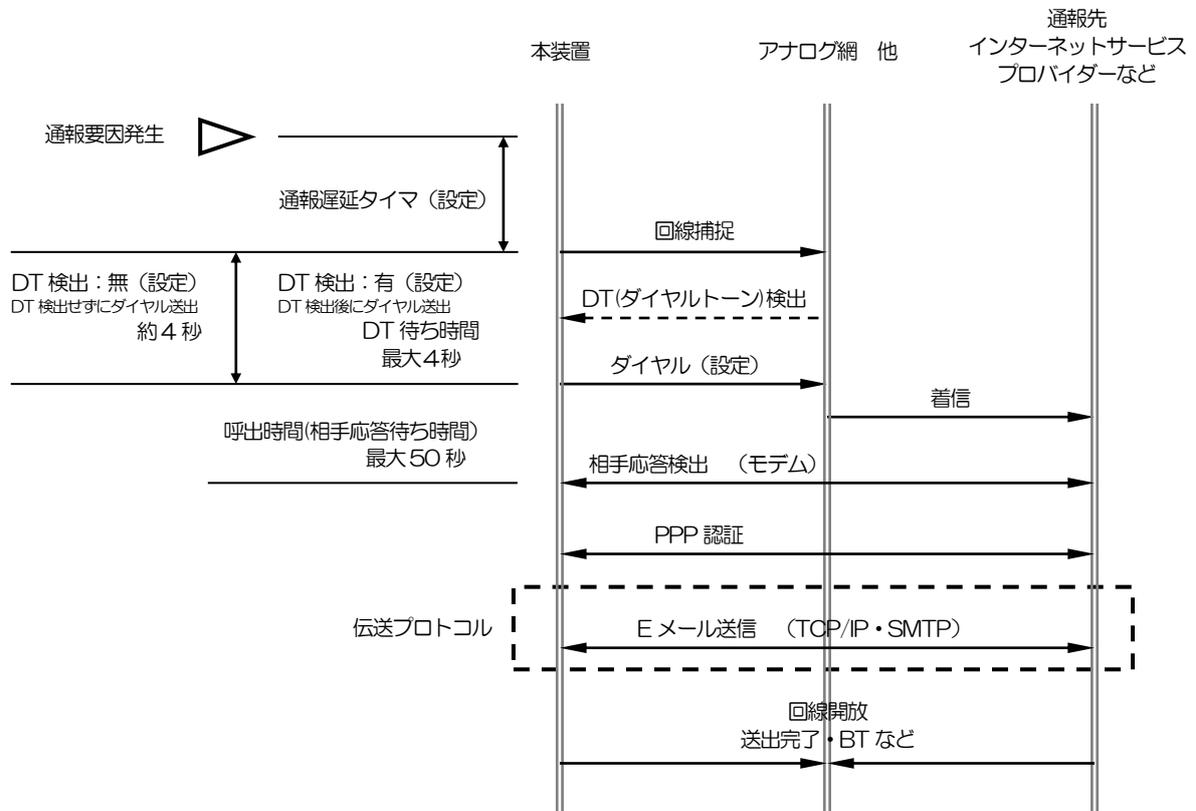


ご注意

- Eメール通報は、インターネットサービスプロバイダー（ISP）などのメールサーバへ通報します。PCや携帯電話などで通報内容を受信するには、定期的にメールサーバへアクセスしEメールを受信する必要があります。（ISPのEメールサービス内容によっては、自動的にメールが通知される場合もあります。）
- インターネットサービスプロバイダー（ISP）について
通信ネットワークとしてDoPa・FOMAをご利用の場合は、(株)NTTドコモ インターネット接続サービス「mopera(モペラ)」のご利用をお勧めします。
- 本装置は、Eメールの受信はできません。本装置Eメールアドレスに対する受信メールは、メールサーバの受信ボックスに蓄積され続けます。
また、受信メールの中には、プロバイダーからの通知など重要なメールも含まれています。受信メールを蓄積させない、また重要なメールを見逃さないようにするため、本装置アドレスに対する受信メールは、お客様のEメールアドレスに「受信メールを残さないで転送する」に設定しておくか、定期的にお客様にて受信するようにしてください。

Eメール通報のシーケンス概要

1 アナログポートの場合



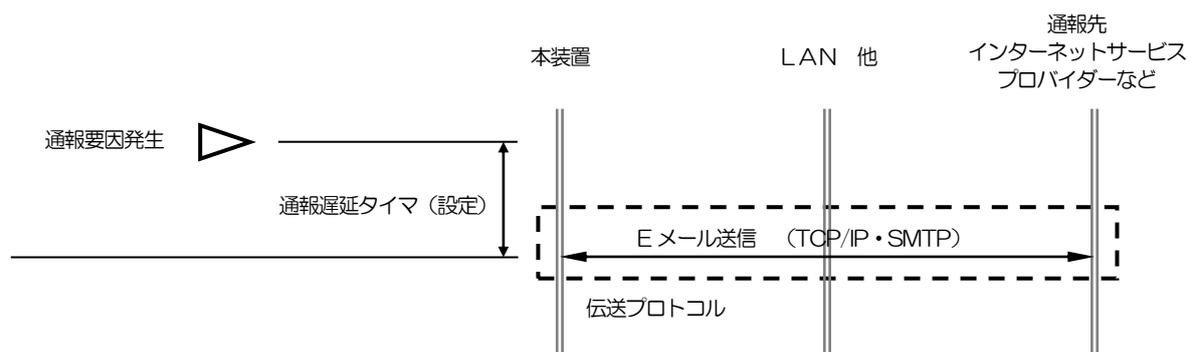
ご注意

- 『DT 検出』《有》の場合、DT 待ち時間（最大4秒）以内に DT を検出できない場合は、一度回線を開放しDT 検出無でダイヤルします。
- 自動ダイヤル後、BT（ビジトーン）を検出した場合は、回線を開放します。
- 自動ダイヤル後、呼出時間（最大50秒）以内に相手応答を検出できない場合は、回線を開放します。

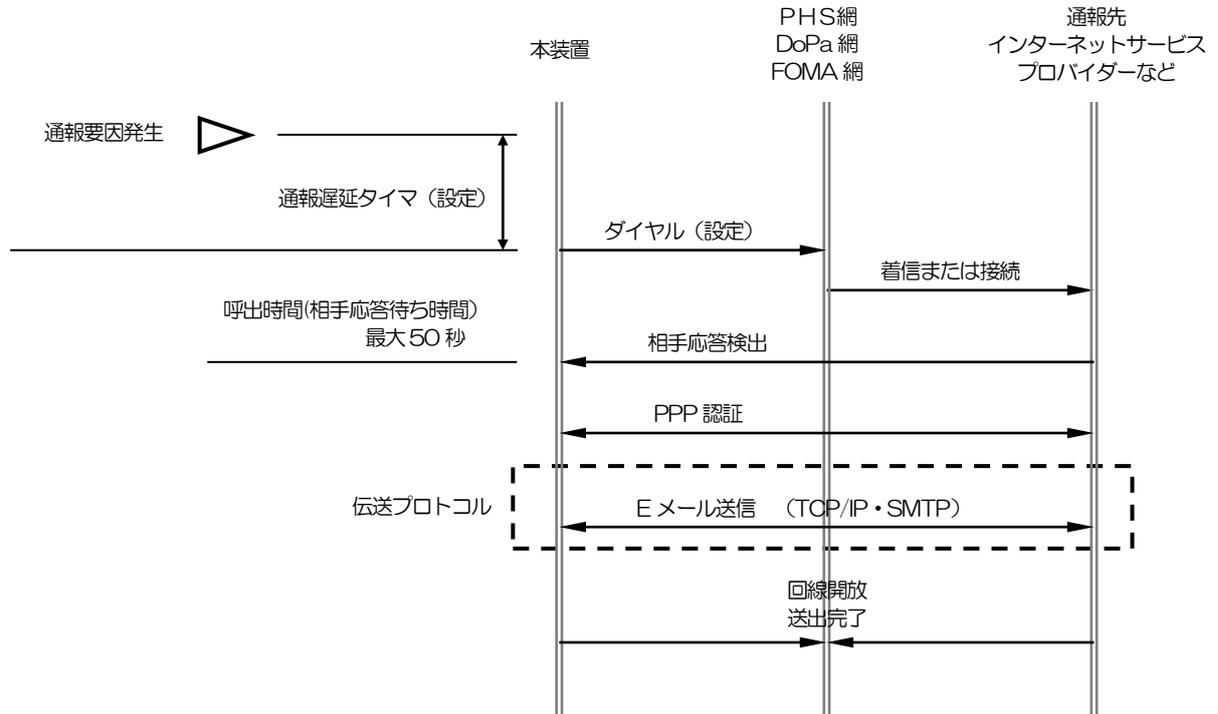
設定や工事に関して

- DT 検出の設定について、「データを設定する：設定内容 [アナログポートの設定](#)」(P183)

2 LANポートの場合



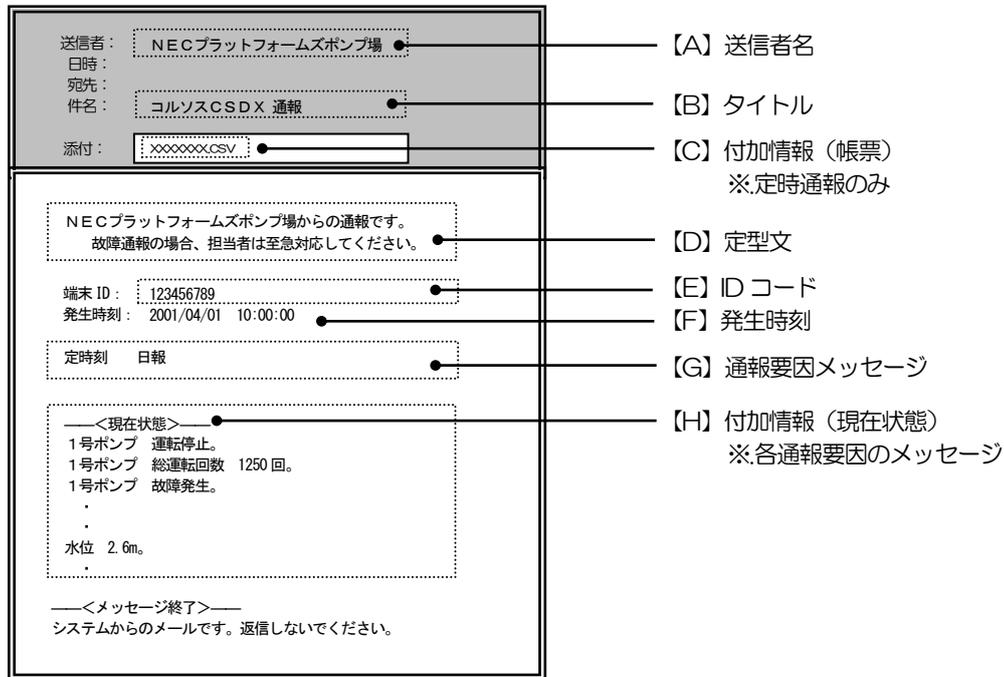
3 PHS・DoPa・FOMAの場合



Eメール通報内容

Eメール通報内容は、以下の通りです。

1 Eメール通報内容のフォーマット



ご注意

- 点線以外の部分は、固定で表示されます。

[A] 送信者名：送信者名（共通）を表示します。

[B] タイトル：タイトル（共通）を表示します。

[C] 付加情報（帳票）：設定により、日報や月報帳票が添付されます。（定時通報のみ）

📖 「通報する：基本事項 [通報内容に日報・月報を付加する](#)」(P42)をご覧ください。

[D] 定型文：定型文（共通）を表示します。

[E] IDコード：IDコードを表示します。

[F] 発生時刻：通報要因の発生時刻を表示します。無条件で表示します。

通報要因発生時（デジタル入力などの検出時）の時刻です。（通報を開始した時刻ではありません。）

[G] 通報要因メッセージ：通報要因毎のEメール・FAX用メッセージを表示します。

EメールとFAXのメッセージは共通となります。（各々設定することはできません。）

[H] 付加情報（現在状態）：設定により、各端子の現在状態を表示します。

📖 「通報する：基本事項 [通報内容に現在状態を付加する](#)」(P40)をご覧ください。

2 一括通報時の通報内容

通報要因毎にEメールを複数作成し、同時に通報します。付加情報メッセージは、各要因発生時点の現在状態を表示します。

 一括通報について、「通報する：基本事項 [通報要因の複数発生時に一括で通報する](#)」(P44)をご覧ください。

設定や工事に関して

- 送信者名、タイトル、定型文の設定について、「データを設定する：設定内容 [通報共通の設定](#)」(P188)
- IDコードの設定について、「データを設定する：設定内容 [端末IDの設定](#)」(P181)
- 各通報要因メッセージの設定について、「データを設定する：設定内容 [デジタル入力の設定～モード切替の設定](#)」(P197～212)
CSDX(S)をご利用の場合は、「データを設定する：設定内容 [ビットデバイスの設定～ワードデバイスの設定](#)」(P217～218)

Eメール通報の終了条件

通報が終了すると通報結果として、正常終了または異常終了かを判定します。

1 Eメール通報の通報終了結果および動作

1. 正常終了

通報が正常に終了したため、正常終了宛先として1カウントされます。再通報の対象になりません。

注意

Eメール通報の場合は、Eメール通報先分正常終了宛先としてカウントされません。Eメール通報先が複数あっても、正常終了宛先としては1カウントとなります。

2. 異常終了

通報が正常に終了しなかったため、再通報の対象になります。

2 Eメール通報の正常終了条件

正常終了の条件は、以下の通りです。

正常終了条件以外で終了した場合は、全て異常終了とします。

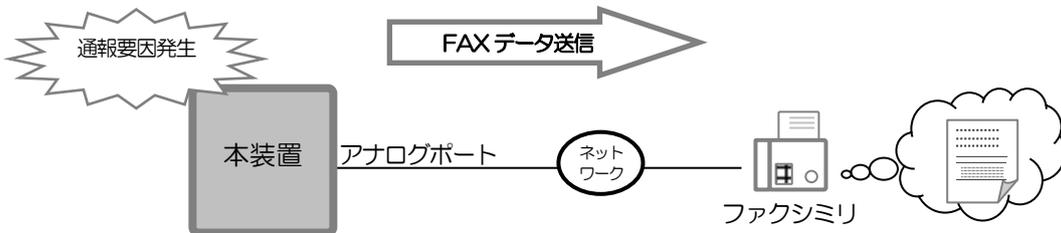
設定	正常終了条件
—	メールサーバにEメールを送信完了

通報する：FAX

本機能は、CSDXのみ対応しています。

各通報要因をファクシミリへ FAX で通報します。

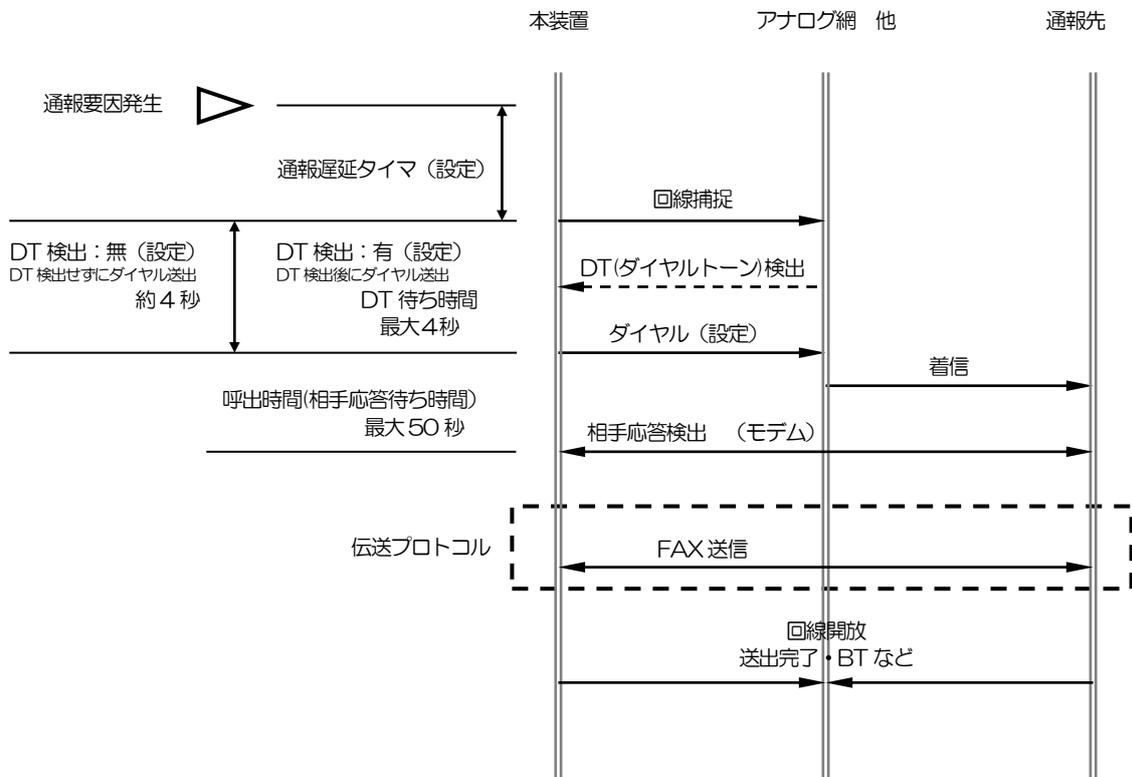
FAX 通報は、本装置のアナログポートからのみ送出できます。LAN ポート、また PHS、DoPa・FOMA などシリアルポートや CF カードスロットを利用する回線からは、送出できません。



ご注意

- FAX 通報は、ファクシミリへ通報します。通信手順は G3FAX となります。他の規格には対応していませんので、ご注意ください。
- 本装置は、FAX の受信はできません。送信のみとなります。

FAX 通報のシーケンス概要



ご注意

- 『DT 検出』《有》の場合、DT 待ち時間（最大4秒）以内に DT を検出できない場合は、一度回線を開放しDT 検出無でダイヤルします。
- 自動ダイヤル後、BT（ピットーン）を検出した場合は、回線を開放します。
- 自動ダイヤル後、呼出時間（最大50秒）以内に相手応答を検出できない場合は、回線を開放します。

設定や工事に関して

- DT 検出の設定について、「データを設定する：設定内容 [アナログポートの設定](#) (P183)

F A X 通報内容

FAX 通報内容は、以下の通りです。

1 F A X 通報内容のフォーマット

1-1 異常帳票

The diagram shows a FAX report layout with the following fields and callouts:

- [A] タイトル (上段、中段、下段)**: Points to the title area containing '第1マンホールポンプ場', '異常帳票', and '天候()'.
- [B] 作成年月日**: Points to the date '2005年11月2日'.
- [C] 作成情報**: Points to the '検閲センター' (Review Center) label.
- [D] 印章**: Points to a table with columns '承認' (Approval), '確認' (Confirmation), '確認' (Confirmation), and '担当' (Responsible).
- [E] IDコード**: Points to the '端末ID : 123456789' field.
- [F] 発生時刻**: Points to the '発生時刻 : 2005/11/02 08:22:05' field.
- [G] 通報要因メッセージ**: Points to the '1号ポンプ 故障発生' (No. 1 Pump Malfunction Occurred) message.
- [H] 付加情報 (現在状態)**: Points to the '<現在状態>' (Current Status) section, which includes a table of pump statuses and a note: '※各通報要因のメッセージ'.

ご注意

- 点線以外の部分は、固定で表示されます。

[A] タイトル (上段、中段、下段) : タイトルを表示します。

[B] 作成年月日 : 作成年月日を表示します。

[C] 作成情報 : 作成情報を表示します。

[D] 印章 : 印章を表示します。

[E] IDコード : IDコードを表示します。

[F] 発生時刻 : 通報要因の発生時刻を表示します。無条件で表示します。

通報要因発生時 (デジタル入力などの検出時) の時刻です。(通報を開始した時刻ではありません。)

[G] 通報要因メッセージ : 通報要因毎のEメール・FAX用メッセージを表示します。

EメールとFAXのメッセージは共通となります。(各々設定することはできません。)

[H] 付加情報 (現在状態) : 設定により、各端子の現在状態を表示します。

📖 「通報する：基本事項 通報内容に現在状態を付加する」(P40)をご覧ください。

1-2 日報帳票

第1マンホールポンプ場
 日報 2005年11月1日
 天候()

作成年月日：2005年11月2日

承認	確認	確認	担当

時刻	1号ポンプ 運転回数 (回)	1号ポンプ 運転時間 (分-秒)	1号ポンプ 流量 (m ³)	2号ポンプ 運転回数 (回)	2号ポンプ 運転時間 (分-秒)	2号ポンプ 流量 (m ³)	総流量 (m ³)
00:00	2	2:00	1.9	1	1:55	1.8	2.9
01:00	2	4:26	3.2	0	0:16	0.2	3.4
02:00	0	0:31	0.4	0	0:00	0.0	0.4
03:00	0	0:00	0.0	0	0:00	0.0	0.0
04:00	0	0:00	0.0	1	3:05	2.2	2.2
05:00	2	2:20	1.7	1	2:23	1.7	3.4
06:00	0	0:00	0.0	0	0:00	0.0	0.0
07:00	1	1:56	1.4	1	0:43	0.5	1.9
08:00	1	2:44	2.0	2	5:37	4.0	6.0
09:00	0	0:00	0.0	0	0:42	0.5	0.5
10:00	0	0:00	0.0	0	0:00	0.0	0.0
11:00	1	1:57	1.4	1	2:04	1.5	2.9
12:00	1	2:58	2.1	1	3:02	2.2	4.3
13:00	1	2:10	1.6	1	2:10	1.6	3.1
14:00	1	4:52	3.5	1	5:25	3.9	7.4
15:00	1	1:27	1.0	0	0:00	0.0	1.0
16:00	0	0:02	0.0	1	1:54	1.4	1.4
17:00	0	0:00	0.0	1	2:13	1.6	1.6
18:00	0	0:00	0.0	0	0:00	0.0	0.0
19:00	1	2:20	1.7	1	1:13	0.9	2.6
20:00	1	2:50	2.0	0	0:00	0.0	2.0
21:00	0	0:00	0.0	0	0:00	0.0	0.0
22:00	1	1:20	1.0	1	1:21	1.0	1.9
23:00	0	0:21	0.3	0	0:34	0.4	0.7
合計	16	54:26	24.6	14	52:57	24.8	49.4
最大値	2	4:52	3.5	2	5:37	4.0	7.4
最小値	0	0:00	0.0	0	0:00	0.0	0.0
平均値	0.7	1:25	1.0	0.6	1:26	1.0	2.1
異常時	-	0:34	-	-	0:34	-	-

ご注意

- 点線以外の部分は、固定で表示されます。
- ブラウザ表示と共通です。

- 【A】 タイトル（上段、中段、下段）：タイトルを表示します。
- 【B】 作成年月日：作成年月日を表示します。
- 【C】 作成情報：作成情報を表示します。
- 【D】 印章：印章を表示します。
- 【E】 時刻：時刻（00：00～23：00）を表示します。
- 【F】 列名称：各列の名称を表示します。
- 【G】 単位：各列の単位を表示します。
- 【H】 列計算結果：各列の時間毎の計算結果を表示します。
- 【I】 フッタ計算結果：各列のフッタ計算結果を表示します。
- 【J】 フッタ名称：各列のフッタ名称を表示します。

1-3 月報帳票

第1マンホールポンプ場 月報 2005年11月 天候()							
						作成年月日：2005年12月1日	
						検印ボタン 承認 確認 確認 担当	
日付	1号ポンプ 運転回数 (回)	1号ポンプ 運転時間 (分-秒)	1号ポンプ 水量 (m3)	2号ポンプ 運転回数 (回)	2号ポンプ 運転時間 (分-秒)	2号ポンプ 水量 (m3)	総水量 (m3)
1日	16	34:25	24.8	14	34:31	24.8	49.7
2日	7	12:01	8.7	5	10:31	7.6	16.2
3日	9	12:31	9.1	6	12:21	8.9	18.0
4日	3	8:24	6.0	2	4:21	3.1	9.2
5日	19	43:15	31.1	19	44:40	32.2	63.3
6日	2	3:14	2.3	2	3:02	2.2	4.5
7日	4	8:54	6.4	5	10:58	7.9	14.3
8日	3	7:45	5.6	4	9:25	6.8	12.4
9日	1	2:15	1.6	0	0:00	0.0	1.6
10日	7	11:30	12.6	6	14:27	10.4	23.2
11日	3	5:31	4.0	3	5:31	4.0	8.1
12日	28	66:36	48.0	21	63:35	45.8	93.7
13日	2	5:11	3.8	2	7:06	5.1	8.9
14日	1	2:30	2.0	1	2:33	1.8	3.9
15日	0	0:13	0.2	1	1:51	1.4	1.6
16日	8	14:42	10.6	8	15:25	11.1	21.7
17日	10	19:59	14.4	11	20:20	14.6	29.0
18日	13	21:13	18.6	12	25:44	16.5	35.1
19日	8	13:00	9.4	7	12:34	9.0	18.4
20日	3	5:43	4.1	3	5:34	4.0	8.1
21日	6	10:46	7.8	5	10:44	7.7	15.5
22日	1	3:20	2.4	1	3:32	2.5	4.9
23日	0	0:00	0.0	0	0:00	0.0	0.0
24日	3	7:31	5.4	2	5:34	4.0	9.4
25日	1	2:25	1.7	2	4:46	3.4	5.2
26日	14	21:06	19.5	13	26:50	19.3	38.8
27日	11	40:05	28.9	10	41:20	28.8	57.6
28日	2	4:32	3.3	1	2:42	1.9	5.2
29日	6	12:58	9.3	6	13:11	9.6	18.9
30日	3	6:38	4.8	3	5:58	4.3	9.1
合計	200	427:01	307.5	189	418:32	302.1	609.6
最大値	28	66:36	48.0	21	63:35	45.8	93.7
最小値	0	0:00	0.0	0	0:00	0.0	0.0
平均値	6.7	14:14	10.3	6.3	13:58	10.1	20.3
累計時...		7.00			6.58		

- 【A】 タイトル（上段、中段、下段）
- 【B】 作成年月日
- 【C】 作成情報
- 【D】 印章名称
- 【E】 日付
- 【F】 列名称
- 【G】 単位
- 【H】 列計算結果
- 【I】 フッタ計算結果
- 【J】 フッタ名称

ご注意

- 点線以外の部分は、固定で表示されます。
- ブラウザ表示と共通です。

- 【A】 タイトル（上段、中段、下段）：タイトルを表示します。
- 【B】 作成年月日：作成年月日を表示します。
- 【C】 作成情報：作成情報を表示します。
- 【D】 印章名称：印章名称を表示します。
- 【E】 日付：日付（1日～31日）を表示します。
- 【F】 列名称：各列の名称を表示します。
- 【G】 単位：各列の単位を表示します。
- 【H】 列計算結果：各列の日毎の計算結果を表示します。
- 【I】 フッタ計算結果：各列のフッタ計算結果を表示します。
- 【J】 フッタ名称：各列のフッタ名称を表示します。

1-4 現在状態帳票

【A】 タイトル（上段、中段、下段）

【B】 作成年月日

【C】 作成情報

【D】 印章名称

【E】 付加情報（現在状態）
※各通報要因のメッセージ

ご注意

- 点線以外の部分は、固定で表示されます。

【A】 タイトル（上段、中段、下段）：タイトルを表示します。

【B】 作成年月日：作成年月日を表示します。

【C】 作成情報：作成情報を表示します。

【D】 印章名称：印章名称を表示します。

【E】 付加情報（現在状態）：運用中端子とシステムの現在状態を表示します。

2 異常帳票と日報・月報の組み合わせについて

定時通報の設定 『日報・月報 FAX 帳票』	通報グループ(FAX)設定 『現在状態付加』	出力される帳票
《日報》または《月報》	《無》	日報または月報帳票のみ（1 ページ目～） ※. 定時通報帳票はありません。
	《有》	定時通報帳票(現在状態付加)（1 ページ目） + 日報または月報帳票（2 ページ目～）
《無》	《無》	定時通報帳票のみ（1 ページ）
	《有》	定時通報帳票(現在状態付加)のみ（1 ページ）

3 一括通報時の通報内容

通報要因毎に FAX を複数作成し、同時に通報します。付加情報メッセージは、各要因発生時点の現在状態を表示します。

📖 一括通報について、「通報する：基本事項 通報要因の複数発生時に一括で通報する」(P44)をご覧ください。

📖 設定や工事に関して

- ID コードの設定について、「データを設定する：設定内容 端末IDの設定」(P181)
- 各通報要因メッセージの設定について、「データを設定する：設定内容 デジタル入力の設定～モード切替の設定」(P197～212)
- 異常帳票スタイルの設定について、「データを設定する：設定内容 異常帳票スタイルの設定」(P230)
- 現在状態帳票スタイルの設定について、「データを設定する：設定内容 現在状態帳票スタイルの設定」(P231)
- 日報、月報の設定について、「データを設定する：設定内容 日報スタイルの設定～列設定（月報）」(P226～229)

FAX通報の終了条件

通報が終了すると通報結果として、正常終了または異常終了かを判定します。

1 FAX通報の通報終了結果および動作

1. 正常終了

通報が正常に終了したため、正常終了宛先として1カウントされます。再通報の対象になりません。

2. 異常終了

通報が正常に終了しなかったため、再通報の対象になります。

2 FAX通報の正常終了条件

正常終了の条件は、以下の通りです。

正常終了条件以外で終了した場合は、全て異常終了とします。

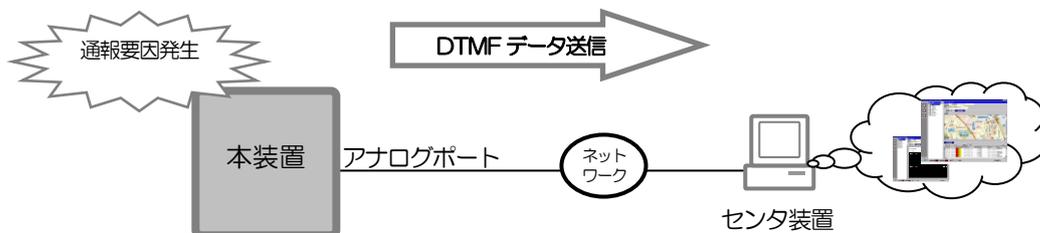
設定	正常終了条件
—	ファクシミリにFAXを送信完了

通報する：DTMF

本機能は、CSDX（D）、CSDX（S）は対応していません。

各通報要因を DTMF 信号で通報します。

DTMF 通報は、本装置のアナログポートからのみ送出できます。LAN ポート、また PHS、DoPa・FOMA などシリアルポートや CF カードスロットを利用する回線からは、送出できません。



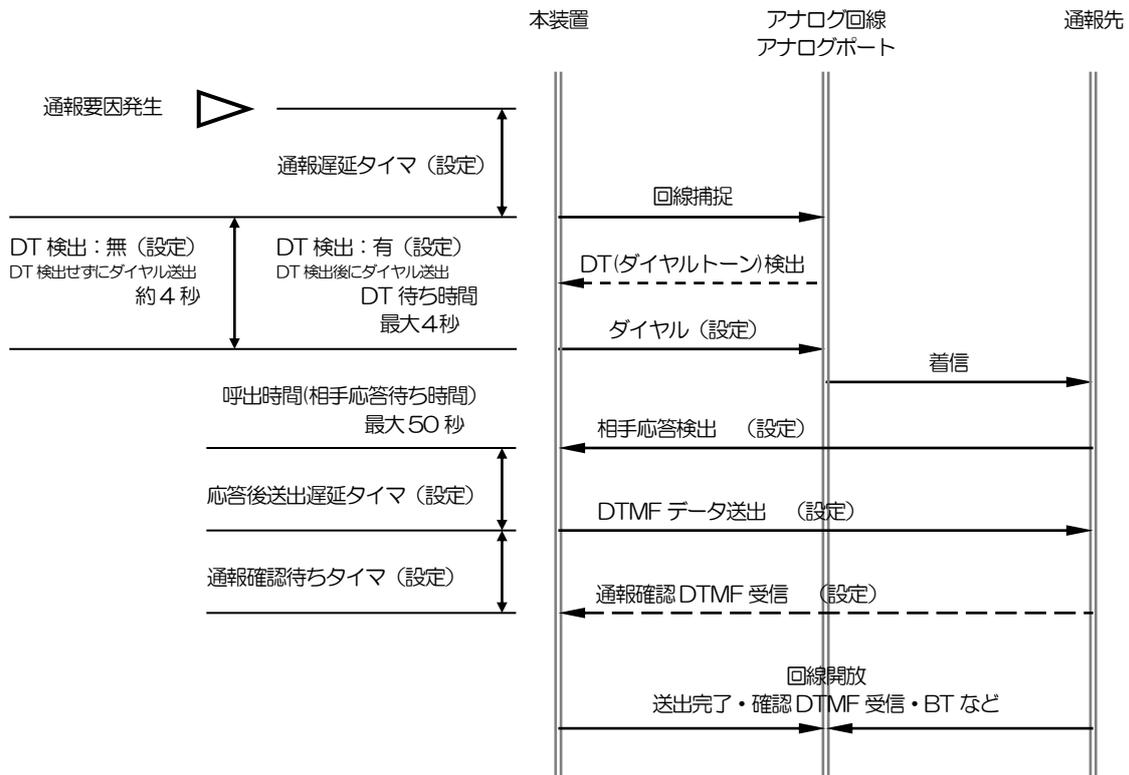
ご注意

- DTMF 通報はセンタへの簡易的なデータ通報です。
新規にコルソス CSDX—センタシステムを構築する場合は、より詳細なデータ管理が行えるデータ通報をご利用ください。詳しくは、弊社窓口へお問い合わせください。
- CSD7 通報装置の DTMF 通報機能との比較は下表の通りです。いくつか相違点がありますので、現在の CSD7 通報装置—センタシステムに本機を増設の際には、センタ側の対応が必要となる場合があります。

項目	CSD7	CSDX	記事
アンサ信号受信	単周波信号のみ (400~3000Hz)	単周波信号は受信できません。 <相手応答検出>の設定によります。※1 ・極性反転 ・タイマ ・DTMF 信号 ・オーディオ	
エンド信号受信	同上	単周波信号は受信できません。 <通報確認 DTMF>の設定によります。※1 ・なし ・DTMF 信号	
データフォーマット	設定および固定データ形式	← (CSD7 同様)	
設定データ内容	最大 32 桁	最大 31 桁	
固定データ内容			
種別コード	—	一部なし	
端子 No (センサ)	001~008 041~044	001~016 ※ (P)は008まで 041~048	041~はアナログ端子のデジタル運用
端子 No (アナログ)	001~004	001~008	
積算値	00000~65535 単位は：回または 10 秒	← (CSD7 同様)	
アナログ値	000~255	← (CSD7 同様)	

※1. 現在の CSD7 通報装置—センタシステムに本機を増設する場合、CSDX のアンサ・エンド信号は、センタシステムにてアンサ・エンド信号を設定変更等で対応可能な場合は、「アンサ：DTMF エンド：DTMF」、対応不可の場合は「アンサ：極性反転 エンド：なし」で運用することをお勧めします。

DTMF 通報のシーケンス概要



ご注意

- 『DT 検出』《有》の場合、DT 待ち時間（最大4秒）以内に DT を検出できない場合は、一度回線を開放しDT 検出無でダイヤルします。
- 自動ダイヤル後、BT（ビジトーン）を検出した場合は、回線を開放します。
- 自動ダイヤル後、呼出時間（最大50秒）以内に相手応答を検出できない場合は、回線を開放します。
- 通報確認DTMFは、相手応答の方法により、有り・無しを選択できます。

📖 通報確認DTMFについて、「通報する：DTMF DTMF 通報の終了条件」(P71)をご覧ください。

🔧 設定や工事に関して

- DT 検出の設定について、「データを設定する：設定内容 アナログポートの設定」(P183)

DTMF 通報内容

DTMF 通報内容は、以下の通りです。

1 DTMF 通報のデータフォーマット

1-1 個別通報のフォーマット

各通報要因の『DTMFデータ』設定が設定されているか否かにより、以下のようになります。

1. 任意データ（『DTMFデータ』設定にデータ設定している場合）

『DTMFデータ』の設定データ (Max31桁)
XXX.....XXX

2. 固定データ（『DTMFデータ』設定が未設定の場合）

開始 コード	IDコード (Max12桁)	通報データ1		終了 コード
		種別コード	情報内容	
A	XX..XX	BXX	XXX.....XXX	A

1-2 一括通報のフォーマット

一括通報の場合は、任意データと固定データが混在する場合があります。

開始 コード	IDコード (Max12桁)	通報データ1		通報データn		終了 コード
		種別コード	情報内容		種別コード	情報内容	
A	XX..XX	BXX	XX..XX	BXX	XX..XX	A

 一括通報について、「通報する：基本事項 [通報要因の複数発生時に一括で通報する](#)」(P44)をご覧ください。

1-3 定時刻通報（現在状態付加時）のフォーマット

定時刻通報で現在状態情報を付加する場合は、以下フォーマットとなり、データは『DTMFデータ』設定でデータを設定している場合でも、全て標準データで通報します。

開始コード	IDコード (Max12桁)	種別コード	時刻データ (10桁)	データ件数 (2桁)	
A	XX..XX	B72	XXX.....XXX	XX	

デジタル入力データ			アナログ入力データ		
通報データ1		通報データn	通報データ1		通報データn
XX..XX		XX..XX	XX..XX		XX..XX

種別コード	情報内容
B1X	XXX.....XXX

種別コード	情報内容
B3X	XXX.....XXX

設定や工事に関して

- IDコードの設定について、「データを設定する：設定内容 端末IDの設定」(P181)
- 各通報要因DTMFデータの設定について、「データを設定する：設定内容 デジタル入力の設定～モード切替の設定」(P197～212)
- 定時刻通報の設定について、「データを設定する：設定内容 定時刻の設定」(P206)

2 固定データ一覧

個別通報の固定データ時や一括通報で使用される固定データは以下の通りです。

通報要因	システムデータ設定	種別コード	通報データ
			情報内容 ※2
デジタル入力 001～016 041～048(※1)	『異常モード』： 《メーク・ブレイク》	B11	時刻データ(10桁)＋端子No(3桁)＋状態(2桁)
	『異常モード』： 《パルス積算》	B13	時刻データ(10桁)＋端子No(3桁)＋状態(2桁)＋積算値(5桁)
	『異常モード』： 《時間積算》	B15	時刻データ(10桁)＋端子No(3桁)＋状態(2桁)＋積算値(5桁)
アナログ入力 001～008	『端子用途』： 《アナログ》	B32	時刻データ(10桁)＋端子No(3桁)＋状態(2桁)＋アナログ値(3桁)
定時刻 001～005	設定されている通報グループの 『現在状態情報』：《無》	B71	時刻データ(10桁)
	設定されている通報グループの 『現在状態情報』：《有》	B72	時刻データ(10桁)＋データ件数(2桁)＋各端子データ
停電		B81	時刻データ(10桁)＋001
復電		B81	時刻データ(10桁)＋002
ローバッテリー		B81	時刻データ(10桁)＋003
モード切替 (2→1)		B81	時刻データ(10桁)＋006
モード切替 (1→2)		B81	時刻データ(10桁)＋007
『DTMF データ』が設定されている通報要因 ※. 一括通報のみの種別コードです		B00	設定データ桁数(2桁)＋設定データ(最大31桁)

※1. アナログ入力 001～008 をデジタル入力として利用した場合、DTMF 通報では端子 No041～048 として送じます。

※2. 情報内容は以下の通りです。

- 時刻データ (10桁)

通報起動時刻です。 $\begin{matrix} \times \times & \times \times & \times \times & \times \times & \times \times \\ \text{年} & \text{月} & \text{日} & \text{時} & \text{分} \end{matrix}$

- 端子No (3桁)

通報要因	端子No (3桁)	
デジタル入力	デジタル端子の場合	001～016 ※CSDX(P)は008まで
	アナログ端子の『端子用途』が《デジタル》の場合	041～048
アナログ入力	アナログ端子の『端子用途』が《アナログ》の場合	001～008

- 状態 (2桁)

通報要因	状態 (2桁)	
デジタル入力	正常	00
	異常	01
	実装異常	09
アナログ入力	しきい値 1～5	正常 X0 (X: 1～5)
		異常 X1 (X: 1～5)
	実装異常	09

- 積算値 (5桁)

数値：00000～65535

単位：パルス積算の場合 (回) 時間積算の場合 (10秒)

- アナログ値 (3桁)

数値：000～255

単位：なし

DTMF 通報の終了条件

通報が終了すると通報結果として、正常終了または異常終了かを判定します。

1 DTMF 通報の通報終了結果および動作

1. 正常終了

通報が正常に終了したため、正常終了宛先として 1 カウントされます。再通報の対象になりません。

2. 異常終了

通報が正常に終了しなかったため、再通報の対象になります。

2 DTMF 通報の正常終了条件

正常終了の条件は、『応答検出方式』『通報確認 DTMF』の設定により、以下の通りです。
正常終了条件以外で終了した場合は、全て異常終了とします。

『応答検出方式』	『通報確認 DTMF』	正常終了条件
《極性反転》	《無》	DTMF 通報データを全て送出完了した場合。
	《有》	DTMF 通報データを全て送出後、『通報確認 DTMF』信号を受信した場合。
《DTMF》 《オーディオ》 《タイマ》	《有》	

ご注意

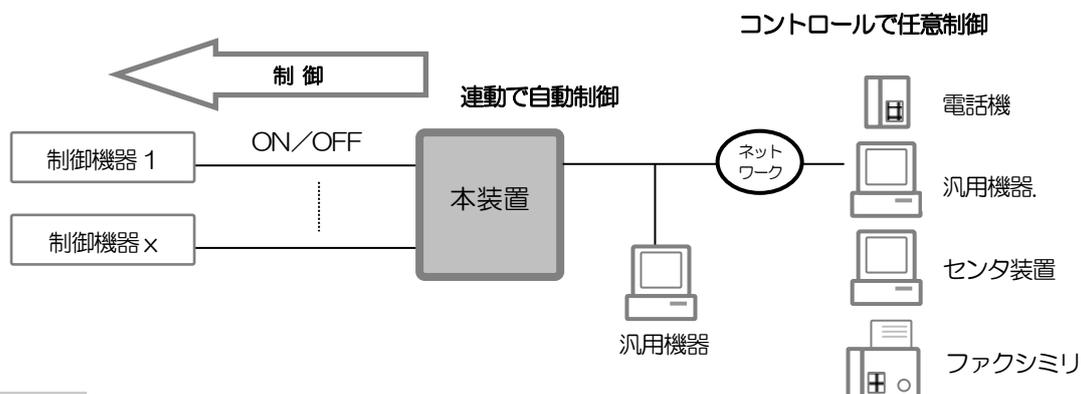
- 《タイマ》《DTMF》《オーディオ》に設定した場合は、必ず『通報確認 DTMF』を設定してください。『通報確認 DTMF』を《無》にすると、正しく通報できない場合があります。
- 通報確認 DTMF は、DTMF 通報データ送出中は受信できません。

設定や工事に関して

- 上記の各種設定について、「データを設定する：設定内容 [通報グループの設定](#) (P192)

デジタル出力を制御する

本装置には、8ch（CSDX(P)およびCSDX(D)は4ch）のデジタル出力が内蔵されています。各種の設定により、デジタル出力連動要因の発生時やコントロールによる制御により、デジタル出力を動作（ON=メーク・OFF=ブレーク）させることができます。1つのデジタル出力を複数要因で連動、またコントロールにより制御することもできます。『出力方式』の設定により、連続動作とワンショット動作も選択できます。



ワンポイント

- CSDX(S)をご利用の場合、シーケンサを接続することにより、デジタル出力端子を増やすことができます。
- 📖 シーケンサについて、「端子を増設する」(P140)

デジタル出力を制御する方法

デジタル出力を制御する方法には、自動と手動があります。

1 デジタル出力制御

1. 自動（連動制御）

回線断検出、起動要因発生などに連動して自動的に制御します。

📖 連動制御について、「[連動できる要因（デジタル出力連動要因）](#)」(P75)をご覧ください。

2. 手動（コントロール制御）

電話機、ブラウザ、センタ装置、ファクシミリからのコントロールにより任意に制御します。

📖 コントロール制御について、「[コントロールする：基本事項](#)」(P84)～をご覧ください。

2 デジタル出力が動作すると

➔ 設定により、デジタル出力のON・OFFを、動作履歴に記録することができます。

📖 動作履歴について、「[監視データを記録する](#)」(P78)をご覧ください。

📖 設定や工事に関して

- 出力方式の設定について、「[データを設定する：設定内容 デジタル出力の設定](#)」(P186)
- デジタル出力端子のハードウェア仕様や配線について、「[センサなどの機器を接続する デジタル出力の接続](#)」(P166)

デジタル出力の出力動作方式

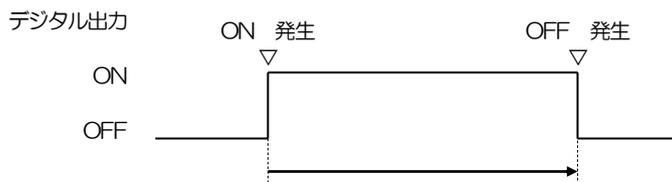
各デジタル出力の『出力方式』の設定により、連続動作とワンショット動作を設定できます。

1 デジタル出力の出力動作

デジタル出力の基本は、以下のような動作をします。

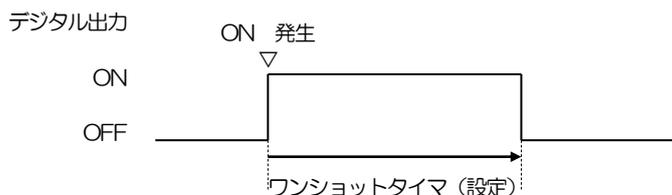
1. 連続

ONした場合、OFF条件までONし続けます。



2. ワンショット

ONした場合、ワンショットタイマ（設定）経過後 OFF します。

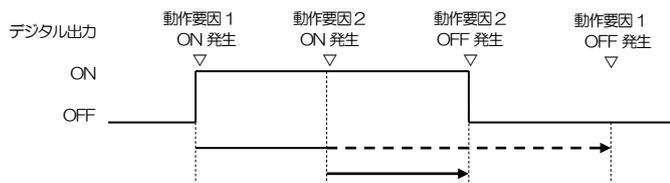


2 同一デジタル出力で複数の動作要因が発生した場合

同一デジタル出力で複数の動作要因が発生した場合、以下のような動作をします。

1. 連続

発生順の状態となります。



2. ワンショット

動作要因が発生するたびにワンショット時間をリセットします。



📖 設定や工事に関して

- 出力方式の設定について、「データを設定する：設定内容 [デジタル出力の設定](#)」(P186)をご覧ください。

連動できる要因（デジタル出力連動要因）

回線断、通報、各入力状態に連動してデジタル出力を制御します。

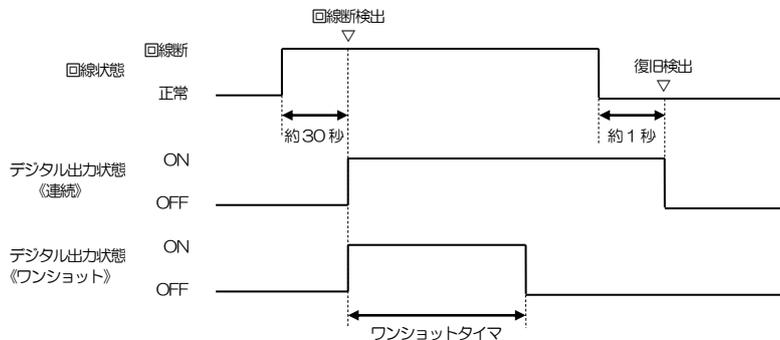
1 回線断連動

設定により、アナログポートの回線断に連動して自動制御します。

連動要因	『出力方式』	概要
アナログポート 回線断	《連続》	回線断検出から回線復旧検出まで ON します。
	《ワンショット》	回線断検出から『ワンショットタイム』で設定された時間 ON します。

強制的に OFF する場合は、コントロール機能で行ってください。

（例）回線断連動



設定や工事に関して

- 回線断連動の設定について、「データを設定する：設定内容 [アナログポートの設定](#)」(P183)

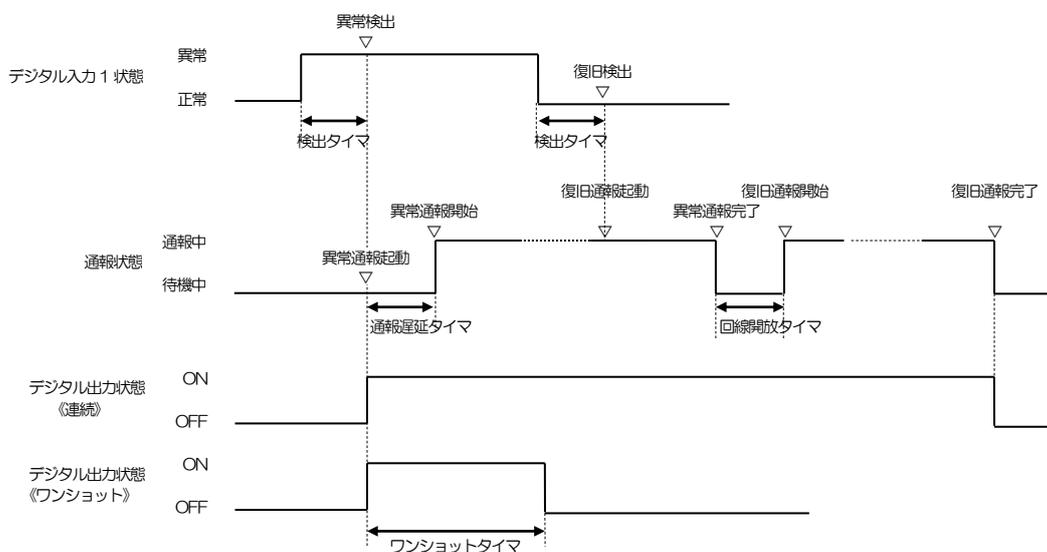
2 通報連動

設定により、通報動作に連動して制御できます。

連動要因	『出力方式』	概要
通報	《連続》	全通報要因を対象に通報要因発生から通報完了まで ON します。 ※1 つのデジタルを複数要因で連動する動作と同様になります。
	《ワンショット》	全通報要因を対象に通報要因発生から『ワンショットタイム』で設定された時間 ON します。 ※1 つのデジタルを複数要因で連動する動作と同様になります。

強制的に OFF する場合は、コントロール機能で行ってください。

（例）デジタル入力 1 の異常・復旧通報が起動した場合



ご注意

- 通報連動は、全ての通報要因を対象です。1 つの通報要因のみを対象に連動させる（例：停電の通報のみに連動させるなど）ことはできません。1 つの要因のみを対象に連動させる場合は、入力連動を利用してください。

ワンポイント

- 本装置が見えない場所に設置されている場合、通報連動を利用し、外部にランプやブザーなどを接続すると、現在の通報要因発生状況が外部で判断でき、メンテナンスの際に便利です。

設定や工事に関して

- 通報連動の設定について、「データを設定する：設定内容 [通報共通の設定](#)」(P188)

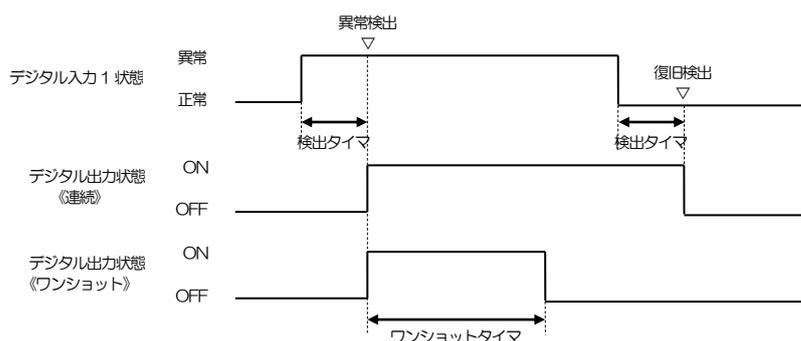
3 入力連動

設定により、各入力などに連動して制御できます。

連動要因	『出力方式』	概要
デジタル入力	《連続》	異常検出から復旧検出まで ON します。 ※異常モードがパルス/時間で《積算値のみ》の場合は、復旧検出しませんので、ON し続けます。《積算値毎》の場合は積算値毎の値を検出した時以外は常に復旧なのですぐに OFF します。
	《ワンショット》	異常検出から『ワンショットタイム』で設定された時間 ON します。
アナログ入力	《連続》	全閾値を対象に異常検出から復旧検出まで ON します。 ※1 つのデジタルを複数要因で連動する動作と同様になります。
	《ワンショット》	全閾値を対象に異常検出から『ワンショットタイム』で設定された時間 ON します。※1 つのデジタルを複数要因で連動する動作と同様になります。
定時刻	《連続》	定時起動後 ON し続けます。 ※コントロール機能で強制的に OFF してください。
	《ワンショット》	定時起動から『ワンショットタイム』で設定された時間 ON します。
停電・復電	《連続》	停電検出から復電検出まで ON します。
	《ワンショット》	停電検出から『ワンショットタイム』で設定された時間 ON します。
ローバッテリー	《連続》	ローバッテリー検出後 ON し続けます。 ※コントロール機能で強制的に OFF してください。
	《ワンショット》	ローバッテリー検出から『ワンショットタイム』で設定された時間 ON します。
モード切替	《連続》	モード 2 切替時からモード 1 切替時まで ON します。
	《ワンショット》	モード 2 切替時から『ワンショットタイム』で設定された時間 ON します。

強制的に OFF する場合は、コントロール機能で行ってください。

（例）デジタル入力 1 の異常・復旧を検出した場合

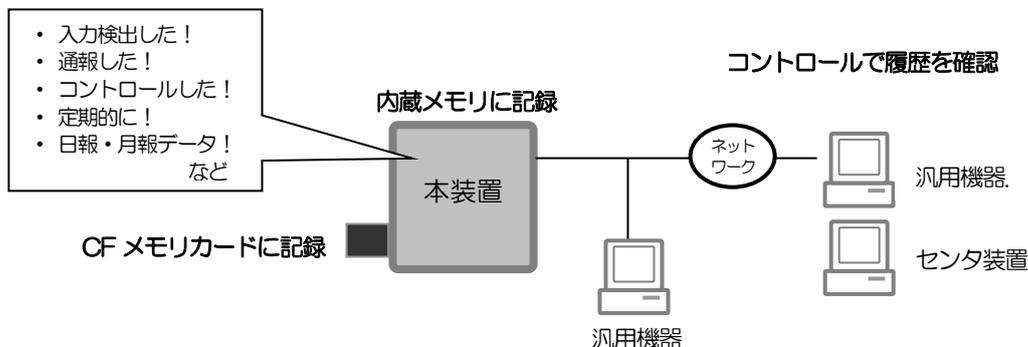


□ 設定や工事に関して

- 入力連動の設定について、「データを設定する：設定内容 デジタル入力の設定～モード切替の設定」(P197～212)

監視データを記録する

本装置は、設定により、記録要因の発生時や定時間隔で監視データを記録することができます。記録した内容は、ブラウザやデータコントロールで確認することができます。



記録できる項目と最大件数

記録できる項目は、以下の通りです。

ご注意

動作履歴（センタ用）、定時間隔履歴、日報や月報用データ（Daily 統計履歴、Daily 累計履歴、Monthly 統計履歴、Monthly 累計履歴）の記録には、必ず **CFメモ리카ードが必要**です。（別売）

CFカードについて、「製品について [オプション・関連品/保守用品等](#)」(P12)をご覧ください。

記録項目	概要	最大履歴件数	
		内蔵メモリ	CFメモ리카ード
通報履歴	通報動作の履歴	100件	500件
コントロール履歴	コントロール操作の履歴	100件	500件
ログイン履歴	ブラウザでログインされた履歴	100件	500件
動作履歴(ブラウザ用)	各起動要因、回線断の動作履歴	100件	4000件
動作履歴(センタ用)	上記履歴+その時点の他端子状態履歴	記録できません	4000件
定時間隔履歴	デジタル・アナログ入力、デジタル出力の定時間隔履歴（1分間隔）	記録できません	3000件
Daily 統計履歴	日報用の各端子時間単位データ	記録できません	10件(日)
Daily 累計履歴	日報用の各端子累計データ	記録できません	10件(日)
Monthly 統計履歴	月報用の各端子1日単位データ	記録できません	3件(ヶ月)
Monthly 累計履歴	月報用の各端子累計データ	記録できません	3件(ヶ月)
アナログ詳細定時間隔履歴 ※1	アナログ入力の詳細定時間隔履歴（1秒間隔）	600件	—
アナログ詳細定時間隔履歴（保存データ）※1	トリガ入力異常時のアナログ詳細定時間隔履歴過去10分間分データ	1件(600件分)	—

※1.CSDX(S)は未対応です。

ご注意

- 最大件数を超えた場合は、古い履歴から上書きします。
- CFメモ리카ード使用時は、内蔵メモリは使用できません。また、容量の大きなCFメモ리카ードを使用しても最大件数は変わりません。

記録の有効／無効

各記録項目の有無は、以下の通りです。

記録項目	記録の有無
通報履歴	無条件で記録します。(設定はありません)
コントロール履歴	無条件で記録します。(設定はありません)
ログイン履歴	無条件で記録します。(設定はありません)
動作履歴(ブラウザ用)	システム状態(回線断、停電など)は無条件で記録します。 デジタル入出力、アナログ入力は、要因毎の『動作記録』の設定によります。
動作履歴(センタ用)	同上 またその時点の他の要因は、『定時記録』が《有》の端子について記録します。
定時間隔履歴	『定時記録』が《有》の端子について記録します。
Daily 統計履歴	『定時記録』が《有》の端子について無条件で集計・記録します。
Daily 累計履歴	
Monthly 統計履歴	『定時記録』が《有》の端子について無条件で集計・記録します。
Monthly 累計履歴	
アナログ詳細定時間隔履歴 ※1	『データ通報先』が1宛先以上設定されている場合、アナログ入力の『定時記録』が《有》の端子について記録します。
アナログ詳細定時間隔履歴 (保存データ) ※1	動作トリガの異常時に記録します。 ※. 動作トリガは、デジタル・アナログ入力(イベント)の『動作記録』が《有》の端子

※1.CSDX(S)は未対応です。

記録の方法および内容

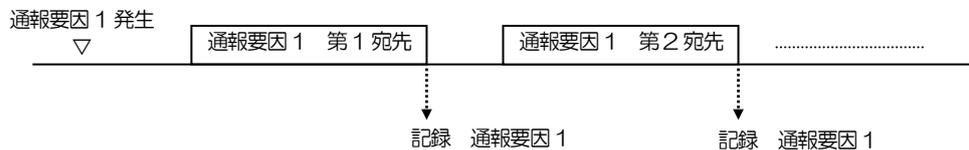
各記録項目の記録方法および記録内容は、以下の通りです。

1 通報履歴

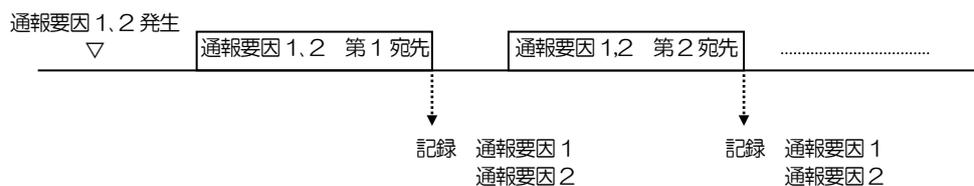
1. 記録方法

1 起動要因につき 1 通報終了毎に記録します。

動作例 1 単体通報の場合



動作例 2 一括通報の場合



2. 内容

履歴項目	履歴内容
通報履歴	通報終了時刻+要因+通報結果+通報先

2 コントロール履歴

1. 記録方法

以下のコントロールについて、1 操作毎に記録します。

- システムデータ設定（ブラウザコントロールのみ）
- デジタル出力制御
- 時計設定
- 積算値クリア
- 履歴クリア（ブラウザコントロールのみ）

2. 内容

履歴項目	履歴内容
コントロール履歴	操作時刻+内容

3 ログイン履歴

1. 記録方法

ブラウザコントロールでログインする毎に記録します。 ※. ログインの失敗は、記録しません。

2. 内容

履歴項目	履歴内容
ログイン履歴	ログイン時刻+ユーザID

4 動作履歴

1. 記録方法

各起動要因の検出、各デジタル出力動作および回線断の検出などにより記録します。

2. 内容

履歴項目	履歴内容
動作履歴（ブラウザ用）	要因起動時刻+要因
動作履歴（センタ用）	要因起動時刻+要因+その他端子状態……

5 定時間隔履歴

1. 記録方法

装置立ち上げ時より 1 分間隔で記録します。

2. 内容

履歴項目	履歴内容
定時間隔履歴	記録時刻+現在状態

3. 現在状態

端子	履歴内容
デジタル入力（イベント）	異常/復旧
デジタル入力（積算値）	異常/復旧 + 1 分間の積算値増分
アナログ入力	しきい値 n 異常/復旧 + 1 分間のアナログ値平均
デジタル出力	ON/OFF

6 Daily 統計履歴

1. 記録方法

毎時 00 分に、定時間隔履歴や動作履歴データより、前 1 時間のデータを集計・記録します。

2. 内容

履歴項目	履歴内容
Daily 統計履歴	各端子 1 時間毎 (1 日分) のデータ

3. 各端子 1 時間毎のデータ

端子	履歴内容
デジタル入力 (イベント)	1 時間の異常回数
デジタル入力 (積算値)	1 時間の積算値
アナログ入力	1 時間のアナログ値平均
デジタル出力	1 時間の ON 回数

7 Daily 累計履歴

1. 記録方法

毎日 00 時 00 分に、Daily 統計履歴および Daily 累計履歴 (前々日) より、前日までの累計データを集計・記録します。

2. 内容

履歴項目	履歴内容
Daily 累計履歴	各端子の日報用累計データ

3. 各端子日報用累計データ

端子	履歴内容
デジタル入力 (イベント)	前日までの総異常回数
デジタル入力 (積算値)	前日までの総積算値
デジタル出力	前日までの総 ON 回数

※.アナログ入力の累計データはありません。

8 Monthly 統計履歴

1. 記録方法

毎日 00 時 00 分に、Daily 統計履歴データより、前日のデータを集計・記録します。

2. 内容

履歴項目	履歴内容
Monthly 統計履歴	各端子 1 日毎 (1 ヶ月分) のデータ

3. 各端子 1 日毎のデータ

端子	履歴内容
デジタル入力 (イベント)	1 日の異常回数
デジタル入力 (積算値)	1 日の積算値
アナログ入力	1 日のアナログ値平均
デジタル出力	1 日の ON 回数

9 Monthly 累計履歴

1. 記録方法

毎月 1 日 00 時 00 分に、Monthly 統計履歴および Monthly 累計履歴(前々月)より、前月までの累計データを集計・記録します。

2. 内容

履歴項目	履歴内容
Daily 累計履歴	各端子の月報用累計データ

3. 各端子月報用累計データ

端子	履歴内容
デジタル入力 (イベント)	前月までの総異常回数
デジタル入力 (積算値)	前月までの総積算値
デジタル出力	前月までの総 ON 回数

※.アナログ入力の累計データはありません。

10 アナログ詳細定時間隔履歴

1. 記録方法

装置立ち上げ時より 1 秒間隔で記録します。

2. 内容

履歴項目	履歴内容
アナログ詳細定時間隔履歴	現在状態

3. 現在状態

端子	履歴内容
アナログ入力	1 秒間のアナログ値平均

11 アナログ詳細定時間隔履歴 (保存データ)

1. 記録方法

トリガ入力の異常時に、アナログ詳細定時間隔履歴の過去 10 分間分のデータ (600 件) を記録します。トリガ入力は、デジタル・アナログ入力 (イベント) の『動作記録』が《有》の端子

2. 内容

履歴項目	履歴内容
アナログ詳細定時間隔履歴	現在状態

3. 現在状態

端子	履歴内容
アナログ入力	1 秒間のアナログ値平均

記録の確認方法

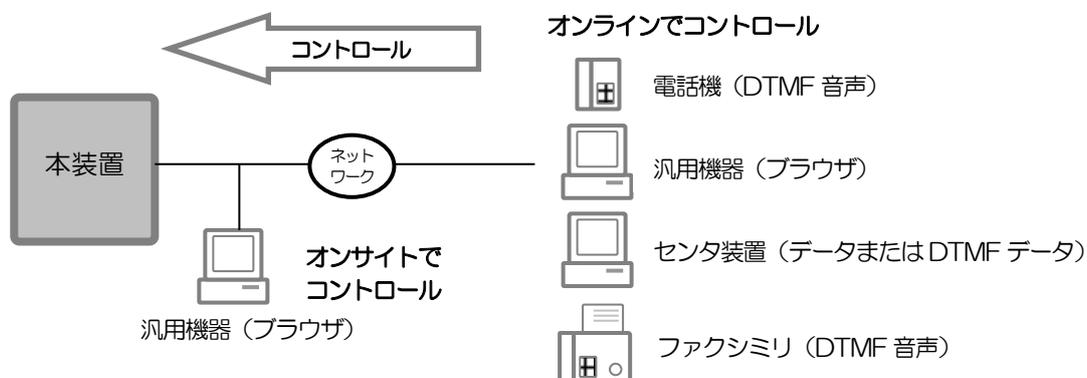
記録の確認方法は、以下の通りです。

記録項目	確認方法	
	ブラウザコントロール	データコントロール
通報履歴	「通報履歴」	データ収集による
コントロール履歴	「コントロール履歴」	データ収集による
ログイン履歴	「ログイン履歴」	データ収集による
動作履歴（ブラウザ用）	「動作履歴」	確認できません
動作履歴（センタ用）	確認できません	データ収集による
定時間隔履歴	確認できません	データ収集による
Daily 統計履歴	「日報」	データ収集による
Daily 累計履歴		データ収集による
Monthly 統計履歴	「月報」	データ収集による
Monthly 累計履歴		データ収集による
アナログ詳細定時間隔履歴	確認できません	データ収集による
アナログ詳細定時間隔履歴 （保存データ）	確認できません	データ収集による

 ブラウザコントロールによる確認方法、表示される内容について、「コントロールする：ブラウザ」(P87)をご覧ください。

コントロールする：基本事項

本装置のコントロール内容および方法については、下表の通りです。
コントロール方法は、全て併用することができます。ただし、利用する通信インフラにより併用できない場合があります。



ご注意

- 下表の通り、製品により対応していないコントロール方式があります。

項目	CSDX	CSDX(P)	CSDX(D)	CSDX(S)
コントロール方式				
DTMF 音声 (アナログのみ)	○	○	×	○
ブラウザ	○	○	○	○
データ	○	○	○	○
DTMF データ (アナログのみ)	○	○	×	×

コントロールする方法

コントロール方法は、以下の通りです。

1 ブラウザコントロール

各種回線を利用して、一般のブラウザでコントロールします。

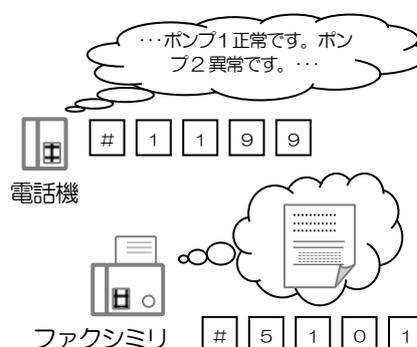
詳しくは、「コントロールする：ブラウザ」(P87)をご覧ください。



2 DTMF音声コントロール ※.CSDX (D) は対応していません。

アナログ電話回線を利用して電話機やファクシミリなどからDTMF (PB) 信号でコントロールし、音声やFAXデータで応答します。なお、DTMF音声コントロールは、本装置アナログポートへのアクセスのみ可能です。

詳しくは、「コントロールする：DTMF音声」(P129)をご覧ください。



3 DTMFデータコントロール ※.CSDX (D)、(S) は対応していません。

アナログ電話回線を利用してセンタ装置などからDTMF (PB) 信号でコントロールし、DTMF信号で応答します。なお、DTMFデータコントロールは、本装置アナログポートへのアクセスのみ可能です。

詳しくは、「コントロールする：DTMFデータ」(P135)をご覧ください。



4 データコントロール

各種回線を利用して、センタ装置などからモデム信号やデジタルデータでコントロールします。詳細データの管理が可能です。

詳しくは、弊社窓口へお問い合わせください。



コントロールできる内容

コントロールできる内容は、コントロール方法により異なります。

コントロール項目	概要	コントロール方法			
		ブラウザ	DTMF 音声	DTMF データ	データ
現在状態確認	各端子、その他現在状態の確認	○	○	○	○
通報履歴確認	通報動作履歴の確認	○	×	×	○
コントロール履歴確認	コントロール操作履歴の確認	○	×	×	○
ログイン履歴確認	ブラウザによるログイン履歴の確認	○※2	×	×	○
動作履歴(ブラウザ用)確認	各起動要因、回線断の動作履歴の確認	○	×	×	×
動作履歴(センタ用)確認	上記履歴+その時点の他端子状態履歴の確認	×	×	×	○
定時間隔履歴確認	デジタル・アナログ入力、デジタル出力の定時間隔履歴(1分間隔)の確認	×	×	×	○
帳票確認	日報や月報の確認	○※3	×	×	○※3
システムデータ設定	システムデータの設定	○※1	×	×	×
デジタル出力制御	各デジタル出力の制御	○※2	○	○	○
積算値クリア	各端子に蓄積されている積算値のクリア	○※2	○	○	○
履歴クリア	全履歴・帳票のクリア	○※2	×	×	×
時計設定	本装置時計データの設定	○※2	○	○	○
バージョン情報	本装置ソフトバージョンの確認	○	×	×	×
FAX 帳票出力	各端子、その他現在状態、日報・月報帳票のFAX出力	×	○	×	×

※1. 管理者用 ID・パスワードでログイン時のみ実行できます。

※2. ユーザ権限の設定により実行できます。管理者は無条件で実行できます。

※3. ブラウザの場合は、設定された計算式が反映された帳票を確認できますが、データの場合は計算が反映されていません。

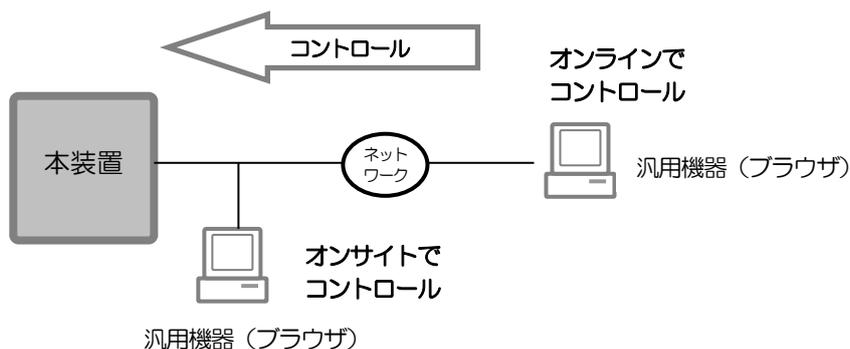
 ブラウザコントロールについて、「コントロールする：ブラウザ」(P87)をご覧ください。

 DTMF音声コントロールについて、「コントロールする：DTMF音声」(P129)をご覧ください。

 DTMFデータコントロールについて、「コントロールする：DTMFデータ」(P135)をご覧ください。

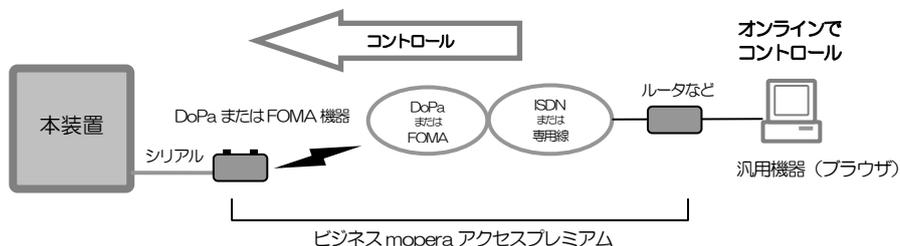
コントロールする：ブラウザ

本装置は、パソコンや OS などに添付されている「ブラウザ」からコントロール行うことができます。ブラウザを起動し、本装置にアクセスすると「CSDX ブラウザコントロールページ」を表示します。ID・パスワードで、このページにログインすることにより、各種コントロールを行うことができます。ID・パスワードは、管理者用と一般ユーザ用があり、一般ユーザ用は、ユーザ権限の設定によりコントロールできる機能が異なります。オンサイト(現場)およびオンライン(遠隔)でコントロールを行うことができます。



ご注意

本装置の通信ネットワークとして、DoPa、FOMA をご利用の場合、オンラインでコントロールするには、ビジネス mopera アクセスプレミアムを契約した回線経由でアクセスする必要があります。一般の回線からは本装置にアクセスできません。



1 推奨ブラウザ

Internet Explorer 5.5 以上 (Microsoft)
Netscape 7.0 以上 (Netscape Communications)

ご注意

- 上記以外のブラウザを使用すると、正常に動作しない場合があります。

2 推奨OS

Microsoft Windows95/98/NT/2000/XP/Vista/7

ご注意

- 上記以外のOSを使用すると、正しく表示されない場合があります。

3 ID・パスワードおよび同時ログイン数

管理者用ID・パスワード： 1

管理者用は、システムデータ設定を含めた全てのコントロールが可能です。
システムデータの同時設定等による誤りを防止するため、1つのIDで1人のみログインが可能です。

ユーザ用ID・パスワード： 10

ユーザ用は、管理者がシステムデータにて設定した項目のみコントロールが可能です。
1つのIDで複数人のログインも可能です。

同時ログイン数： 最大11人

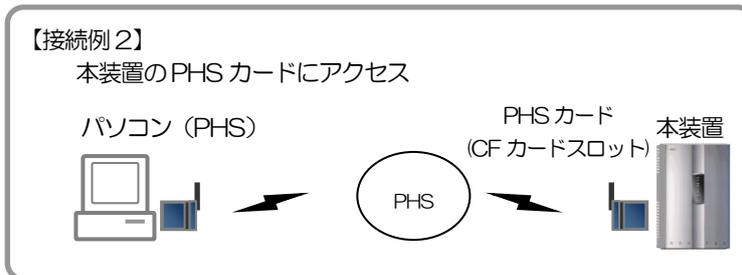
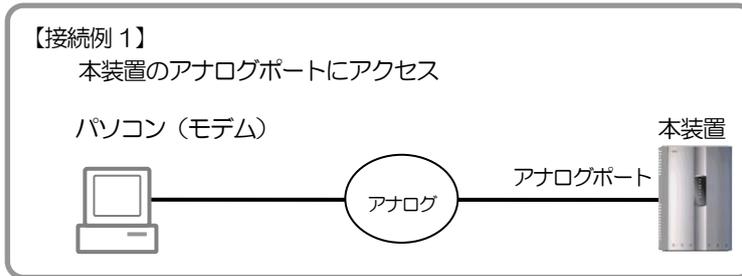
管理者 1人 + ユーザ 10人

2 オンラインの場合1（モデムやPHS）

コントロールに必要なもの

- 推奨ブラウザ搭載のパソコン（モデムカードやPHSカード搭載または内蔵）

1 本装置に接続する環境を構築します。



ご注意

- 本装置(DoPa)ーパソコン(DoPa)でのコントロールはできません。
- 左記以外の構成
 - ・パソコン(ISDN)ー本装置(DoPa)
 - ・パソコン(ISDN)ー本装置(PHS)
 - ・パソコン(LAN)ー本装置(LAN)
 - ・パソコン(ISDN)ー本装置(アナログ)
 などパソコン側にルータ等が必要なシステム構成の場合は、「3 オンラインの場合2（ルータ経由）」(P93)をご覧ください。

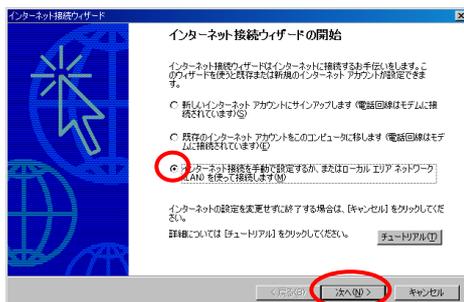
2 パソコンのネットワーク設定で「TCP/IP（ダイヤルアップ）」の設定を以下のように設定してください。

本装置の出荷状態のIPアドレス体系に合わせるために行います。ブラウザコントロール開始後は、システムデータにて、本装置のIPアドレスをお客様の運用に合わせたIPアドレスに合わせるなど設定変更を行ってください。

- ・IPアドレス：IPアドレスを自動的に取得

📖 設定方法が分からない場合は、お使いのパソコンの取扱説明書などをご覧ください。

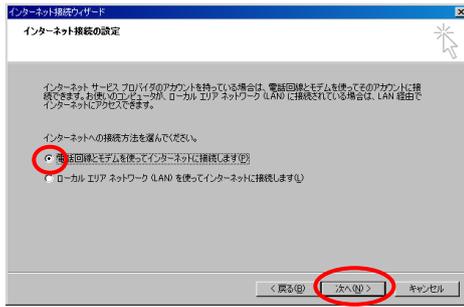
3 本装置に接続する設定を行います。



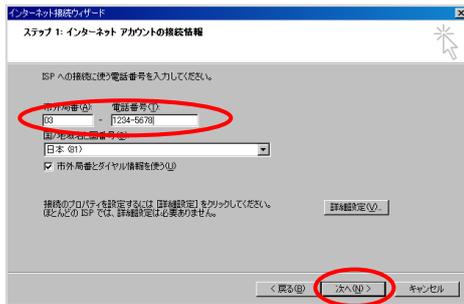
インターネット接続ウィザードを起動します。

- ・デスクトップのアイコンから起動
- ・[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[インターネット接続ウィザード]で起動

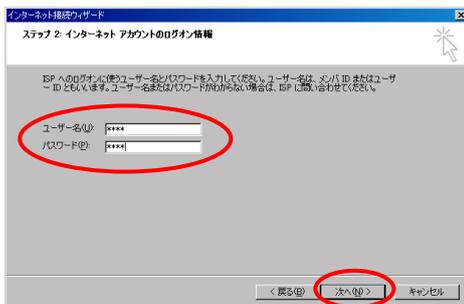
「インターネット接続を手動で設定・・・」を選択し、「次へ」をクリックします。



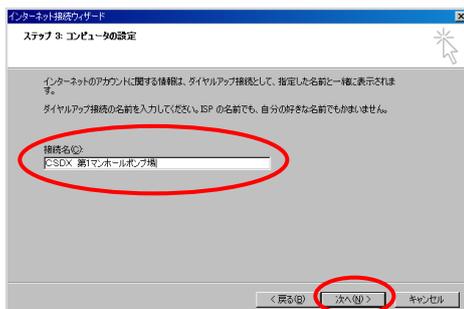
「電話回線と、モデムを使ってインターネットに接続します」を選択し、「次へ」をクリックします。



市外局番および電話番号欄に、接続先（コルソス CSDX が収容されている電話番号）を入力し、「次へ」をクリックします。

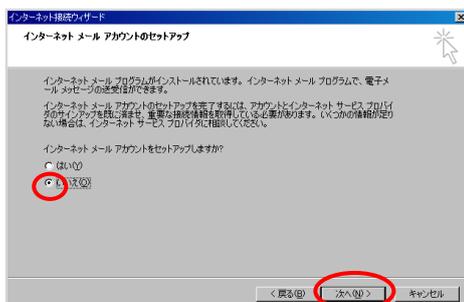


ユーザー名とパスワード欄に初期設定値を入力し、「次へ」をクリックします。

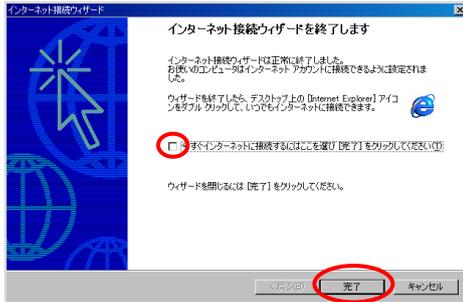


接続名に CSDX および設置先が分かるような名前を入力し、「次へ」をクリックします。

例：CSDX 第1マンホールポンプ場



「いいえ」を選択し、「次へ」をクリックします。



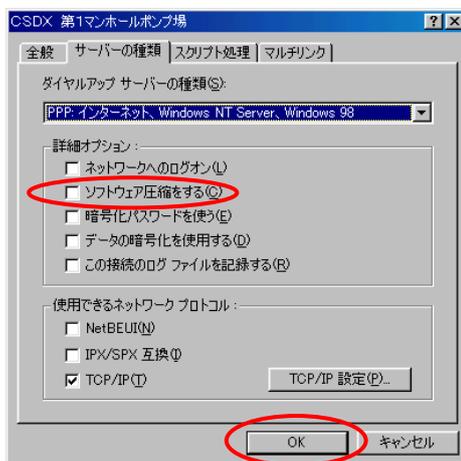
「今すぐインターネットに接続する・・・」のチェックを外し、「完了」をクリックします。

4 Windows 95/98をお使いの方のみ、本操作を行ってください。



[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ダイヤルアップネットワーク]をクリック

今設定したダイヤルアップネットワークを右クリックし、[プロパティ]を選択します。



[サーバーの種類]タブをクリックします。

「ソフトウェア圧縮をする」のチェックを無効にし、「OK」ボタンをクリックします。

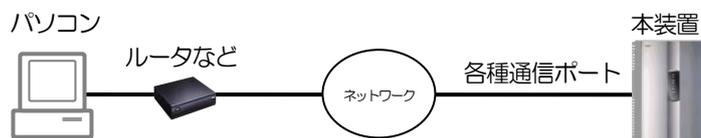
以上で準備は終了です。

📖 ブラウザコントロールを開始する場合は、「コントロールする：ブラウザ ブラウザコントロールを開始する」(P94)をご覧ください。

3 オンラインの場合 2 (ルータ経由)

コントロール側と本装置側のネットワークが違う場合など、パソコンからルータを経由してコントロールする必要があります。そのような場合は、以下の準備を行ってください。

システムイメージ



ルータ経由でコントロールを行うには、パソコンおよび本装置間を LAN(WAN)で接続するためのシステムを構築する（システム構成および各装置の設定）必要があります。

システムの構築は、ルータ側および本装置側の「収容ネットワーク」などにより異なりますので、運用にあわせたシステム構築および準備を行ってください。

システム構築する際、本装置の IP アドレスなどの設定はオンサイトで行ってください。

📖 「コントロールする：ブラウザ ブラウザコントロールの準備 1 オンサイト (LAN) 場合」(P89)をご覧ください。

システム構築についての不明点などは最寄りの弊社窓口にご相談ください。

以上で準備は終了です。

📖 ブラウザコントロールを開始する場合は、「コントロールする：ブラウザ ブラウザコントロールを開始する」(P94)をご覧ください。

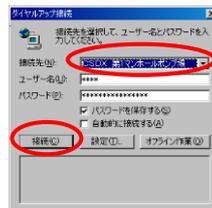
ブラウザコントロールを開始する

ブラウザコントロールを開始する場合は、必ず以下の手順で行ってください。なお、以下の説明は、出荷時の状態 (IP アドレス・ユーザーID・パスワード) を想定して説明しています。

IP アドレス・ユーザーID・パスワードは、セキュリティ向上のためにもシステムデータ設定で変更してください。ただし、変更した内容は、絶対に忘れないようメモなどとして保管してください。

1 パソコンのブラウザを起動します。

「オンライン (モデム接続や PHS 接続)」の場合は、右のような接続確認が表示されますので、接続先を選択し、「接続」をクリックします。しばらくすると、本装置に接続されます。(接続確認がタスクバーに収納されます)



ご注意

- 他のアプリケーションは、極力終了した状態でブラウザを起動してください。
- 複数のアプリケーションが起動した状態や常駐した状態で「CSDXブラウザコントロールページ」(特にシステムデータ設定画面) を閲覧しようとするとうパソコンのメモリ不足となり、正しく表示されない場合があります。

2 ブラウザのURL入力欄に以下の文字を半角で入力し、[Enter]キーを押します。 「CSDXブラウザコントロールページ」のログイン画面が表示されます。

オンサイトの場合
(LAN ポートへのアクセス)
「http://192.168.4.4/」(初期設定値)



オンライン (モデム) で接続の場合
(アナログポートへのアクセス)
「http://192.168.2.2/」(初期設定値)



オンライン (PIAFS) で接続の場合
(PHS 網へのアクセス)
「http://192.168.5.5/」(初期設定値)



オンライン (DoPa・FOMA) で接続の場合
(DoPa・FOMA 網へのアクセス)
「http://192.168.6.6/」(初期設定値)



オンライン (ルータ経由) で接続の場合
アクセスする通信ポートに設定した IP アドレス
「http://xxxxxxx.xxx/」

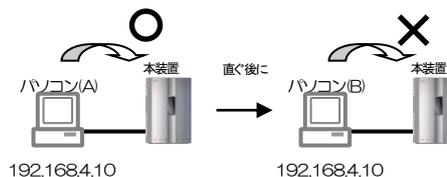


ログイン画面



ご注意

- パソコン(A)でアクセスした直後に、(A)と同一のIPアドレスに設定した違うパソコン(B)でアクセスすると、MAC アドレスが違うため、一定時間アクセスできない場合があります。パソコン(B)のIPアドレスを替えてください。



📖 その他ログイン画面が表示されない場合は、「保守メンテナンス 故障かなと思われたら」(P288)をご覧ください。

- 3** ユーザID欄およびパスワード欄に初期設定値を入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。
メニュー画面が表示されます。

ユーザID	****
パスワード	****
	<input type="button" value="ログイン"/>



メニュー画面



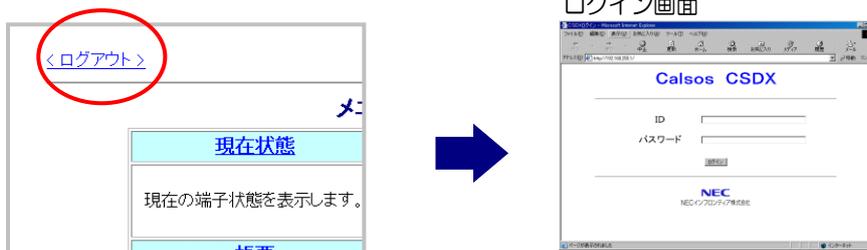
- メニュー画面の操作について、「コントロールする：ブラウザ [メニュー画面について](#)」(P97)をご覧ください。

ブラウザコントロールを終了する

ブラウザコントロールを終了する場合は、必ず以下の手順で行ってください。
管理者用 ID・パスワードでログインしている場合は、操作を誤ると一定時間再ログインできなくなります。

- 1 ブラウザコントロールを終了する場合は、<ログアウト>をクリックします。
正常にログアウトし、ログイン画面を表示します。

<ログアウト>は、各ページにあります。



注意

以下のような終了の仕方をしないでください。

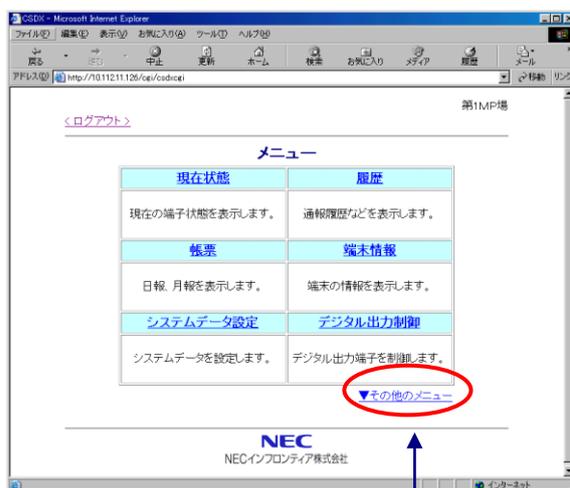
ブラウザコントロールを終了する場合は、<ログアウト>をクリックして終了しないと、本装置はログイン状態として判断し、『再ログイン要求タイマ』までログアウトしません。管理者 ID・パスワードでログインしている場合、その間は再度ログインできなくなりますのでご注意ください。

<ログアウト>をクリックせずに
ブラウザの「×」ボタンで終了



メニュー画面について

設定した ID・パスワードでログインした場合、メニュー画面を表示します。ユーザ権限の設定により、コントロールできる機能が異なります。コントロールできない機能はグレー表示され、クリックできません。管理者は全てのコントロールが行えます。



↓ クリックすると…



各メニュー項目について、「コントロールする：ブラウザ 現在の入力状態などを表示する～バージョン情報を表示する」(P98～125)をご覧ください。

設定や工事に関して

- ユーザ権限の設定について、「データを設定する：設定内容 ブラウザコントロールの設定」(P225)

現在の入力状態などを表示する

本装置に接続されているセンサや機器などの現在の状態を確認することができます。



□ 表示される項目

システムデータ設定で、『運用』《有》に設定されているデジタル入力・アナログ入力・デジタル出力およびモード状態・シーケンサ状態・停電/復電状態です。(シーケンサ状態はCSDX(S)でシーケンサ接続時のみです。モード状態と停電/復電状態は、無条件で表示します)

□ 表示される順序

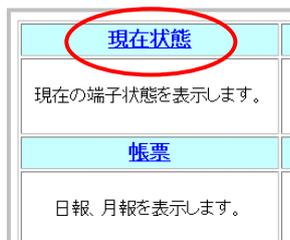
上からデジタル入力、アナログ入力、デジタル出力、モード状態、シーケンサ状態、停電/復電状態の順に表示します。
各入出力は、端子番号の若番から順に表示します。

ご注意

- アナログ入力に2つ以上のしきい値を設定している場合は、状態は最後の検出状態を表示します。(HHとHを設定していて、現在状態がHHとHの間にある場合、最後に検出した状態により「Hの異常」または「HHの復旧」に設定されている内容を表示します)
- シーケンサ異常の場合、シーケンサの端子の状態は表示しません。

1 操作手順

1 メニューの「現在状態」をクリックします。 現在状態画面が表示されます。



2 「自動更新間隔」を設定すると、一定間隔で状態を最新状態に自動更新します。なお「最新の状態を表示する」ボタンのクリックで任意に最新状態を表示することもできます。



自動更新間隔の設定

無/5~60 秒 (5 秒間隔)

設定された自動設定間隔で自動更新。

2 表示内容



ID名称： ID名称（共通）を表示します。

名称： 各要因の名称を表示します。

各要因の『名称』で設定された内容を表示します。なお、モード状態とシーケンサ状態、停電/復電状態は、固定です。

状態： 各要因の現在状態を表示します。

各要因の『ブラウザ表示』で設定された内容を表示します。設定した文字色、背景色、太字フォントで表示します。なお、メンテナンスモード中（モード 1（2））は、「メンテナンスモード 1（2）」固定です。

情報： 各デジタル入力、アナログ入力の付加情報を表示します。

各デジタル・アナログ入力の『計算式』の内容および計算結果を表示します。

設定や工事に関して

- ID名称の設定について、「データを設定する：設定内容 端末IDの設定」(P181)
- 名称、ブラウザ表示、計算式の設定について、「データを設定する：設定内容 デジタル出力の設定」(P186)、
「データを設定する：設定内容 デジタル入力の設定」(P197)、「データを設定する：設定内容 アナログ入力の設定」(P201)、
「データを設定する：設定内容 停電・復電の設定」(P208)、「データを設定する：設定内容 モード切替の設定」(P212)
CSDX(S)をご利用の場合は、「データを設定する：設定内容 シーケンサ共通の設定～ワードデバイスの設定」(P215～218)

通報などの履歴を表示する

本装置に蓄積されている各種履歴を表示することができます。



□ 表示される履歴

- 通報履歴
- コントロール履歴
- ログイン履歴
- 動作履歴（ブラウザ用）

※.定時間隔履歴、動作履歴（センタ用）は表示されません。

ご注意

- ログイン履歴は管理者用ID・パスワード、または『権限』《有》に設定されているユーザID・パスワードでログインしたときのみリストに表示されます。

1 操作手順

1 メニュー画面の「履歴」をクリックします。履歴検索画面が表示されます。



履歴検索画面



2 検索条件を設定し、検索ボタンをクリックすると、該当する履歴が時刻の新しい順に表示されます。



履歴表示画面



検索条件の選択（履歴種別と要因）

履歴種別	要因
通報履歴	『運用』《有》の入力端子／『検出モード』が設定されている定時刻／モード切替／停電・復電／ローバッテリー
コントロール履歴	—
ログイン履歴	—
動作履歴	『運用』《有》の入力・出力端子／『検出モード』が設定されている定時刻／モード切替／停電・復電／ローバッテリー／回線断／シーケンサ状態（シーケンサ接続時のみ）／通報停止

1 ページの最大表示件数は 15 件です。検索結果が 15 件以上の場合、「前へ」ボタンをクリックすると古い履歴を表示します。



2 表示内容

2-1 通報履歴

通報履歴の内容は、以下の通りです。

日付	要因	状態	通報先	通報結果
2002/07/14 08:19:38	1号ポンプ故障	正常	csdx@mail.test	OK
2002/07/14 08:19:20	1号ポンプ故障	正常	0123456789	OK
2002/07/13 23:17:10	1号ポンプ故障	故障	csdx@mail.test	OK
2002/07/13 23:16:52	1号ポンプ故障	故障	0123456789	OK

≪ 履歴検索
履歴検索画面に戻ります。

日付：通報が終了した時刻です。（xxxx/xx/xx xx:xx:xx）

要因と状態：通報要因と状態です。以下のように表示します。

通報要因	要因の表示	状態の表示
デジタル入力通報	各デジタル入力毎の『名称』を表示。	各デジタル入力毎の『ブラウザ表示』を表示。
アナログ入力通報	各アナログ入力毎の『名称』を表示。	各アナログ入力毎の『ブラウザ表示』を表示。
定時通報	各定時通報の『名称』を表示。	
停電通報	電源（固定）	停電／復電の『ブラウザ表示』を表示。
ローバッテリー通報	バッテリー（固定）	ローバッテリー（固定）
モード切替通報	モード切替（固定）	モード切替の『ブラウザ表示』を表示。

通報先：通報先です。通報方式により、以下のように表示します。

通報方式	通報先の表示
音声通報・FAX 通報、DTMF 通報	通報先電話番号
Eメール通報	通報先Eメールアドレス ※ダイヤルアップした場合も電話番号は表示されません。
データ通報	通報先IP アドレス ※ダイヤルアップした場合も電話番号は表示されません。

※.通報先の最大表示文字数は、先頭から 15 文字となります。

通報結果：通報結果です。通報方式により、以下のように表示します。

通報方式	通報結果の表示	表示の意味	補足説明
全共通	OK	正常終了	
	通報停止	通報停止	
音声通報	E_80	相手話中	
	E_81	応答なし	
	E_82	音声メッセージ 1 サイクル以内で切断	
	E_83	確認DTMF 未受信	相手先から通報確認DTMFを受信できていない。
	E_85	回線断	
FAX 通報	E_86	FAX 相手接続エラー（フェーズAエラー）	FAXと接続できていない。 （回線断や相手話中なども含む）
	E_87	フェーズBエラー （トレーニングエラー、プロトコル互換無し）	接続後の通信エラー 相手FAXがG3機対応であるか確認。
	E_88	フェーズCエラー （データ送信中のエラー、内部処理エラーのみ）	接続後の通信エラー ※、通信中回線断も含む。
	E_89	フェーズDエラー （改ページ処理中のエラー、通信エラー）	接続後の通信エラー ※、通信中回線断も含む。
Eメール通報 /データ通報	E_90	PPP 接続エラー	相手先（ISPなど）へログインできていない。 回線状態(※)や『通報グループ』ダイヤルアップ 接続関連の設定を確認。 ※、アナログポートの場合、回線断やISPの話中 も含む。 ※、シリアルポートの場合、通信機器との接続不良 なども含む。
	E_91、93	Eメール通報プロトコルエラー（PPP接続以降 のエラー） 91: SMTPプロトコルエラー 93: ID/パスワードエラー	ログイン後の通信エラー 『通報グループ』Eメール通報先関連の設定を確認 ※、アナログポートの場合、通信中回線断も含む。
	E_92～9F	データ通報プロトコルエラー （PPP接続以降のエラー） 92: ソケットのコネクトエラー 93: ID/パスワードエラー 94: 受信コマンドサイズエラー 95: 相手受信拒否 96: 相手切断要求 97: タイムアウトエラー 9F: その他エラー	ログイン後の通信エラー 『通報グループ』データ通報先関連の設定を確認 ※、アナログポートの場合、通信中回線断も含む。

☑ 設定や工事に関して

- 名称、ブラウザ表示の設定について、「データを設定する：設定内容 デジタル入力の設定～定時刻の設定」(P197～206)
CSDX(S)をご利用の場合は、「データを設定する：設定内容 ビットデバイスの設定～ワードデバイスの設定」(P217～218)

2-2 コントロール履歴

コントロール履歴の内容は、以下の通りです。

日付	テレコン内容	詳細内容
2002/07/08 17:04:57	システムデータ設定	
2002/07/08 16:47:52	デジタル出力OFF制御	ポンプ1強制運転
2002/07/08 16:20:47	デジタル出力ON制御	ポンプ1強制運転
2002/07/08 10:10:43	デジタル出力OFF制御	デジタル出力1

≪履歴検索
履歴検索画面に戻ります。

日付：コントロールした時刻です。

コントロール内容と詳細内容：コントロール内容および詳細内容です。以下のように表示します。

コントロール内容	コントロール内容の表示	詳細内容の表示
システムデータ設定	システムデータ設定	
デジタル出力制御	デジタル出力 ON 制御/ デジタル出力 OFF 制御	各デジタル出力の『名称』を表示。
時計設定	時刻設定	
積算値クリア	積算値クリア	各デジタル・アナログ入力の『名称』を表示。
履歴クリア	履歴・帳票クリア	

設定や工事に関して

- 名称について、「データを設定する：設定内容 デジタル出力の設定」(P186)、「データを設定する：設定内容 デジタル入力の設定」(P197)、「データを設定する：設定内容 アナログ入力の設定」(P201)、CSDX(S)をご利用の場合は、「データを設定する：設定内容 ビットデバイスの設定～ワードデバイスの設定」(P217～218)

2-3 ログイン履歴

ログイン履歴の内容は、以下の通りです。

本項目は、管理者用 ID・パスワード、または『権限』《有》に設定されているユーザ ID・パスワードでログインした時のみリストに表示されます。

日付	ユーザID
2002/07/08 17:12:12	****
2002/07/08 16:42:45	****
2002/07/08 15:30:05	****
2002/07/08 13:58:58	****

≪履歴検索
履歴検索画面に戻ります。

日付：ログインした時刻です。

ユーザID：ログインしたユーザID（管理者ID）です。

設定や工事に関して

- ユーザIDの設定について、「データを設定する：設定内容 ブラウザコントロールの設定」(P225)

2-4 動作履歴（ブラウザ用）

動作履歴の内容は、以下の通りです。

日付	要因	状態	情報
2002/07/05 20:59:15	1号ポンプ故障	正常	
2002/07/05 20:59:14	1号ポンプ故障	故障	
2002/07/05 20:59:10	1号ポンプ故障	正常	
2002/07/05 20:59:09	1号ポンプ運転	停止	

≪ 履歴検索
履歴検索画面に戻ります。

日付：動作した時刻です。

要因と状態：要因と状態です。以下のように表示します。

起動要因	要因の表示	状態の表示
デジタル入力	各デジタル入力の『名称』を表示。	各デジタル入力の『ブラウザ表示』を表示。
アナログ入力	各アナログ入力の『名称』を表示。	各アナログ入力の『ブラウザ表示』を表示。
デジタル出力	各デジタル出力の『名称』を表示。	各デジタル出力の『ブラウザ表示』を表示。
定時	各定時通報の『名称』を表示。	
停電	電源（固定）	停電／復電の『ブラウザ表示』を表示。
ローバッテリー	バッテリー（固定）	ローバッテリー（固定）
モード切替	モード切替（固定）	モード切替の『ブラウザ表示』を表示。
回線断	回線（固定）	回線断／正常（固定）
通報停止	通報停止（固定）	
シーケンサ異常(※)	シーケンサ状態（固定）	シーケンサ共通の『ブラウザ表示』を表示。

※.シーケンサ接続時のみ

情報：各デジタル入力、アナログ入力の付加情報を表示します。

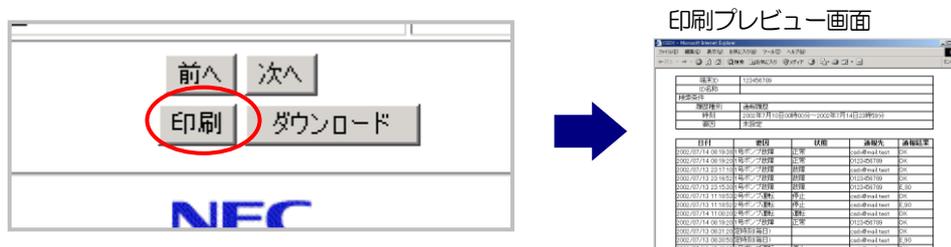
各デジタル・アナログ入力の『計算式』の内容および計算結果を表示します。

設定や工事に関して

- 名称、ブラウザ表示の設定について、「データを設定する：設定内容 デジタル出力の設定」(P186)、「データを設定する：設定内容 デジタル入力の設定～モード切替の設定」(P197～212)、CSDX(S)をご利用の場合は、「データを設定する：設定内容 シーケンサ共通の設定～ワードデバイスの設定」(P215～218)
- 計算式の設定について、「データを設定する：設定内容 デジタル入力の設定～アナログ入力の設定」(P197～201) CSDX(S)をご利用の場合は、「データを設定する：設定内容 ビットデバイスの設定～ワードデバイスの設定」(P217～218)

3 印刷したい場合

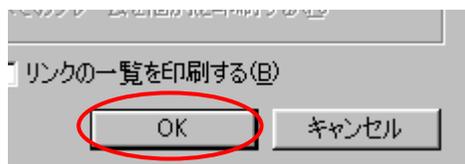
- 1 「印刷」ボタンをクリックします。印刷プレビュー画面が表示されます。



- 2 [ファイル] → [印刷]とクリックします。印刷画面が表示されます。



- 3 「OK」ボタンを押すと印刷されます。



ご注意

- 印刷される履歴内容はブラウザで表示されたものと同じものです（最大 15 件）。検索条件を満たす履歴が 15 件以上ある場合は、「前へ」ボタンまたは「次へ」ボタンで印刷したい内容を表示し、印刷を行ってください。

印刷のイメージ

端末ID	123456789			
ID名称				
検索条件				
履歴種別	通報履歴			
時刻	2002年7月10日00時00分～2002年7月14日23時59分			
要因	未設定			

日付	要因	状態	通報先	通報結果
2002/07/14 08:19:38	1号ポンプ故障	正常	csdx@mail.test	OK
2002/07/14 08:19:20	1号ポンプ故障	正常	0123456789	OK
2002/07/13 23:17:10	1号ポンプ故障	故障	csdx@mail.test	OK
2002/07/13 23:16:52	1号ポンプ故障	故障	0123456789	OK
2002/07/13 23:15:30	1号ポンプ故障	故障	0123456789	E_80
2002/07/13 11:18:53	2号ポンプ運転	停止	csdx@mail.test	OK
2002/07/13 11:18:52	2号ポンプ運転	停止	csdx@mail.test	E_90
2002/07/13 11:00:20	2号ポンプ運転	運転	csdx@mail.test	OK
2002/07/13 08:19:20	1号ポンプ故障	正常	0123456789	OK
2002/07/13 07:31:20	定時刻(毎日)		csdx@mail.test	OK
2002/07/13 07:30:50	定時刻(毎日)		csdx@mail.test	E_90
2002/07/12 15:40:20	1号ポンプ運転	停止	csdx@mail.test	OK
2002/07/12 15:32:28	水位	正常	0123456789	OK
2002/07/12 07:30:20	定時刻(毎日)		csdx@mail.test	OK
2002/07/11 07:30:20	定時刻(毎日)		csdx@mail.test	OK

端末ID
端末ID を印刷します。

ID 名称
ID 名称を印刷します。

検索条件
検索条件（履歴種別、時刻、
要因）を印刷します。

履歴内容
ブラウザで表示されたもの
と同じ内容が印刷されま
す。

4 データをダウンロードしたい場合（CSVファイル）

1 「ダウンロード」ボタンをクリックします。



2 「保存」ボタンをクリックします。保存場所指定画面が表示されます。



3 「保存」ボタンをクリックします。帳票データをセーブします。

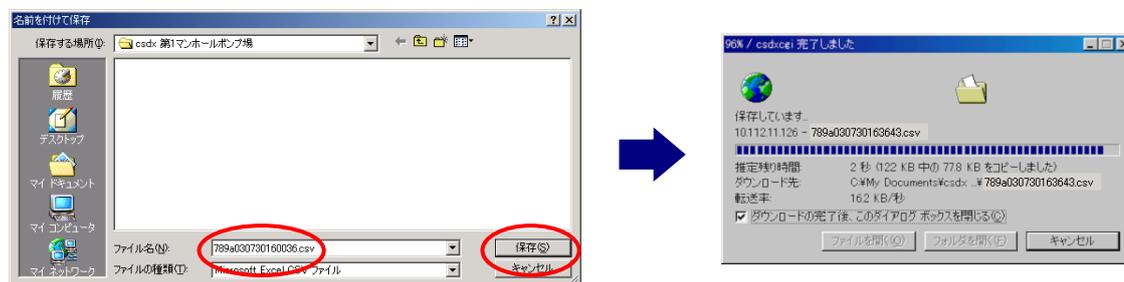
ファイル名は、以下のようにになっています。必要に応じて変更してください。

通報履歴	: (端末 ID 最大下 3 桁)a(年月日時分秒).csv
コントロール履歴	: (端末 ID 最大下 3 桁)c(年月日時分秒).csv
ログイン履歴	: (端末 ID 最大下 3 桁)l(年月日時分秒).csv
動作履歴	: (端末 ID 最大下 3 桁)t(年月日時分秒).csv

例 2002 年 7 月 7 日 16:29:40 にダウンロードした通報履歴：789a020707162940.csv

ご注意

- 端末 ID が XXX789 とした場合です。
- 端末 ID が 2 桁以下の場合は、その桁数となります。



ご注意

- ダウンロードされる履歴内容はブラウザで表示されたものと同じものです（最大 15 件）。検索条件を満たす履歴が 15 件以上ある場合は、「前へ」ボタンまたは「次へ」ボタンでダウンロードしたい内容を表示し、ダウンロードを行ってください。

CSVファイルのイメージ

```

789a030730100921.csv - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) ヘルプ(H)
"端末ID","123456789"
"ID名称",""
"検索条件",""
"履歴種別","通報履歴"
"時刻","2002年7月10日00時00分~2002年7月14日23時59分"
"要因","未設定"
"日付","要因","状態","通報先","通報結果"
"2002/07/14 08:18:38","1号ポンプ故障","正常","csdx@mail.test","OK"
"2002/07/14 08:19:20","1号ポンプ故障","正常","0123456789","OK"
"2002/07/13 23:17:10","1号ポンプ故障","故障","csdx@mail.test","OK"
"2002/07/13 23:16:52","1号ポンプ故障","故障","0123456789","OK"
"2002/07/13 23:15:30","1号ポンプ故障","故障","0123456789","E_80"
"2002/07/13 11:18:53","2号ポンプ運転","停止","csdx@mail.test","OK"
"2002/07/13 11:18:52","2号ポンプ運転","停止","csdx@mail.test","E_90"
"2002/07/13 11:00:20","2号ポンプ運転","運転","csdx@mail.test","OK"
"2002/07/13 08:19:20","1号ポンプ故障","正常","0123456789","OK"
"2002/07/13 07:31:20","定時刻(毎日)","","csdx@mail.test","OK"
"2002/07/13 07:30:50","定時刻(毎日)","","csdx@mail.test","E_90"

```

CSVファイルは、カンマ区切りです。
表計算ソフトなどで、加工できます。



表計算ソフトでCSVファイルを開くと…

	A	B	C	D	E
1	端末ID	123456789			
2	ID名称				
3	検索条件				
4	履歴種別	通報履歴			
5	時刻	2002年7月10日00時00分~2002年7月14日23時59分			
6	要因	未設定			
7	日付	要因	状態	通報先	通報結果
8	2002/7/14 8:19	1号ポンプ故障	正常	csdx@mail.test	OK
9	2002/7/14 8:19	1号ポンプ故障	正常	123456789	OK
10	2002/7/13 23:17	1号ポンプ故障	故障	csdx@mail.test	OK
11	2002/7/13 23:16	1号ポンプ故障	故障	123456789	OK
12	2002/7/13 23:15	1号ポンプ故障	故障	123456789	E_80
13	2002/7/13 11:18	2号ポンプ運転	停止	csdx@mail.test	OK
14	2002/7/13 11:18	2号ポンプ運転	停止	csdx@mail.test	E_90
15	2002/7/13 11:00	2号ポンプ運転	運転	csdx@mail.test	OK
16	2002/7/13 8:19	1号ポンプ故障	正常	123456789	OK
17	2002/7/13 7:31	定時刻(毎日)		csdx@mail.test	OK
18	2002/7/13 7:30	定時刻(毎日)		csdx@mail.test	E_90

ご注意

- 必要に応じて、以下の加工を行ってください。
 - ・セルの幅を調整
 - ・罫線を引く など

帳票（日報・月報）を表示する

本装置に実装した CF メモリカードに蓄積されているデータを日報や月報帳票として表示することができます。また、印刷やデータをダウンロード(CSV ファイル)することができます。



表示される帳票

現在時刻より、前 10 日分の日報および前 3 ヶ月分の月報です。
帳票の内容は、日報帳票および月報帳票の設定によります。

注意

- 本装置の CF カードスロットにメモリカードが取付けられていないと、帳票は作成できません。
- CF カードに蓄積できる日報は最大 10 日、月報は最大 3 ヶ月です。最大件数を超えると古い帳票から削除されていきますので、帳票を記録として保管したい場合は、定期的にアクセスして印刷やデータダウンロードを行ってください。

1 操作手順

1 メニュー画面の「帳票」をクリックします。 帳票一覧画面が表示されます。



2 帳票一覧画面から表示したい日報や月報をクリックします。 帳票が表示されます。



2 表示内容

以下の帳票は、一例です。帳票内容は、日報帳票、月報帳票の設定により帳票列数や表示項目、表示データなど様々な帳票を表示することができます。

第1マンホールポンプ場 2002年07月05日
管理センター

日報 2002年7月4日

時刻	ポンプ1 運転回数 (回)	ポンプ1 運転時間 (分:秒)	ポンプ1 流量 (m ³)	ポンプ2 運転回数 (回)	ポンプ2 運転時間 (分:秒)	ポンプ2 流量 (m ³)	流量 (1+2) (m ³)
00:00	4	00:09	23.4	7	00:03	7.8	31.2
01:00	21	00:20	52.0	31	00:36	93.6	145.6
02:00	0	00:12	31.2	0	00:00	0.0	31.2
03:00	0	00:04	10.4	0	00:14	36.4	46.8
04:00	0	00:08	20.8	2	00:09	23.4	44.2
05:00	0	00:15	39.0	0	00:06	15.6	54.6
06:00	0	00:12	31.2	0	00:18	48.8	78.0
07:00	0	00:00	0	0	00:04	10.4	10.4
08:00	0	00:00	0.0	1	00:02	5.2	5.2
09:00	0	00:00	0.0	0	00:00	0.0	0.0
10:00	11	00:04	10.4	4	00:02	3.2	15.6
11:00	2	00:00	0.0	4	00:07	18.2	18.2
12:00	1	00:00	0.0	0	00:00	0.0	0.0
13:00	8	00:19	49.4	4	00:17	44.2	93.6
14:00							0.0
15:00	2	00:01	2.6	4	00:22	31.2	33.8
16:00	12	00:18	46.8	5	00:00	0.0	46.8
17:00	2	00:06	15.6	4	00:19	49.4	65.0
18:00	0	00:05	13.0	0	00:04	10.4	23.4
19:00	6	00:15	39.0	6	00:19	49.4	88.4
20:00	5	00:04	10.4	12	00:08	46.8	57.2
21:00	2	00:10	26.0	5	00:09	23.4	49.4
22:00	1	00:09	23.4	14	00:13	33.8	57.2
23:00	1	00:08	15.6	1	00:00	0.0	15.6
合計	78	2:57	460.2	31	3:32	557.2	1011.4
最大値	21	00:20	52.0	0	00:36	93.6	145.6
最小値	0	00:00	0.0	0	00:00	0.0	0.0
平均値	3	00:07	20.0	-	00:08	24.0	42.1
累計(時:分)	-	0:02	-	-	0:03	-	-

前ページ 次ページ
印刷 ダウンロード

≪ 帳票一覧
帳票一覧画面に戻ります。

日報帳票、月報帳票の設定により表示内容は変わります。

前ページ、次ページボタン
複数ページに分かれている場合、前のページ、次のページを表示します。
改ページを設定すると複数に分けて表示することができます。

ダウンロードボタン
表示しているデータを CSV 形式ファイルでダウンロードします。
(作成年月日、印章欄、作成情報を除く)

印刷ボタン
表示しているデータを印刷します。

システムデータ設定されていない欄は、「-」を表示

システムデータ設定されているが、時計変更などで表示するデータがない場合は、「空白」を表示

ご注意

- 時間毎（日付毎）に表示されているデータを合計したものと合計欄に表示しているデータは、一致しない場合があります。（時間毎データ：時間毎の積算値データを計算し表示。合計データ：時間毎の積算値データを合計後計算し表示）
- 時間毎データは、±1 秒の誤差が発生する場合があります。（1 秒のデータが欠落するのではなく、前の時間や、後の時間に組み込まれます） 以下のようなことが発生する場合があります。
- 例：3 時間連続して時間積算し、秒単位で表示した場合

時刻	運転時間 (秒)
00:00	3559
01:00	3601
02:00	3600

設定や工事に関して

- 帳票の設定について、「データを設定する：設定内容 日報スタイルの設定～列設定（月報）」(P226～229)

複数ページに表示したい場合

設定により、複数ページに分けて表示することができます。『前ページ』、『次ページ』ボタンで画面を切り替えます。

<ログアウト> <<メニュー <<帳票一覧

第1マンホールポンプ場 2002年07月05日
管理センター

日 報 2002年7月4日

	承認	確認	確認	担当

天候()

時刻	ポンプ1 運転回数 (回)	ポンプ1 運転時間 (分:秒)	ポンプ1 流量 (m ³)	ポンプ2 運転回数 (回)	ポンプ2 運転時間 (分:秒)	ポンプ2 流量 (m ³)	流量 (1+2) (m ³)
00:00	4	00:09	23.4	7	00:03	7.8	31.2
01:00	21	00:20	52.0	31	00:36	93.8	145.8
02:00	0	00:12	31.2	0	00:00		
03:00	0	00:04	10.4	0	00:14		
04:00	0	00:08	20.8	2	00:09		
05:00	0	00:15	39.0	0	00:06		
06:00	0	00:12	31.2	0	00:18		
07:00	0	00:00	0	0	00:04		
08:00	0	00:00	0	1	00:02		
09:00	0	00:00	0	0	00:00		
10:00	11	00:04	10.4	4	00:02		
11:00	2	00:00	0	4	00:07		
12:00	1	00:00	0	0	00:00		
13:00	8	00:19	49.4	4	00:17		
14:00							
15:00	2	00:01	2.6	4	00:12		
16:00	12	00:18	46.8	5	00:00		
17:00	2	00:06	15.6	4	00:19		
18:00	0	00:05	13.0	0	00:00		
19:00	6	00:15	39.0	6	00:00		
20:00	5	00:04	10.4	12	00:18		
21:00	2	00:10	26.0	5	00:09		
22:00	1	00:09	23.4	14	00:00		
23:00	1	00:06	15.6	1	00:00		
合計	78	2:57	480.2	31	3:32		
最大値	21	00:20	52.0	0	00:36		
最小値	0	00:00	0	4	00:00		
平均値	3	00:07	20.0	-	00:09		
累計(時:分)	-	0:02	-	-	0:03		

前ページ 次ページ
印刷 リンクロード

<ログアウト> <<メニュー <<帳票一覧

第1マンホールポンプ場 2002年07月05日
管理センター

日 報 2002年7月4日

	承認	確認	確認	担当

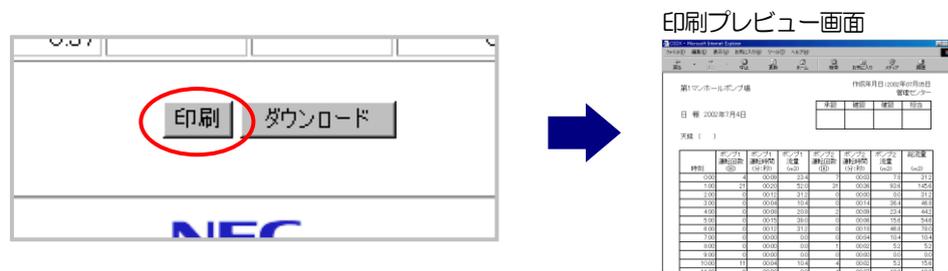
天候()

時刻	ポンプ3 運転回数 (回)	ポンプ3 運転時間 (分:秒)	ポンプ3 流量 (m ³)	ポンプ4 運転回数 (回)	ポンプ4 運転時間 (分:秒)	ポンプ4 流量 (m ³)	流量 (3+4) (m ³)	総流量 (m ³)
00:00	5	00:06	26.4	3	00:04	13.4	44.8	112.8
01:00	20	00:30	56.1	18	00:28	46.8	102.9	342.1
02:00	0	00:00	23.5	0	00:00	19.4	42.9	112.9
03:00	0	00:00	8.3	0	00:00	6.8	15.1	75.5
04:00	0	00:00	22.5	0	00:00	23.5	46.0	137.2
05:00	1	00:02	42.0	2	00:02	48.0	90.0	240.6
06:00	0	00:00	29.6	1	00:02	21.7	51.3	172.7
07:00	0	00:00	0	0	00:00	0	0	10.4
08:00	0	00:00	0	0	00:00	0	0	5.2
09:00	0	00:00	2.1	0	00:00	2.3	4.4	9.0
10:00	8	00:15	8.6	6	00:10	7.1	15.7	45.5
11:00	2	00:04	0	5	00:09	10.5	10.5	49.7
12:00	5	00:09	0	1	00:01	0	0	0
13:00	1	00:02	0	2	00:03	0	0	93.6
14:00								0
15:00	2	00:05	6.1	3	00:03	2.8	8.9	48.3
16:00	15	00:15	36.7	18	00:23	26.4	63.1	162.7
17:00	2	00:01	4.3	1	00:02	1.2	5.5	72.9
18:00	0	00:00	0	0	00:00	0	0	23.4
19:00	6	00:08	27.3	7	00:10	29.3	56.6	203.6
20:00	3	00:06	14.2	3	00:06	12.5	26.7	108.9
21:00	2	00:03	8.3	3	00:07	7.9	16.2	81.4
22:00	5	00:07	12.6	4	00:07	13.1	25.7	109.1
23:00	1	00:01	9.2	2	00:03	6.7	15.9	44.9
合計	78	1:54	337.8	79	2:00	304.4	642.2	2262.4
最大値	20	00:30	56.1	18	00:28	46.8	102.9	342.1
最小値	0	00:00	0	0	00:00	0	0	0
平均値	3	00:04	14.7	3	00:05	13.2	27.9	98.4
累計(時:分)	-	0:02	-	-	0:03	-	-	-

前ページ 次ページ
印刷 リンクロード

3 印刷したい場合

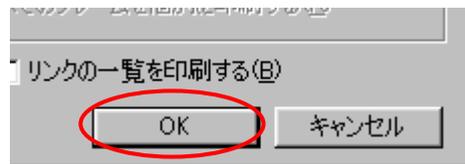
- 1 「印刷」ボタンをクリックします。印刷プレビュー画面が表示されます。



- 2 [ファイル] → [印刷]とクリックします。印刷画面が表示されます。



- 3 「OK」ボタンを押すと印刷されます。



ご注意

- 印刷される帳票は現在のページのみです。他のページを印刷したい場合は、「改ページ」ボタンで印刷したいページを表示し、印刷を行ってください。

印刷のイメージ

第1マンホールポンプ場

2002年07月05日
管理センター

日報 2002年7月4日

承認	確認	確認	担当

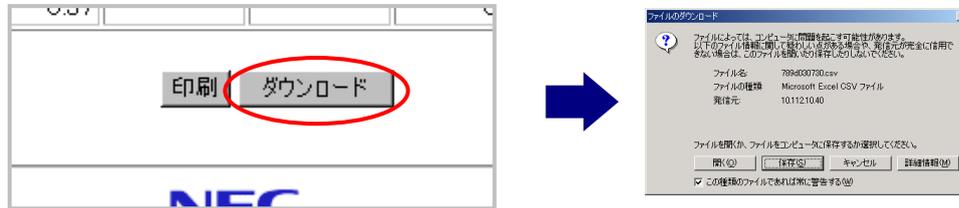
天候()

時刻	ポンプ1 運転回数 (回)	ポンプ1 運転時間 (分:秒)	ポンプ1 流量 (m ³)	ポンプ2 運転回数 (回)	ポンプ2 運転時間 (分:秒)	ポンプ2 流量 (m ³)	流量 (1+2) (m ³)
00:00	4	00:09	23.4	7	00:03	7.8	31.2
01:00	21	00:20	52.0	31	00:36	93.6	145.6
02:00	0	00:12	31.2	0	00:00	0.0	31.2
03:00	0	00:04	10.4	0	00:14	36.4	46.8
04:00	0	00:08	20.8	2	00:09	23.4	44.2
05:00	0	00:15	39.0	0	00:06	15.6	54.6
06:00	0	00:12	31.2	0	00:18	46.8	78.0
07:00	0	00:00	0.0	0	00:04	10.4	10.4
08:00	0	00:00	0.0	1	00:02	5.2	5.2
09:00	0	00:00	0.0	0	00:00	0.0	0.0
10:00	11	00:04	10.4	4	00:02	5.2	15.6
11:00	2	00:00	0.0	4	00:07	18.2	18.2
12:00	1	00:00	0.0	0	00:00	0.0	0.0
13:00	6	00:19	46.4	4	00:17	44.2	90.6
14:00							
15:00	2	00:01	2.6	4	00:12	31.2	33.8
16:00	12	00:18	46.8	3	00:00	0.0	46.8
17:00	2	00:06	15.6	4	00:19	46.4	65.0
18:00	0	00:05	13.0	0	00:04	10.4	23.4
19:00	6	00:15	39.0	6	00:19	46.4	88.4
20:00	5	00:04	10.4	12	00:16	46.8	57.2
21:00	2	00:10	26.0	5	00:09	23.4	49.4
22:00	1	00:09	23.4	14	00:13	33.8	57.2
23:00	1	00:06	15.6	1	00:00	0.0	15.6
合計	78	02:57	460.2	104	03:32	551.2	1011.4
最大値	21	00:20	52.0	31	00:36	93.6	145.6
最小値	0	00:00	0.0	0	00:00	0.0	0.0
平均値	3.4	00:07	20.0	4.5	00:09	24.0	44.0
累計(時:分)	-	0:02	-	-	0:03	-	-

帳票内容
ブラウザで表示されたもの
と同じ内容が印刷されま
す。

4 データをダウンロードしたい場合（CSVファイル）

1 「ダウンロード」ボタンをクリックします。



2 「保存」ボタンをクリックします。保存場所指定画面が表示されます。

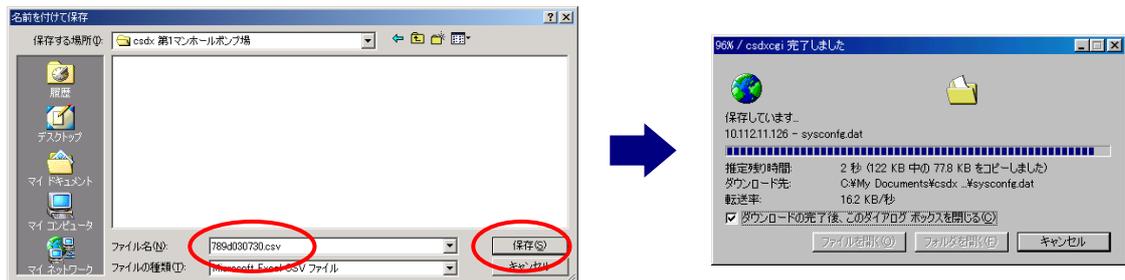


3 「保存」ボタンをクリックします。帳票データをセーブします。 ファイル名は、以下のようにになっています。必要に応じて変更してください。

日報：(端末 ID 最大下 3 桁)d(年月日).csv
例 2002 年 7 月 7 日の日報の場合：789d020707.csv

月報：(端末 ID 最大下 3 桁)m(年月).csv
例 2002 年 6 月の月報の場合：789m0206.csv

※. 端末 ID が 2 桁以下の場合は、その桁数となります。



ご注意

- 全てのページのデータを一括ダウンロードします。

CSVファイルのイメージ

```

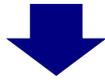
789d030730.csv - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) ヘルプ(H)
[FONT SIZE=+1]第1マンホールポンプ場/FONT>"FONT SIZE=+1>日 報 200
時刻 "ポンプ1>運転回数(回)"ポンプ1>運転時間<分:秒>"ポンプ1>流量<m3
"00" 4 "00:09" 23.4 "00:03" 23.4 "31.2"
"100" 21 "00:20" 52.0 "31" 00:36" 52.0 "145.6"
"200" 0 "00:12" 31.2 "0" 00:00" 31.2 "31.2"
"300" 0 "00:04" 10.4 "0" 00:14" 10.4 "46.8"
"400" 0 "00:08" 20.8 "0" 00:09" 20.8 "44.2"
"500" 0 "00:15" 39.0 "0" 00:06" 39.0 "54.6"
"600" 0 "00:12" 31.2 "0" 00:18" 31.2 "78.0"
"700" 0 "00:00" 0.0 "0" 00:04" 0.0 "10.4"
"800" 0 "00:00" 0.0 "1" 00:02" 0.0 "5.2"
"900" 0 "00:00" 0.0 "0" 00:00" 0.0 "0.0"
"1000" 11 "00:04" 10.4 "4" 00:02" 10.4 "15.6"
"1100" 2 "00:00" 0.0 "4" 00:07" 0.0 "18.2"
"1200" 1 "00:00" 0.0 "0" 00:00" 0.0 "0.0"
"1300" 8 "00:19" 49.4 "4" 00:17" 49.4 "93.6"
"1400" " " " " " " " " " " " "
"1500" 2 "00:01" 2.6 "4" 00:12" 2.6 "33.8"
"1600" 12 "00:18" 46.8 "5" 00:00" 46.8 "46.8"
"1700" 2 "00:06" 15.6 "4" 00:19" 15.6 "65.0"
"1800" 0 "00:05" 13.0 "0" 00:04" 13.0 "23.4"

```

CSVファイルは、カンマ区切りです。
表計算ソフトなどで、加工できます。

ご注意

- 作成年月日、作成情報、印章欄のデータはありません。
- < >で囲まれた部分（通常HTMLタグ）はデータから削除されます。



表計算ソフトでCSVファイルを開くと…

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	第1マンホ	fontsize=+1	天候 ()						
2	時刻	ポンプ1>運	ポンプ1>運	ポンプ1>流	ポンプ2>運	ポンプ2>運	ポンプ2>流	総流量br>(m3)	
3	000	4	0.09	23.4	7	0.03	7.8	31.2	
4	100	21	0.20	52	31	0.36	93.6	145.6	
5	200	0	0.12	31.2	0	0.00	0	31.2	
6	300	0	0.04	10.4	0	0.14	36.4	46.8	
7	400	0	0.08	20.8	2	0.09	23.4	44.2	
8	500	0	0.15	39	0	0.06	15.6	54.6	
9	600	0	0.12	31.2	0	0.18	46.8	78	
10	700	0	0.00	0	0	0.04	10.4	10.4	
11	800	0	0.00	0	1	0.02	5.2	5.2	
12	900	0	0.00	0	0	0.00	0	0	
13	1000	11	0.04	10.4	4	0.02	5.2	15.6	
14	1100	2	0.00	0	4	0.07	18.2	18.2	
15	1200	1	0.00	0	0	0.00	0	0	
16	1300	8	0.19	49.4	4	0.17	44.2	93.6	
17	1400								
18	1500	2	0.01	2.6	4	0.12	31.2	33.8	
19	1600	12	0.18	46.8	5	0.00	0	46.8	
20	1700	2	0.06	15.6	4	0.19	49.4	65	
21	1800	0	0.05	13	0	0.04	10.4	23.4	

ご注意

- 必要に応じて、以下の加工を行ってください。
 - ・作成年月日、作成情報、印章欄の追加
 - ・セルの幅を調整
 - ・罫線を引く など

端末情報を表示する

端末の情報を表示します。



□ 表示される内容

『端末情報』に設定されている文字を表示します。

📖 設定や工事に関して

- 端末情報の設定について、「データを設定する：設定内容 端末IDの設定」(P181)

1 操作手順

- 1 メニューの「端末情報」をクリックします。 設定した端末情報が表示されます。



端末情報画面



システムデータを設定する

本装置のシステムデータを設定します。

本項目は、管理者用 ID・パスワードでログイン時した時のみメニューに表示されます。

- 📖 システムデータの設定方法については、「データを設定する：共通設定方法」(P174)をご覧ください。

デジタル出力を制御する

デジタル出力を制御(ON/OFF)します。

本項目は、管理者用 ID・パスワード、または『権限』《有》に設定されているユーザ ID・パスワードでログインした時のみメニューに表示されます。



□ 表示される項目

システムデータ設定で、『運用』《有》に設定されているデジタル出力です。

□ 表示される順序

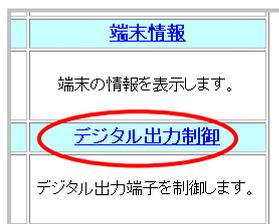
端子番号の若番から順に表示します。

ご注意

- デジタル出力制御中に他の要因（運動など）により状態が変化しても、自動的に表示は変化しません。制御する前には必ず「最新の状態を表示する」ボタンを押し、表示を更新してから行ってください。
- シーケンサ異常時、シーケンサの端子は表示されません。シーケンサの状態は現在状態で確認してください。

1 操作手順

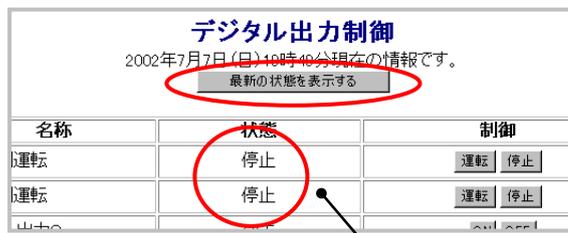
- メニューの「デジタル出力制御」をクリックします。デジタル出力制御画面が表示されます。



デジタル出力制御画面



- 「最新の状態を表示する」ボタンをクリックします。最新の状態を表示します。



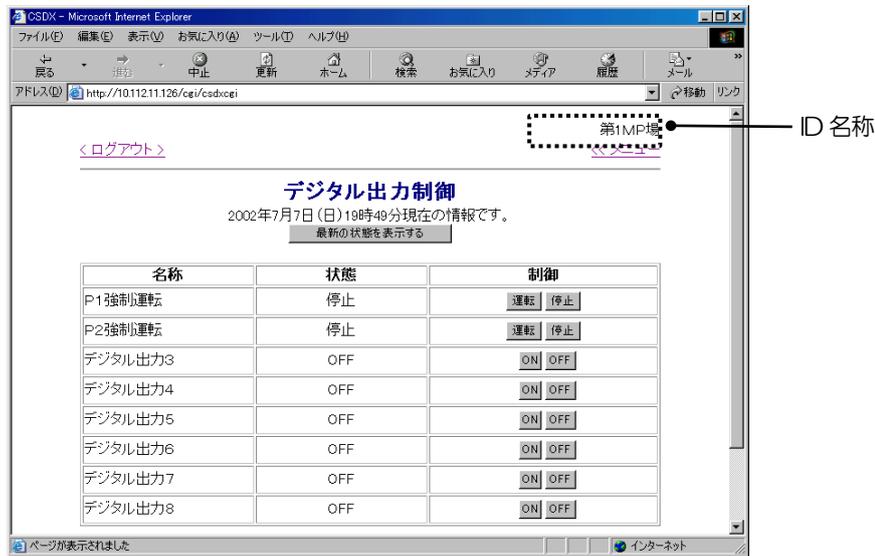
ボタンが押されると、状態更新。

- 制御したい項目の現在状態を確認し、ON(左ボタン)またはOFF(右ボタン)をクリックします。制御が実行され、現在状態が自動的に更新されます。



ボタンが押されると、状態更新。

2 表示内容



ID名称：ID名称（共通）を表示します。

名称：各デジタル出力の名称を表示します。

各デジタル出力の『名称』で設定された内容を表示します。

状態：各デジタル出力の現在状態を表示します。

各要因の『ブラウザ表示』で設定された内容を表示します。設定した文字色、背景色、太字フォントで表示します。

制御ボタン：各デジタル出力の制御ボタンを表示します。

各要因の『制御ボタン表示』の設定により、『ブラウザ表示』で設定された内容を表示します。

ワンポイント

- 『制御ボタン表示』《無》に設定すると、入力に対しての出力運動を行うのみで、ブラウザからの制御はできないようすることができます。

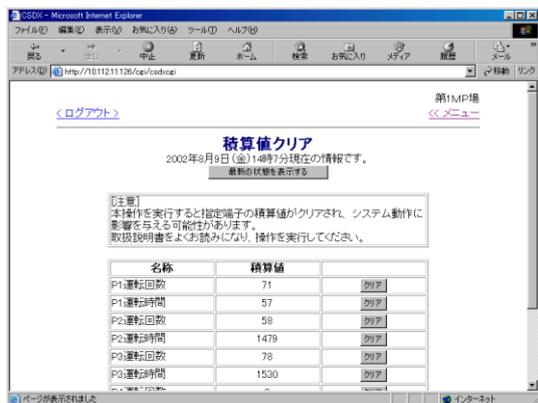
設定や工事に関して

- ID名称の設定について、「データを設定する：設定内容 端末IDの設定」(P181)
- 名称、状態・制御名の設定について、「データを設定する：設定内容 デジタル出力の設定」(P186)
CSDX(S)をご利用の場合は、「データを設定する：設定内容 ビットデバイスの設定」(P217)

端子の積算値をクリアする

デジタル入力の積算値をクリアします。

本項目は、管理者用 ID・パスワード、または『権限』《有》に設定されているユーザ ID・パスワードでログインした時のみメニューに表示されます。



積算値をクリアする前に必ずお読みください。

ご注意

積算値をクリアすると、今まで積算した値が0に戻ります。

以下のような運用を行っている場合は、クリアしても問題のないことをご確認ください。

- ・積算値異常の検出、通報などを行っている場合
- ・ブラウザコントロールの現在状態画面に積算値を表示している場合

1 操作手順

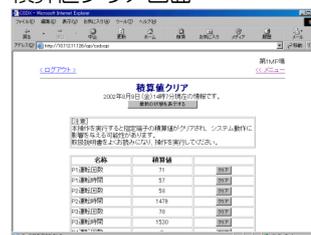
- 1 メニュー右下に表示されている「▼その他のメニュー」をクリックします。



- 2 メニューの「積算値クリア」をクリックします。 積算値クリア画面が表示されます。



積算値クリア画面



3 「最新の状態を表示する」ボタンをクリックします。最新の積算値が表示されます。

積算値クリア
2002年8月9日(金)14時7分現在の情報です。
最新の状態を表示する

【注意】
本操作を実行すると指定端子の積算値がクリアされ、システム動作に影響を与える可能性があります。
取扱説明書をよくお読みになり、操作を実行してください。

名称	積算値	
P1運転回数	71	クリア
P1運転時間	57	クリア
P2運転回数	50	クリア

ボタンが押されると、状態更新。

4 消したい端子の「クリア」ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。

積算値クリア
2002年8月9日(金)14時7分現在の情報です。
最新の状態を表示する

【注意】
本操作を実行すると指定端子の積算値がクリアされ、システム動作に影響を与える可能性があります。
取扱説明書をよくお読みになり、操作を実行してください。

名称	積算値	
P1運転回数	71	クリア
P1運転時間	57	クリア
P2運転回数	50	クリア

➡

確認画面

確認

積算値をクリアします。
よろしいですか？

はい いいえ

ご注意

- シーケンサ異常時、シーケンサの端子の状態は表示されません。
- シーケンサ接続時、積算値クリアデバイスが設定されていない場合、「クリア」ボタンはグレー表示となり、クリック(クリア)できません。

設定や工事に関して

- 積算値クリアデバイスについて、「データを設定する：設定内容 [ワードデバイスの設定](#)」(P218)

5 確認画面の「はい」ボタンをクリックすると、クリアを実行し積算値クリア画面に戻ります。クリアした端子の積算値が「0」になっていることを確認してください。

確認

積算値をクリアします。
よろしいですか？

はい いいえ

➡

	積算値	
	0	クリア
	57	クリア
	50	クリア

履歴・帳票データをクリアする

蓄積している各種履歴や日報月報帳票をクリア（消去）します。

本項目は、管理者用 ID・パスワード、または『権限』《有》に設定されているユーザ ID・パスワードでログインした時のみメニューに表示されます。



履歴や帳票データをクリアする前に必ずお読みください。

ご注意

本操作を行うと、全ての履歴や帳票がクリア（消去）されます。

- ・通報履歴 ・コントロール履歴 ・ログイン履歴 ・動作履歴 ・定時間隔履歴 ・日報帳票 ・月報帳票

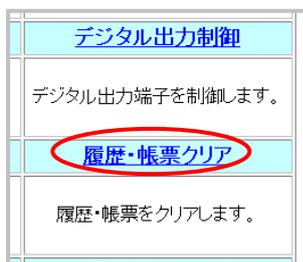
消去されたデータは復旧することはできませんので、設置工事終了後や運用開始前などを除き、特別な事情がない限り行わないで下さい。

1 操作手順

- 1 メニュー右下に表示されている「▼その他のメニュー」をクリックします。



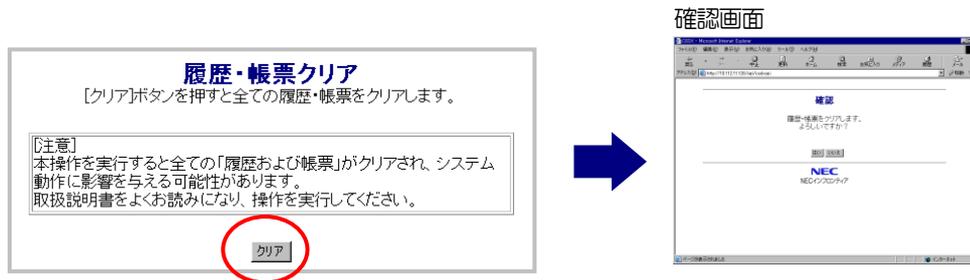
- 2 メニューの「履歴・帳票クリア」をクリックします。履歴・帳票クリア画面が表示されます。



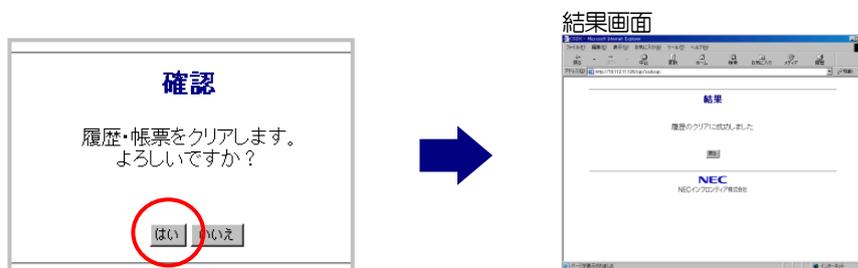
履歴・帳票クリア画面



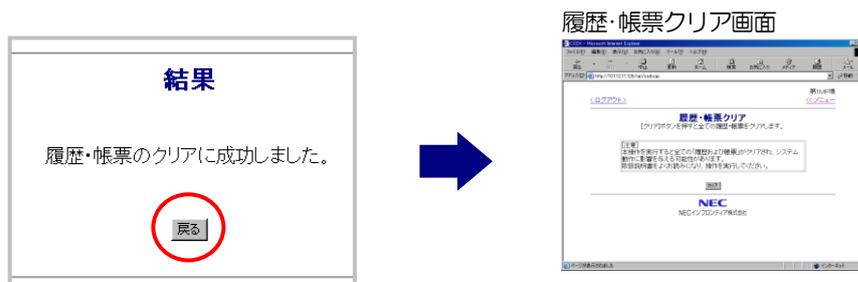
3 「クリア」ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。



4 確認画面の「はい」ボタンをクリックすると、クリアを実行し結果が表示されます。



5 結果画面の「戻る」ボタンをクリックすると、履歴・帳票クリア画面に戻ります。



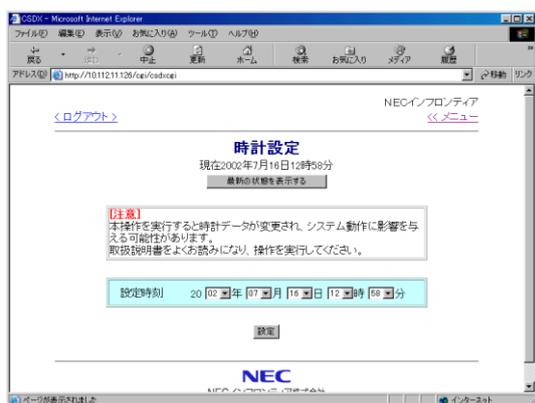
時計を設定する

時計データを設定します。

本項目は、管理者用 ID・パスワード、または『権限』《有》に設定されているユーザ ID・パスワードでログインした時のみメニューに表示されます。

ワンポイント

- CSDX がインターネットに接続可能でかつ E メールによる通報を行っている場合、設定によりインターネット上の NTP サーバを利用した時計自動補正機能が使用できます。
時計自動補正機能の設定については、「データを設定する：設定内容 [通報共通の設定](#)」(P188)を参照ください。



□ 時計の主な仕様

- 閏年サポート
- 誤差：月差 約±60秒

時計を変更する前に必ずお読みください。

ご注意

時計データを変更すると、日報・月報帳票やその他履歴、定時刻などの機能動作に影響します。影響の大きさについては、時計の修正誤差にもよりますが、以下内容をよくお読みになり、十分ご理解の上変更してください。

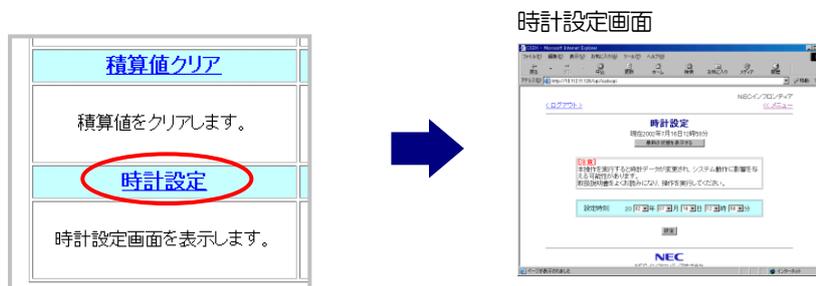
- 日報・月報帳票について、「時計を進める方向に変更」すると、変更した間のデータは空白となります。
なお、時計を変更した時点で、日報・月報データを作成しますので、変更前のデータは正常に作成します。
(例) 「1:30 → 3:00」と変更した場合
 - ・ 2:00 のデータは空白
 - ・ 1:00 のデータは 1:30 までのデータを表示
- 日報・月報帳票について、「時計を戻す方向に変更」すると、変更した間のデータが重複します。
(例) 「1:30 → 1:00」と変更した場合
 - ・ 1:00～1:30 までのデータが重複（上書きはしません）
 - ・ 重複したデータも全て集計対象とし、集計して表示
- その他各種履歴について、「時計を戻す変更」を行った後に発生した履歴(履歴 A)の時刻が、時間を戻す前に記録されている履歴(履歴 B)の時刻より古い場合、履歴が MAX 件数になると履歴 A を先に削除(上書き)します。
- 起動要因 定時刻の『検出モード』で《定時間隔》を利用している場合について、「時計データを変更」すると、定時間隔時間はリセットされ、再度開始時刻になるまで起動しません。
- 大幅な時計変更を行う場合は、時計データ変更前に CF カード(履歴蓄積)を交換し現在のデータを保管してから行うか、帳票データをダウンロードし以前の履歴を消去してから行う、などしてください。

1 操作手順

- 1 メニュー右下に表示されている「▼その他のメニュー」をクリックします。



- 2 メニューの「時計設定」をクリックします。 時計設定画面が表示されます。



- 3 日付・時刻をリストボックスより選択し、「設定」ボタンをクリックすると設定は完了です。



バージョン情報を表示する

本装置のソフトウェアモジュールのバージョンを表示します。
弊社への本装置に関するお問い合わせ時などに、お聞きする場合があります。

バージョン情報	
製品情報	
製品名	コルソス CSDX
製造元	NEC NECインフロンティア
モジュール名	
メインモジュール	1.08070205
ブートモジュール	1.02
NCUモジュール	1.03
IOUモジュール	1.04

NEC
NECインフロンティア

1 操作手順

- 1 メニュー右下に表示されている「▼その他のメニュー」をクリックします。

	端末情報
示します。	端末の情報を表示します。
設定	デジタル出力制御
設定します。	デジタル出力端子を制御します。
	▼その他のメニュー

- 2 メニューの「バージョン情報」をクリックします。バージョン情報画面が表示されます。

履歴・帳票クリア
履歴・帳票をクリアします。
バージョン情報
バージョン情報を表示します。



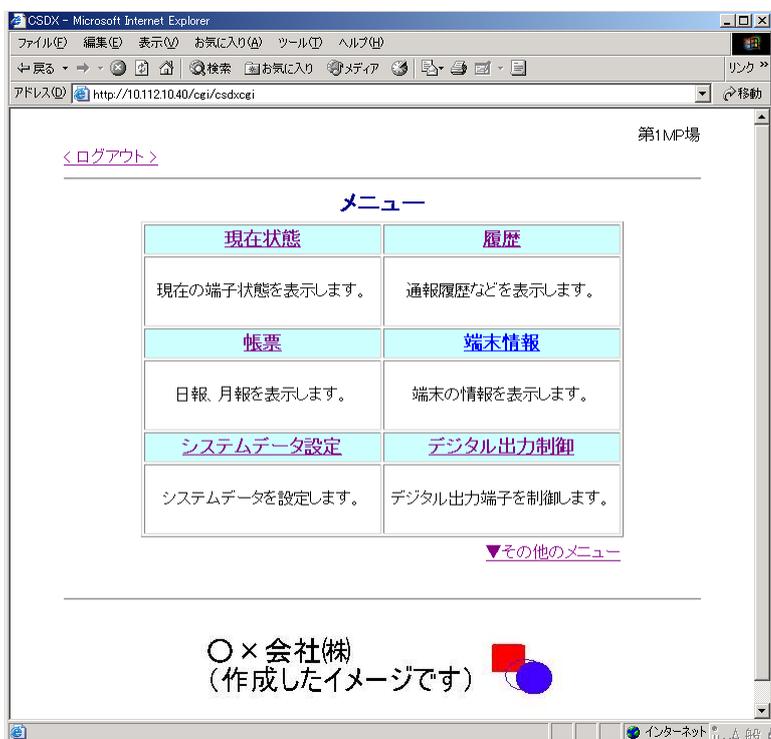
バージョン情報画面

バージョン情報	
製品情報	
製品名	コルソス CSDX
製造元	NEC NECインフロンティア
モジュール名	
メインモジュール	1.08070205
ブートモジュール	1.02
NCUモジュール	1.03
IOUモジュール	1.04

NEC
NECインフロンティア

社名ロゴについて

設定により、社名ロゴを表示しないようにしたり、標準以外の社名ロゴに変更することができます。



ご注意

- 標準以外の社名ロゴを使用する場合、CFメモリカードが必要です。

📖 CFカードの取付け方法について、「本装置を取付ける [CFカードを取り付ける](#)」(P153)をご覧ください。

📖 設定や工事に関して

- 社名ロゴの設定について、「データを設定する：設定内容 [端末IDの設定](#)」(P181)

エラー画面について

各エラーの原因および対処方法は、以下の通りです。

1 ログイン時のエラー

ログイン時には、以下のようなエラーを表示する場合があります。

1-1 ID・パスワードエラー

原因：本装置に設定されていないIDまたはパスワードでログインした

対処：ID・パスワードを確認してください。



1-2 ログインエラー（管理者）

原因：管理者用ID・パスワードで既にログインされている
（不正なブラウザコントロール終了によりログイン状態となっている場合含む）

対処：しばらく待ってから、再度行ってください。
不正終了による場合は、『再ログイン要求タイム』間ログインできません。



1-3 ログインエラー（ユーザ）

原因：ユーザ用ID・パスワードで既に10人ログインされている
（不正なブラウザコントロール終了によりログイン状態となっている場合含む）

対処：しばらく待ってから、再度行ってください。
不正終了による場合は、『再ログイン要求タイム』間ログインできません。



設定や工事に関して

- 再ログイン要求タイムの設定について、「データを設定する：設定内容 [ブラウザコントロールの設定](#)」(P225)

2 その他エラー

以下のようなエラーを表示した場合は、装置故障の可能性があります。
対処方法を実行しても、直らない場合は、販売店または最寄りの弊社窓口にお問い合わせください。

📖 「保守メンテナンス アフターサービス」(P292)をご覧ください。

2-1 メモリカードエラー

履歴表示や帳票表示時に発生するエラーです。

原因：メモリカードが確実に差し込まれていない、メモリカードが壊れている、CF スロットが壊れているなど

対処：メモリカードの差込みを確認する、装置を再起動する、メモリカードを交換するなど行ってください。



2-2 コントロールエラー

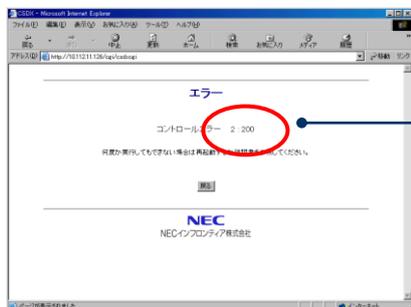
ブラウザコントロール各種操作時に発生するエラーです。

原因：エラーコード (X:XXX) による

- 4:204 CF カードスロットの設定変更後、装置を再起動していない。
- その他 通信エラー、ユニット故障 など

対処：エラーコードにより、異なります。

- 4:204 装置を再起動してください。
- その他 何度か繰り返し実行する、装置を再起動する など行ってください。



エラー番号をメモなどして、控えておいてください。

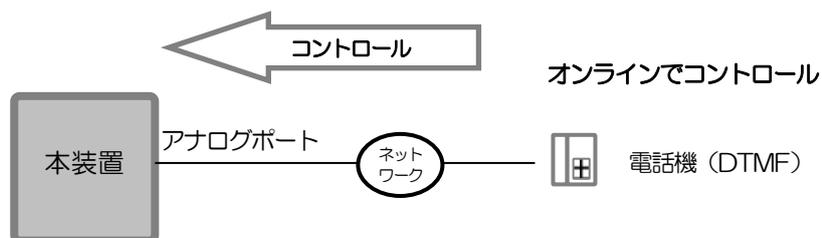
コントロールする：DTMF 音声

本機能は、CSDX（D）は対応していません。

またファクシミリ用コマンドは、CSDXのみ対応です。

電話機などから DTMF（PB）信号でコントロールし、本装置は音声で応答します。

DTMF 音声コントロールは、本装置のアナログポートへアクセスして行います。LAN ポート、PHS・DoPa・FAOMA（シリアルポートや CF カードスロット）へアクセスしても、DTMF 音声コントロールは行えません。



注意

相手通信機器によっては、DTMF コントロールができない場合があります。

DTMF 音声コントロールの手順

コントロールに必要なもの

- DTMF (PB) 信号が送出できる電話機またはファクシミリ電話機

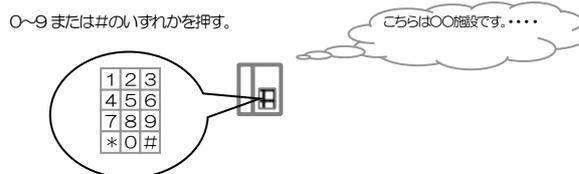
- 1 電話機から本装置のアナログポートに收容されている回線へ電話をかけます。
『自動応答タイマ』後、自動応答します。(CSDXからDTMF「C」が送出されます)



設定や工事に関して

- 自動応答タイマの設定について、「データを設定する：設定内容 [アナログ応答の設定](#) (P220)

- 2 自動応答後、5秒以内に電話機のダイヤル0～9または#のいずれかを押します。
『ID音声メッセージ』と、設定により「端子状態メッセージ」が流れます。



端子状態メッセージの送出内容は、ダイヤルにより以下の通り異なります。

<「0～9」の場合> CSDX および CSDX(P)および CSDX(S)対応。

- ・送出順
「デジタル入力端子+アナログ入力端子+デジタル出力端子+電源状態+モード状態」
※. 入出力端子は『運用』《有》の端子が対象。

- ・送出条件 1
正常/異常等の状態に関わらず端子番号の若番から設定された音声メッセージを全て送出。

<「#」の場合> CSDX および CSDX(P)のみ対応。(CSDX(S)は「#」入力で即データ/ブラウザコントロールとなります)

- ・送出順
「停電情報+イベント入力端子(デジタル・アナログ入力)+イベント以外入力端子(デジタル・アナログ入力)+デジタル出力端子+モード状態」 ※. 入出力端子は『運用』《有》の端子が対象。
- ・送出条件 1 (停電情報およびイベント入力が1つ以上異常(停電)状態がある場合)
停電情報およびイベント入力端子は、異常(停電)状態の端子のみ端子番号の若番から送出、その他状態は正常/異常等の状態に関わらず端子番号の若番から設定された音声メッセージ全て送出。
- ・送出条件 2 (停電情報およびイベント入力が全て正常な場合)
停電情報およびイベント入力端子は、まとめて「異常ありません(※)」と送出、その他状態は正常/異常等の状態に関わらず端子番号の若番から設定された音声メッセージ全て送出。
※. デジタル入力 16 (CSDX(P)の場合は8)の『音声_復旧メッセージ』を設定後、『運用』設定を《無》に設定すると、「異常ありません」の代わりに上記設定メッセージを送出することができます。

注意

自動応答後、5秒以内に0～9または#のDTMF信号を受信できない場合は、データ/ブラウザコントロールに切り替わります。(モデム音が送出されます。)

データ/ブラウザコントロールが起動すると、その状態からDTMFコントロールを起動することはできません。一度電話を切り、約1分後に再度コルソスへ電話をかけ直してください。

(1分前にかけ直した場合、ビジー状態が自動応答できない状態になっています)

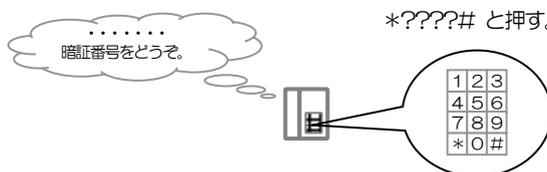
ワンポイント

- IDメッセージおよび「端子状態メッセージ」を聞く必要がない場合は、次項の暗証番号入力も可能です。
5秒以内に暗証番号入力を開始（DTMF信号「*」入力）してください。
- 自動応答後、DTMF信号を入力せずにIDメッセージおよび「端子状態メッセージ」を聞くことも『アナログ応答』の設定により可能です。
ただし、この運用にするとアナログ回線を利用したブラウザコントロールができなくなりますので、ご注意ください。

設定や工事に関して

- ID音声メッセージの設定について、「データを設定する：設定内容 端末IDの設定」(P181)
- 端子状態メッセージの有無について、「データを設定する：設定内容 DTMFコントロールの設定」(P223)
- アナログ応答の設定について、「データを設定する：設定内容 アナログ応答の設定」(P220)

3 2項のメッセージ送出後、「暗証番号をどうぞ」と流れますので、『入力待ちタイマ』以内に『DTMF音声の暗証番号』 * ? ? ? ? # と押します。



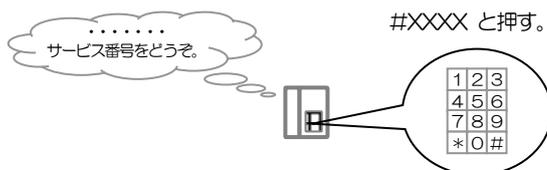
注意

- 暗証番号を間違えると、「暗証番号が違います。暗証番号をどうぞ。」と流れますので、再度『暗証番号』を入力してください。3回続けて間違えると、本装置は回線を切断します。

設定や工事に関して

- 暗証番号および入力待ちタイマの設定は、「データを設定する：設定内容 DTMFコントロールの設定」(P223)

4 「サービス番号をどうぞ」と流れますので、『入力待ちタイマ以内』にコントロールしたい『サービス番号』 # X X X X を押します。



- サービス番号について、「コントロールする：DTMF音声 サービス番号と応答」(P133)をご覧ください。

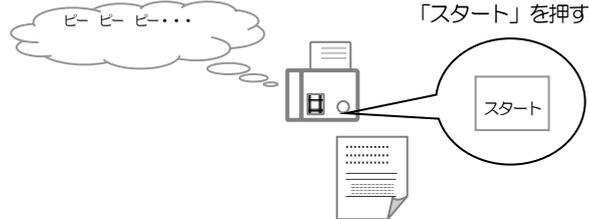
注意

- サービス番号を間違えると、「サービス番号が違います。サービス番号をどうぞ。」と流れますので、再度『サービス番号』を入力してください。3回続けて間違えると、本装置は回線を切断します。
- DTMF音声コントロールを終了する場合は、コントロール終了のサービス番号 (#9999)を押してください。コルソスが回線を切断します。
- 終了のサービス番号を押さずに電話機を切断すると、コルソスは『入力待ちタイマ』後に切断します。

- 5** サービス番号に対応した処理を行い、応答メッセージが流れます。
続けて、再度4項に戻ります。



なお、ファクシミリ用のサービス番号の場合は、FAX信号が流れますので、ファクシミリの「スタート」ボタンを押します。ファクシミリより帳票等が出力されます。帳票出力後、回線は自動的に切断されます。



 応答メッセージおよびFAX出力内容について、「コントロールする：DTMF音声 サービス番号と応答」(P133)をご覧ください。

サービス番号と応答内容

DTMF 音声コントロールで実行できる内容は、以下の通りです。

ご注意

日報や月報帳票などを利用している場合、時刻（月日・時分）を変更すると、帳票データなどに影響を与えます。

 時刻を変更する場合の注意点については、「コントロールする：フタザ 時計を設定する」(P123)をご覧ください。

コントロール項目	サービス番号	処理および応答メッセージ	
現在状態確認			
デジタル入力 (IOユニット)	#11nn nn：01～16 (端子) 99 (全端子)	現在の端子状態を確認します。 指定された端子の現在状態に対応する『音声メッセージ』(設定)を送出します。 指定が全端子の場合は、『運用』設定《有》の端子について若番から順に送出します。	
デジタル入力 (シーケンサ)	#12nn nn：01～64 (端子) 99 (全端子)		
アナログ入力 (IOユニット)	#21nn nn：01～08 (端子) 99 (全端子)	ご注意 <ul style="list-style-type: none"> 指定した端子の『運用』設定が《無》の場合は、「運用中ではありません」を送出します。 指定した端子が範囲外および『端子用途』が異なる場合は、エラー音を送出します。 「シーケンサ」のサービス番号はシーケンサを接続して端子を増設している場合にご利用になれます。 「IOユニット」のサービス番号で「全端子」を指定した場合、シーケンサの端子状態も送出します。 	
アナログ入力 (シーケンサ)	#22nn nn：01～64 (端子) 99 (全端子)		
デジタル出力 (IOユニット)	#31nn nn：01～08 (端子) 99 (全端子)		
デジタル出力 (シーケンサ)	#32nn nn：01～64 (端子) 99 (全端子)		
デジタル出力制御			
ON (IOユニット)	#41nn nn：01～08 (端子) ※CSDX(P)は04まで		デジタル出力端子を制御します。 指定された端子を制御し、制御した状態に対応する『音声メッセージ』(設定)を送出します。
ON (シーケンサ)	#42nn nn：01～64 (端子)		
OFF (IOユニット)	#61nn nn：01～08 (端子) ※CSDX(P)は04まで		
OFF (シーケンサ)	#62nn nn：01～64 (端子)		
ご注意 <ul style="list-style-type: none"> 指定した端子の『運用』設定が《無》の場合は、「運用中ではありません」を送出します。 指定した端子が範囲外および『端子用途』が異なる場合は、エラー音を送出します。 「シーケンサ」のサービス番号はシーケンサを接続して端子を増設している場合にご利用になれます。 			

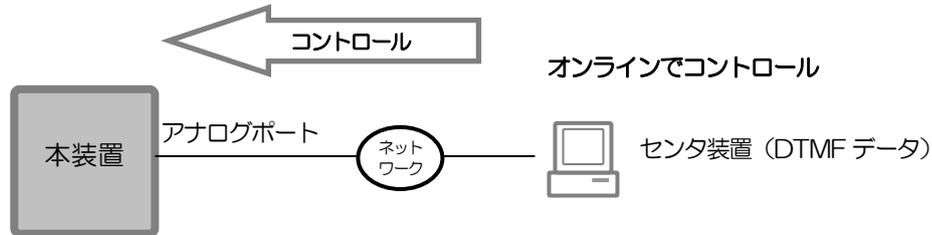
コントロール項目	サービス番号	処理および応答メッセージ
積算値クリア		
デジタル入力	#01nn nn: 01~16 (端子) 99 (全端子) ※CSDX(P)は08まで	積算値をクリアします。 指定された端子番号の積算値をクリアし、「積算値をクリアしました」を送出します。指定が全端子の場合は、『運用』設定《有》でかつ『異常モード』設定《パルス積算》または《時間積算》の端子について全てクリアします。 ご注意 <ul style="list-style-type: none"> 指定した端子の『運用』設定が《無》の場合は、クリアせずに「運用中ではありません」を送出します。 指定した端子が範囲外および『異常モード(端子用途)』が異なる場合は、クリアせずにエラー音を送出します。 「シーケンサ」のサービス番号はシーケンサを接続して端子を増設している場合にご利用になれます。 「デジタル端子」のサービス番号で「全端子」を指定した場合、シーケンサ端子の積算値もクリアします。
アナログ入力	#02nn nn: 01~08 (端子) 99 (全端子)	
シーケンサ	#03nn nn: 01~64 (端子) 99 (全端子)	
時計設定		
現在時刻確認	#8000	現在の時刻を確認します。 「現在の時刻は、××××年××月××日××時××分です」を送出します。
月日設定	#81MMDD MM: 01~12 (月) DD: 01~31 (日)	月日(時分)の設定を変更します。(上記注意事項をお読みください) 指定された月日(時分)に変更し、「時計を設定しました」を送出します。
時分設定	#82hhmm hh: 00~23 (時) mm: 00~59 (分)	ご注意 <ul style="list-style-type: none"> 時分を設定した場合 「××時××分00秒」で設定されます。 指定した月、日、時、分が範囲外の場合は、エラー音を送出します。ただし、存在しない月日(6月31日など)のチェックはしません。(例)6月31日と設定した場合 → 7月1日と設定されます。 設定後は、「現在時刻確認」で正しく設定されているか確認してください。
FAX帳票出力 ※1		
FAX 現在状態帳票出力	#5101	現在の端子状態、モード状態、シーケンサ状態、停電/復電状態をFAXで帳票出力します。 『運用』設定《有》の端子の現在状態、モード状態、停電/復電状態に対応する『Eメール、FAXメッセージ』(設定)、シーケンサ状態を出力します。
FAX 日報帳票出力	#511n n: 0~9 (日前)	指定した日報(月報)をFAXで帳票出力します。
FAX 月報帳票出力	#512n n: 0~2 (月前)	ご注意 <ul style="list-style-type: none"> CFメモ리카ード未実装時は、エラー音を送出します。
コントロール終了	#9999	DTMF音声コントロールを終了します。 「コントロールを終了します」を送出し、回線を切断します。

※1. FAX 帳票出力は、CSDX のみ対応しています。

コントロールする：DTMF データ

本機能は、CSDX (D)、CSDX (S) は対応していません。

センタ装置などから DTMF (PB) 信号でコントロールし、本装置は DTMF (PB) 信号で応答します。DTMF データコントロールは、本装置のアナログポートへアクセスして行います。LAN ポート、PHS・DoPa・FAOMA (シリアルポートや CF カードスロット) へアクセスしても、DTMF データコントロールは行えません。



ご注意

- DTMF データコントロールは、センタからの簡易的なコントロールです。新規にコルソス CSDX-センタシステムを構築する場合は、より詳細なデータ管理が行えるデータコントロールをご利用ください。詳しくは、弊社窓口へお問い合わせください。
- CSD7 通報装置の DTMF データコントロール機能との比較は下表の通りです。いくつか相違点がありますので、現在の CSD7 通報装置-センタシステムに本機を増設の際には、センタ側の対応が必要となる場合があります。

項目	CSD7	CSDX	記事
自動応答信号	DTMF 「C」	← (CSD7 同様)	
データフォーマット	設定および固定データ形式	← (CSD7 同様)	
固定データ内容			
種別コード	—	一部なし	
端子 No (センサ)	001~008 041~044	001~016 ※ (P)は008まで 041~048	041~はアナログ端 子のデジタル運用
端子 No (アナログ)	001~004	001~008	
積算値	00000~65535 単位は：回または 10 秒	← (CSD7 同様)	
アナログ値	000~255	← (CSD7 同様)	

DTMFデータコントロールの手順

コントロールに必要なもの

DTMF（PB）信号が送受信できるセンタ装置

- 1 センタ装置から本装置のアナログポートに收容されている回線へ電話をかけます。
『自動応答タイマ』後、自動応答します。（CSDXからDTMF「C」が送出されます）

📖 設定や工事に関して

- 自動応答タイマの設定について、「データを設定する：設定内容 [アナログ応答の設定](#)」(P220)

- 2 自動応答後、5秒以内に『DTMFデータの暗証番号』 を送出します。

📌 ご注意

- 暗証番号を間違えると、DTMF「##」が送出されますので、再度『暗証番号』を送出してください。3回続けて間違えると、本装置は回線を切断します。

📖 設定や工事に関して

- 暗証番号および入力待ちタイマの設定は、「データを設定する：設定内容 [DTMFコントロールの設定](#)」(P223)

- 3 DTMF「C」が送出されますので、『入力待ちタイマ以内』にコントロールしたい『サービス番号』 を送出します。

📖 サービス番号について、「コントロールする：DTMF音声 [サービス番号と応答](#)」(P137)をご覧ください。

📌 ご注意

- サービス番号を間違えると、DTMF「##」が送出されますので、再度『サービス番号』を入力してください。3回続けて間違えると、本装置は回線を切断します。
- DTMF データコントロールを終了する場合は、コントロール終了のサービス番号（#9999）を送出してください。コルソスが回線を切断します。
- 終了のサービス番号を押さないと電話機を切断すると、コルソスは『入力待ちタイマ』後に切断します。

- 4 サービス番号に対応した処理を行い、応答したDTMF信号が送出されます。
続けて、再度3項に戻ります。

📖 応答メッセージおよびFAX出力内容について、「コントロールする：DTMF音声 [サービス番号と応答](#)」(P137)をご覧ください。

サービス番号と応答内容

DTMF データコントロールで実行できる内容は、以下の通りです。

ご注意

日報や月報帳票などを利用している場合、時刻（月日・時分）を変更すると、帳票データなどに影響を与えます。

 時刻を変更する場合の注意点については、「コントロールする：フタザ 時計を設定する」(P123)をご覧ください。

コントロール項目	サービス番号	処理および応答メッセージ
現在状態確認		
デジタル入力 (IOユニット)	#1199	現在の端子状態を端子種別毎に確認します。 デジタル入力およびアナログ入力のデジタル利用において、『運用』設定《有》の端子の現在状態に対応する『DTMFデータ』(固定)を送出します。若番から順に送出します。  DTMFデータ内容については、「データフォーマット」(P139)をご覧ください。 ご注意 <ul style="list-style-type: none"> アナログ端子をデジタルで使用している場合は、#1199 で送出されます。 ※DTMF 音声コントロールとは異なります（#2199 で送出）のでご注意ください。 指定した端子の『運用』設定が《無》の場合、端子番号範囲外、『異常モード(端子用途)』が異なる場合などは、エラー信号「##」を送出します。
アナログ入力 (IOユニット)	#2199	
デジタル出力 (IOユニット)	#3199	
デジタル出力制御		
ON (IOユニット)	#41nn nn：01～08 (端子) ※CSDX(IP)は04まで	デジタル出力端子を制御します。 指定された端子を制御し、DTMF「**」を送出します。 ご注意 <ul style="list-style-type: none"> 指定した端子の『運用』設定が《無》の場合、端子番号範囲外、『異常モード(端子用途)』が異なる場合などは、エラー信号「##」を送出します。
OFF (IOユニット)	#61nn nn：01～08 (端子) ※CSDX(IP)は04まで	

コントロール項目	サービス番号	処理および応答メッセージ
積算値クリア		
デジタル入力	#01nn nn : 01~16, 41~48 99 (全端子)	積算値をクリアします。 指定された端子番号の積算値をクリアし、DTMF「**」を送出します。 指定が全端子の場合は、『運用』設定《有》でかつ『異常モード』設定《パルス積算》または《時間積算》の端子について全てクリアします。
アナログ入力	#02nn nn : 01~08 99 (全端子)	ご注意 ● 指定した端子の『運用』設定が《無》の場合、端子番号範囲外、『異常モード(端子用途)』が異なる場合などは、エラー信号「##」を送出します。
時計設定		
月日設定	#81MMDD MM : 01~12 (月) DD : 01~31 (日)	月日(時分)の設定を変更します。(上記注意事項をお読みください) 指定された月日(時分)に変更し、DTMF「**」を送出します。
時分設定	#82hhmm hh : 00~23 (時) mm : 00~59 (分)	ご注意 ● 時分を設定した場合 「××時××分00秒」で設定されます。 ● 指定した月、日、時、分が範囲外の場合は、エラー信号「##」を送出します。 ただし、存在しない月日(6月31日など)でエラー信号は送出されません。 (例) 6月31日と設定した場合 → 7月1日と設定されます。
曜日設定	#83W W : 日:1、月2…土7	CSDXシリーズでは、曜日設定は自動設定ですので、本コマンドは対応していません。 なお、本コマンドを受信した場合は、実際には曜日設定はしませんが、DTMF「**」を送出します。 ご注意 指定した曜日が範囲外の場合は、エラー信号「##」を送出します。
コントロール終了	#9999	DTMFデータコントロールを終了し、回線を切断します。

データフォーマット（現在状態情報）

1 DTMF データコントロールのデータフォーマット

開始 コード	端子データ 1		端子データ n		終了 コード
	種別コード	情報内容		種別コード	情報内容	
A	BXX	XX..XX	BXX	XX..XX	A

2 端子データ一覧

端子データは、現在状態情報の受信コマンドにより、以下の通りとなります。
なお、『運用』設定《有》の端子について、端子 No の若番から送出します。

受信コマンド	送出情報	システムデータ設定	端子データ	
			種別コード	情報内容 ※2
[#1199]	デジタル入力 001~016 041~048 (※1)	『異常モード』：《メーク・ブレイク》	B11	端子 No(3桁)+状態(2桁)
		『異常モード』：《パルス積算》	B13	端子 No(3桁)+状態(2桁)+積算値(5桁)
		『異常モード』：《時間積算》	B15	端子 No(3桁)+状態(2桁)+積算値(5桁)
[#2199]	アナログ入力 001~008	『端子用途』：《アナログ》	B32	端子 No(3桁)+状態(2桁) +アナログ値(3桁)
[#3199]	デジタル出力 001~008		B91	端子 No(3桁)+状態(2桁)

※1. アナログ入力 001~008 をデジタル入力として利用した場合、DTMF データコントロールでは端子 No041~048 として送出します。

※2. 情報内容は以下の通りです。

- 端子 No (3桁)

通報要因	端子 No (3桁)	
デジタル入力	デジタル端子の場合	001~016 ※:CSDX(P)は008まで
	アナログ端子の『端子用途』が《デジタル》の場合	041~048
アナログ入力	アナログ端子の『端子用途』が《アナログ》の場合	001~008
デジタル出力		001~008 ※:CSDX(P)は004まで

- 状態 (2桁)

通報要因	状態 (2桁)	
デジタル入力	正常	00
	異常	01
	実装異常	09
アナログ入力	しきい値 1~5	正常 X0 (X:1~5)
		異常 X1 (X:1~5)
	実装異常	09
デジタル入力	ON	00
	OFF	01
	実装異常	09

- 積算値 (5桁)

数値：00000~65535

単位：パルス積算の場合(回) 時間積算の場合(10秒)

- アナログ値 (3桁)

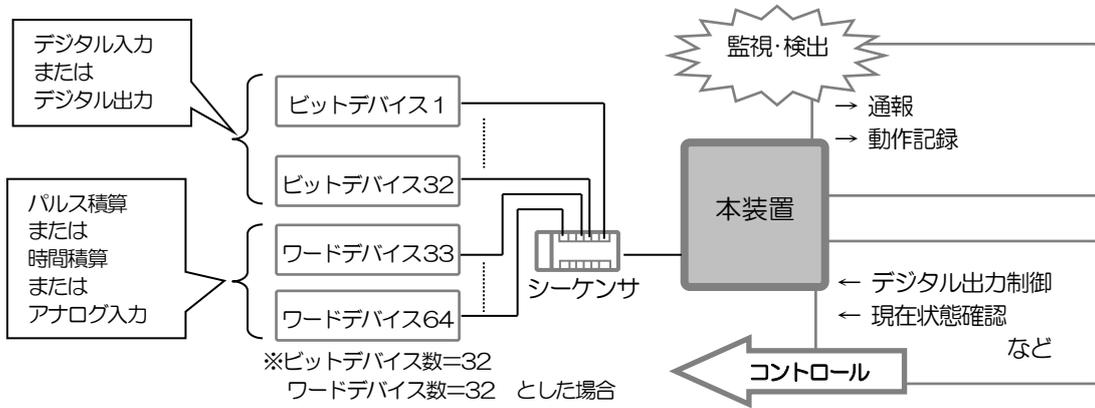
数値：000~255

単位：なし

端子を増設する

本機能は、CSDX (S) のみ対応しています。

本装置は、RS-232C でシーケンサと接続することにより、入出力点数を増設することができます。デジタル入力、アナログ入力、デジタル出力の端子数の合計が最大 64 点まで可能です。



対応シーケンサ

本装置と接続できるシーケンサの条件は下表の通りです。

項目	概要
メーカーおよびシリーズ条件	-
メーカー	三菱電機株式会社
シリーズ名	MELSEC-Aシリーズ MELSEC-Qシリーズ MELSEC-QnAシリーズ MELSEC-FXシリーズ
製品構成条件（上記シリーズにおいて、以下条件を満たす製品を選択してください）	
通信条件	
通信機能	計算機リンク通信機能を有すること
インターフェース	RS-232C
通信速度	最大19200bps
接続形態	1:1形式
対応プロトコル	A互換1Cフレーム（ACPUまたはAnACPU）の形式1または形式4
入出力条件	
増設入出力点数	最大64点（コルソスの増設端子として使用できる最大点数）

※本装置とシーケンサ伝送距離はシーケンサの仕様によります。

設定や工事に関して

- シーケンサの接続について、「本装置を取付ける [シリアルポート機器を接続する](#)」(P155)
- 接続するシーケンサに関する設定について、「データを設定する：設定内容 [シーケンサ共通の設定](#)」(P215)

増設できる端子

本装置はシーケンサとのデータ通信にビットデバイス（内部リレー）およびワードデバイス（データレジスタ）を利用します。

1 デバイス種別に対する端子用途

シーケンサ デバイス種別	端子用途 (設定により選択)	端子数	概要
ビットデバイス (内部リレー)	デジタル入力 (イベント)	合計 64	ポーリングによるシーケンサからのデータ取得 (0/1) により、本装置内蔵のデジタル入力(イベント)と同等の機能を実現します。
	デジタル出力		コンテンションによるシーケンサへのデータ書き込み(0/1)により、制御用要求を行います。
ワードデバイス (データレジスタ)	アナログ入力		ポーリングによるシーケンサからのデータ取得 (アナログ値) により、本装置内蔵のアナログ入力端子と同等の機能を実現します。
	デジタル入力 (パルス積算)		ポーリングによるシーケンサからのデータ取得 (積算値) により、本装置内蔵のデジタル入力(パルス積算)と同等の機能を実現します。
	デジタル入力 (時間積算)		ポーリングによるシーケンサからのデータ取得 (積算値) により、本装置内蔵のデジタル入力(時間積算)と同等の機能を実現します。

※. ワードデバイス (パルス/時間積算値) の積算値クリア要求用として、ビットデバイス (書き込み専用) を設定することができます。上記端子数にカウントせず利用できます。

2 内蔵端子とシーケンサ増設端子の機能相違点

本装置内蔵端子とシーケンサによる増設端子の機能には相違点があります。主な相違点は以下の通りです。

○：可 ×：不可 △：シーケンサのプログラムによる

・デジタル入力について

機能	本装置 内蔵デジタル入力	シーケンサ 増設デジタル入力
初期状態設定など		
検出タイム	○	△
異常モード（メーク/ブレイク）	○	△
本装置での検出方法	上記設定による	ポーリングによる
外部スイッチとしての利用 （通報停止、モード切替）	○	×

・デジタル出力について

機能	本装置 内蔵デジタル出力	シーケンサ 増設デジタル出力
初期状態設定など		
待機状態（メーク/ブレイク）	×（ブレイク固定）	△
出力方式（連続/ワンショット）	○	△
入力連動としての利用		
連動要因：本装置内蔵の入力	○	×
連動要因：本装置システム状態の変化	○	×
連動要因：シーケンサの入力	×	△
通報連動としての利用 （連動要因：シーケンサ含む全ての通報）	○	×

📖 「本装置内蔵端子の機能について、「入力状態などを監視する」(P26)、「デジタル出力を制御する」(P72)をご覧ください。

📖 設定や工事に関して

- ビットデバイス数、ワードデバイス数の設定について、「データを設定する：設定内容 シーケンサ共通の設定」(P215)

本装置のシーケンサからのデータ読み出し処理

本装置は、指定されたポーリング間隔により、各々指定されたビットデバイスの先頭アドレスおよびワードデバイスの先頭アドレスに対して、指定された端子数分、一括読み出しを行います。

1 読み出し方式

ポーリング方式によるデバイス一括読み出し

※.ポーリング間隔：（1/2/3/5/10/15/20/30/60 秒）から選択

2 読み出しデバイス

ビットデバイス（内部リレー：Mxxxx）

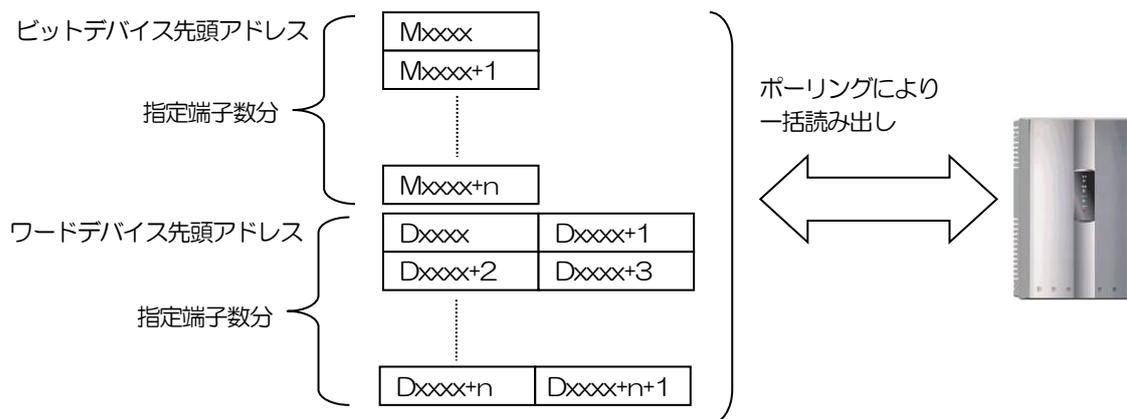
ワードデバイス（データレジスタ：Dxxxx）

※.ビットデバイス、ワードデバイス共に、各々指定された先頭アドレスから指定端子数分

※.積算値クリア用のビットデバイスは、読み出しません。

3 読み出し内容およびデータの取り扱い

読み出し内容		データの取り扱い	
デバイス種別	データ	端子用途設定	内容
ビットデバイス （内部リレー）	0/1	デジタル入力（イベント）	0：正常 1：異常
		デジタル出力	0：OFF 1：ON
ワードデバイス （データレジスタ）	32 ビットデータ	アナログ入力	アナログ瞬時値
		デジタル入力（パルス積算）	パルス積算直（回）
		デジタル入力（時間積算）	時間積算直（秒）



設定や工事に関して

- ビットデバイスの設定について、「データを設定する：設定内容 [ビットデバイスの設定](#)」(P217)
- ワードデバイスの設定について、「データを設定する：設定内容 [ワードデバイスの設定](#)」(P218)

本装置のシーケンサへのデータ書き込み処理

本装置からシーケンサへのデータ書き込みは、デジタル出力の動作要求と積算値クリア要求のみであり、操作ユーザからの要求時、CSDX からシーケンサへ書き込みます。

(データ書き込みは、シーケンサの出力動作や積算値クリアを直接行うものではありません。CSDX 操作ユーザの要求を伝達するのみですので、実際の出力動作や積算値クリア処理は、シーケンサプログラムにて行う必要があります)

1 書き込み方式

コンテンション方式によるデバイス個別書き込み

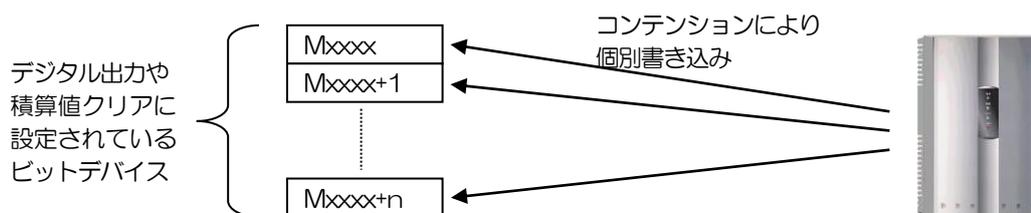
2 書き込みデバイスメモリ

ビットデバイス (内部リレー: Mxxxx)

※. デジタル出力端子および積算値クリアに指定されたアドレス

3 書き込み内容およびデータの意味

書き込み内容		データの意味	
デバイス種別	データ	端子用途設定	内容
ビットデバイス (内部リレー)	0/1	デジタル出力	0 : OFF 要求 1 : ON 要求
		積算値クリア	1 : 積算値クリア要求



設定や工事に関して

- ビットデバイスの設定について、「データを設定する：設定内容 [ビットデバイスの設定](#)」(P217)
- ワードデバイスの設定について、「データを設定する：設定内容 [ワードデバイスの設定](#)」(P218)

参考

ランプ表示 一覧

本装置のランプ表示は、本体カバーを取り付けた状態でも見えるランプと本体カバーを取り外した状態でのみ見えるランプがあります。

一表の見方

- -：不定（装置の状態により、異なります）
- 点滅の後の（ ）内の記号は点滅パターンを表わします。
- A：1秒ON/1秒OFF B：0.2秒ON/0.2秒OFF C：0.04秒ON/0.04秒OFF
- ○内数字は、2つ以上の状態が同時に発生した場合の優先表示順位を表わし、小さい数字の優先順位が高くなります。

1 本体カバーランプ（本体カバーを取り付けた状態でも見えるランプ）

装置の状態	本体カバーランプ			
	POWER (青)	LINE (赤)	MODE (緑)	CHECK (赤)
MAIN・SOFT_SW共にOFF	全て消灯			
MAIN・SOFT_SW共にON時（起動時）	「電源を入れる/切る」(P172)参照。			
電源供給中（電源動作中）	点灯	—	—	—
停電中（停電用電池動作中）	点滅(A)	—	—	—
待機状態	—	消灯	—	—
通報モード：モード1	—	—	点灯	—
通報モード：モード2	—	—	消灯	—
通報モード切替遅延中1→2	—	—	点滅(A)	—
通報モード切替遅延中2→1	—	—	点滅(B)	—
通報起動中（保留含む）	—	点滅(B)②	—	—
アナログポート回線捕捉中(自動応答含む)	—	点灯 ①	—	—
要チェック メンテナンスモード中	—	—	—	点滅(B)①
要チェック 回線断中	—	—	—	点灯 ②
要チェック ユニット実装異常（※1）	—	—	—	点滅(C)③
チェック事項なし	—	—	—	消灯

※1.ユニット実装異常となった場合は、販売店または最寄りの弊社窓口にお問い合わせください。

🔊 「保守メンテナンス アフターサービス」(P292)をご覧ください。

2 本体カバー内ランプ（本体カバーを取り外した状態で見えるランプ）

装置の状態	本体カバー内ランプ	
	CF1,2 (赤)	LAN (緑)
LAN 接続中	—	点灯
CF カードアクセス中	点滅	—

ボタン動作 一覧

本装置のボタンは、全て本体カバーを取り外さないと操作できません。

1 本体カバー内ボタン（本体カバーを取り外して操作できるボタン）

動作	本体カバー内ボタン	
	SET	CANCEL
通報モード 1 または 2 を切り替える	2 秒以上押す	—
回線断警報音(内蔵ブザー)を停止する	—	押す
通報を取り消しする	—	2 秒以上押す
メンテナンスモードにはいる	—	5 秒以上押す

ワンポイント

- 通報モードの切り替えおよび通報取り消しについて、本体カバーを取り外さずに操作したい場合は、外部スイッチを利用してください。
(P32、P48)

工事編

設置工事を実施する

本装置の設置工事内容です。
よくお読みの上、確実な設置工事を実施してください。

設置工事の手順

新規の設置工事は、必ず以下の手順に従って行ってください。
各工事内容は、参照ページをよくお読みの上、確実に実施してください。

設置工事前の確認をする	...	149 ページ
↓		
本装置を取付ける	...	151 ページ
↓		
通信ネットワークを接続する	...	157 ページ
↓		
センサなどの機器を接続する	...	159 ページ
↓		
アースを接続する	...	168 ページ
↓		
電源を接続する	...	169 ページ
↓		
電源を入れる/切る	...	172 ページ
↓		
システムデータを設定する	...	174 ページ
↓		
動作チェックを実施する	...	275 ページ
↓		
運用を開始する	...	277 ページ

設置工事前の確認をする

設置工事の前には、以下のような確認を行ってください。

工事内容の確認

本工事の依頼を受けた時点で、工事内容を十分に確認・把握してください。

- 収容するネットワークは何か？ また、ネットワークの仕様は、問題ないか？
- 接続するセンサなどの周辺装置は何か？ また周辺装置仕様は、問題ないか？
- 供給する電源は何か？ また、電源仕様は、問題ないか？
- 運用内容（システムデータ設定内容）は問題ないか？
- その他

手配品の確認

以下の項目について、手配もれがないか確認してください。

- 本装置に使用する電源ケーブル（本装置添付の電源ケーブルで問題なければ手配の必要はありません）
- 本装置に接続する周辺装置（センサなど）
- 工事用品（治工具、配線ケーブル等）
- その他、本工事に必要な物品

※、電源ケーブル、配線ケーブルについては、各配線の項目をご覧ください。

設置場所の確認

本装置の設置場所は、以下の点を考慮してください。故障、誤動作、変色、変形の原因となります。

項目	設置条件	記事
設置環境	<ul style="list-style-type: none"> ・温度：0～50℃ ・湿度：20～85%（結露しないこと） 	急激な温度、湿度の変化、結露がないこと
設置場所	<ul style="list-style-type: none"> ・直射日光、暖房器具等で高温・多湿にならないこと ・著しく温度が低下しないこと ・振動・衝撃、ゴミ・ホコリが少ないこと ・冠水、薬品類のかかる恐れのないこと ・溶接機・高周波ミシン等電氣的ノイズを発生する物やラジオ・テレビ等高周波信号を扱っている機器が近くにないこと ・保守点検作業に支障がないこと 	薬品類： ガソリン・ベンジン シンナーなど
電源設備	以下、いずれかの電源が24時間常時供給されていること <ul style="list-style-type: none"> ・AC100V±10%（50Hz/60Hz） ・AC200V±10%（50Hz/60Hz） ・DC24V±10% 	
アース	<ul style="list-style-type: none"> ・D種接地（接地抵抗100Ω以下）が実施できること 	

ご注意

通信ネットワークとして「PHS」や「DoPa」「FOMA」の無線網を利用する場合は、必ず設置場所の”電波状況”を調査し、問題のないことを確認してください。

配線方法の確認および配線孔の確保

本装置の配線方法を確認し、本装置の配線孔を確保してください。
配線孔はニッパなどで切断して使用してください。

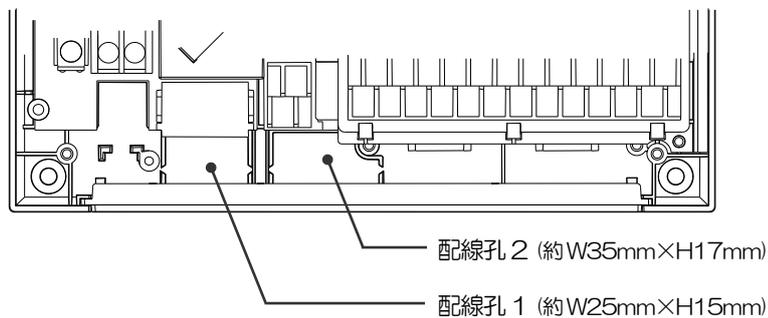
ご注意

- 一度切断してしまうと元に戻りませんので、使用する配線孔を決定してから行ってください。

1 壁内配線の場合

壁内配線孔は、2ヶ所です。

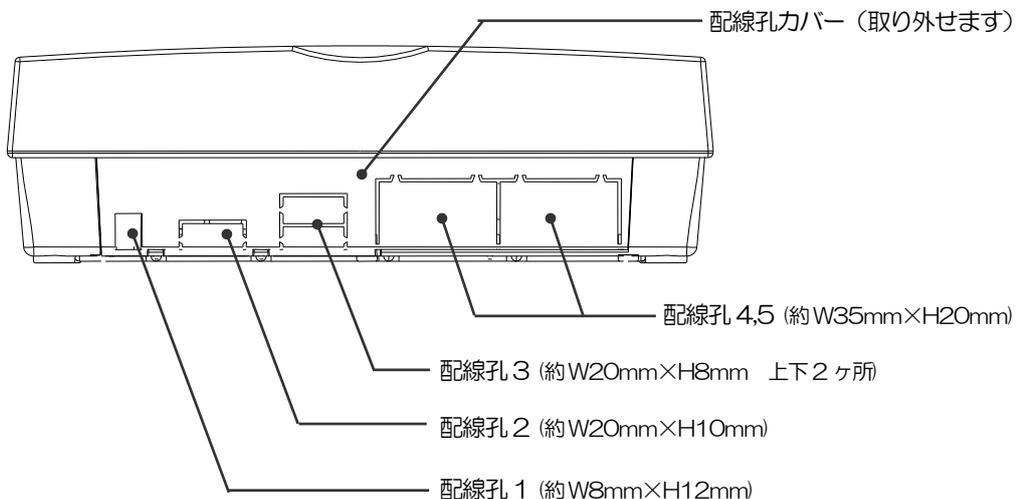
配線孔 1……電源やアース、LINE ケーブルの配線孔として使用してください。
配線孔 2……信号線、LAN ケーブルの配線孔として使用してください。



2 下面配線の場合

下面配線孔は、5ヶ所です。

配線孔 1……電源やアースなどの配線孔として使用してください。
配線孔 2……LINE ケーブルの配線孔として使用してください。
配線孔 3……信号線、LAN ケーブルの配線孔として使用してください。
配線孔 4,5……シリアルケーブルの配線孔として使用してください。



本装置を取付ける

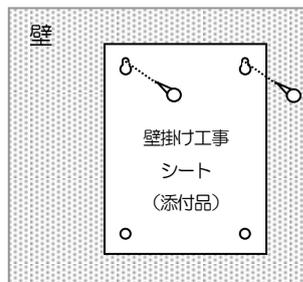
本装置の取り付けは、以下の手順で行ってください。

本装置の取付け

本装置は、下図の要領で壁面に設置してください。

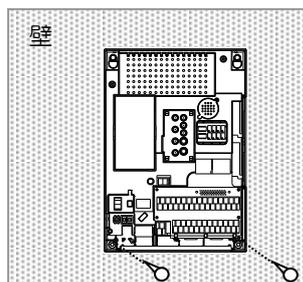
取り付けの際は、添付されている壁掛工事シートおよび木ネジを利用してください。

- 1 本体カバー下部のネジ2箇所をゆるめ、本体カバーを外しておきます。
- 2 壁掛工事シートを壁面に貼付け、取付位置を決めます。装置上部の取付位置に木ネジ2本を、壁面より数mm程度浮かせるようにねじ込みます。



 取り付け寸法図について、「寸法図」(P293)をご覧ください。

- 3 壁掛工事シートを取り除きます。
- 4 装置上部の取付穴を木ネジに合わせて、引っ掛け、装置下部の取付穴に木ネジ2本を、軽くねじ込みます。

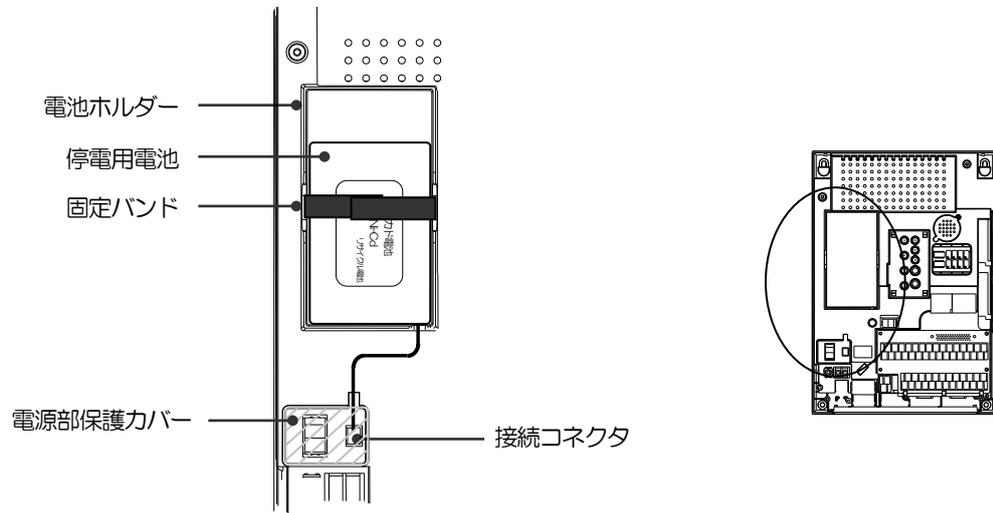


- 5 取り付け位置を再度確認し問題がなければ、上下の木ネジ4本を十分に締め付け固定します。
- 6 本体カバーを取り付け、カバー下部のネジ2箇所を締め付けます。
(続けて以降の設置工事をする場合は、カバーは工事終了時に取り付けてください。)

停電用電池を取り付ける

停電用電池（添付品）は、以下の手順で取り付けてください。

なお、長時間停電用電池（オプション）を取り付ける場合、停電用電池を交換する場合などについては、「保守メンテナンス [停電用電池の交換](#)」(P284)をご覧ください。



1 取付作業

作業は、本体カバーを外して行います。なお、本体カバーの取り外し・取り付けは手順から省略します。

- 1 電源部保護カバーを外します。
- 2 停電用電池を電池ホルダーに収納し、固定バンドで固定します。
- 3 接続コネクタにケーブルを接続し、電源部保護カバーを取り付けます。

ご注意

- コネクタは、確実に接続してください。
- 指定の電池以外は絶対に接続しないでください。
- 完全充電に要する時間は、標準電池(ニカド電池)：48時間以上、長時間電池(ニッケル水素電池)：96時間以上です。従って、電池交換後すぐに停電が起きた場合は、停電保証時間が短くなる場合がありますのでご了承ください。
 なお、MAIN_SW を ON 状態にするまでは (SOFT_SW は依存せず) 充放電されません。(自己放電は除く)
 MAIN_SW が ON で電源供給がある場合は充電され、電源供給が無い場合は放電されます。

CFカードを取り付ける

CFカード（別売）は、以下の手順で取り付けてください。

なお、CFカードの交換方法については、「保守メンテナンス [CFカードの交換](#) (P285) をご覧ください。

ご注意

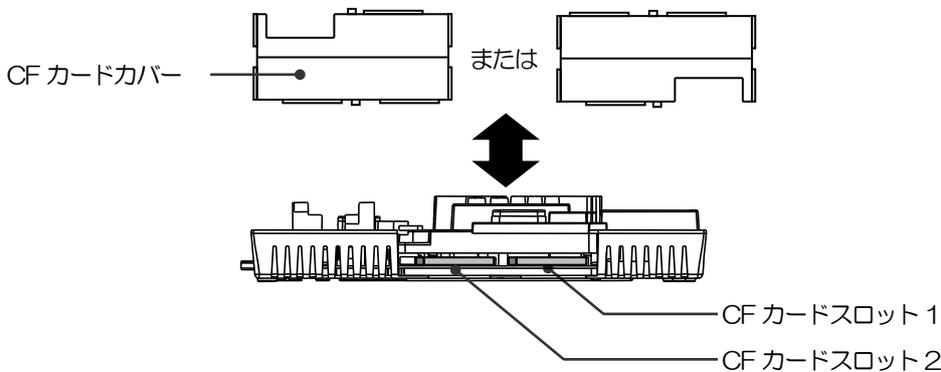
- CFカードは、システムデータ設定（CFカードスロットの設定）を行ってから取り付けてください。
- CFカードは、必ずSOFT_SWをOFF状態で抜き差ししてください。カードの故障原因となります。

1 対応カードおよびスロット

現在対応しているCFカードおよび対応しているスロットは、以下の通りです。

対応カード	概要および品名	対応スロット
メモリカード	コンパクトフラッシュメモリカードです。 履歴の拡張、また帳票作成などを行う場合に必要となります。	スロット2
PHS 通信機器	カードタイプ PHS 通信機器です。本装置の通信ネットワークとして ウィルコム「PHS」を収容する場合に必要となります。	スロット1
DoPa 通信機器	カードタイプ DoPa 通信機器です。本装置の通信ネットワークとして NTT ドコモ「DoPa」を収容する場合に必要となります。	スロット1
FOMA 通信機器	カードタイプ FOMA 通信機器です。本装置の通信ネットワークとして NTT ドコモ「FOMA」を収容する場合に必要となります。	スロット1

📖 カード品名について、「製品について [オプション・関連品/保守用品等](#) (P12) をご覧ください。



2 取付作業

作業は、本体カバーを外して行います。なお、本体カバーの取り外し・取り付けは手順から省略します。

1 システムデータ設定で、『CFカードスロット』の設定を行います。

📖 CFカードスロットの設定について、「データを設定する：設定内容 [CFカードスロットの設定](#) (P185) をご覧ください。

2 SOFT_SWをOFFにします。

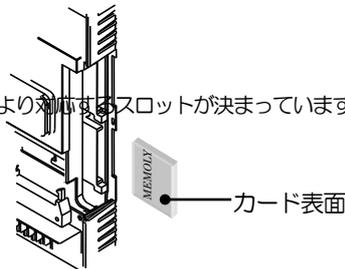
終了処理を行い、しばらくすると全てのランプが消灯状態となります。

3 CFカードカバーを外します。

4 「対応カードおよびスロット」の表を参考に、CFカードの表ラベル面を上にし、スロットに奥まで確実に差し込みます。

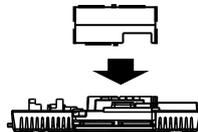
ご注意

- CFカードは、種類により対応するスロットが決まっています。違うスロットに差し込むと正常に動作しません。

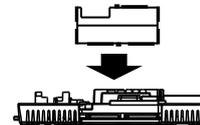


5 CFカードカバーを取付け方向に注意して取り付けます。

スロット1にPHS通信機器またはDoPa通信機器を実装している場合



左記以外の場合



6 SOFT_SWをONにします。

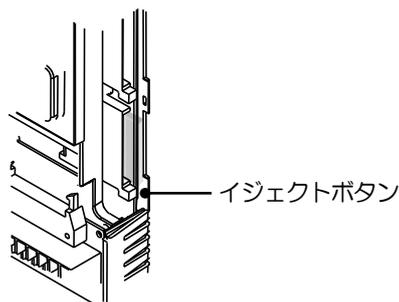
3 取出作業

CFカードを取り出す場合は、必ず手順に従って行ってください。

ご注意

CFカードは誤った取り出し方をすると、カード本体や蓄積されているデータが破壊する可能性があります。必ず手順に従って行ってください。

- 1 SOFT_SWをOFFにします。**
終了処理を行い、しばらくすると全てのランプが消灯状態となります。
- 2 CFカードカバーを外します。**
- 3 イジェクトボタンを押し、CFカードを取り出します。**



シリアルポートに機器を接続する

シリアルポート（D-Sub9 ピン オス）に接続する機器（別売）は、以下の手順で取り付けてください。

ご注意

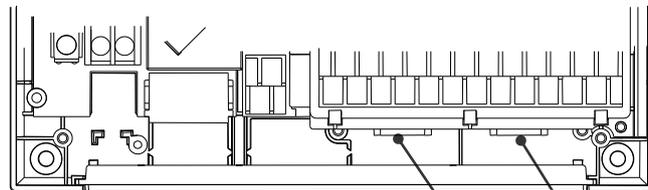
- シリアルポートは、システムデータ設定（シリアルポートの設定）を行ってから取り付けてください。

1 対応機器およびポート

現在対応している機器および対応しているポート、接続ケーブルは、以下の通りです。

対応機器	概要および品名	対応ポート	接続ケーブル
DoPa 通信機器	設置タイプ DoPa 通信用機器です。本装置の通信ネットワークとして NTT ドコモ「DoPa」を収容する場合に必要となります。	ポート 1	RS232C ストレートケーブル (D-Sub9 ピンメス・メス)
FOMA 通信機器	設置タイプ FOMA 通信用機器です。本装置の通信ネットワークとして NTT ドコモ「FOMA」を収容する場合に必要となります。	ポート 1	RS232C ストレートケーブル (D-Sub9 ピンメス・メス)
シーケンサ	監視する端子数を増設したい場合に必要となります。(CSDX(S)のみ)	ポート 2	シーケンサの機種により、異なります。

📖 機器品名について、「製品について オプション・関連品/保守用品等」(P12)をご覧ください。



シリアルポート 2 (D-Sub9 ピン オス)

シリアルポート 1 (D-Sub9 ピン オス)

(参考) シーケンサとの接続例

シーケンサ	本装置	ピン番号
FXD	FXD	2
TXD	TXD	3
RTS	RTS	7
CTS	CTS	8
DTR	DTR	4
DSR	DSR	6
GND	GND	5

※本装置では、DTR、DSR は使用しません。

2 取付作業

作業は、本体カバーを外して行います。なお、本体カバーの取り外し・取り付けは手順から省略します。

1 システムデータ設定で、『シリアルポート』の設定を行います。

📖 シリアルポートの設定について、「データを設定する：設定内容 [シリアルポートの設定](#) (P184)をご覧ください。

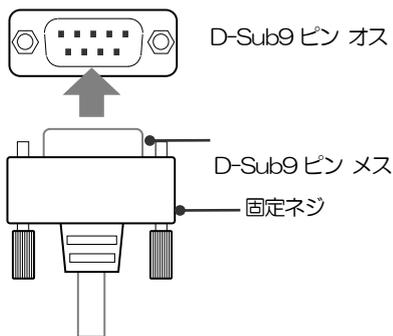
2 SOFT_SWをOFFにします。

終了処理を行い、しばらくすると全てのランプが消灯状態となります。

ご注意

- 機器は、必ずSOFT_SWをOFF状態で取り付け、取り外してください。機器の故障原因となります。

3 「対応機器およびポート」の表を参考に、ケーブルおよび機器を確実に接続します。 ケーブルは固定ネジで固定してください。



ご注意

- シリアルポートは、機器により対応するポートが決まっています。違うポートに差し込むと正常に動作しません。
- 機器側の接続方法、設置方法については、各機器の説明書をご覧ください。

通信ネットワークを接続する

利用する通信ネットワークに合わせ、以下のように接続してください。
通信ネットワークの利用については、「[通信ネットワークを収容する](#)」(P22)をご覧ください。

ご注意

- DoPa や PHS など無線通信を利用する場合、必ず設置場所の電波状況を調査し、問題がないことを確認してください。

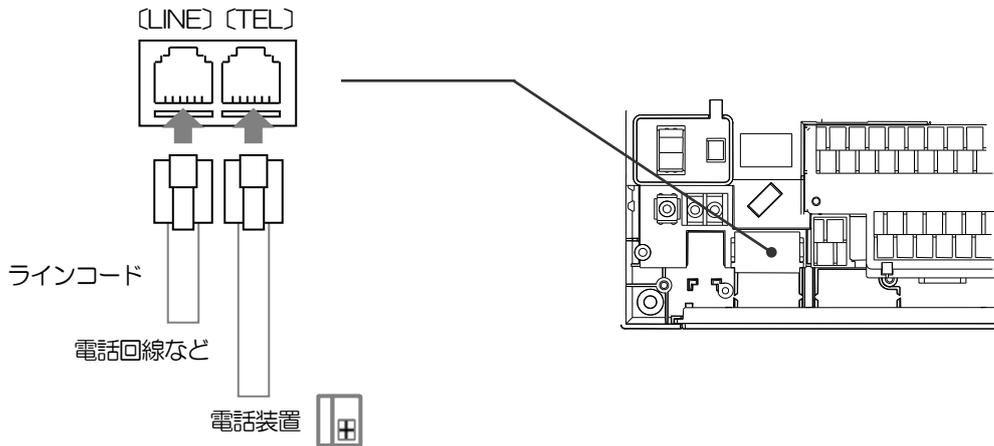
アナログポート利用

本機能は、CSDX (D) は対応していません。

一般電話回線(アナログ)や電話システムや TA、ルータなどのネットワーク機器のアナログポートの収容は、以下のようにモジュラーコネクタにを接続します。

一般電話回線などは〔LINE〕端子、電話装置は〔TEL〕端子に接続します。

接続後は、注意シール(添付品)をラインコードに貼り付けてください。



ご注意

- 電話回線と電話装置は逆に接続しないように十分注意してください。
- 電話回線に他の電話装置をブランチ接続しないでください。
- ナンバーディスプレイ、キャッチホン等の付加サービスを利用すると、正常な動作が妨げられることがあります。
- TA やルータなど接続する場合、下表条件にあったアナログポート搭載機器を使用することを推奨します。下表条件に合わない機器を利用すると正常な動作が妨げられることがあります。また、TA やルータが他装置により回線を使用している場合、本装置の発信ができない場合がありますので、ご注意ください。

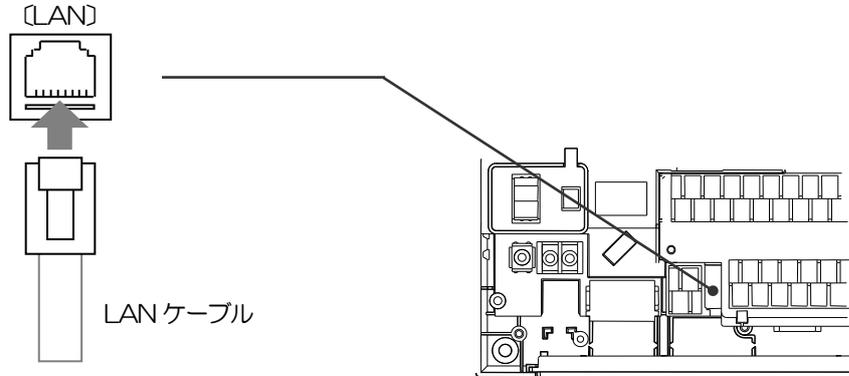
アナログポートの推奨条件

項目	条件	記事	
回線電圧	20~53V	20V未滿で回線断を検出してしまふ場合は、回線断検出なしの設定が可能です。	
着信信号	送出電圧	35~83Vrms	本装置から発信のみの運用では、対象外です。
	周波数	15~20Hz	
	形式	1秒ON/2秒OFF	
極性反転	有り	無い場合、タイマやDTMFによる相手応答検出となります。	
停電動作	1時間保証	本装置は標準バッテリーで1時間の停電保証です。	

LANポート利用

10BASE-T 規格に対応した LAN ポートの収容は、以下のようにモジュラーコネクタ (RJ45 コネクタ) に接続します。

接続後は、注意シール (添付品) を LAN ケーブルに貼り付けてください。



ご注意

- 10BASE-T 規格対応の LAN へ接続してください。
- 本装置の LAN ポート仕様は、下表のようになっておりますので、接続するネットワーク仕様と使用するネットワーク機器をご確認ください。

LANポートの仕様

項目	仕様	記事
対応規格	10BASE-T	
IP アドレス	固定 (DHCP 未対応)	ネットワーク管理者等に確認してください。
PPPoE	未対応	ネットワーク機器で対応してください。

CFカードスロット利用

CF カードスロットには指定の PHS、DoPa、FOMA カードを実装することができます。

CFカードの取付け方法について、「本装置を取付ける [CFカードを取り付ける](#) (P153) をご覧ください。

シリアルポート利用

シリアルポートには指定の DoPa、FOMA 通信機器を接続することができます。

シリアルポートの接続方法について、「本装置を取付ける [シリアルポート機器を接続する](#) (P155) をご覧ください。

センサなどの機器を接続する

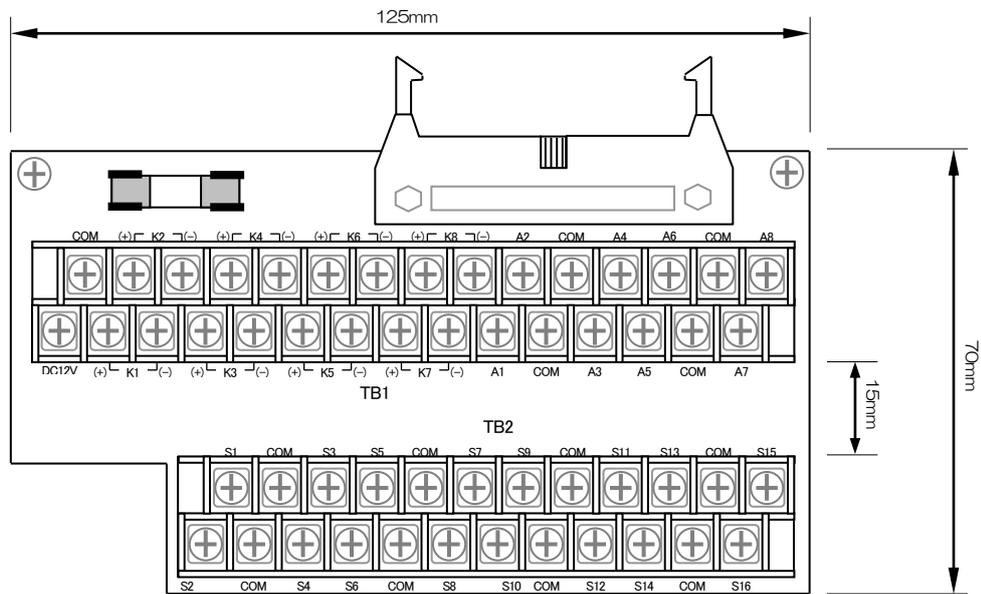
デジタル・アナログセンサや制御機器（デジタル出力制御）は、配線端子ユニットの端子台に接続します。

ご注意

- 配線端子ユニットは、製品により異なります。（デジタル入力・出力端子数が異なります）

配線端子ユニット

1 CSDX/CSDX(S)

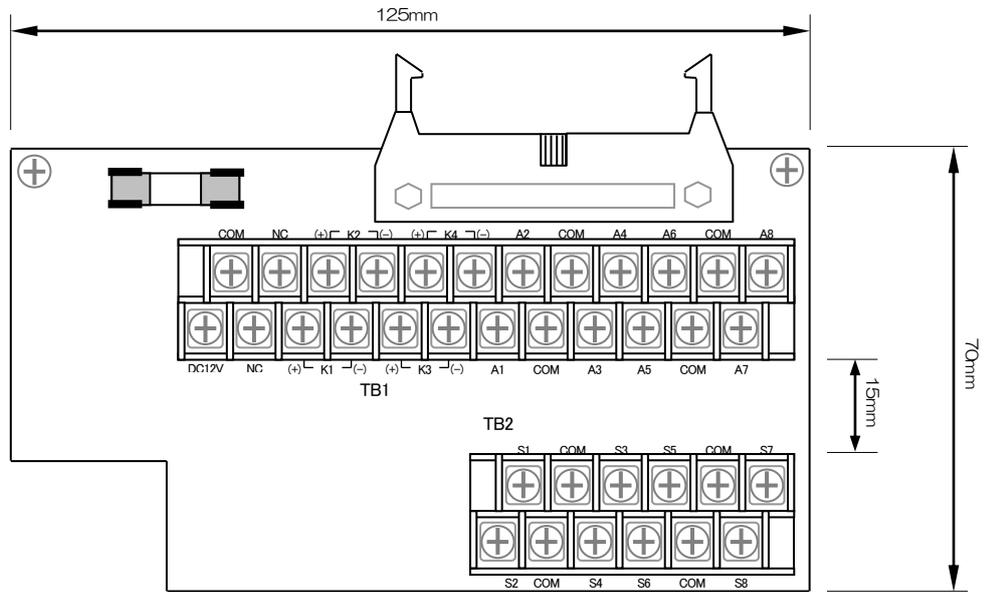


端子台ネジ規格：M3 ネジ

端子台	端子名称	機能	端子台	端子名称	機能
TB2	S1	デジタル入力1	TB1	K3 (+)	デジタル出力3
	S2	デジタル入力2		K3 (-)	
	S3	デジタル入力3		K4 (+)	デジタル出力4
	S4	デジタル入力4		K4 (-)	
	S5	デジタル入力5		K5 (+)	デジタル出力5
	S6	デジタル入力6		K5 (-)	
	S7	デジタル入力7		K6 (+)	デジタル出力6
	S8	デジタル入力8		K6 (-)	
	S9	デジタル入力9		K7 (+)	デジタル出力7
	S10	デジタル入力10		K7 (-)	
	S11	デジタル入力11		K8 (+)	デジタル出力8
	S12	デジタル入力12		K8 (-)	
	S13	デジタル入力13		A1	アナログ入力1
	S14	デジタル入力14		A2	アナログ入力2
	S15	デジタル入力15		A3	アナログ入力3
	S16	デジタル入力16		A4	アナログ入力4
TB1	COM (×8)	コモン	A5	アナログ入力5	
	DC12V	外部電源出力	A6	アナログ入力6	
	COM		A7	アナログ入力7	
	K1 (+)	デジタル出力1	A8	アナログ入力8	
	K1 (-)		COM (×4)	コモン	
	K2 (+)	デジタル出力2			

- COM (コモン) は、全て共通です。

2 CSDX(P)/CSDX(D)



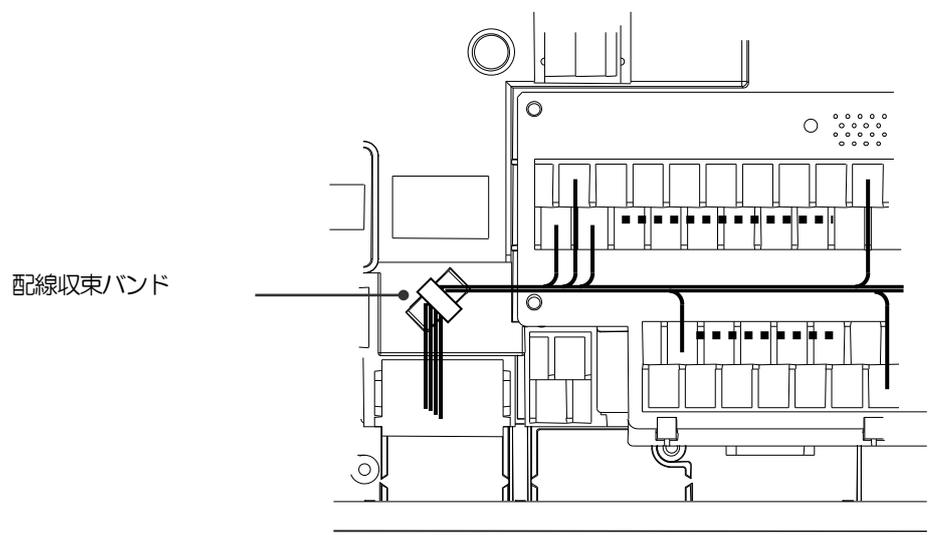
端子台ネジ規格：M3 ネジ

端子台	端子名称	機能	端子台	端子名称	機能
TB2	S1	デジタル入力1	TB1	A1	アナログ入力1
	S2	デジタル入力2		A2	アナログ入力2
	S3	デジタル入力3		A3	アナログ入力3
	S4	デジタル入力4		A4	アナログ入力4
	S5	デジタル入力5		A5	アナログ入力5
	S6	デジタル入力6		A6	アナログ入力6
	S7	デジタル入力7		A7	アナログ入力7
	S8	デジタル入力8		A8	アナログ入力8
	COM (×4)	コモン		COM (×4)	コモン
TB1	DC12V	外部電源出力		NC (×2)	予備端子
	COM				
	K1 (+)	デジタル出力1			
	K1 (-)				
	K2 (+)	デジタル出力2			
	K2 (-)				
	K3 (+)	デジタル出力3			
	K3 (-)				
K4 (+)	デジタル出力4				
K4 (-)					

- COM (コモン) は、全て共通です。
- NCは各々オープンです。

配線の収束

端子台の配線は、下図のように配線収束バンドを利用して、収束してください。



デジタル入力の接続

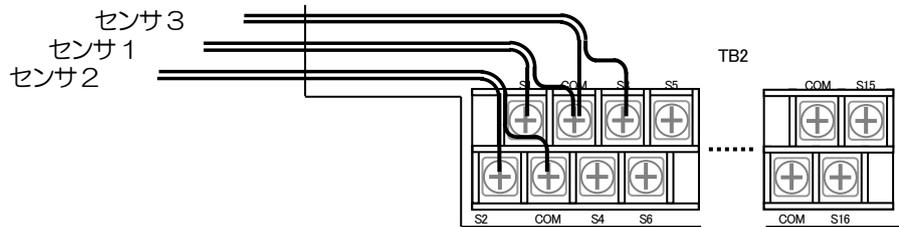
デジタル入力には、無電圧接点出力のセンサや計測器などが接続できます。

1 デジタル入力の主な仕様

項目	仕様				記事
	CSDX	CSDX(P)	CSDX(D)	CSDX(S)	
入力数	16ch	8ch	8ch	16ch	
入力形式	無電圧接点				
絶縁	フォトカプラ絶縁				
入力電流	DC5V 2mA(Typ)				
入力感度	OFF→ON 配線ループ抵抗 200Ω以下 ON→OFF 配線ループ抵抗 10kΩ以上				
コモン	1 コモン/2ch				コモンは全て内部共通
ネジ規格	M3 ネジ				
配線ケーブル	φ0.5~1.6				

2 接続方法

デジタル入力は、TB2 端子の S1~SXX と COM(コモン)間に接続してください。



ご注意

- 通報停止入力として使用する場合は、ノンロック式スイッチを接続してください。誤動作の原因となります。
- モード切替入力として使用する場合は、ロック式スイッチを接続してください。誤動作の原因となります。
- 無電圧接点入力ですので電圧を印加しないでください。故障、誤動作の原因となります。

アナログ入力の接続

アナログ入力には、電圧または電流出力のセンサや計測器および無電圧接点出力のセンサや計測器が接続できます。

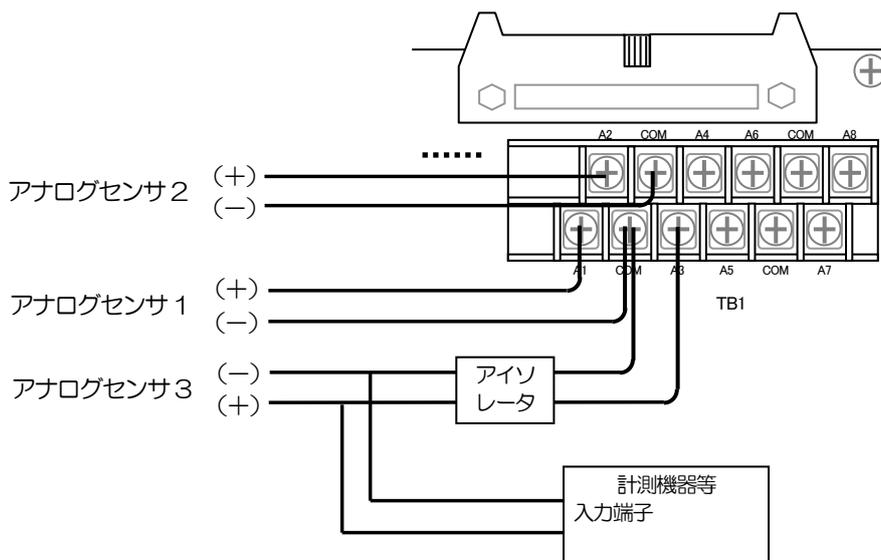
電圧／電流／デジタル（無電圧接点）の切替は、「アナログ入力切替スイッチ」（本体カバー内）で行ってください。また電流使用時は、「アナログ電流調整ボリューム」で入力電流の調整を行うことができます。

1 アナログ入力の主な仕様

項目	仕様	記事
	CSDX/CSDX(P)/CSDX(D)/CSDX(S)	
入力数	8ch	
入力形式	電圧／電流／デジタル入力 切替	本体ディップスイッチおよびシステムデータ設定
絶縁	なし（必要に応じて外部で絶縁してください）	
入力レンジ (アナログ設定時)	電圧：0-5V/1-5V(入力インピーダンス 100kΩ) 電流：0-20mA/4-20mA(入力インピーダンス 250Ω)	システムデータ設定
入力電流 (デジタル設定時)	DC5V 0.5mA(Typ)	
入力感度 (デジタル設定時)	OFF→ON 配線ループ抵抗 200Ω以下 ON→OFF 配線ループ抵抗 10kΩ以上	
コモン	1 コモン/2ch	コモンは全て内部共通
ネジ規格	M3 ネジ	
配線ケーブル	φ0.5~1.6	

2 接続方法

アナログ入力は、TB1 端子の A1~A8 と COM(コモン)間に接続してください。



ご注意

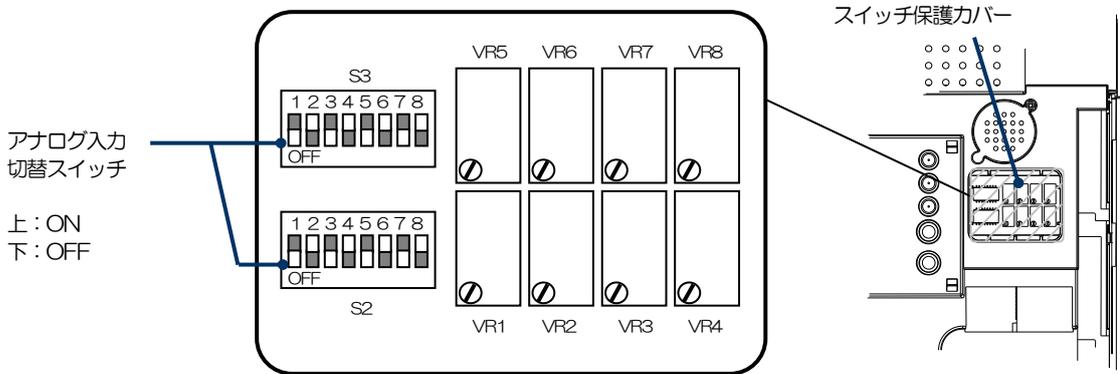
- 本体ディップスイッチの設定は確実に行ってください。誤動作の原因となります。
- アナログ入力時、指定の電圧・電流以上を印加しないでください。故障、誤動作の原因となります。
- アナログ出力機器の1出力に「コルソスのアナログ入力」と「他周辺機器の入力」が並列接続の構成となる場合は、コルソスへの配線にアイソレータを取り付けて絶縁を行ってください。（上記アナログセンサ3参照）
絶縁を行わないと、コルソスの電源OFF時にアナログ出力値が変動しますので、ご注意下さい。

3 アナログ入力切替スイッチの設定

使用用途に合わせ、アナログ入力の切替を以下の通り行ってください。
 ディップスイッチ 2 極 / 1 入力 (計 16 極) で行います。

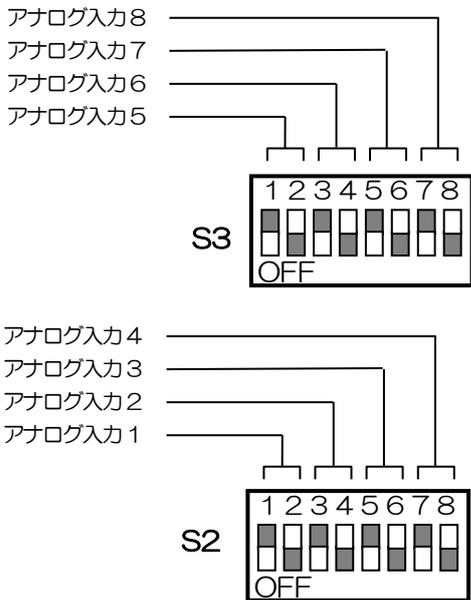
ご注意

- アナログ入力の『端子用途』(システムデータ設定)をスイッチの設定と同じにしてください。一致していないと正常に動作しません。



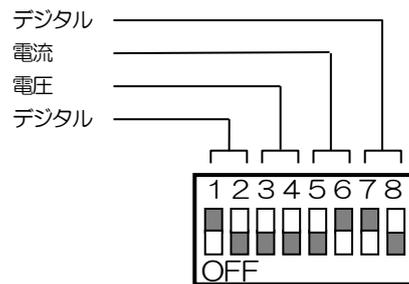
□ スイッチの割り当て

□ スイッチの設定



用途	奇数番号	偶数番号
デジタル	ON	OFF
電圧	OFF	OFF
電流	OFF	ON

設定例



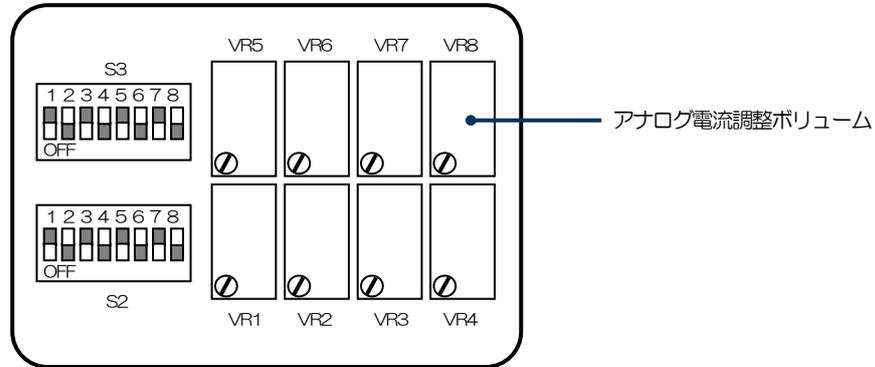
- 1 スイッチ保護カバーを外します。
- 2 上図に従って、アナログ入力切替スイッチを設定します。
- 3 スイッチ保護カバーを取り付けます。電流に設定した場合は、電流調整を行ってから取り付けてください。

4 アナログ電流調整ボリュームの調整方法

アナログ入力を電流入力として使用する場合、以下の手順で調整を行ってください。

ご注意

- 電流調整は、電源を入れた後に実施してください。



1 パソコンのブラウザを起動し、本装置にアクセスして「CSDXブラウザコントロールページ」を表示、管理者またはユーザ用ID・パスワードでログインします。

📖 「CSDXブラウザコントロールページ」のアクセス方法について、「コントロールする: ブラウザ ブラウザコントロールの準備~ブラウザコントロールを開始する」(P89~94)をご覧ください。

2 メニューの「システムデータ設定」をクリックし、調整するアナログ入力の設定を以下のように設定します。

『検出モード』 : 《電流 0-20mA》または《電流 4-20mA》
 『計算式』 : \$FORM(\$VALUE, "%u") ※. 計算式の設定は、調整後に設定変更してください。

📖 システムデータ設定について、「データを設定する: 共通設定方法」(P174)、またアナログ入力の設定について、「データを設定する: 設定内容 アナログ入力の設定」(P201)をご覧ください。

3 調整するアナログ入力端子に接続している機器より、2項で設定した『検出モード』に応じて、以下の電流値を入力します。

《電流 0-20mA》の場合 : 10mA
 《電流 4-20mA》の場合 : 12mA

4 メニューの「現在状態」をクリックします。現在状態画面の情報欄に調整するアナログ入力のアナログ値(500前後)が表示されていることを確認します。

📖 「現在状態」の表示方法について、「コントロールする: ブラウザ 現在の入力状態などを表示する」(P98)をご覧ください。

5 電流調整ドライバー(添付品)を利用してボリュームを少し回し、現在状態画面の「最新の状態を表示する」ボタンを押します。調整後のアナログ値や計算値が表示されます。本項を繰り返し行い、アナログ値が[511~512]付近となるように調整します。

ご注意

- ボリュームを調整しても、現在状態画面のアナログ値は自動的に変化しません。ボリューム調整後、必ず「最新の状態を表示する」ボタンを押してください。

6 電流値を最大(20mA)および最小(4mAまたは0mA)にした時のアナログ値をメモなどしてください。計算式や帳票の設定時に使用する場合があります。

20mA時: 1023 付近、 4mA または 0mA 時: 0 付近 となります。

デジタル出力の接続

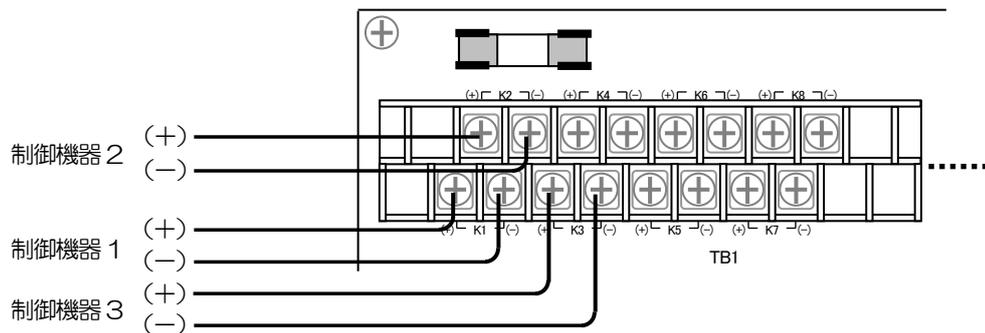
デジタル出力には、スイッチで制御できる機器が接続できます。

1 デジタル出力の主な仕様

項目	仕様				記事
	CSDX	CSDX(P)	CSDX(D)	CSDX(S)	
出力数	8ch	4ch	4ch	8ch	
入力形式	トランジスタ出力				
絶縁	フォトカプラ絶縁				
ヒューズ	なし				
定格負荷電圧	DC30V				
最大負荷電流	100mA/1ch				
コモン	全点独立				
ネジ規格	M3 ネジ				
配線ケーブル	φ0.5~1.6				

2 接続方法

デジタル出力は、TB1 端子の K1~KXX に接続してください。



ご注意

- 極性 (+/-) に注意して、配線してください。
- 最大負荷電流以上の電流を流さないでください。誤動作の原因となります。
- 最大負荷電流以上の電流が流れる恐れのある場合は、外部にヒューズなどを接続してください。

外部電源出力の接続

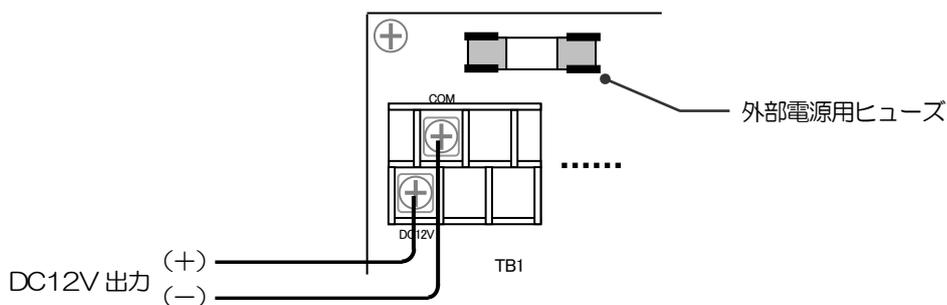
外部電源出力は、DC12V を常時出力しています。

1 外部電源出力の主な仕様

項目	仕様	記事
	CSDX/CSDX(P)/CSDX(D)/CSDX(S)	
出力数	1ch	
ヒューズ	あり	250V/0.1A(5×20mm)
出力電圧	DC12V±10%	
最大出力電流	100mA	
ネジ規格	M3ネジ	
配線ケーブル	φ0.5~1.6	

2 接続方法

外部電源出力は、TB1 端子の DC12V-COM 間に接続してください。



ご注意

- 最大出力電流以上の電流を消費する機器を接続しないでください。最大出力電流以上の電流を消費するとヒューズが溶断し、電源出力は停止します。

アースを接続する

本装置には、以下の接地工事を必ず実施してください。
 なお、接地工事は必ず電源供給を開始する前に行ってください。

⚠ 警告

- アースの接続は、電源供給が停止していることを確認してから行ってください。火災、感電、故障の原因となります。

1 接地工事・・・D種接地工事（接地抵抗100Ω以下）

注意

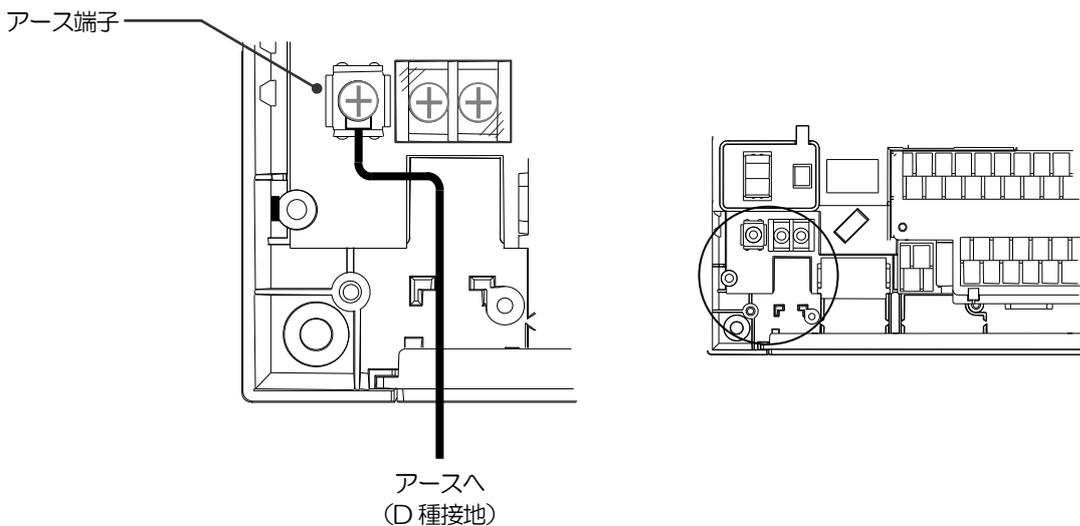
- 接地工事を実施しないと、周囲環境などの影響を受けやすくなります。誤動作の原因となりますので、必ず実施してください。

2 アース端子の主な仕様

項目	仕様	記事
	CSDX/CSDX(P)/CSDX(D)/CSDX(S)	
ネジ規格	M4 ネジ	
配線ケーブル	φ1.0~1.6	

3 接続方法

アース線を下図の端子に接続してください。

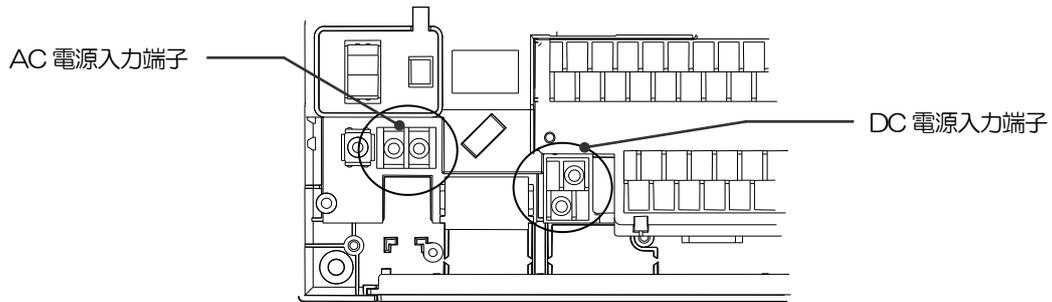


電源を接続する

電源は、以下のいずれかを使用し、各々指定の端子に接続してください。

AC電源 100V±10%/AC200V±10% (50Hz/60Hz)

DC電源 24V±10%



警告

- AC電源とDC電源の接続端子は異なります。両方を同時に接続・使用することはできません。火災、感電、故障の原因となります。
- 電源の接続は、電源供給が停止していることを確認してから行ってください。火災、感電、故障の原因となります。

AC電源の接続

1 AC電源入力的主要仕様

項目	仕様	記事
	CSDX/CSDX(P)/CSDX(D)/CSDX(S)	
入力電圧	AC100V±10%/AC200V±10% (50Hz/60Hz)	
ヒューズ	あり (AC線両切り)	内蔵 交換不可
端子台ネジ規格	M3ネジ (端子カバー付き)	
配線ケーブル	φ1.0~1.6	

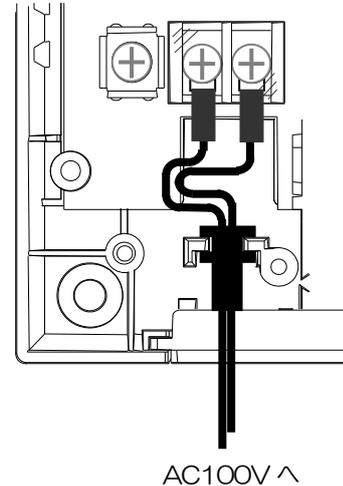
2 接続方法

接続方法は、使用する電源や電源ケーブルにより異なります。接続方法を選択し、各々の接続方法をご覧ください。

2-1 装置実装の電源ケーブルで接続（AC100V用）

装置に実装されている電源ケーブルで接続できる電源はAC100Vのみです。
以下の手順で接続してください。

- 1 MAIN_SW・SOFT_SWが両方ともOFF側であることを確認します。
- 2 電源ケーブルをAC100Vコンセントに差し込みます。



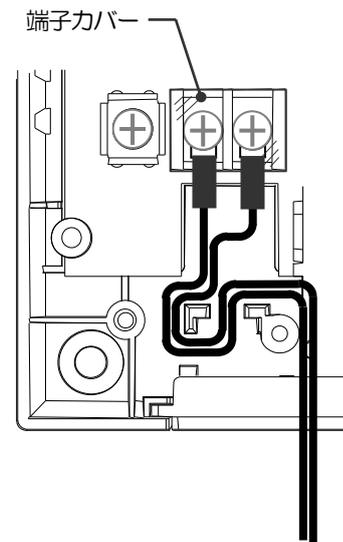
2-2 他のケーブルで接続

装置に実装されている電源ケーブルを使用せずにAC100Vに接続する場合は、AC200Vを使用する場合は、以下の手順で接続してください。

⚠ 警告

- 接続後は、端子カバーを必ず取り付けてください。火災、感電、故障の原因となります。
- AC200V使用の場合、契約する電力会社の電力契約約款などを確認してください。

- 1 MAIN_SW・SOFT_SWが両方ともOFF側であることを確認します。
- 2 端子カバーを外し、実装されている電源ケーブルを外します。
- 3 用意したケーブルをAC入力端子に接続し、図のようにケーブルを引き回します。
引っ張りや引っ掛けによるAC線の抜けを防止します。
- 4 電源ケーブルをAC100VまたはAC200V電源に接続します。



AC100V または 200V へ

DC電源の接続

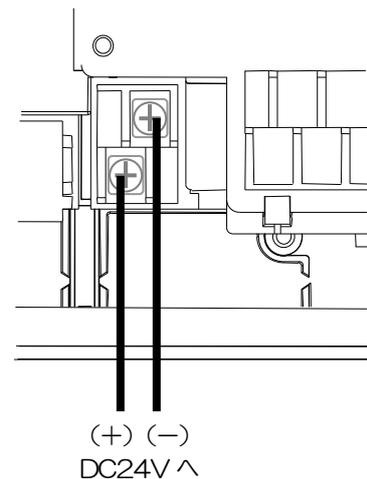
1 DC電源入力の主な仕様

項目	仕様	記事
	CSDX/CSDX(P)/CSDX(D)/CSDX(S)	
入力電圧	DC24V±10%	
ヒューズ	あり (DC+線切り)	内蔵 交換不可
端子台ネジ規格	M3 ネジ	
配線ケーブル	φ1.0~1.6	

2 接続方法

DC電源は、下図の端子に接続してください。

- 1 MAIN_SW・SOFT_SWが両方ともOFF側であることを確認します。
- 2 AC端子に接続されている電源ケーブルを外します。
- 3 用意したケーブルをDC入力端子に接続します。
- 4 電源ケーブルをDC24V電源に接続します。



電源を入れる／切る

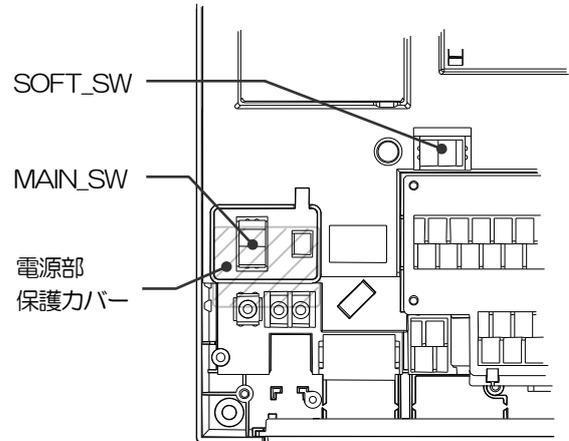
本装置には、「MAIN_SW」と「SOFT_SW」があります。
本内容をよくお読みの上、各スイッチの用途を十分に把握し、適切な電源入／切を実施してください。

MAIN_SW

本装置への電源供給をON（入）/OFF（切）するスイッチです。
MAIN_SWは、緊急の場合を除き、SOFT_SWをOFF状態で操作してください。

SOFT_SW

MAIN_SWがON状態において、装置をON（起動）/OFF（シャットダウン）するスイッチです。
スイッチOFF時には、シャットダウン処理を行い、装置を正常に終了します。



電源を入れる（装置を起動する）

電源を入れる場合は、以下のような確認を行い、手順に従って行ってください。

1 電源を入れる前の確認

- 電源線の配線に問題はないか？
- 電源は供給されているか？
- その他配線に問題はないか？

2 電源を入れる

1 電源部保護カバーを外します。

2 MAIN_SWをONにし、電源部保護カバーを取り付けます。

MAIN_SWの取り扱いを間違えるとCFカードやデータの故障原因となります。スイッチON後は、すぐに保護カバーを取り付けてください。

3 SOFT_SWをONにします。以下のようになることを確認してください。

スイッチONから約3秒後、
「ピッピッ」音が鳴り、全てのランプが点灯（約5秒）



POWER ランプのみ点灯



CFカード2アクセスランプ点滅（1秒～約150秒）
※ 履歴をメモリカードに記録している場合のみです。
CSDX(SI)の場合、1秒～約180秒です。
点滅時間は、履歴件数により異なります。



MODE ランプが点灯（※1）

※1. 初期（出荷状態）立ち上げ時です。
運用中の再起動の場合は、システムデータ設定内容、センサなどの入力状態、アナログ回線状態などにより、MODEランプがすぐに消えたり、他のランプが点灯する場合があります。

📖 「参考 ランプ表示一覧」(P145)

電源を切る（装置をシャットダウンする）

電源を切る場合は以下のような確認を行い、手順に従って行ってください。

注意

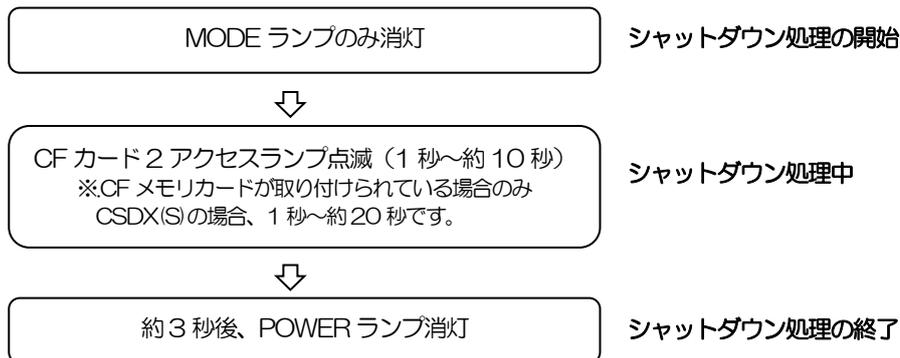
電源を切る場合は緊急時を除き、SOFT_SW を先に OFF してください。
SOFT_SW を OFF せずに MAIN_SW を OFF すると、シャットダウン（終了）処理が行えません。
定時記録データが一部消え、帳票などに影響が発生します。また、装置、CF カードおよびデータの故障原因となります。

1 電源を切る前の確認

- 通報が起動（LINE ランプが点灯や点滅）していないか？
- 装置 OFF 時は監視データも記録できないが、日報・月報への影響は問題ないか？

2 電源を切る

- 1 SOFT_SWをOFFにします。以下のようになることを確認してください。



- 2 必要に応じて、電源部保護カバーを外し、MAIN_SWをOFFにします。

※.以下のような場合には、MAIN_SW を OFF にしてください。

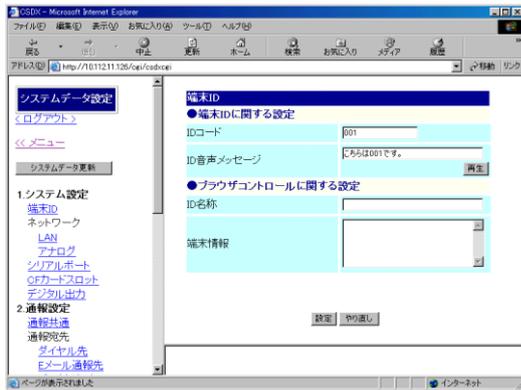
- 本装置を取り外す。
- 配線のメンテナンスを行う。

データを設定する：基本操作

本装置のシステムデータおよび通報メッセージなどの設定は、本装置に内蔵されている「CSDX ブラウザコントロールページ」内で行います。

パソコンのブラウザを起動し、本装置にアクセスすると「CSDX ブラウザコントロールページ」を表示します。

オンサイト(現場)およびオンライン(遠隔)で設定が行えます。



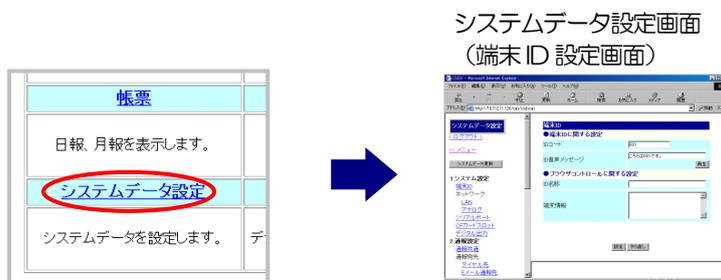
システムデータ設定の手順

システムデータ設定は、必ず以下の手順で行ってください。以下の手順で行わないと正しく設定されません。

- 1 パソコンのブラウザを起動し、本装置にアクセスして「CSDXブラウザコントロールページ」を表示、管理者用ID・パスワードでログインします。

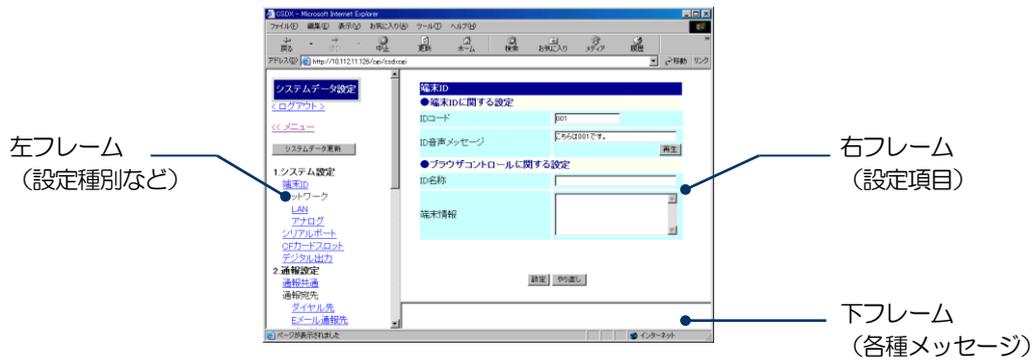
📖 「CSDXブラウザコントロールページ」のアクセス方法について、「コントロールする：ブラウザ ブラウザコントロールの準備～ブラウザコントロールを開始する」(P89～94)をご覧ください。

- 2 メニュー画面のシステムデータ設定をクリックします。
システムデータ設定画面(端末ID設定画面)が表示されます。

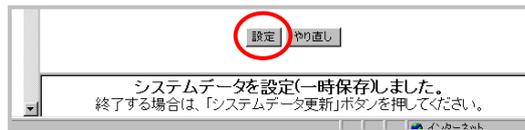


3 左のフレームより設定種別を選択すると、右フレームに設定項目が表示されます。各項目の設定を行い「設定」ボタンを押します。そのページの設定に問題がなければ、しばらくすると画面が切り替わり、一時保存した旨のメッセージが表示されます。

本項を繰り返し行い、各種設定を行います。



設定ボタンを押すと・・・



各設定項目について、「データを設定する：設定内容」(P180)をご覧ください。

ご注意

- 「設定」ボタンを一定時間（『再ログイン要求タイマ』間）押さないと、自動的にログアウトします。設定変更にかかる場合（帳票設定などを行う場合）は、定期的に「設定」ボタンを押すか、一時的に『再ログイン要求タイマ』を長めに変更するなどしてください。
- 再ログイン要求タイマの設定について、「データを設定する：設定内容 ブラウザコントロールの設定」(P225)をご覧ください。
- 設定に問題があると、各種エラー画面が表示されます。「OK」ボタンを押し、エラー表示に従って修正し、再度「設定」ボタンを押してください。

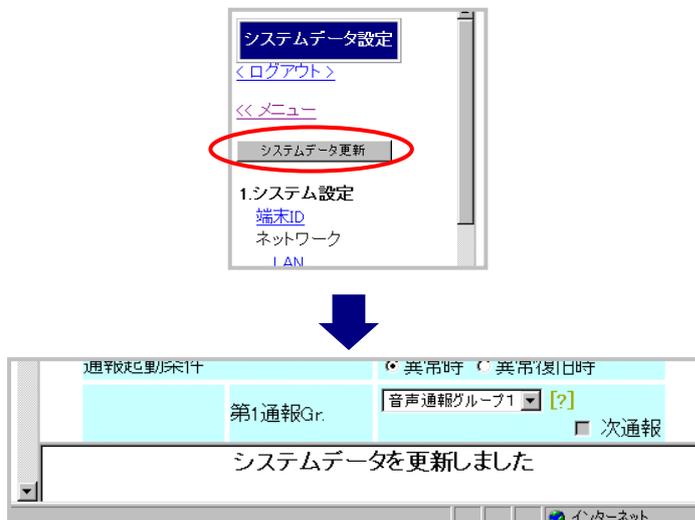


- 「設定」ボタンを押さずに、違う設定種別を選択したりメニューに戻った場合は、設定は一時保存されません。（設定変更前の設定値となります。）

ワンポイント

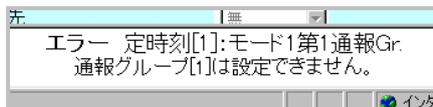
- システムデータファイルがある場合、システムデータをPCやCFメモリカードからアップロードすることもできます。
- 「データを設定する：セーブ/ロードする」(P267)をご覧ください。
- システムデータの設定がうまくできない場合は、「参考 データ設定がうまくできなかったら」(P278)をご覧ください。

- 4** 全ての設定が終了したら、最後に左フレームの「システムデータ更新」ボタンを押します。システムデータの整合性をチェックし、問題なければ下フレームにシステムデータを更新した旨のメッセージが表示されます。



ご注意

- 整合性チェックで問題があると、下フレームに「設定エラー：設定項目 A：設定項目 B」と表示されます。その場合は、A,B どちらかの設定項目を正しく設定し直し、再度「システムデータ更新」ボタンを押してください。



- 「システムデータ更新」ボタンを押さずに、メニューに戻ったり、ログアウトした場合は、「システムデータ更新確認画面」が表示されません。

5 必要に応じて、システムデータのバックアップを取ります。

📖 「データを設定する：セーブ/ロードする」(P267)をご覧ください。

ご注意

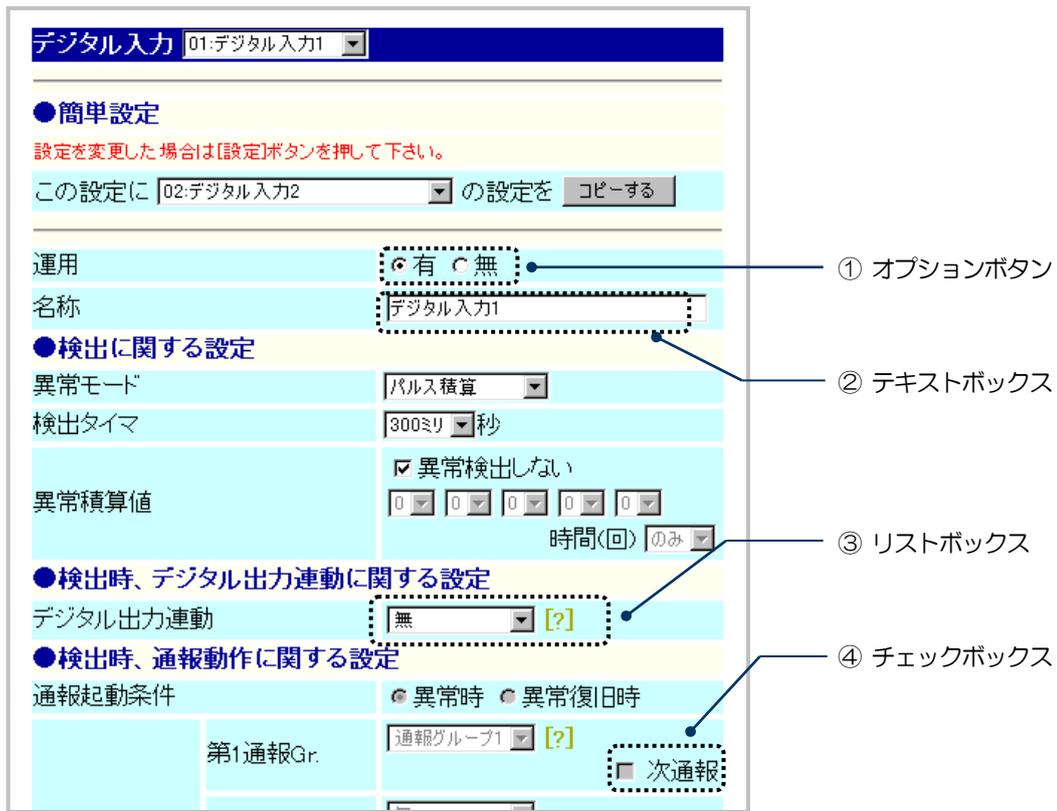
- 設定種別には、設定変更後、本装置を再起動しないと設定が有効とならない設定種別があります。
- その種別を変更した場合は、ブラウザコントロール終了後に本装置を再起動してください。
- 再起動が必要な種別は、「シリアルポートの設定」「CFカードスロットの設定」です。この種別を変更した場合、システムデータ更新時に再起動を促すアラートが表示されます。「OK」ボタンを押し、ブラウザコントロール終了後に本装置を再起動してください。



- 本装置の再起動について、「電源を入れる/切る」(P172)をご覧ください。

設定値の設定や入力の方法

システムデータ設定のページでは、設定項目により以下のような設定方法が使用されています。



① オプションボタン

ボタンをクリックし、設定値を選択します。

② テキストボックス

ボックスをクリックし、キーボードで文字などを入力します。
 なお、マウスをボックスの上に移動すると入力できる最大文字数が表示されます。

使用条件付文字 一覧

文字	内容	使用条件 等
半角カタカナ		音声メッセージ設定部以外での使用禁止
& (半角)	アンド	マクロ書式以外での使用禁止
“ “ (半角)	ダブルコーテーション	
< > (半角)	タグマーク	
特殊記号	キーボードで直接入力できない記号	ブラウザにより文字化けする場合あり

📖 音声メッセージで使用できる文字について、「データを設定する：共通設定方法 音声メッセージの設定方法」(P234)をご覧ください。

③ リストボックス

矢印をクリックして、リストから設定値を選択します。リストにない値は設定できません。
 なお、リストボックス横にある[?]の上にマウスを移動すると、設定に関するヒントが表示されます。

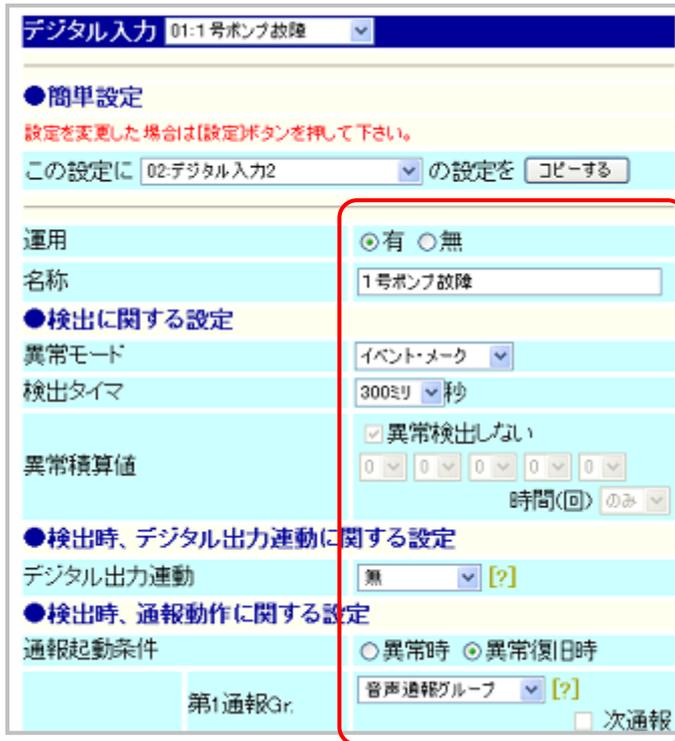
④ チェックボックス

ボックスをクリックし、設定項目の有効（チェックマーク）または無効（マークなし）を選択します。

簡単設定について

デジタル入力やアナログ入力のように複数の要素がある設定で、他の要素の設定内容をコピーすることができます。

1 基準となる要素を設定します。



デジタル入力 01:1号ポンプ故障

●簡単設定
設定を変更した場合は[設定]ボタンを押して下さい。

この設定に 02:デジタル入力2 の設定を コピーする

運用 有 無

名称 1号ポンプ故障

●検出に関する設定

異常モード イベント・マーク

検出タイマ 300ミリ秒

異常検出ししない

異常積算値 0 0 0 0 0 時間(回)のみ

●検出時、デジタル出力連動に関する設定

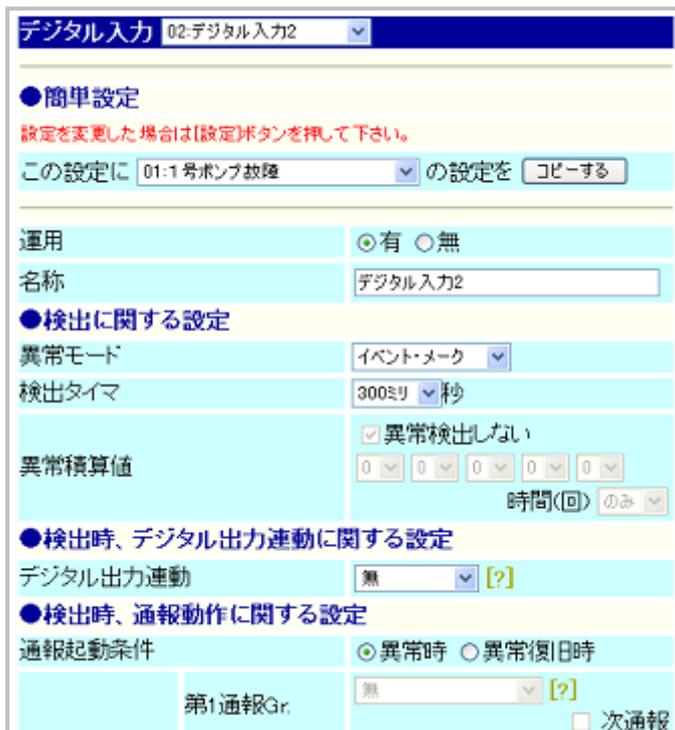
デジタル出力連動 無 [?]

●検出時、通報動作に関する設定

通報起動条件 異常時 異常復旧時

第1通報Gr. 音声通報グループ [?] 次通報

2 類似の設定をしたい要素の設定画面を開きます。



デジタル入力 02:デジタル入力2

●簡単設定
設定を変更した場合は[設定]ボタンを押して下さい。

この設定に 01:1号ポンプ故障 の設定を コピーする

運用 有 無

名称 デジタル入力2

●検出に関する設定

異常モード イベント・マーク

検出タイマ 300ミリ秒

異常検出ししない

異常積算値 0 0 0 0 0 時間(回)のみ

●検出時、デジタル出力連動に関する設定

デジタル出力連動 無 [?]

●検出時、通報動作に関する設定

通報起動条件 異常時 異常復旧時

第1通報Gr. 無 [?] 次通報

3 基準とする要素を選択し、「コピーする」ボタンをクリックします。設定内容がコピーされます。

デジタル入力 02-デジタル入力2

●簡単設定
設定を変更した場合は[設定]ボタンを押して下さい。

この設定に 01:1号ポンプ故障 の設定を

運用 有 無

名称 1号ポンプ故障

●検出に関する設定

異常モード イベント・マーク

検出タイム 300ミリ秒

異常積算値 異常検出しない
0 0 0 0 0
時間(回)のみ

●検出時、デジタル出力連動に関する設定

デジタル出力連動 無 [?]

●検出時、通報動作に関する設定

通報起動条件 異常時 異常復旧時

第1通報Gr. 音声通報グループ [?] 次通報

4 変更箇所を変更し、「設定」ボタンをクリックし、設定を一時保存します。

デジタル入力 02-2号ポンプ故障

●簡単設定
設定を変更した場合は[設定]ボタンを押して下さい。

この設定に 01:1号ポンプ故障 の設定を

運用 有 無

名称 2号ポンプ故障

●検出に関する設定

異常モード イベント・マーク

検出タイム 300ミリ秒

異常積算値 異常検出しない
0 0 0 0 0
時間(回)のみ

●検出時、デジタル出力連動に関する設定

デジタル出力連動 無 [?]

●検出時、通報動作に関する設定

通報起動条件 異常時 異常復旧時

第1通報Gr. 音声通報グループ [?] 次通報

ご注意

- 「設定」ボタンを押さずに、違う設定種別を選択したり、メニューに戻った場合は、設定は一時保存されません。（設定変更前の設定値となります。）
- 「やり直し」ボタンを押した場合、コピー後の設定値まで戻ります。（コピー前の設定値までは戻りません。）

データを設定する：設定内容

システムデータを設定するにあたっては、各種別の内容を良くお読みの上、設定してください。

注意

本項の設定内容については、シリーズ共通で記載していますので、製品によっては表示されない設定内容があります。ご了承ください。

例えば、設定項目『通報方式』の設定内容は、<音声>/<データ・Eメール>/<FAX>/<DTMF>と記載されていますが、CSDX(D)では<音声>は表示されない など。

設定種別一覧

設定種別	概要	参照
1.システム設定		
端末IDの設定	本装置の端末IDに関する設定	P181
ネットワーク		
LANポートの設定	LANポートに関する設定	P182
アナログポートの設定	アナログポートに関する設定	P183
シリアルポートの設定	シリアルポートに関する設定（要再起動）	P184
CFカードスロットの設定	CFカードスロットに関する設定（要再起動）	P185
デジタル出力の設定	各デジタル出力に関する設定	P186
2.通報設定		
通報共通の設定	通報動作に関する共通事項の設定	P188
通報宛先		
ダイヤル先の設定	音声通報先やダイヤルアップ先の電話番号設定	P190
Eメール通報先の設定	Eメール通報先のEメールアドレス設定	P191
データ通報先の設定	データ通報先のIPアドレス設定	P191
通報グループの設定	通報グループの設定	P192
3.起動要因設定		
デジタル入力の設定	各デジタル入力に関する設定	P197
アナログ入力の設定	各アナログ入力に関する設定	P201
定時刻の設定	各定時刻に関する設定	P206
停電・復電の設定	停電・復電に関する設定	P208
ローバッテリーの設定	電池動作中のローバッテリーに関する設定	P210
モード切替の設定	通報モード切替えに関する設定	P212
シーケンサ共通の設定	シーケンサに関する共通設定	P215
ビットデバイスの設定	ビットデバイスに関する設定	P217
ワードデバイスの設定	ワードデバイスに関する設定	P218
4.コントロール設定		
自動応答		
アナログ応答の設定	アナログポートの自動応答に関する設定	P220
PHS応答の設定	PHSの自動応答に関する設定	P221
DoPa/FOMA応答の設定	DoPa/FOMAの自動応答に関する設定	P222
DTMFコントロールの設定	DTMFコントロールに関する設定	P223
データコントロールの設定	データコントロールに関する設定	P224
ブラウザコントロールの設定	ブラウザコントロールに関する設定	P225
5.帳票設定		
日報スタイルの設定	日報帳票のスタイルに関する設定	P226
列設定（日報）	日報帳票の列に関する設定	P227
月報スタイルの設定	月報帳票のスタイルに関する設定	P228
列設定（月報）	月報帳票の列に関する設定	P229
異常帳票スタイルの設定	FAX異常帳票のスタイルに関する設定	P230
現在状態帳票スタイルの設定	FAX現在状態帳票のスタイルに関する設定	P231

端末IDの設定

本装置の端末IDなどを設定します。

【設定名称】システム設定_端末ID 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要
端末IDに関する設定			
IDコード	0~9 (半角のみ Max12桁)	001	データ通信やEメール、FAX通報時に送出、表示。 *1
ID音声メッセージ	文字 (Max半角127文字)	**	音声通報やDTMF音声コントロール起動時のメッセージ。 *2
ブラウザコントロールに関する設定			
ID名称	文字 (Max半角31文字)	未設定	「CSDXブラウザコントロールページ」内、各ページに表示。 *3
端末情報	文字 (Max半角255文字)	未設定	「CSDXブラウザコントロールページ」内に表示。 *4
社名ロゴ	標準/CFカード/無	標準	「CSDXブラウザコントロールページ」内に表示。 *5

**実際のシステムデータ設定画面をご覧ください。

- *1. IDコードは、以下の機能動作を行う場合に設定変更してください。未設定にはできません。
- データ通報やデータコントロール (通信プロトコル内で使用します)
 - Eメール通報 (Eメール文内に表示、また日報・月報帳票ファイルのファイル名で使用します)
 - FAX通報 (FAX異常帳票文内に表示します)
 - DTMF通報 (固定フォーマット通報時、送信します)
 - ブラウザコントロール (履歴、日報・月報帳票ダウンロード時のファイル名で使用します)

機能の詳細に関して

- 「通報する：Eメール」(P54)
- 「通報する：FAX」(P59)
- 「通報する：DTMF」(P66)
- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

- *2. ID音声メッセージは、以下の機能動作を行う場合、設定してください。
- 音声通報 (相手応答時に最初のメッセージとして送出します)
 - DTMF音声コントロール (起動時に最初のメッセージとして送出します)

音声メッセージの設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 音声メッセージの設定方法」(P234)をご覧ください。

機能の詳細に関して

- 「通報する：音声」(P51)
- 「コントロールする：DTMF音声」(P129)

- *3. ID名称に設定した内容は、「CSDXブラウザコントロールページ」内、各ページ(右上)に表示されます。この表示により、どのページを閲覧していても、アクセスしている端末が判別できます。

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

- *4. 端末情報に設定した内容は、「CSDXブラウザコントロールページ」内の「端末情報ページ」に表示されます。設置場所情報やバッテリー交換時期などの情報を記述しておくくと便利です。

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

- *5. 標準の社名ロゴを表示したくない場合、標準以外の社名ロゴに変更したい場合に設定変更してください。標準以外の社名ロゴに変更する場合は、ロゴにしたい画像をCFメモリカードに/extdata/web/images/フォルダにlogo.jpgという名前で保存してください。

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ 社名ロゴについて」(P126)

LANポートの設定

オンサイトでの Web 設定、通信インフラとして LAN を利用する場合、LAN ポートに関する設定をします。

【設定名称】システム設定_ネットワーク_LAN 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要
IPアドレス	0.0.0.1~255.255.255.254	192.168.4.4	LAN ポートの通報、コントロール用 IP アドレス。 *1
サブネットマスク	128.0.0.0~255.255.255.252	255.255.255.0	LAN ポートの通報、コントロール用サブネットマスク。 *1
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.1~255.255.255.254/未設定	192.168.4.1	LAN ポートのデフォルトゲートウェイ。 *2
プライマリ DNS サーバ	0.0.0.1~255.255.255.254/未設定	未設定	LAN ポートのプライマリ DNS サーバ。 *3
セカンダリ DNS サーバ	0.0.0.1~255.255.255.254/未設定	未設定	LAN ポートのセカンダリ DNS サーバ。 *3

- *1. IPアドレス、サブネットマスクは、以下の機能動作で使用します。必ず設定してください。
 なお、セキュリティ向上のため、設定変更することをお勧めします。
- LANを利用したEメール/データ通報（本IPアドレスで送信します）
 - LANを利用したブラウザコントロール/データコントロール（本IPアドレスにアクセスします）

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」（P87）

注意

- 設定変更する際は、設定した IP アドレスを絶対に忘れないように、メモなどとして保管してください。
- 忘れると、上記機能動作ができなくなります。

- *2. デフォルトゲートウェイは、ルータ経由などで別のネットワークへ通報する場合などに設定してください。詳しくは、ネットワーク管理者などにお聞きください。
- *3. プライマリDNSサーバ、セカンダリDNSサーバは、通報グループ設定の『ネットワーク/F』が《LAN》でかつ『SMTPサーバアドレス』に文字（IPアドレスではなく）を設定した場合などに設定します。詳しくは、ネットワーク管理者などにお聞きください。

アナログポートの設定

本設定は、CSDX（D）にはありません。

通信インフラとしてアナログ回線またはネットワーク機器のアナログポートを利用する場合、アナログポートに関する設定をします。

【設定名称】システム設定_ネットワーク_アナログ 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要
ダイヤルモード	1Opps/2Opps/DTMF	2Opps	接続しているアナログ回線のダイヤル種別。 *1
DT 検出	有/無	有	自動ダイヤル時、DT（ダイヤルトーン）検出の有無。 *2
回線断検出に関する設定			
回線断検出機能	有/無	無	回線断検出の有無。 *3
回線断検出時、動作に関する設定			
回線断警報音	有/無	有	回線断検出《有》の場合、検出時に警報音の有無。 *3
デジタル出力連動	デジタル出力n/無	無	回線断検出《有》の場合、検出時にデジタル出力連動の有無。 *3

*1. 本装置アナログポートに接続した回線のダイヤル種別を確認し、正しく設定してください。

*2. DT（ダイヤルトーン）検出は、以下を参考に設定してください。

『DT 検出』	設定内容
《有》	回線捕捉後、回線からのDTを検出してからダイヤルします。 DTを検出（約1秒間）した場合は、即ダイヤルしますので、回線捕捉からダイヤルまでの遅延が小さいです。ただし、何らかの要因でDTを検出できなかった場合は、一度回線を開放しDT検出無でダイヤルします。
《無》	回線捕捉後、回線からのDTを検出せず、約4秒後にダイヤルします。 回線捕捉からダイヤルまで必ず約4秒の遅延で通報できます。

*3. 『回線断検出』を《有》に設定すると、回線断検出します。

『回線断警報音』を《有》に設定すると、回線断検出時に本装置内蔵ブザーより警報音が鳴動します。

『デジタル出力連動』に《デジタル出力n》を設定すると、回線断検出時に設定されたデジタル出力を連動（ON）します。

なお、本項目は『運用』《有》に設定されているデジタル出力より選択しますので、先にデジタル出力の設定を行ってください。

機能の詳細に関して

- 「通信ネットワークを収容する [アナログポートの回線断検出機能](#)」(P25)

シリアルポートの設定

シリアルポート(RS-232C ポート)に接続する機器を設定します。

ご注意

本設定項目を変更した場合は、装置を再起動しないと有効になりません。

【設定名称】システム設定_シリアルポート 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要
ポート1	無/DoPa・FOMA	無	シリアルポート1に接続する機器。 *1
ポート2	無/シーケンサ	無	シリアルポート2に接続する機器。 *2

*1. シリアルポート1に接続する機器を設定してください。

なお、CF カードスロットの設定で通信カード (PHS、DoPa・FOMA) が設定されている場合は設定できません。無線回線の併用できません。

『ポート1』	設定内容
《無》	接続しません。
《DoPa・FOMA》	DoPa または FOMA 通信機器 (設置タイプ) を接続します。

機能の詳細に関して

- DoPa・FOMA の概要について、「通信ネットワークを収容する」(P22)

*2. シリアルポート2に接続する機器を設定してください。※CSDX(S)のみ、対応しています。

『ポート1』	設定内容
《無》	接続しません。
《シーケンサ》	シーケンサを接続します。

機能の詳細に関して

- シーケンサについて、「端子を増設する」(P140)

シリアルポートについて、「本装置を取付ける [シリアルポートは機器を接続する](#) (P155) をご覧ください。

CFカードスロットの設定

CF カードスロットに取り付けるカードを設定します。

ご注意

本設定項目を変更した場合は、装置を再起動しないと有効になりません。

【設定名称】システム設定_CFカードスロット 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要
スロット1	無/PHS/DoPa・FOMA	無	CF カードスロット1 に取り付けるカード。 *1
スロット2	無/メモリ	無	CF カードスロット2 に取り付けるカード。 *2

*1. CFカードスロット1に取り付けるカードを設定してください。

なお、シリアルポートの設定で通信カード（DoPa・FOMA）が設定されている場合は設定できません。無線回線の併用できません。

『スロット1』	設定内容
《無》	取付けません。
《PHS》	PHS カード AIR-EDGE AH-N401C または AX420N（ウィルコム(株) 市販品）を取付けます。
《DoPa・FOMA》	DoPa MAX 2896F または FOMA P2402（(株)NTT ドコモ 市販品）を取付けます。

機能の詳細に関して

- PHS、DoPa の概要について、「[通信ネットワークを収容する](#)」(P22)

*2. CFカードスロット2に取り付けるカードを設定してください。

『スロット2』	設定内容
《無》	取付けません。
《メモリ》	メモリカードを取付けます。

機能の詳細に関して

- メモリカードが必要な場合について、「[監視データを記録する 記録できる項目と最大件数](#)」(P78)

デジタル出力の設定

デジタル出力は、回線断やデジタル・アナログ入力、通報動作に連動して出力動作、またコントロールにより出力動作します。各デジタル出力に関する設定をします。

【設定名称】システム設定_デジタル出力 【No】1~8 ※.CSDX (P)、(D)は1~4

設定項目	設定内容	初期値	概要	
運用	有/無	無	本デジタル出力使用の有無。 *1	
名称	文字 (Max半角31文字)	デジタル出力n	本デジタル出力の名称。 *2	
出力動作に関する設定				
出力方式	連続/ワンショット	ワンショット	ON時の出力方式。 *3	
ワンショットタイム	1/2/3/5/10/15/30/60秒	5秒	出力方式《ワンショット》時の出力時間。 *3	
音声通報、DTMFコントロールに関する設定				
音声	オン	文字 (Max半角127文字)	**	音声用のメッセージ。 *4
メッセージ	オフ	文字 (Max半角127文字)	**	音声用のメッセージ。 *4
Eメール通報、FAX通報に関する設定				
Eメール、FAX	オン	文字 (Max半角127文字)	**	Eメール、FAX用のメッセージ。 *5
メッセージ	オフ	文字 (Max半角127文字)	**	Eメール、FAX用のメッセージ。 *5
ブラウザコントロールに関する設定				
ブラウザ表示	オン	文字 (Max半角31文字)	**	ブラウザ表示用のメッセージ。 *6
	文字色	文字(半角のみ6桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
	背景色	文字(半角のみ6桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
	太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。
	制御ボタン表示	有/無	有	ブラウザコントロールからの制御可否。
	オフ	文字 (Max半角31文字)	**	ブラウザ表示用のメッセージ。
	文字色	文字(半角のみ6桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
	背景色	文字(半角のみ6桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
	太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。
	制御ボタン表示	有/無	有	ブラウザコントロールからの制御可否。
出力時、定時、記録に関する設定				
動作記録	有/無	無	ON・OFF時の動作記録。 *7	
定時記録	有/無	無	定時間隔(1分間隔)の状態記録 *7	

**実際のシステムデータ設定画面をご覧ください。

*1. 本デジタル出力を動作させる場合、《有》に設定してください。《無》の場合、出力動作しません。

*2. 名称は、以下の機能動作で使用します。必ず設定してください。
 システムデータ設定ページ内 (他設定項目において、本入力の表示時に使用します)
 ブラウザコントロール (現在状態、履歴、制御など本出力の表示時に使用します)

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

*3. デジタル出力がONした時の出力動作方式です。また、《ワンショット》の場合の出力時間です。

機能の詳細に関して

- 「デジタル出力を制御する」(P72)

- *4. 音声メッセージは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 - 音声通報（付加情報メッセージとして送出します）
 - DTMF音声コントロール（現在状態確認時の応答メッセージとして送出します）

機能の詳細に関して

- 「通報する：音声」(P51)
- 「通報する：基本事項 通報内容に現在状態を付加する」(P40)
- 「コントロールする：DTMF音声」(P129)

機能 音声メッセージの設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 音声メッセージの設定方法」(P234)をご覧ください。

- *5. Eメール、FAXメッセージは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 - Eメール通報（付加情報メッセージとしてEメール文内に表示します）
 - FAX通報（付加情報メッセージとしてFAX文内に表示します）
 - DTMF音声コントロール（FAX現在状態帳票出力時にFAX文内に表示します）

機能の詳細に関して

- 「通報する：Eメール」(P54)
- 「通報する：FAX」(P59)
- 「通報する：基本事項 通報内容に現在状態を付加する」(P40)
- 「コントロールする：DTMF音声」(P129)

- *6. ブラウザ表示は、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 制御ボタン表示を《無》にすると、入力などに対する連動のみで、ブラウザコントロールからの制御が行えなくなります。
 - ブラウザコントロール（現在状態、履歴など本端子の状態表示時に使用します）

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

機能 文字色、背景色の設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 現在状態画面の表示色の設定方法」(P238)をご覧ください。

- *7. 動作記録を《有》にすると、出力動作（ONおよびOFF）を動作履歴に記録します。以下のような運用を行う場合に設定してください。
 - 本端子の動作回数を帳票（日報や月報帳票）に集計し、ブラウザで閲覧する
 ※帳票に使用する場合は、必ず『定時記録』《有》にする必要があります。
 - 本端子の動作を履歴として記録し、ブラウザで閲覧またはセンタ装置で収集する

定時記録を《有》にすると、1分間隔で状態（ONまたはOFF）を定時間隔履歴に記録します。以下の運用を行う場合に設定してください。

- 本端子を帳票（日報や月報帳票）に集計し、ブラウザで閲覧する
- 本端子の定時状態を履歴として記録し、センタ装置で収集する

機能の詳細に関して

- 「監視データを記録する」(P78)
- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

通報共通の設定

通報動作に関する共通事項を設定します。
左フレームの「通報設定_通報共通」をクリックします。

【設定名称】 通報設定_通報共通 【No】 -

設定項目	設定内容	初期値	概要
通報優先	有/無	有	通報優先の有無。 *1
一括通報	有/無	有	一括通報の有無。 *2
通報遅延タイム	*3	0 秒	通報要因起動から通報開始までの遅延時間。 *3
回線開放タイム	3/5/10/15/30 秒	15 秒	前通報から次通報先間の休止時間。 *4
外部停止スイッチ	デジタル・アナログ入力n/無	無	外部停止スイッチの有無。 *5
通報時、デジタル出力に関する設定			
デジタル出力連動	デジタル出力n/無	無	通報起動時にデジタル出力連動の有無。 *6
通報時、自動時刻補正に関する設定			
自動時刻補正	定時刻通報名称/無	無	定時刻通報をEメール・データで行う場合、時計自動補正の有無。 *7
NTP サーバアドレス	文字 (半角のみ MAX63 文字)	**	自動補正するサーバを指定。 *7
NTP ポート番号	1~65534	123	自動補正するサーバのNTP ポート番号を指定。 *7
タイムゾーン	-12 時間 00 分~+13 時間 00 分	9 時間 00 分	タイムゾーンを指定 *7
補正条件	※	500	補正条件を指定 *7
DTMF 通報に関する設定			
DTMF 送出時間	60/100/150/300 ミリ秒	100 ミリ秒	DTMF 通報時のDTMF 送出時間。 *8
DTMF 送出休止時間	150/300 ミリ秒	150 ミリ秒	DTMF 通報時のDTMF 送出休止時間。 *8
Eメール通報に関する設定			
送信者名	文字 (Max 半角 63 文字)	未設定	Eメールの送信者名。 *9
タイトル	文字 (Max 半角 63 文字)	未設定	Eメールのタイトル。 *9
定型文	文字 (Max 半角 255 文字)	未設定	Eメール文内に表示する定型文。 *9

** 実際のシステムデータ設定画面をご覧ください。

*1. 本項目を《有》にすると、アナログポート、PHS、DoPaが通報以外で使用、回線を強制的に切断し、通報を優先させます。

機能の詳細に関して

- 「通報する：基本事項 [通報動作の開始](#)」(P37)

*2. 本項目を《有》にすると、同時に発生した通報を一括通報します。

機能の詳細に関して

- 「通報する：基本事項 [通報動作の開始](#)」(P37)
- 「通報する：基本事項 [通報内容に現在状態を付加する](#)」(P40)

*3. 通報遅延タイムは、通報要因起動から第1宛先に通報するまでの遅延タイムです。必要に応じて、設定してください。また、設定内容は、以下の通りです。

設定項目	設定内容
『通報遅延タイム』	0/3/5/10/15/30/60/120/180/240 秒

機能の詳細に関して

- 「通報する：基本事項 [通報動作の開始](#)」(P37)

*4. 回線開放タイムは、通報先への通報終了後次の通報先まで、および通報グループ間の休止時間です。

なお、アナログポートからの通報で、通報先が相手話中や相手不応答などの要因で終了し、次が同じあて先への再通報となる場合は、通報間隔が60秒固定となります。

機能の詳細に関して

- 「通報する：基本事項 [通報する順序](#)」(P46)

- *5. 本項目にデジタルまたはアナログ入力nを設定すると、その入力を外部停止入力として使用できます。
 なお、本項目は『運用』《有》に設定されているデジタル・アナログ入力の内『異常モード』が《イベント・メーク》または《イベント・ブ레이크》の入力より選択しますので、先にデジタルやアナログ入力の設定を行ってください。

『異常モード』	設定内容説明
《メーク》	メーク状態が検出タイマ経過した場合、その時点の通報(保留含む)を取り消します。
《ブ레이크》	ブ레이크状態が検出タイマ経過した場合、その時点の通報(保留含む)を取り消します。

注意

- 通報先が設定されているデジタル・アナログ入力は外部停止入力として使用できません。
- シーケンサ端子は外部停止入力として使用できません。

機能の詳細に関して

- 「通報する：基本事項 [通報を取り消す](#)」(P48)

- *6. 本項目に《デジタル出力n》を設定すると、通報起動時に設定されたデジタル出力を連動（ON）します。
 なお、本項目は『運用』《有》に設定されているデジタル出力より選択しますので、先にデジタル出力の設定を行ってください。

注意

- シーケンサ端子はデジタル出力連動端子として使用できません。

機能の詳細に関して

- 「デジタル出力を制御する」(P72)

- *7. インターネットを利用して、自動的に時計補正する機能を利用する場合は、設定してください。
 なお、NTP ポート番号およびタイムゾーンは、通常初期値のままです。

注意

- Eメールやデータ通報の定時通報で行うことが可能です。

- *8. DTMF通報やDTMFデータコントロール時、CSDXから送出するDTMF信号の送出/休止時間です。必要に応じて設定してください。
 - DTMFデータ通報
 - DTMFデータコントロール（通報内容および付加情報内容としてFAX文内に表示します）

- *9. Eメール通報で送信するEメールの送信者名、タイトル、定型文を設定します。必要に応じて設定してください。
 タイトルが未設定の場合、通報要因メッセージを表示します。

機能の詳細に関して

- 「通報する：Eメール [Eメール通報内容](#)」(P57)

ダイヤル先の設定

ダイヤル先のテーブルです。音声通報のダイヤル先、データ通報のダイヤル先、Eメール通報のダイヤル先（インターネットサービスプロバイダーなど）、FAX 通報のダイヤル先など全てのダイヤル先を設定します。

【設定名称】 通報設定_通報宛先_ダイヤル先 【No】 1～16

設定項目	設定内容	初期値	概要
名称	文字 (Max 半角31文字)	ダイヤル先n	ダイヤル先の名称。 *1
電話番号	*2 (半角のみMax31桁)	未設定	ダイヤル先の電話番号。 *2

*1. 名称は、システムデータ設定ページ内で使用します。（他設定項目において、本設定の選択時など）

*2. 通報先の電話番号は、正しく設定してください。電話番号に設定できる数字、記号は以下の通りです。

『電話番号』	設定内容説明
0～9、*、#	電話番号です。
、 【カンマ】	ポーズ（約3秒）です。
() 【カッコ】	ダイヤル送出時は、無視します。
- 【ハイフン】	ダイヤル送出時は、無視します。

 通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 通報先設定の考え方」(P232)をご覧ください。

Eメール通報先の設定

Eメール通報先のテーブルです。通報先とするEメールアドレスを全て設定します。

【設定名称】 通報設定_通報宛先_Eメール通報先 【No】 1～32

設定項目	設定内容	初期値	概要
名称	文字 (Max半角31文字)	Eメール通報先 n	Eメール通報先の名称。 *1
Eメールアドレス	文字 (半角のみ MAX127文字)	未設定	Eメール通報先のEメールアドレス。 *2

*1. 名称は、システムデータ設定ページ内で使用します。(他設定項目において、本設定の選択時など)

*2. 通報先のEメールアドレスは、正しく設定してください。

 通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 通報先設定の考え方」(P232)をご覧ください。

データ通報先の設定

データ通報先のテーブルです。通報先とするIPアドレスなどを全て設定します。

【設定名称】 通報設定_通報宛先_データ通報先 【No】 1～8

設定項目	設定内容	初期値	概要
名称	文字 (Max半角31文字)	データ通報先 n	データ通報先の名称。 *1
IPアドレス	0.0.0.1~255.255.255.254/未設定	未設定	データ通報先のIPアドレス。 *2
ポート番号	1~65534/無	7114	データ通報先のTCPポート番号。 *3
ユーザID	文字 (半角のみ Max15文字)	未設定	データ通報先にログインするためのユーザID。 *3
パスワード	文字 (半角のみ Max15文字)	未設定	データ通報先にログインするためのパスワード。 *3

ご注意

- 本設定は、センタ装置への通報に関する設定です。
- 詳細については、弊社窓口へお問い合わせください。

*1. 名称は、システムデータ設定ページ内で使用します。(他設定項目において、本設定の選択時など)

*2. 通報先のIPアドレスは、正しく設定してください。

 通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 通報先設定の考え方」(P232)をご覧ください。

*3. ポート番号、ユーザID、パスワードは、通報先のセンタ装置に合わせて設定してください。

通報グループの設定

通報グループを設定します。ダイヤル先、Eメール通報先、データ通報先で設定した通報先をグループ化します。

【設定名称】 通報設定_通報宛先_通報グループ 【No】 1～16

設定項目	設定内容	初期値	概要
通報方式	音声/データ・Eメール/FAX /DTMF	音声	グループの通報方式。 *1
名称	文字 (Max半角31文字)	通報グループn	グループの名称。 *2

以降の設定項目は、『通報方式』の設定により、変わります。

1 《音声》の場合

音声通報先に関する設定			
第1通報先	ダイヤル先n/無	無	グループの第1通報先。 *3
・	・	・	・
第16通報先	ダイヤル先n/無	無	グループの第16通報先。
相手応答検出に関する設定			
応答検出方式	*4	極性反転	相手応答と検出する方式。 *4
応答タイム	3/5/10/15/30秒	10秒	応答検出方式が《応答タイム》の場合、応答検出とする時間。 *4
応答DTMF	0~9,*、# (半角のみ1桁固定)	#	応答検出方式が《応答DTMF》の場合、応答検出とするDTMF。 *4
付加情報に関する設定			
現在状態情報	有/無	無	通報時、他端子の現在状態を付加して通報。 *5
通報終了に関する設定			
音声メッセージ送出回数	1/2/3/5/10/15/30回	3回	音声メッセージの送出回数。 *6
通報確認DTMF	0~9,*、#/無 (半角のみ1桁固定)	無	通報確認機能の有無。 *7
DTMFコントロール起動	有/無	無	通報確認後DTMF音声コントロール起動の有無。 *8
本グループの通報完了に関する設定			
通報完了条件	1~16宛先	1宛先	グループの通報を正常完了とする宛先数。 *9
発呼回数	1/2/3/5/10/15/30/99回	3回	異常終了した宛先への最大発呼回数。 *9

*1. 本グループの通報方式を選択します。

通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 通報先設定の考え方」(P232)をご覧ください。

*2. 名称は、システムデータ設定ページ内で使用します。(他設定項目において、本グループの表示時に使用します)

*3. 音声通報する通報先(ダイヤル先)を設定します。

なお、本項目は、設定されているダイヤル先より選択しますので、先にダイヤル先を設定してください。

通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 通報先設定の考え方」(P232)をご覧ください。

*4. 応答検出方式は、以下を参考に設定してください。

『応答検出方式』	内 容
《極性反転》	ダイヤル後、極性反転で応答と判断し、通報メッセージを送出開始します。
《タイマ》	ダイヤル後、設定された時間を経過した場合、応答と判断し、通報メッセージを送出開始します。時間は、『応答タイマ』で設定してください。
《オーディオ》	ダイヤル後、通報先からの無音や音声信号などで応答と判断し、通報メッセージを送出開始します。
《DTMF》	ダイヤル後、通報先より設定されたDTMF 信号を受信した場合、応答と判断し、通報メッセージを送出開始します。DTMF 信号は、『応答DTMF』で設定してください。

注意

- 《タイマ》《DTMF》《オーディオ》に設定した場合は、必ず『通報確認DTMF』を設定してください。『通報確認DTMF』を《無》にすると、正しく通報できない場合があります。

*5. 本項目を《有》に設定すると、通報時に付加情報として現在状態情報を付加します。

機能の詳細に関して

- 「通報する：基本事項 通報内容に現在状態を付加する」(P40)

*6. 音声通報時、音声メッセージを繰り返す回数を設定します。なお、繰り返し間隔は1秒です。

機能の詳細に関して

- 「通報する：音声 音声通報メッセージ」(P52)

*7. 本項目にDTMFを設定すると、音声メッセージ送途中に通報先より設定されたDTMFを受信した場合のみ通報を正常終了とします。なお、『応答検出方式』が《タイマ》《DTMF》《オーディオ》の場合は、必ず設定してください。

機能の詳細に関して

- 「通報する：音声 音声通報のシーケンス概要」(P51)
- 「通報する：音声 音声通報の終了条件」(P53)

*8. 本項目を《有》に設定すると、通報確認DTMF受信後、回線を切断せずにDTMF音声コントロールを起動します。

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：DTMF音声」(P129)

*9. 本グループの通報完了条件および発呼回数を設定します。

機能の詳細に関して

- 「通報する：基本事項 通報する順序」(P46)

2 **《データ・Eメール》の場合**

ネットワークI/F	アナログ/LAN/PHS/DoPa	アナログ	グループの通報を送出するポートを選択。	*1	
ダイヤルアップ接続に関する設定			ネットワークI/Fが《アナログ》の場合のみ設定。		
ダイヤル先	ダイヤル先 n/無	無	グループのダイヤル先。	*2	
ユーザID	文字 (半角のみ Max63 文字)	未設定	ダイヤル先接続時の PPP ユーザID。	*3	
パスワード	文字 (半角のみ Max59 文字)	未設定	ダイヤル先接続時の PPP パスワード。	*3	
IP アドレス	自動/手動 xxx.xxx.xxx.xxx	自動	ダイヤル先接続時の IP アドレス。	*3	
サブネットマスク	128.0.0~255.255.255.252/未設定	未設定	ダイヤル先接続時のサブネットマスク。	*3	
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.1~255.255.255.254/未設定	未設定	ダイヤル先接続時のデフォルトゲートウェイ。	*3	
プライマリ DNS サーバ	0.0.0.1~255.255.255.254/未設定	未設定	ダイヤル先接続時のプライマリ DNS サーバ。	*3	
セカンダリ DNS サーバ	0.0.0.1~255.255.255.254/未設定	未設定	ダイヤル先接続時のセカンダリ DNS サーバ。	*3	
無通信タイマ	切断しない/3/5/10/15/30/60(分)	5分	無通信状態により回線切断。	*4	
Eメール通報先に関する設定					
SMTP サーバアドレス	文字 (半角のみ MAX127 文字)	未設定	Eメール送信に使用する SMTP サーバアドレス。	*5	
SMTP ポート番号	1~65534	25	Eメール送信に使用する SMTP サーバの TCP ポート番号。	*5	
送信元メールアドレス	文字 (半角のみ MAX127 文字)	未設定	Eメールの送信元メールアドレス。	*5	
認証	認証方式	なし/SMTP 認証/POP 認証	未設定	認証方式	*6
	ユーザID	文字 (半角のみ Max63 文字)	未設定	SMTP または POP3 認証に使用するユーザID	*6
	パスワード	文字 (半角のみ Max63 文字)	未設定	SMTP または POP3 認証に使用するパスワード	*6
	POP3 サーバアドレス	文字 (半角のみ MAX127 文字)	未設定	POP3 認証に使用する POP3 サーバアドレス。	*6
	POP3 ポート番号	1~65534	110	POP3 認証に使用する POP3 サーバの TCP ポート番号。	*6
Eメール通報先	Eメール通報先 n/無 (Max32 選択可)	無	グループのEメール通報先を選択。	*7	
データ通報先に関する設定					
データ通報先 第1 通報先	データ通報先 n/無	無	グループのデータ通報先の第1 宛先。	*8	
・	・	・	・		
データ通報先 第8 通報先	データ通報先 n/無	無	グループのデータ通報先の第8 通報先。		
付加情報(Eメール)に関する設定					
現在状態情報	有/無	無	通報時、他端子の現在状態を付加して通報。	*9	
本グループの通報完了に関する設定					
通報完了条件	1~9 宛先	1 宛先	グループの通報を正常完了とする宛先数。	*10	
発呼回数	1/2/3/5/10/15/30/99 回	3 回	異常終了した宛先への最大発呼回数。	*10	

*1. 本グループの通報に使用するネットワークを設定してください。
 なお、設定内容の内《PHS》および《DoPa》は、各々【CF カードスロットの設定】、【シリアルポートの設定】で設定されている場合のみ表示します。

*2. 『ネットワークI/F』が《アナログ》《PHS》《DoPa》の場合、設定したダイヤル先より選択します。なお、本項目はダイヤル先を設定してから、設定してください。

 通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 通報先設定の考え方」(P232)をご覧ください。

*3. 『ネットワークI/F』が《アナログ》《PHS》《DoPa》の場合、接続するインターネットプロバイダ業者などの指定に従って設定してください。なお、パスワードについては「****」または「●●●●」と表示されます。

設定例 《DoPa》でEメール通報(mopera を利用の場合)

- ユーザID：mopera で取得したID
- パスワード：mopera で取得したパスワード
- IP アドレス：自動
- サブネットマスク：なし
- デフォルトゲートウェイ：なし
- プライマリDNS サーバ：mopera で指定されたアドレス
- セカンダリDNS サーバ：mopera で指定されたアドレス

*4. 通報時、接続先との何らかの要因により無通信状態が続いた場合、設定された時間で切断します。

ご注意

- 本項目は、回線持ちきり状態を防止するための設定です。本項目に時間(《切断しない》以外)を設定しないと接続先との何らかの要因により無通信状態が続いた場合、回線を切断できない場合があります。特別な事情がない限り、必ず時間(《切断しない》以外)を設定してください。

*5. 接続するインターネットプロバイダ業者などの指定に従って設定してください。
 なお、『ネットワークI/F』が《LAN》の場合は、【LANポートの設定】も確認してください。

- *6. Eメール送信時の認証方法を設定します。
接続するインターネットサービスプロバイダ業者などの指定に従って設定してください。
- *7. Eメール通報する通報先を設定します。
なお、本項目は、設定されているEメール通報先より選択しますので、先にEメール通報先を設定してください。
 通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 [通報先設定の考え方](#)」(P232)をご覧ください。
- *8. データ通報する通報先を設定します。
なお、本項目は、設定されているデータ通報先より選択しますので、先にデータ通報先を設定してください。
 通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 [通報先設定の考え方](#)」(P232)をご覧ください。
- *9. 本項目を《有》に設定すると、通報時に付加情報として現在状態情報を付加します。
 機能の詳細に関して
● 「通報する：基本事項 [通報内容に現在状態を付加する](#)」(P40)
- *10. 本グループの通報完了条件および発呼回数を設定します。
 機能の詳細に関して
● 「通報する：基本事項 [通報する順序](#)」(P46)

3 《FAX》の場合

FAX通報先に関する設定			
第1通報先	ダイヤル先 n/無	無	グループの第1通報先。 *1
・	・	・	・
第16通報先	ダイヤル先 n/無	無	グループの第16通報先。
付加情報に関する設定			
現在状態情報	有/無	無	通報時、他端子の現在状態を付加して通報。 *2
本グループの通報完了に関する設定			
通報完了条件	1~16宛先	1宛先	グループの通報を正常完了とする宛先数。 *3
発呼回数	1/2/3/5/10/15/30/99回	3回	異常終了した宛先への最大発呼回数。 *3

- *1. FAX通報する通報先（ダイヤル先）を設定します。
なお、本項目は、設定されているダイヤル先より選択しますので、先にダイヤル先を設定してください。
 通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 [通報先設定の考え方](#)」(P232)をご覧ください。
- *2. 本項目を《有》に設定すると、通報時に付加情報として現在状態情報を付加します。
 機能の詳細に関して
● 「通報する：基本事項 [通報内容に現在状態を付加する](#)」(P40)
- *3. 本グループの通報完了条件および発呼回数を設定します。
 機能の詳細に関して
● 「通報する：基本事項 [通報する順序](#)」(P46)

4 《DTMF》の場合

音声通報に関する設定			
第1 通報先	ダイヤル先 n/無	無	グループの第1 通報先。 *1
・	・	・	・
第16 通報先	ダイヤル先 n/無	無	グループの第16 通報先。
相手応答検出に関する設定			
応答検出方式	*4	極性反転	相手応答と検出する方式。 *2
応答タイム	3/5/10/15/30 秒	10 秒	応答検出方式が《応答タイム》の場合、応答検出とする時間。 *2
応答 DTMF	0~9、*、# (半角のみ 1 桁固定)	#	応答検出方式が《応答 DTMF》の場合、応答検出とする DTMF。 *2
応答後送出遅延タイム	1/2・3/5/10/15 秒	1 秒	相手応答後 DTMF 通報データ送出までの遅延時間。 *2
付加情報（定時刻通報時）に関する設定			
現在状態情報	有/無	無	通報時、他端子の現在状態を付加して通報。 *3
通報終了に関する設定			
通報確認 DTMF	0~9、*、#/無 (半角のみ 1 桁固定)	無	通報確認機能の有無。 *4
通報確認待ちタイム	3/5/10/15/30 秒	10 秒	DTMF 通報データ送出後から通報確認 DTMF 受信可能時間。 *4
DTMF コントロール起動	有/無	無	通報確認後 DTMF データコントロール起動の有無。 *5
本グループの通報完了に関する設定			
通報完了条件	1~16 宛先	1 宛先	グループの通報を正常完了とする宛先数。 *6
発呼回数	1/2/3/5/10/15/30/99 回	3 回	異常終了した宛先への最大発呼回数。 *6

*1. DTMF 通報する通報先（ダイヤル先）を設定します。
 なお、本項目は、設定されているダイヤル先より選択しますので、先にダイヤル先を設定してください。

 通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 通報先設定の考え方」(P232)をご覧ください。

*2. 応答検出方式は、以下を参考に設定してください。

『応答検出方式』	内 容
《極性反転》	ダイヤル後、極性反転で応答と判断し、DTMF 通報データを送出開始します。
《タイム》	ダイヤル後、設定された時間を経過した場合、応答と判断し、DTMF 通報データを送出開始します。時間は、『応答タイム』で設定してください。
《オーディオ》	ダイヤル後、通報先からの無音や音声信号などで応答と判断し、DTMF 通報データを送出開始します。
《DTMF》	ダイヤル後、通報先より設定された DTMF 信号を受信した場合、応答と判断し、DTMF 通報データを送出開始します。DTMF 信号は、『応答 DTMF』で設定してください。

ご注意

- 《タイム》《DTMF》《オーディオ》に設定した場合は、必ず『通報確認 DTMF』を設定してください。
 『通報確認 DTMF』を《無》にすると、正しく通報できない場合があります。

*3. 本項目を《有》に設定すると、定時刻通報時に定時刻（現在状態付加）フォーマットで送信します。

 機能の詳細に関して

- 「通報する：DTMF DTMF 通報内容」(P68)

*4. 本項目に DTMF を設定すると、DTMF 通報データ送出後、設定された時間以内に通報先より設定された DTMF を受信した場合のみ通報を正常終了とします。

なお、『応答検出方式』が《タイム》《DTMF》《オーディオ》の場合は、必ず設定してください。

 機能の詳細に関して

- 「通報する：DTMF DTMF 通報のシーケンス概要」(P67)
- 「通報する：DTMF DTMF 通報の終了条件」(P71)

*5. 本項目を《有》に設定すると、通報確認 DTMF 受信後、回線を切断せずに DTMF データコントロールを起動します。

 機能の詳細に関して

- 「コントロールする：DTMF データ」(P135)

*6. 本グループの通報完了条件および発呼回数を設定します。

 機能の詳細に関して

- 「通報する：基本事項 通報する順序」(P46)

デジタル入力の設定

各デジタル入力に関する設定をします。

【設定名称】起動要因設定_デジタル入力 【No】1~16 ※.CSDX (P)、(D)は1~8

設定項目	設定内容	初期値	概要	
運用	有/無	無	本デジタル入力使用の有無。 *1	
名称	文字 (Max 半角31 文字)	デジタル入力n	本デジタル入力の名称。 *2	
検出に関する設定				
異常モード	*3	イベント・メーク	異常検出方法。 *3	
検出タイム	*3	300 ミリ秒	検出確定時間。 *3	
異常積算値	*3	無	異常モードが《パルス》《時間》の場合の異常積算値。 *3	
検出時、デジタル出力連動に関する設定				
デジタル出力連動	デジタル出力n/無	無	異常検出時にデジタル出力連動の有無。 *4	
検出時、通報動作に関する設定				
通報起動条件	異常時/異常・復旧時	異常時	異常モードが《メーク/ブレイク》の場合の通報起動条件。 *5	
モード1 通報	有/無	無	通報モード1 状態での通報起動有無および通報パターン。 *6	
第1 通報グループ	通報グループn/無	無		
第1 次通報	有/無	無		
.	.			
.	.			
第5 通報グループ	通報グループn/無	無		
モード2 通報	有/無	無	通報モード2 状態での通報起動有無および通報パターン。 *6	
第1 通報グループ	通報グループn/無	無		
第1 次通報	有/無	無		
.	.			
.	.			
第5 通報グループ	通報グループn/無	無		
音声通報、DTMFコントロールに関する設定				
音声	異常 文字 (Max 半角 127 文字)	**	音声用のメッセージ。 *7	
メッセージ	復旧 文字 (Max 半角 127 文字)	**		
Eメール通報、FAX通報に関する設定				
Eメール、FAX	異常 文字 (Max 半角 127 文字)	**	Eメール、FAX用のメッセージ。 *8	
メッセージ	復旧 文字 (Max 半角 127 文字)	**		
DTMF通報に関する設定				
DTMF データ	異常 *9 (Max 半角 31 文字)	**	DTMF 用のデータ。 *9	
	復旧 *9 (Max 半角 31 文字)	**		
積算値データ形式	累計値/前回定時刻通報との差分値	累計値	DTMF による定時刻通報付加情報で積算値送出時の送出条件。 *9	
ブラウザコントロールに関する設定				
ブラウザ表示	異常	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用のメッセージ。 *10
	文字色	文字(半角のみ 6 桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
	背景色	文字(半角のみ 6 桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
	太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。
	復旧	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用のメッセージ。
	文字色	文字(半角のみ 6 桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
	背景色	文字(半角のみ 6 桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
	太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。
検出値の変換に関する設定				
計算式	文字 マクロ (Max 半角 127 文字)	未設定	積算値の変換式。 *11	
検出時および定時、記録に関する設定				
動作記録	有/無	無	検出時 (異常・復旧時) の記録。 *12	
定時記録	有/無	無	定時間隔(1 分間隔)の状態を記録。 *12	

**実際のシステムデータ設定画面をご覧ください。

ご注意

- 『異常モード』が《イベント・メーク》または《イベント・ブレイク》の場合、異常通報中（起動から通報完了まで）に再度同一 No の異常が発生した場合、通報は行いません。（同一異常通報の複数発生防止）なお、検出は行いますのでデジタル出力連動や動作記録は行います。
- 異常モードや異常積算値の設定を変更しても、今まで積算した積算値はクリアされません。異常モードや異常積算値の設定を変更した場合は、特別な事情がない限り、コントロール機能により積算値クリアを行ってください。

- *1. 本デジタル入力の状態監視を行う場合、《有》に設定してください。未使用の入力は《無》に設定してください。
- *2. 名称は、以下の機能動作で使います。必ず設定してください。
 - システムデータ設定ページ内（他設定項目において、本入力の表示時に使います）
 - ブラウザコントロール（現在状態、履歴など本入力の表示時に使います）

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

- *3. 異常モードは、本デジタル入力の異常検出方法です。

『異常モード』	設定内容説明
《イベント・メーク》	メーク時に異常、ブレイク時に復旧と検出します。
《イベント・ブレイク》	ブレイク時に異常、メーク時に復旧と検出します。
《パルス積算》	メークした回数を積算し、異常値または異常値毎に検出します。
《時間積算》	メークした時間を1秒単位で積算し、異常値または異常値毎に検出します。

検出タイマの設定値は、『異常モード』により変わります。

『異常モード』	『検出タイマ』	設定内容
《メーク/ブレイク》	300/500 ミリ秒、1/2/3/5/10/15/30/60 秒	
《パルス/時間》※	10/20…90/100/200/300/500 ミリ秒、1/2/3/5/10/15/30/60 秒	

※アナログ入力をデジタル入力として使用する場合、10～90 ミリ秒は設定できません。

異常積算値について、『異常モード』が《パルス積算》または《時間積算》の場合、設定してください。

異常積算値	設定内容説明
《(異常積算値)のみ》	積算値が異常積算値を超えた時、異常検出します。 端子状態は、異常積算値を超えた後、常に異常状態となります。 再度異常検出させる場合は、コントロール機能で積算値のクリアを行う必要があります。
《(異常積算値)毎》	異常積算値毎(例、1000 毎の場合、1000、2000、3000…)に異常検出します。 端子状態は、異常積算値を超えた後、瞬間的に異常状態となりますが、すぐに正常状態となります。
《無》	積算はしますが、異常検出しません。 端子状態は、常に正常状態となります。

異常積算値の設定内容

『異常モード』	『異常積算値』	設定内容
《パルス積算》	100 回～49900 回 (100 回単位)	
《時間積算》	1 時間～49999 時間 (1 時間単位)	

ご注意

- 《(異常積算値)毎》は、端子の積算値から検出します。設定した時から積算値毎ではありません。
- 例 現在の端子積算値が300の時に、《1000 回毎》と設定変更した場合、最初の異常検出値は1000です。(1300ではありません) また、以降2000/3000…で異常検出します。

機能の詳細に関して

- 「入力状態などを監視する デジタル入力端子の監視」(P28)

- *4. 本項目に《デジタル出力n》を設定すると、異常検出時に設定されたデジタル出力を連動(ON)します。
なお、本項目は『運用』《有》に設定されているデジタル出力より選択しますので、先にデジタル出力の設定を行ってください。

ご注意

- シーケンサ端子はデジタル出力連動端子として使用できません。

機能の詳細に関して

- 「デジタル出力を制御する」(P72)

- *5. 通報起動条件は、本デジタル入力の通報を行う場合『異常モード』が《イベント(メーク/ブレイク)》の時、設定します。
《パルス積算》または《時間積算》の場合は、《異常時》固定です。

『通報起動条件』	設定内容説明
《異常時》	異常検出した場合にのみ、通報を起動します。
《異常・復旧時》	異常検出した場合に通報を起動、また復旧検出した場合にも通報を起動します。

- *6. 通報モード1および2状態における通報パターン（通報グループおよび次通報）を設定します。
なお、『第n 通報グループ』は、設定されている通報グループより選択しますので、先に通報グループの設定を行ってください。

機能の詳細に関して

- 「通報する：基本事項 通報する順序」(P46)

機能 通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 通報先設定の考え方」(P232)をご覧ください。

- *7. 音声メッセージは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 - 音声通報（通報要因メッセージおよび付加情報メッセージとして送出します）
 - DTMF音声コントロール（現在状態確認時の応答メッセージとして送出します）

機能の詳細に関して

- 「通報する：音声」(P51)
- 「コントロールする：DTMF音声」(P129)

機能 音声メッセージの設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 音声メッセージの設定方法」(P234)をご覧ください。

- *8. Eメール、FAXメッセージは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 - Eメール通報（通報内容および付加情報内容としてEメール文内に表示します）
 - FAX通報（通報内容および付加情報内容としてFAX文内に表示します）
 - DTMF音声コントロール（FAX現在状態帳票出力時にFAX文内に表示します）

注意

- FAX 通報の場合は、半角 59 文字以上は表示できません。

機能の詳細に関して

- 「通報する：Eメール」(P54)
- 「通報する：FAX」(P59)
- 「コントロールする：DTMF音声」(P129)

- *9. DTMFデータは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。ただし、固定データで通報する場合は、未設定にしてください。
 - DTMF通報（通報内容として送信します）
 - DTMFデータコントロール（現在状態確認時の応答データとして送出します）

「DTMF 任意データ」	設定内容説明
0～9、A～D、*、#	送出するDTMF 信号です。
、【カンマ】	ポーズ（約3秒）です。

機能の詳細に関して

- 「通報する：DTMF」(P66)
- 「コントロールする：DTMFデータ」(P135)

- *10. ブラウザ表示は、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 - ブラウザコントロール（現在状態、履歴など本端子の状態表示時に使用します）

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

機能 文字色、背景色の設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 現在状態画面の表示色の設定方法」(P238)をご覧ください。

*11. 計算式は『異常モード』が《パルス積算》または《時間積算》の場合、必要に応じて設定してください。計算式を利用すると、積算値を加工し、以下の機能動作を行うことができます。

- 音声通報時に計算結果を通報メッセージの一部として送出できます。
※『音声メッセージ』にも設定が必要です。
- Eメール、FAX通報時に計算結果を通報内容の一部として表示します。
※『Eメール、FAXメッセージ』にも設定が必要です。
- ブラウザの現在状態表示時に計算結果を表示します。

機能の詳細に関して

- 「通報する：音声」(P51)
- 「通報する：Eメール」(P54)
- 「通報する：FAX」(P59)
- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

注意

- マクロに誤りがある場合、マクロ文字がそのまま送出(表示)または「ERR」と表示されます。(「設定」ボタンを押した時にエラーメッセージが表示されますが、設定内容は保存されます。)

注 計算式の設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 [入力端子計算式の設定方法](#)」(P233)をご覧ください。

*12. 動作記録を《有》にすると、異常・復旧検出時、動作履歴に記録します。以下の機能動作を行う場合に設定してください。

- 本端子の異常検出回数を帳票(日報や月報帳票)に集計し、ブラウザで閲覧する
※帳票に使用する場合は、必ず『定時記録』《有》にする必要があります。
- 本端子の動作を履歴として記録し、ブラウザで閲覧またはセンタ装置で収集する
- アナログ詳細履歴の動作トリガとして使用する(異常モードがイベントのみ)

定時記録を《有》にすると、1分間隔で状態(異常・復旧およびアナログ値)を定時間隔履歴に記録またアナログ詳細定時間隔履歴の対象になります。以下の機能動作を行う場合に設定してください。

- 本端子の積算値を帳票(日報や月報帳票)に集計し、ブラウザで閲覧する
- 本端子の定時状態を履歴として記録し、センタ装置で収集する

機能の詳細に関して

- 「監視データを記録する」(P78)
- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

アナログ入力の設定

各アナログ入力に関する設定をします。

【設定名称】起動要因設定_アナログ入力 【No】1~8

設定項目	設定内容	初期値	概要
運用	有/無	無	本入力使用の有無。 *1
端子用途	デジタル/アナログ電圧/アナログ電流	デジタル	本入力の用途（アナログ入力またはデジタル入力）選択。 *2
名称	文字（Max 半角31文字）	アナログ入力n	本入力の名称。 *3

以降の設定項目は、『端子用途』の設定により、変わります。

- ・《デジタル》の場合、デジタル入力と同様な項目（『異常モード』以降）が表示されます。
「デジタル入力の設定」（P197）をご覧ください。
- ・《アナログ電圧》または《アナログ電流》の場合、以下のような設定項目となります。
電圧と電流では検出に関する設定値が異なります。

検出に関する設定				
検出モード	電圧(0-5V)/電圧(1-5V) 電流(0-20mA)/電流(4-20mA)	電圧(0-5V) 電流(0-20mA)	異常検出方法。 *4	
検出タイマ	*4	300 ミリ秒	検出確定時間。 *4	
しきい値 1(HH)	*4	未設定	しきい値 1 の検出値。 *4	
しきい値 2(H)	*4	未設定	しきい値 2 の検出値。	
しきい値 3(L)	*4	未設定	しきい値 3 の検出値。	
しきい値 4(LL)	*4	未設定	しきい値 4 の検出値。	
しきい値 5(断線)	*4	未設定	しきい値 5 の検出値。	
検出時、デジタル出力連動に関する設定				
デジタル出力連動	デジタル出力n/無	無	異常検出時にデジタル出力連動の有無。 *5	
検出時、通報に関する設定				
通報起動条件			各しきい値の通報起動条件。 *6	
しきい値 1(HH)	異常時/異常・復旧時	異常時		
	しきい値 2(H)	異常時/異常・復旧時	異常時	
	しきい値 3(L)	異常時/異常・復旧時	異常時	
	しきい値 4(LL)	異常時/異常・復旧時	異常時	
	しきい値 5(断線)	異常時/異常・復旧時	異常時	
モード1 通報	有/無	無	通報モード1 状態での通報起動有無および通報パターン。 *7	
第1 通報グループ	通報グループn/無	無		
第1 次通報	有/無	無		
：	：	：		
第5 通報グループ	通報グループn/無	無		
モード2 通報	有/無	無	通報モード2 状態での通報起動有無および通報パターン。 *7	
第1 通報グループ	通報グループn/無	無		
第1 次通報	有/無	無		
：	：	：		
第5 通報グループ	通報グループn/無	無		
音声通報、DTMFコントロールに関する設定				
音声メッセージ	しきい値 1(異常)	文字（Max 半角 127 文字）	**	音声用のメッセージ *8
	しきい値 1(復旧)	//	**	
	しきい値 2(異常)	//	**	
	しきい値 2(復旧)	//	**	
	しきい値 3(異常)	//	**	
	しきい値 3(復旧)	//	**	
	しきい値 4(異常)	//	**	
	しきい値 4(復旧)	//	**	
	しきい値 5(異常)	//	**	
しきい値 5(復旧)	//	**		

Eメール通報、FAX通報に関する設定					
Eメール、FAXメッセージ	しきい値1(異常)	文字 (Max 半角 127 文字)	**	Eメール、FAX用のメッセージ *9	
	しきい値1(復旧)	//	**		
	しきい値2(異常)	//	**		
	しきい値2(復旧)	//	**		
	しきい値3(異常)	//	**		
	しきい値3(復旧)	//	**		
	しきい値4(異常)	//	**		
	しきい値4(復旧)	//	**		
DTMF通報に関する設定					
DTMFデータ	しきい値1(異常)	*10 (Max 半角 31 文字)	**	DTMF 用のデータ *10	
	しきい値1(復旧)	//	**		
	しきい値2(異常)	//	**		
	しきい値2(復旧)	//	**		
	しきい値3(異常)	//	**		
	しきい値3(復旧)	//	**		
	しきい値4(異常)	//	**		
	しきい値4(復旧)	//	**		
ブラウザコントロールに関する設定					
ブラウザ表示	しきい値1(異常)	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用のメッセージ *11	
		文字色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
		背景色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
		太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。
	しきい値1(復旧)	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用メッセージ	
		文字色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
		背景色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
		太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。
	しきい値2(異常)	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用メッセージ	
		文字色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
		背景色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
		太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。
	しきい値2(復旧)	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用メッセージ	
		文字色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
		背景色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
		太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。
	しきい値3(異常)	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用メッセージ	
		文字色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
		背景色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
		太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。
	しきい値3(復旧)	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用メッセージ	
		文字色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
		背景色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
		太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。
しきい値4(異常)	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用メッセージ		
	文字色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。	
	背景色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。	
	太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。	
しきい値4(復旧)	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用メッセージ		
	文字色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。	
	背景色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。	
	太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。	
しきい値5(異常)	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用メッセージ		
	文字色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。	
	背景色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。	
	太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。	
しきい値5(復旧)	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用メッセージ		
	文字色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。	
	背景色	文字(半角のみ 6 桁固定) / 未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。	
	太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。	
検出値の変換に関する設定					
計算式	文字、マクロ (Max 半角 127 文字)		アナログ値の変換式。	*12	
検出時および定時、記録に関する設定					
動作記録	有/無	無	検出時(異常・復旧時)の記録。	*13	
定時記録	有/無	無	定時間隔(1分間隔)の状態を記録。	*13	

**実際のシステムデータ設定画面をご覧ください。

ご注意

- 異常通報中(起動から通報完了まで)に再度同一No同一しきい値の異常が発生した場合、通報は行いません。(同一異常通報の複数発生防止)なお、検出は行いますのでデジタル出力運動や動作記録は行います。

*1. 本アナログ入力の状態監視を行う場合、《有》に設定してください。未使用の入力は《無》に設定してください。

*2. 端子用途は、以下を参考に設定してください。

『端子用途』	設定内容説明
《デジタル》	デジタル入力として使用します。
《アナログ電圧》	アナログ電圧入力として使用します。
《アナログ電流》	アナログ電流入力として使用します。

注意

- 本体カバー内の「アナログ入力切替スイッチ」を上記設定と同じにしてください。一致していないと正常に動作しません。

スイッチについて、「センサなどの機器を接続する [アナログ入力の接続](#) (P163) をご覧ください。

機能の詳細に関して

- 「入力状態などを監視する [アナログ入力端子の監視](#) (P29)

*3. 名称は、以下の機能動作で使用します。必ず設定してください。

- システムデータ設定ページ内 (他設定項目において、本入力の表示時に使用します)
 - ブラウザコントロール (現在状態、履歴など本入力の表示時に使用します)
- ※ 現在状態や動作履歴に表示する場合は、『しきい値』の設定も必要です。

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

*4. 検出モードは、本アナログ入力の異常検出方法です。

『検出モード』	設定内容説明
《アナログ電圧 0-5V》	電圧 0~5V を監視し、設定された閾値を超えたとき・下回ったときを検出し起動します。データ処理は、0-5V → 0-1023 とします。
《アナログ電圧 1-5V》	電圧 0~5V を監視し、設定された閾値を超えたとき・下回ったときを検出し起動しますが、データ処理時は、1-5V → 0-1023 とレベル変換します。
《アナログ電流 0-20mA》	電流 0~20mA を監視し、設定された閾値を超えたとき・下回ったときを検出し起動します。データ処理は、0~20mA → 0-1023 とします。
《アナログ電流 4-20mA》	電流 0~20mA を監視し、設定された閾値を超えたとき・下回ったときを検出し起動しますが、データ処理時は、4~20mA → 0-1023 とレベル変換します。

検出タイムの設定値は、『検出モード』全て共通です。

『検出モード』	『検出タイム』 設定内容
—	300/500 ミリ秒、1/2/3/5/10/15/30/60 秒

各しきい値の設定値は、『検出モード』により変わります。

『検出モード』	『しきい値 n』 設定内容
《アナログ電圧 0-5V》	0.0/0.1/0.2/0.3……4.8/4.9/5.0V (0.1V ステップ)
《アナログ電圧 1-5V》	1.0/1.1/1.2/1.3……4.8/4.9/5.0V (0.1V ステップ)
《アナログ電流 0-20mA》	0.0/0.1/0.2/0.3……19.8/19.9/20.0mA (0.1mA ステップ)
《アナログ電流 4-20mA》	4.0/4.1/4.2/4.3……19.8/19.9/20.0mA (0.1mA ステップ)

機能の詳細に関して

- 「入力状態などを監視する [アナログ入力端子の監視](#) (P29)

*5. 本項目に《デジタル出力n》を設定すると、異常検出時に設定されたデジタル出力を連動 (ON) します。

なお、本項目は『運用』《有》に設定されているデジタル出力より選択しますので、先にデジタル出力の設定を行ってください。

注意

- シーケンサ端子はデジタル出力連動端子として使用できません。

機能の詳細に関して

- 「デジタル出力を制御する」(P72)

*6. 通報起動条件は、本アナログ入力の通報を行う場合、各しきい値毎に設定します。

『通報起動条件』	設定内容説明
《異常時》	異常検出した場合にのみ、通報を起動します。
《異常・復旧時》	異常検出した場合に通報を起動、また復旧検出した場合にも通報を起動します。

- *7. 通報モード1および2状態における通報パターン（通報グループおよび次通報）を設定します。
なお、『第n 通報グループ』は、設定されている通報グループより選択しますので、先に通報グループの設定を行ってください。

機能の詳細に関して

- 「通報する：基本事項 通報する順序」(P46)

注意 通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 通報先設定の考え方」(P232)をご覧ください。

- *8. 音声メッセージは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 - 音声通報（通報要因メッセージおよび付加情報メッセージとして送出します）
 - DTMF音声コントロール（現在状態確認時の応答メッセージとして送出します）

機能の詳細に関して

- 「通報する：音声」(P51)
- 「コントロールする：DTMF音声」(P129)

注意 音声メッセージの設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 音声メッセージの設定方法」(P234)をご覧ください。

- *9. Eメール、FAXメッセージは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 - Eメール通報（通報内容および付加情報内容としてEメール文内に表示します）
 - FAX通報（通報内容および付加情報内容としてFAX文内に表示します）
 - DTMF音声コントロール（FAX現在状態帳票出力時にFAX文内に表示します）

機能の詳細に関して

- 「通報する：Eメール」(P54)
- 「通報する：FAX」(P59)
- 「コントロールする：DTMF音声」(P129)

注意

- FAXの場合は半角59文字以上は表示できません。

- *10. DTMFデータは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。ただし、固定データで通報する場合は、未設定にしてください。
 - DTMF通報（通報内容として送信します）
 - DTMFデータコントロール（現在状態確認時の応答データとして送出します）

『DTMF 任意データ』	設定内容説明
0～9、A～D、*、#	送出するDTMF信号です。
、【カンマ】	ポーズ（約3秒）です。

機能の詳細に関して

- 「通報する：DTMF」(P66)
- 「コントロールする：DTMFデータ」(P135)

- *11. ブラウザ表示は、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 - ブラウザコントロール（現在状態、履歴など本端子の状態表示時に使用します）

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

注意 文字色、背景色の設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 現在状態画面の表示色の設定方法」(P238)をご覧ください。

- *12. 計算式を利用すると、アナログ値を加工し、以下の機能動作を行うことができます。
 - 音声通報時に計算結果を通報メッセージの一部として送出できます。
※、『音声メッセージ』にも設定が必要です。
 - Eメール、FAX通報時に計算結果を通報内容の一部として表示します。
※、『Eメール、FAXメッセージ』にも設定が必要です。
 - ブラウザの現在状態表示時に計算結果を表示します。

機能の詳細に関して

- 「通報する：音声」(P51)
- 「通報する：Eメール」(P54)
- 「通報する：FAX」(P59)
- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

注意

- マクロに誤りがある場合、マクロ文字がそのまま送出(表示)されたり、「ERR」と表示されます。（「設定」ボタンを押した時にエラーメッセージが表示されますが、設定内容は保存されます。）

注意 計算式の設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 入力端子計算式の設定方法」(P233)をご覧ください。

- *13. 動作記録を《有》にすると、各しきい値の異常・復旧検出時、動作履歴に記録します。以下の機能動作を行う場合に設定してください。
- 本端子の異常検出回数を帳票（日報や月報帳票）に集計し、ブラウザで閲覧する（デジタル_イベントのみ）
 ※帳票に使用する場合は、必ず『定時記録』《有》にする必要があります。
 - 本端子の動作を履歴として記録し、ブラウザで閲覧またはセンタ装置で収集する
 - アナログ詳細履歴の動作トリガとして使用する（デジタル_イベントのみ）

定時記録を《有》にすると、1分間隔で状態（異常・復旧およびアナログ値）を定時間隔履歴に記録またアナログ詳細定時間隔履歴の対象になります。以下の機能動作を行う場合に設定してください。

- 本端子のアナログ値を帳票（日報や月報帳票）に集計し、ブラウザで閲覧する
- 本端子の定時状態を履歴として記録し、センタ装置で収集する

機能の詳細に関して

- 「監視データを記録する」(P78)
- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

定時刻の設定

各定時刻に関する設定をします。

【設定名称】起動要因設定_定時刻 【No】1～5

設定項目	設定内容	初期値	概要
名称	文字 (Max 半角 31 文字)	定時刻 n	本定時通報の名称。 *1
検出に関する設定			
検出モード	*2	無	*2
検出時刻	*2	**	*2
時間間隔	10/15/20/30 分	30 分	*2
開始時刻	00 時 00 分～23 時 59 分	10 時 00 分	*2
検出時、デジタル出力運動に関する設定			
デジタル出力運動	デジタル出力 n/無	無	異常検出時にデジタル出力運動の有無。 *3
検出時、通報動作に関する設定			
モード 1 通報	有/無		通報モード 1 状態での通報起動有無および通報パターン。 *4
第 1 通報グループ	通報グループ n/無	無	
第 1 次通報	有/無	無	
.	.		
第 5 通報グループ	通報グループ n/無	無	
モード 2 通報	有/無		通報モード 2 状態での通報起動有無および通報パターン。 *4
第 1 通報グループ	通報グループ n/無	無	
第 1 次通報	有/無	無	
.	.		
第 5 通報グループ	通報グループ n/無	無	
音声通報に関する設定			
音声メッセージ	文字 (Max 半角 127 文字)	**	音声用のメッセージ。 *5
Eメール通報、FAX通報に関する設定			
Eメール、FAX メッセージ	文字 (Max 半角 127 文字)	**	Eメール、FAX 用のメッセージ。 *6
日報・月報 Eメール添付ファイル	月報/日報/無	無	Eメールの定時刻通報時に帳票を添付する場合選択。 *7
日報・月報 FAX 帳票	月報/日報/無	無	FAX 通報の定時刻通報時に帳票を出力する場合選択。 *7
DTMF 通報に関する設定			
DTMF データ	*8 (Max 半角 31 文字)	**	DTMF 用のデータ。 *8

**実際のシステムデータ設定画面をご覧ください。

ご注意

- 定時刻が起動する時刻は、設定値より最大 5 秒程度遅れる場合があります。(必ず XX 分 00 秒で起動するとは限りません)
- 定時通報中 (起動から通報完了まで) に再度同一 No の定時刻を検出した場合、通報を行います。
- 動作記録は、時刻検出時に必ず記録します。(通報の有無には関係ありません) 記録した内容は、コントロール機能 (動作履歴) で確認できます。

- *1. 名称は、以下の機能動作で使用します。必ず設定してください。
- システムデータ設定ページ内 (他設定項目において、本入力の表示時に使用します)
 - ブラウザコントロール (履歴など本定時通報の表示時に使用します)

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

*2. 検出モードは、以下を参考に設定してください。

『検出モード』	設定内容説明
《無》	検出しません。
《毎時》	毎時、『検出時刻』で設定した《xx分》に検出します。
《毎日》	毎日、『検出時刻』で設定した《xx時xx分》に検出します。
《毎週》	毎週、『検出時刻』で設定した《x曜日xx時xx分》に検出します。
《毎月》	毎月、『検出時刻』で設定した《xx日xx時xx分》に検出します。
《毎年》	毎年、『検出時刻』で設定した《xx月xx日xx時xx分》に検出します。
《指定日》	『検出時刻』で設定した《xx年xx月xx日xx時xx分》のみ検出します。
《定時間隔》	『開始時刻』で設定した《xx時xx分》より『時間間隔』で設定した《xx分》毎に検出します。

注意

- 《定時間隔》で運用中に本装置の時計データを変更すると、『時間間隔』はリセットされ、再度『開始時刻』になるまで、検出しません。本装置の時計データを変更する場合は、『開始時刻』を設定し直すことをお勧めします。

*3. 本項目に《デジタル出力n》を設定すると、定時刻検出時に設定されたデジタル出力を連動（ON）します。
 なお、本項目は『運用』《有》に設定されているデジタル出力より選択しますので、先にデジタル出力の設定を行ってください。

注意

- シーケンサ端子はデジタル出力連動端子として使用できません。

機能の詳細に関して

- 「デジタル出力を制御する」(P72)

*4. 通報モード1および2状態における通報パターン（通報グループおよび欠通報）を設定します。
 なお、『第n通報グループ』は、設定されている通報グループより選択しますので、先に通報グループの設定を行ってください。

機能の詳細に関して

- 通報する：基本事項 [通報する順序](#) (P46)

機能の詳細に関して 通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 [通報先設定の考え方](#) (P232)をご覧ください。

*5. 音声メッセージは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 音声通報（通報要因メッセージとして送出します）

機能の詳細に関して

- 「通報する：音声」(P51)

機能の詳細に関して 音声メッセージの設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 [音声メッセージの設定方法](#) (P234)をご覧ください。

*6. Eメール、FAXメッセージは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 Eメール通報（通報内容および付加情報内容としてEメール文内に表示します）
 FAX通報（通報内容および付加情報内容としてFAX文内に表示します）

機能の詳細に関して

- 「通報する：Eメール」(P54)
- 「通報する：FAX」(P59)

*7. 本項目を《日報》または《月報》に設定すると、通報時に付加情報として前日日報または前月月報を付加します。

機能の詳細に関して

- 「通報する：基本事項 [通報内容に現在状態を付加する](#)」(P40)

*8. DTMFデータは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。ただし、固定データで通報する場合は、未設定にしてください。
 DTMF通報（通報内容として送信します）

『DTMF 任意データ』	設定内容説明
0~9、A~D、*、#	送出するDTMF信号です。
、【カンマ】	ポーズ（約3秒）です。

機能の詳細に関して

- 「通報する：DTMF」(P66)

停電・復電の設定

停電・復電に関する設定をします。

【設定名称】起動要因設定_停電・復電 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要	
検出に関する設定				
検出タイマ	10/30秒 1/5/10/15/30/60分	10秒	検出確定時間。 *1	
検出時、デジタル出力連動に関する設定				
デジタル出力連動	デジタル出力n/無	無	異常検出時にデジタル出力連動の有無。 *2	
検出時、通報動作に関する設定				
通報起動条件	停電時/停電・復電時	停電時	*3	
モード1 通報	有/無		通報モード1 状態での通報起動有無および通報パターン。 *4	
第1 通報グループ	通報グループn/無	無		
第1 次通報	有/無	無		
.	.			
第5 通報グループ	通報グループn/無	無		
モード2 通報	有/無		通報モード2 状態での通報起動有無および通報パターン。 *4	
第1 通報グループ	通報グループn/無	無		
第1 次通報	有/無	無		
.	.			
第5 通報グループ	通報グループn/無	無		
音声通報、DTMFコントロールに関する設定				
音声メッセージ	停電 文字 (Max 半角 127 文字) 復電 文字 (Max 半角 127 文字)	**	音声用のメッセージ。 *5	
Eメール通報、FAX通報に関する設定				
Eメール、FAXメッセージ	停電 文字 (Max 半角 127 文字) 復電 文字 (Max 半角 127 文字)	**	Eメール、FAX用のメッセージ。 *6	
DTMF通報に関する設定				
DTMF データ	停電 *7 (Max 半角 31 文字) 復電 *7 (Max 半角 31 文字)	**	DTMF 用のデータ。 *7	
ブラウザコントロールに関する設定				
ブラウザ表示	停電	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用のメッセージ。 *8
	文字色	文字(半角のみ6桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
	背景色	文字(半角のみ6桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
	太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。
	復電	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用のメッセージ。
	文字色	文字(半角のみ6桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
	背景色	文字(半角のみ6桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
	太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。

**実際のシステムデータ設定画面をご覧ください。

ご注意

- 停電検出後の電池保持時間は、待機状態で1時間です。なお、充電状態や停電通報動作の回数などにより保持時間は変わりますので、停電検出後は早急に対応して下さい。
- 停電通報中（起動から通報完了まで）に再度停電が発生した場合、通報は行いません。（同一異常通報の複数発生防止）なお、検出は行いますのでデジタル出力連動や動作記録は行います。
- 動作記録は、停電および復電検出時に必ず記録します。（通報の有無には関係ありません）記録した内容は、コントロール機能（動作履歴）で確認できます。

- *1. 停電状態が『検出タイマ』経過した場合、停電検出します。また、停電検出後、復電状態が『検出タイマ』経過した場合、復電検出します。
- *2. 本項目に《デジタル出力n》を設定すると、停電検出時に設定されたデジタル出力を連動（ON）します。
 なお、本項目は『運用』《有》に設定されているデジタル出力より選択しますので、先にデジタル出力の設定を行ってください。

ご注意

- シーケンサ端子はデジタル出力連動端子として使用できません。

機能の詳細に関して

- 「デジタル出力を制御する」(P72)

*3. 通報起動条件は、停電・復電の通報を行う場合に設定します。

『通報起動条件』	設定内容説明
《停電時》	停電検出した場合にのみ、通報を起動します。
《停電・復電時》	停電検出した場合に通報を起動、また復電検出した場合にも通報を起動します。

*4. 通報モード1および2状態における通報パターン（通報グループおよび次通報）を設定します。
 なお、『第n 通報グループ』は、設定されている通報グループより選択しますので、先に通報グループの設定を行ってください。

機能の詳細に関して

- 「通報する：基本事項 通報する順序」(P46)

機能 通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 通報先設定の考え方」(P232)をご覧ください。

*5. 音声メッセージは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 音声通報（通報要因メッセージおよび付加情報メッセージとして送出します）

機能の詳細に関して

- 「通報する：音声」(P51)

機能 音声メッセージの設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 音声メッセージの設定方法」(P234)をご覧ください。

*6. Eメール、FAXメッセージは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 Eメール通報（通報内容および付加情報内容としてEメール文内に表示します）
 FAX通報（通報内容および付加情報内容としてFAX文内に表示します）

機能の詳細に関して

- 「通報する：Eメール」(P54)
- 「通報する：FAX」(P59)

*7. DTMFデータは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。ただし、固定データで通報する場合は、未設定にしてください。
 DTMF通報（通報内容として送信します）

『DTMF 任意データ』	設定内容説明
0～9、A～D、*、#	送出するDTMF 信号です。
、【カンマ】	ポーズ（約3秒）です。

機能の詳細に関して

- 「通報する：DTMF」(P66)

*8. ブラウザ表示は、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 ブラウザコントロール（現在状態、履歴など本端子の状態表示時に使用します）

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

機能 文字色、背景色の設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 現在状態画面の表示色の設定方法」(P238)をご覧ください。

ローバッテリーの設定

停電中（電池動作中）の電池電圧低下（ローバッテリー）に関する設定をします。

【設定名称】起動要因設定_ローバッテリー 【No】 -

設定項目	設定内容	初期値	概要
検出時、デジタル出力運動に関する設定			
デジタル出力運動	デジタル出力n/無	無	異常検出時にデジタル出力運動の有無。 *1
検出時、通報動作に関する設定			
モード1 通報	有/無	無	通報モード1 状態での通報起動有無および通報パターン。 *2
第1 通報グループ	通報グループn/無	無	
第1 次通報	有/無	無	
⋮	⋮		
第5 通報グループ	通報グループn/無	無	
モード2 通報	有/無	無	通報モード2 状態での通報起動有無および通報パターン。 *2
第1 通報グループ	通報グループn/無	無	
第1 次通報	有/無	無	
⋮	⋮		
第5 通報グループ	通報グループn/無	無	
音声通報に関する設定			
音声メッセージ	文字 (Max 半角 127 文字)	**	音声用のメッセージ。 *3
Eメール通報、FAX通報に関する設定			
Eメール、FAXメッセージ	文字 (Max 半角 127 文字)	**	Eメール、FAX用のメッセージ。 *4
DTMF通報に関する設定			
DTMF データ	*5 (Max 半角 31 文字)	**	DTMF 用のデータ。 *5

**実際のシステムデータ設定画面をご覧ください。

ご注意

- ローバッテリー検出後の電池保持時間は、電池満充電状態でローバッテリー検出後 30 分程度です。なお、充電状態やローバッテリー通報動作の回数などにより保持時間は変わりますので、ローバッテリー検出後は早急に対応して下さい。
- ローバッテリー通報中（起動から通報完了まで）に再度ローバッテリーが発生した場合、通報を行います。
- 動作記録は、ローバッテリー検出時に必ず記録します。（通報の有無には関係ありません）記録した内容は、コントロール機能（動作履歴）で確認できます。

- *1. 本項目に《デジタル出力n》を設定すると、ローバッテリー検出時に設定されたデジタル出力を連動（ON）します。
 なお、本項目は『運用』『有』に設定されているデジタル出力より選択しますので、先にデジタル出力の設定を行ってください。

ご注意

- シーケンサ端子はデジタル出力連動端子として使用できません。

機能の詳細に関して

- 「デジタル出力を制御する」(P72)

- *2. 通報モード1および2状態における通報パターン（通報グループおよび次通報）を設定します。
 なお、『第n 通報グループ』は、設定されている通報グループより選択しますので、先に通報グループの設定を行ってください。

機能の詳細に関して

- 「通報する：基本事項 通報する順序」(P46)

☑ 通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 通報先設定の考え方」(P232)をご覧ください。

- *3. 音声メッセージは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 音声通報（通報要因メッセージとして送出します）

機能の詳細に関して

- 「通報する：音声」(P51)

☑ 音声メッセージの設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 音声メッセージの設定方法」(P234)をご覧ください。

- *4. Eメール、FAXメッセージは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
- Eメール通報（通報内容としてEメール文内に表示します）
 - FAX通報（通報内容としてFAX文内に表示します）

機能の詳細に関して

- 「通報する：Eメール」(P54)
- 「通報する：FAX」(P59)

- *5. DTMFデータは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。ただし、固定データで通報する場合は、未設定にしてください。
- DTMF通報（通報内容として送信します）

『DTMF 任意データ』	設定内容説明
0~9、A~D、*、#	送出するDTMF信号です。
、【カンマ】	ポーズ（約3秒）です。

機能の詳細に関して

- 「通報する：DTMF」(P66)

モード切替の設定

通報モードの切替に関する設定をします。

【設定名称】起動要因設定_モード切替 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要
<i>モード切替に関する設定</i>			
切替方式	ボタン/外部スイッチ/カレンダー	ボタン	切替方式。 *1

モード切替に関する以降の設定は、『切替方式』の設定により、変わります。

1 《ボタン》の場合

切替遅延タイム(1→2)	*1	0秒	モード1→2への切替遅延。 *1
切替遅延タイム(2→1)	*1	0秒	モード2→1への切替遅延。 *1

2 《外部スイッチ》の場合

外部切替スイッチ	デジタル・アナログ入力n/無	未設定	外部スイッチを接続する入力端子。 *1
切替遅延タイム(1→2)	*1	0秒	モード1→2への切替遅延。 *1
切替遅延タイム(2→1)	*1	0秒	モード2→1への切替遅延。 *1

3 《カレンダー》の場合

モード2 開始時刻	00時00分~23時59分	20時00分	モード2 曜日や月日以外の日でモード2とする開始時刻。 *1
モード2 運用時間	0~1440分間	0分間	モード2 開始時刻からの運用時間。 *1
モード2 月日	1月1日~12月31日(Max30日)	未設定	1日中モード2とする月日。 *1
モード2 曜日	月~日曜日 (Max7曜日)	未設定	1日中モード2とする曜日。 *1

以降共通

<i>切替時、デジタル出力運動に関する設定</i>				
デジタル出力運動	デジタル出力n/無	無	モード1→2への切替時にデジタル出力運動の有無。 *2	
<i>切替時、通報動作に関する設定</i>				
モード1 通報	有/無	無	通報モード1状態での通報起動有無および通報パターン。 *3	
第1 通報グループ	通報グループn/無	無		
第1 次通報	有/無	無		
⋮	⋮			
第5 通報グループ	通報グループn/無	無		
モード2 通報	有/無	無	通報モード2状態での通報起動有無および通報パターン。 *3	
第1 通報グループ	通報グループn/無	無		
第1 次通報	有/無	無		
⋮	⋮			
第5 通報グループ	通報グループn/無	無		
<i>音声通報、DTMFコントロールに関する設定</i>				
音声メッセージ	モード1→2 文字 (Max半角127文字)	**	音声用のメッセージ。 *4	
	モード2→1 文字 (Max半角127文字)	**		
<i>Eメール通報、FAX通報に関する設定</i>				
Eメール、FAXメッセージ	モード1→2 文字 (Max半角127文字)	**	Eメール、FAX用のメッセージ。 *5	
	モード2→1 文字 (Max半角127文字)	**		
<i>DTMF通報に関する設定</i>				
DTMFデータ	モード1→2 *6 (Max半角31文字)	**	DTMF用のデータ。 *6	
	モード2→1 *6 (Max半角31文字)	**		
<i>ブラウザコントロールに関する設定</i>				
ブラウザ表示	モード2	文字 (Max半角31文字)	**	ブラウザ表示用のメッセージ。 *7
	文字色	文字(半角のみ6桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
	背景色	文字(半角のみ6桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
	太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。
	モード1	文字 (Max半角31文字)	**	ブラウザ表示用のメッセージ。
	文字色	文字(半角のみ6桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
	背景色	文字(半角のみ6桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
	太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。

ご注意

- カレンダーによる切替の場合、切替時刻は設定値より最大5秒程度遅れる場合があります。(必ずXX分00秒で切替えるとは限りません)

- モード1→2（またはモード2→1）通報中に、再度モード1→2（またはモード2→1）通報要因が発生した場合、通報は行いません。（同一通報の複数発生防止）なお、検出は行いますのでデジタル出力連動や動作記録は行います。
- 動作記録は、モード1およびモード2切替時に必ず記録します。（通報の有無には関係ありません）記録した内容は、コントロール機能（動作履歴）で確認できます。

*1. モード切替の方法に関する設定をします。

『切替方式』が《ボタン》の場合

切替遅延タイム（モード切替を検出してから切り替えるまでの遅延時間）を設定します。

設定項目	設定内容
『切替遅延タイム（1→2）』	0/3/5/10/15/30/60/120/180/240 秒
『切替遅延タイム（2→1）』	0/3/5/10/15/30/60/120/180/240 秒

『切替方式』が《外部スイッチ》の場合

外部スイッチを接続するデジタル入力、アナログ入力（デジタルで使用）と切替遅延タイムを設定します。

なお、『外部切替スイッチ』は『運用』《有》に設定されているデジタル・アナログ入力の内『異常モード』が《イベント・メーク》または《イベント・ブレーク》の入力より選択しますので、先にデジタル入力やアナログの設定を行ってください。

『異常モード』	モード1	モード2
《メーク》	ブレーク	メーク
《ブレーク》	メーク	ブレーク

ご注意

- 通報先が設定されているデジタル・アナログ入力は外部切替スイッチとして使用できません。
- シーケンサ端子は外部切替スイッチとして使用できません。

『切替方式』が《カレンダー》の場合

モード2へ切り替える月日や曜日、時刻を設定します。

設定項目	項目説明
『月日』	設定された月日は、00時00分より終日モード2状態となります。
『曜日』	設定された曜日は、00時00分より終日モード2状態となります。
『開始時刻』	『開始時刻』より『時間間隔』のみモード2状態となります。
『時間間隔』	※、『月日』『曜日』で設定された日や曜日以外の日が対象です。

機能の詳細に関して

- 「通報する：基本事項 [通報モードを切替える](#)」(P32)

*2. 本項目に《デジタル出力n》を設定すると、モード2切替時に設定されたデジタル出力を連動（ON）します。
 なお、本項目は『運用』《有》に設定されているデジタル出力より選択しますので、先にデジタル出力の設定を行ってください。

ご注意

- シーケンサ端子はデジタル出力連動端子として使用できません。

機能の詳細に関して

- 「デジタル出力を制御する」(P72)

*3. 通報モード1および2状態における通報パターン（通報グループおよび次通報）を設定します。
 なお、『第n通報グループ』は、設定されている通報グループより選択しますので、先に通報グループの設定を行ってください。

機能の詳細に関して

- 「通報する：基本事項 [通報する順序](#)」(P46)

注意 通報先設定の考え方について、「データを設定する：共通設定方法 [通報先設定の考え方](#)」(P232)をご覧ください。

*4. 音声メッセージは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 音声通報（通報要因メッセージおよび付加情報メッセージとして送ります）

機能の詳細に関して

- 「通報する：音声」(P51)

注意 音声メッセージの設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 [音声メッセージの設定方法](#)」(P234)をご覧ください。

- *5. Eメール、FAXメッセージは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 - Eメール通報（通報内容および付加情報内容としてEメール文内に表示します）
 - FAX通報（通報内容および付加情報内容としてFAX文内に表示します）

機能の詳細に関して

- 「通報する：Eメール」(P54)
- 「通報する：FAX」(P59)

- *6. DTMFデータは、以下の機能動作を行う場合に設定してください。ただし、固定データで通報する場合は、未設定にしてください。
 - DTMF通報（通報内容として送信します）

『DTMF 任意データ』	設定内容説明
0~9、A~D、*、#	送出するDTMF信号です。
、【カンマ】	ポーズ（約3秒）です。

機能の詳細に関して

- 「通報する：DTMF」(P66)

- *7. ブラウザ表示は、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 - ブラウザコントロール（現在状態、履歴など本端子の状態表示時に使用します）

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

文字色、背景色の設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 [現在状態画面の表示色の設定方法](#)」(P238)をご覧ください。

シーケンサ共通の設定

本設定は、CSDX(S)のみ対応しています。

シーケンサに関する共通設定をします。

 接続するシーケンサについて、「端子を増設する」(P140)をご覧ください。

【設定名称】起動要因設定_シーケンサ共通 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要		
シリアル通信に関する設定					
通信速度	9600/19200	9600	シリアルポートの通信速度。 *1		
パリティビット	無/奇数/偶数	無	シリアル通信のパリティビット。 *1		
データ長	5/6/7/8	8	シリアル通信のデータ長。 *1		
ストップビット	1/2	1	シリアル通信のストップビット。 *1		
通信手順に関する設定					
フレームタイプ/ CPUタイプ	A 互換 1C フレーム(ACPU)/ A 互換 1C フレーム(AnACPU)	A 互換 1C フレーム(ACPU)	フレームのタイプ/CPU のタイプ。 *1		
フレーム形式	形式 1/形式 4	形式 1	フレームの形式。 *1		
チェックサム	有/無	無	チェックサムの有無。 *1		
伝文ウェイト	0/10/20...130/140/150 ミリ秒	100 ミリ秒	伝文のウェイト時間。 *1		
ポーリング間隔	1/2/3/5/10/15/20/30/60 秒	3 秒	ポーリングの間隔。 *2		
ビットデバイスに関する設定					
先頭デバイス (キャラクタ番号)	(M)0~9 (半角のみ Max8 桁)	(M)0000	ビットデバイスの先頭デバイス番号。 *3		
使用デバイス数	0/1/2...63/64	64	ビットデバイスとして使用する端子数。 *4		
ワードデバイスに関する設定					
先頭デバイス (キャラクタ番号)	(D)0~9 (半角のみ Max8 桁)	(D)0000	ワードデバイスの先頭デバイス番号。 *3		
使用デバイス数	0/1/2...63/64	0	ワードデバイスとして使用する端子数。 *4		
ブラウザコントロールに関する設定					
ブラウザ 表示	異常	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用のメッセージ。 *5	
		文字色	文字(半角のみ 6 桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
		背景色	文字(半角のみ 6 桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
		太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。
	復旧	文字 (Max 半角 31 文字)	**	ブラウザ表示用のメッセージ。	
		文字色	文字(半角のみ 6 桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの文字色。
		背景色	文字(半角のみ 6 桁固定)/未設定	**	ブラウザ表示用メッセージの背景色。
		太字	有/無	無	ブラウザ表示用メッセージの太字フォント。

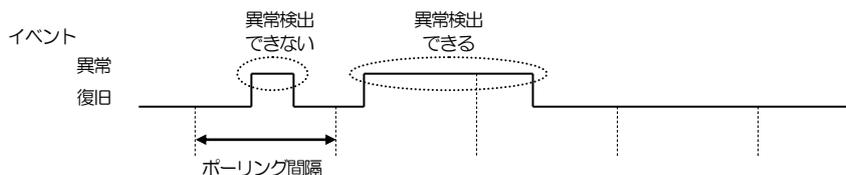
*1. シーケンサのプログラムと同じにする必要があります。詳しくはシーケンサの説明書をご覧ください。

*2. 本装置からシーケンサへのポーリング間隔です。設定した間隔で本装置からシーケンサへポーリングを行い、端子の状態を監視します。

ご注意

- 設定値により、異常の検知に遅延がある場合があります。遅延を少なくするためには、できる限り小さい値を設定してください。
- イベントとして使用する場合、ポーリング間隔に対して異常となる時間が短いと異常を検出できません。異常となる時間より短くするか、シーケンサのプログラムで異常の状態を保持するようにしてください。

検出できない例



- *3. 本装置がシーケンサのデバイスメモリに対して、一括読み出しを行うため、シーケンサのデバイスは連続したデバイス番号に割り付けられる必要があります。シーケンサには、デジタル入力、デジタル出力をビットデバイス(MXXXX)として割り付け、アナログ入力やカウンタ(時間積算、パルス積算)をワードデバイス(DXXXX)として割り付けるプログラムが必要です。

 シーケンサのプログラムについて、「データを設定する：シーケンサプログラムについて」(P263)をご覧ください。

- *4. $\text{ビットデバイス数} + \text{ワードデバイス数} \leq 64$ となるように設定してください。
 ビットデバイス数 = イベント入力端子数 + デジタル出力端子数
 ワードデバイス数 = アナログ入力端子数 + パルス積算端子数 + 時間積算端子数

ビットデバイスの端子番号 = 1 ~ ビットデバイス数

ワードデバイスの端子番号 = (ビットデバイス数 + 1) ~ (ビットデバイス数 + ワードデバイス数)

となります。

注意

- ビットデバイス数、ワードデバイス数は余裕を持って設定してください。ビットデバイスやワードデバイスの設定後、デバイス数を変更した場合、設定値は保証されません。

- *5. ブラウザ表示は、以下の機能動作を行う場合に設定してください。
 - ブラウザコントロール (現在状態、履歴などシーケンサの状態表示時に使用します)

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

 文字色、背景色の設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 現在状態画面の表示色の設定方法」(P238)をご覧ください。

ビットデバイスの設定

本設定は、CSDX(S)のみ対応しています。

各ビットデバイスに関する設定をします。

【設定名称】起動要因設定_ビットデバイス 【No】1~64(*1)

設定項目	設定内容	初期値	概要
運用	有/無	無	本ビットデバイス使用の有無。 *2
端子用途	デジタル入力/デジタル出力	デジタル入力	本ビットデバイスの端子用途。
名称	文字 (Max 半角31文字)	シーケンサ端子n	本ビットデバイスの名称。 *3

以降の設定項目は、『端子用途』の設定により、変わります。

- ・《デジタル入力》の場合、デジタル入力と同様な項目(『通報起動条件』以降)が表示されます。ただし、『計算式』は除きます。
「デジタル入力の設定」(P197)をご覧ください。
- ・《デジタル出力》の場合、デジタル出力と同様な項目(『音声メッセージ』以降)が表示されます。
「デジタル出力の設定」(P186)をご覧ください。

ご注意

- ビットデバイスは本装置内蔵のデジタル入力(イベント)端子、デジタル出力端子として使用できますが、デジタル入力、デジタル出力それぞれが連続した端子番号になるように設定してください。不連続の場合、本装置とシーケンサとの通信が煩雑になり、正しく検出できない場合があります。
例 ビットデバイス数：32、デジタル入力端子として使用：10 端子 デジタル出力端子として使用：5 端子の場合、シーケンサ端子 1~10の『端子用途』を《デジタル入力》に設定、シーケンサ端子 16~20の『端子用途』を《デジタル出力》に設定するなどとしてください。
- 異常通報中(起動から通報完了まで)に再度同一Noの異常が発生した場合、通報は行いません。(同一異常通報の複数発生防止)なお、検出は行いますので動作記録は行います。

*1. 設定した使用デバイス数によって異なります。

 端子番号について、「データを設定する：設定内容 [シーケンサ共通の設定](#) (P215)をご覧ください。

*2. 本ビットデバイスの状態監視を行う場合、《有》に設定してください。未使用の入力は《無》に設定してください。

*3. 名称は、以下の機能動作で使用します。必ず設定してください。

- システムデータ設定ページ内 (他設定項目において、本ビットデバイスの表示時に使用します)
- ブラウザコントロール (現在状態、履歴など本ビットデバイスの表示時に使用します)

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

ワードデバイスの設定

本設定は、CSDX(S)のみ対応しています。

各ワードデバイスに関する設定をします。

【設定名称】起動要因設定_ワードデバイス 【No】1~64(*1)

設定項目	設定内容	初期値	概要
運用	有/無	無	本ワードデバイス使用の有無。 *2
端子用途	アナログ入力/デジタル入力	アナログ入力	本ワードデバイスの端子用途。
名称	文字 (Max 半角31文字)	シーケンサ端子n	本ワードデバイスの名称。 *3

以降の設定項目は、『端子用途』の設定により、変わります。

1 《アナログ入力》の場合

検出に関する設定			
しきい値1(HH)	0~65534/未設定	未設定	しきい値1の検出値。 *4
しきい値2(H)	0~65534/未設定	未設定	しきい値2の検出値。 *4
しきい値3(L)	0~65534/未設定	未設定	しきい値3の検出値。 *4
しきい値4(LL)	0~65534/未設定	未設定	しきい値4の検出値。 *4
しきい値5(断線)	0~65534/未設定	未設定	しきい値5の検出値。 *4

以降の設定項目は、アナログ入力と同様な項目(『通報起動条件』以降)が表示されます。

2 《デジタル入力》の場合

積算値クリアに関する設定			
デバイス(キャラクタ番号)	(M)0~9 (半角のみMax8桁)	(M)未設定	積算値クリア用に割り当てるデバイス。 *5
検出に関する設定			
異常モード	パルス積算/時間積算	イベント・メーク	異常検出方法。 *6
異常積算値	*4	無	*6

以降の設定項目は、デジタル入力と同様な項目(『モード1通報』以降)が表示されます。

ご注意

- 『端子用途』が《アナログ入力》の場合、異常通報中(起動から通報完了まで)に再度同一No 同一しきい値の異常が発生した場合、通報は行いません。(同一異常通報の複数発生防止)なお、検出は行いますので動作記録は行います。
- 異常モードや異常積算値の設定を変更しても、今まで積算した積算値はクリアされません。異常モードや異常積算値の設定を変更した場合は、特別な事情がない限り、コントロール機能により積算値クリアを行ってください。

*1. 設定した使用デバイス数によって異なります。

端子番号について、「データを設定する：設定内容 [シーケンサ共通の設定](#) (P215)をご覧ください。

*2. 本ワードデバイスの状態監視を行う場合、《有》に設定してください。未使用の入力は《無》に設定してください。

*3. 名称は、以下の機能動作で使用します。必ず設定してください。

- システムデータ設定ページ内 (他設定項目において、本ワードデバイスの表示時に使用します)
- ブラウザコントロール (現在状態、履歴など本ワードデバイスの表示時に使用します)

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

- *4. シーケンサの検出方法に合わせて設定してください。
- *5. 積算値クリアに使用するデバイス番号を設定します。未設定の場合、コントロールによる積算値クリアが行えません。積算値クリアを行いたい場合は必ず設定してください。シーケンサでは積算値クリア処理を行うプログラムが必要です。

 シーケンサのプログラムについて、「データを設定する：共通設定方法 [シーケンサプログラムについて](#)」(P263)をご覧ください。

 機能の詳細に関して

- 「コントロールする：」(P84)

- *6. 異常モードは、本ワードデバイスの異常検出方法です。

『異常モード』	設定内容
《パルス積算》	ワードデバイスのデータを積算回数として取り扱うことにより、異常値または異常値毎に検出します。
《時間積算》	ワードデバイスのデータを積算時間(秒)として取り扱うことにより、異常値または異常値毎に検出します。

異常積算値について、以下を参考にして設定してください。

異常積算値	設定内容説明
《(異常積算値)のみ》	積算値が異常積算値を超えた時、異常検出します。 端子状態は、異常積算値を超えた後、常に異常状態となります。 再度異常検出させる場合は、コントロール機能で積算値のクリアを行う必要があります。
《(異常積算値)毎》	異常積算値毎(例、1000毎の場合、1000、2000、3000……)に異常検出します。 端子状態は、異常積算値を超えた後、瞬間的に異常状態となりますが、すぐに正常状態となります。
《無》	積算はしますが、異常検出しません。 端子状態は、常に正常状態となります。

(異常積算値)の設定内容

『異常モード』	(異常積算値)設定内容
《パルス積算》	100回~49900回(100回単位)
《時間積算》	1時間~49999時間(1時間単位)

 ご注意

- 《(異常積算値)毎》は、端子の積算値から検出します。設定した時から積算値毎ではありません。
例 現在の端子積算値が300の時に、《1000回毎》と設定変更した場合、最初の異常検出値は1000です。(1300ではありません)また、以降2000/3000……で異常検出します。

 機能の詳細に関して

- 「入力状態などを監視する [デジタル入力端子の監視](#)」(P28)

アナログ応答の設定

本設定は、CSDX（D）にはありません。

アナログポートの自動応答に関する設定をします。

【設定名称】リモートアクセス設定_自動応答_アナログ応答 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要
自動応答に関する設定			
自動応答機能	有/無	無	自動応答の有無。 *1
自動応答タイマ	3/5/10/15/30/60/120 秒	5 秒	着信検出から自動応答するまでの時間。 *1
データ/ブラウザコントロールに関する設定(PPP)			
ユーザID	文字 (半角のみ Max15 文字)	***	ダイヤルアップ接続された場合の認証用 ID。 *2
パスワード	文字 (半角のみ Max15 文字)	***	ダイヤルアップ接続された場合の認証用パスワード。 *2
端末 IP アドレス	xxxxxxxxxxxx	192.168.2.2	本装置アナログポートの IP アドレス。 *2
接続元 IP アドレス	xxxxxxxxxxxx	192.168.2.12	ダイヤルアップ接続後、接続元へ割り振る IP アドレス。 *2
サブネットマスク	xxxxxxxxxxxx	255.255.255.0	サブネットマスク。 *2
無通信タイマ	切断しない/3/5/10/15/30/60 分	5 分	無通信状態により回線切断 *3

※：「***」は、初期設定値を示します。

- *1. 本項目を《有》に設定すると、アナログポートへの着信が『自動応答タイマ』継続した場合、自動応答し、各種コントロールを行うことができます。

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：」(P84)

- *2. 各設定は、以下の機能動作で使用します。必ず設定してください。セキュリティ向上のため、初期値から設定変更することをお勧めします。なお、パスワードについては「***」または「●●●●」と表示されます。
- アナログポートを利用したブラウザコントロール
 - アナログポートを利用したデータコントロール

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

注意

- 設定変更の際は、設定内容を絶対に忘れないように、メモなどとして保管してください。忘れると、上記機能動作ができなくなります。

- *3. アナログポートを利用したブラウザコントロールやデータコントロールで、本項目の設定時間操作がない場合、強制的に回線を切断します。

注意

- 本設定は、切断忘れや通信（通話）料金の増加を防止するための設定です。なお、ブラウザコントロールの場合は、自動的にログオフする設定（ブラウザコントロールの『再ログイン要求タイマ』）と合わせて設定してください。

PHS 応答の設定

PHS カード（CF カードスロット）の自動応答に関する設定をします。

【設定名称】リモートアクセス設定_自動応答_PHS 応答 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要
自動応答に関する設定			
自動応答機能	有/無	無	自動応答の有無。 *1
データ/ブラウザコントロールに関する設定(PPP)			
ユーザID	文字 (半角のみ Max15 文字)	****	ダイヤルアップ接続された場合の認証用 ID。 *2
パスワード	文字 (半角のみ Max15 文字)	****	ダイヤルアップ接続された場合の認証用パスワード。 *2
端末 IP アドレス	xxxxxxxxxxxx	192.168.5.5	本装置に収容した PHS 通信機器の IP アドレス。 *2
接続元 IP アドレス	xxxxxxxxxxxx	192.168.5.15	ダイヤルアップ接続後、接続元へ割り振る IP アドレス。 *2
サブネットマスク	xxxxxxxxxxxx	255.255.255.0	サブネットマスク。 *2
無通信タイマ	切断しない/3/5/10/15/30/60 分	5 分	無通信状態により回線切断 *3

※：「****」は、初期設定値を示します。

- *1. 本項目を《有》に設定すると、PHSカード（CFカードスロット）へ着信があった場合、即自動応答し、ブラウザコントロールやデータコントロールを行うことができます。

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：」(P84)

- *2. 各設定は、以下の機能動作で使用します。必ず設定してください。セキュリティ向上のため、初期値から設定変更することをお勧めします。なお、パスワードについては「****」または「●●●●」と表示されます。
 - PHSカード（CFカードスロット）を利用したブラウザコントロール
 - PHSカード（CFカードスロット）を利用したデータコントロール

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

ご注意

- 設定変更する際は、設定内容を絶対に忘れないように、メモなどして保管してください。忘れると、上記機能動作ができなくなります。

- *3. PHSカード（CFカードスロット）を利用したブラウザコントロールやデータコントロールで、本項目の設定時間操作がない場合、強制的に回線を切断します。

ご注意

- 本設定は、切断忘れや通信（通話）料金の増加を防止するための設定です。なお、ブラウザコントロールの場合は、自動的にログオフする設定（ブラウザコントロールの『再ログイン要求タイマ』）と合わせて設定してください。

DoPa/FOMA 応答の設定

DoPa や FOMA 通信機器（シリアルポートまたは CF カードスロット）の自動応答に関する設定をします。

【設定名称】リモートアクセス設定_自動応答_DoPa/FOMA 応答 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要
自動応答に関する設定			
自動応答機能	有/無	無	自動応答の有無。 *1
データ/ブラウザコントロールに関する設定(PPP)			
ユーザID	文字 (半角のみ Max15 文字)	***	ダイヤルアップ接続された場合の認証用 ID。 *2
パスワード	文字 (半角のみ Max15 文字)	***	ダイヤルアップ接続された場合の認証用パスワード。 *2
端末 IP アドレス	xxxxxxxxxxx	192.168.6.6	本装置に収容した PHS 通信機器の IP アドレス。 *2
接続元 IP アドレス	xxxxxxxxxxx	192.168.6.16	ダイヤルアップ接続後、接続元へ割り振る IP アドレス。 *2
サブネットマスク	xxxxxxxxxxx	255.255.255.0	サブネットマスク。 *2
無通信タイマ	切断しない/3/5/10/15/30/60 分	5 分	無通信状態により回線切断 *3

※：「***」は、初期設定値を示します。

- *1. 本項目を《有》に設定すると、シリアルポートやCFカードへ接続したDoPaやFOMA機器へ着信があった場合、即自動応答し、ブラウザコントロールやデータコントロールを行うことができます。
 なお、DoPa や FOMA 機器へ着信させるためには、ビジネス mopera アクセスプレミアムを契約した回線経由でパソコンからアクセスする必要があります。

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：」(P84)

- *2. 各設定は、以下の機能動作で使用します。必ず設定してください。なお、パスワードについては「***」または「●●●●」と表示されず。
- DoPa・FOMA通信機器を利用したブラウザコントロール
 - DoPa・FOMA通信機器を利用したデータコントロール

以下 FOMA 利用時の設定例です。

- ユーザID：任意
- パスワード：任意
- 端末 IP アドレス：FOMA 通信機器に設定されている IP アドレス
- 接続元 IP アドレス：コルソスに直近の交換機やルータの IP アドレス
- サブネットマスク：端末 IP アドレスとセンタ IP アドレスが同一ネットワークとなるように設定

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

ご注意

- 設定内容を絶対に忘れないように、メモなどで保管してください。
- 忘れると、上記機能動作ができなくなります。

- *3. DoPa・FOMA通信機器を利用したブラウザコントロールやデータコントロールで、本項目の設定時間操作がない場合、強制的に回線を切断します。

ご注意

- 本設定は、切断忘れや通信（通話）料金の増加を防止するための設定です。
- なお、ブラウザコントロールの場合は、自動的にログオフする設定（ブラウザコントロールの『再ログイン要求タイマ』）と合わせて設定してください。

DTMFコントロールの設定

本設定は、CSDX（D）にはありません。

DTMF コントロールに関する設定をします。

【設定名称】リモートアクセス設定_DTMFコントロール 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要
入力待ちタイム	15/30/60/120/180/240 秒	30 秒	暗証番号やサービス番号の待ち時間。 *1
電話機などからのコントロールに関する設定			
端子状態通知	有/無	無	DTMF 音声コントロール起動時、現在の端子状態などを送出。 *2
パスワード	0~9 (半角のみ 4 桁固定)	****	DTMF 音声コントロールを起動するための暗証番号。 *3
センター装置からのコントロールに関する設定			
パスワード	0~9 (半角のみ 4 桁固定)	****	DTMF データコントロールを起動するための暗証番号。 *4

※：「****」は初期設定値を示します。

- ※1. 『入力待ちタイム』は、暗証番号やサービス番号の待ち時間を設定します。タイム以内に受信できない場合は回線を切断します。
- ※2. 《有》に設定すると、DTMF音声コントロール起動時、IDメッセージに続けて現在の端子状態とシステム状態を送出します。
- ※3. DTMF音声コントロール（DTMFコマンドにより、音声で応答します）のサービスを開始するための暗証番号です。本機能を使用する場合は、必ず数字 4 桁で設定変更してください。未設定にはできません。
なお、パスワードについては「****」または「●●●●」と表示されます。
- ※4. DTMFデータコントロール（DTMFコマンドにより、DTMF信号で応答します）のサービスを開始するための暗証番号です。本機能を使用する場合は、必ず数字 4 桁で設定変更してください。未設定にはできません。
なお、パスワードについては「****」または「●●●●」と表示されます。

機能の詳細に関して

- DTMF 音声コントロールについて、「[コントロール:DTMF音声](#)」(P129)、DTMF データコントロールについて、「[コントロール:DTMFデータ](#)」(P135)

データコントロールの設定

データコントロールに関する設定をします。

【設定名称】 リモートアクセス設定_データコントロール 【No】 -

設定項目	設定内容	初期値	概要	
ポート番号	1~65534	7114	データコントロールのTCPポート。	*1
ユーザID	文字 (半角のみ Max15 文字)	未設定	データコントロール認証用のID。	*2
パスワード	文字 (半角のみ Max15 文字)	未設定	データコントロール認証用のパスワード。	*2
入力待ちタイマ	15/30/60/120/180/240 秒	30 秒	ユーザID、パスワード、コマンドの待ち時間。	*3

注意

- 本設定は、センタ装置からのデータコントロールに関する設定です。
- 詳細については、弊社窓口へお問い合わせください。

- *1. データコントロールのTCPポートを設定します。
- *2. データコントロール時、認証用のユーザID・ユーザパスワードを設定します。
 なお、パスワードについては「***」または「●●●●」と表示されます。
- *3. データコントロール時、ユーザID・ユーザパスワード・コントロールコマンドの待ち時間を設定します。

ブラウザコントロールの設定

ブラウザコントロールに関する設定をします。

【設定名称】リモートアクセス設定_ブラウザコントロール 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要
ポート番号	1~65534	80	ブラウザコントロールのTCPポート。 *1
管理者			管理者ログイン用ID,パスワード。 *2
ID	文字 (半角のみ Max15文字)	****	
パスワード	文字 (半角のみ Max15文字)	****	
ユーザ1			ユーザログイン用ID,パスワード。 *3
ID	文字 (半角のみ Max15文字)	未設定	
パスワード	文字 (半角のみ Max15文字)	未設定	
権限			
デジタル出力制御	有/無	無	
積算値クリア	有/無	無	
履歴・帳票クリア	有/無	無	
時効設定	有/無	無	
ログイン履歴確認	有/無	無	
ユーザ10			
ID	文字 (半角のみ Max15文字)	未設定	
パスワード	文字 (半角のみ Max15文字)	未設定	
権限			
デジタル出力制御	有/無	無	
積算値クリア	有/無	無	
履歴・帳票クリア	有/無	無	
時効設定	有/無	無	
ログイン履歴確認	有/無	無	
再ログイン要求タイマ	3/5/10/15/30/60分	30分	ログイン後、一定時間操作がない場合の再ログイン要求。 *4

※:「****」は、初期設定値を示します。

- *1. ブラウザコントロールのTCPポートを設定します。
通常は、初期値のままです。セキュリティ向上させたい場合など必要に応じて設定変更してください。
- *2. 管理者用のID・パスワードを設定します。
管理者用ID・パスワードは、1人のみログイン可能です。(同時設定や制御防止のため)
- *3. ユーザ用のID・パスワード・権限を設定します。
ユーザ用ID・パスワードは、複数のログイン(最大10)が可能です。ユーザ権限でチェックした機能のコントロールを行うことができます。
- *4. ブラウザでログイン後、本項目の設定時間ブラウザの操作がない場合、強制的にログオフさせます。
ログオフした後、操作が再開された場合、再度ログイン画面からとなります。

ご注意

- 本設定は、ブラウザの異常終了や強制終了により正常なログオフ操作がされなかった場合、ログイン状態が継続するのを防止するため自動的にログオフするための設定です。
なお、アナログポートでのブラウザコントロールの場合は、回線を自動的に切断する設定(アナログ応答設定の『無通信タイマ』)と合わせて設定してください。

機能の詳細に関して

- 「コントロールする：ブラウザ」(P87)

日報スタイルの設定

ブラウザ表示、Eメール通報、FAX 通報の日報帳票のスタイルに関する設定をします。

【設定名称】帳票設定_日報スタイル 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要	FAX 帳票表示 *1
タイトル(上段)	文字 (Max 半角 127 文字)	未設定	帳票に表示するタイトル文字 (上段)。	先頭から半角 34 文字
タイトル(中段)	//	**	帳票に表示するタイトル文字 (中段)。	//
タイトル(下段)	//	未設定	帳票に表示するタイトル文字 (下段)。	//
作成年月日	//	**	帳票に表示する作成年月日のマクロ。	先頭から半角 46 文字
作成情報	文字 (Max 半角 63 文字)	コルソス CSDX	帳票に表示する作成情報。	//
印章			印章欄の題目。	
名称 1	文字 (Max 半角 15 文字)	承認		先頭から半角 10 文字
名称 2	//	確認		//
名称 3	//	担当		//
名称 4	//	未設定		//
フッタ			フッタ欄の題目。	
名称 1	文字 (Max 半角 31 文字)	合計		先頭から半角 12 文字
名称 2	//	未設定		//
名称 3	//	//		//
名称 4	//	//		//
名称 5	//	//		//
列の設定	列設定 n/改ページ/無 (Max32(112)設定可) *1	無	帳票に表示する列 *2	-

**実際のシステムデータ設定画面をご覧ください。

- *1. 帳票で使用する項目を列単位で設定をします。
 列の設定について、日報帳票 (ブラウザ閲覧、FAX 通報) に表示する列を設定します。改ページも 1 列とし、また同じ列設定を複数回設定することもできます。()内は CSDX(S) をご利用の場合の最大値です。
 なお本項目は、設定されている列設定より選択しますので、先に列設定(日報)の設定を行ってください。
 改ページを設定すると帳票が複数ページになります。FAX 帳票では列の設定数により 1 ページ (A4) に表示しきれない場合がありますので、その場合は改ページを設定し複数ページにするか、列設定(日報)の列幅設定で調整してください。

注意

- マクロに誤りがある場合、マクロ文字がそのまま表示されたり、「ERR」と表示されます。(「設定」ボタンを押した時にエラーメッセージが表示されますが、設定内容は保存されます。)

 設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 帳票の設定方法」(P239)をご覧ください。

- *2. FAX帳票では表示制限があります。文字に“
(ブラウザ表示用改行コード)が含まれている場合、1つめの“
”以降の文字は表示されません。
 また名称、単位共に、その他のHTML タグ (“
”, “<div>”) で囲まれた文字列) は全て削除されます。

列設定（日報）

ブラウザ表示、Eメール通報、FAX 通報の日報帳票の列に関する設定をします。

【設定名称】帳票設定_日報スタイル_列設定 【No】1～24 ※.CSDX(S)は1～88

設定項目	設定内容	初期値	概要	*1	FAX 帳票表示 *2
名称	文字 (Max 半角 31 文字)	未設定	列の題目。		列幅による
列幅	0～512	75	列の列幅。		—
単位	文字 (Max 半角 31 文字)	未設定	列の単位。		列幅による
計算式	文字、マクロ (Max 半角 127 文字)	//	列に表示するデータ。		—
フッタ 1 計算式	//	//	列のフッタ 1 欄に表示するデータ。		—
フッタ 2 計算式	//	//	列のフッタ 2 欄に表示するデータ。		—
フッタ 3 計算式	//	//	列のフッタ 3 欄に表示するデータ。		—
フッタ 4 計算式	//	//	列のフッタ 4 欄に表示するデータ。		—
フッタ 5 計算式	//	//	列のフッタ 5 欄に表示するデータ。		—

*1. 帳票で使用する項目を列単位で設定をします。

列幅について、16 ピクセルで全角 1 文字（半角 2 文字）を目安に必要な文字数分を設定してください。

ご注意

- マクロに誤りがある場合、マクロ文字がそのまま表示されたり、「ERR」と表示されます。（「設定」ボタンを押した時にエラーメッセージが表示されますが、設定内容は保存されます。）

 設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 帳票の設定方法 (P239)」をご覧ください。

*2. FAX帳票では表示制限があります。文字に“
”(ブラウザ表示用改行コード)が含まれている場合、名称については1つめの“
”は有効となり改行されますが、2つめの“
”以降の文字は表示されません。単位については、1つめの“
”以降の文字は表示されません。また名称、単位共に、その他のHTMLタグ（“<”、“>”で囲まれた文字列）は全て削除されます。

月報スタイルの設定

ブラウザ表示、Eメール通報、FAX 通報の月報帳票のスタイルに関する設定をします。

【設定名称】帳票設定_月報スタイル 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要 *1	FAX 帳票表示 *2
タイトル(上段)	文字 (Max 半角 127 文字)	未設定	帳票に表示するタイトル文字 (上段)。	先頭から半角 34 文字
タイトル(中段)	文字 (Max 半角 127 文字)	**	帳票に表示するタイトル文字 (中段)。	//
タイトル(下段)	文字 (Max 半角 127 文字)	未設定	帳票に表示するタイトル文字 (下段)。	//
作成年月日	文字 (Max 半角 127 文字)	**	帳票に表示する作成年月日のマクロ。	先頭から半角 46 文字
作成情報	文字 (Max 半角 63 文字)	コルソス CSDX	帳票に表示する作成情報。	//
印章			印章欄の題目。	
名称 1	文字 (Max 半角 15 文字)	承認		先頭から半角 10 文字
名称 2	文字 (Max 半角 15 文字)	確認		//
名称 3	文字 (Max 半角 15 文字)	担当		//
名称 4	文字 (Max 半角 15 文字)	未設定		//
フッタ			フッタ欄の題目。	
名称 1	文字 (Max 半角 31 文字)	合計		先頭から半角 12 文字
名称 2	//	//		//
名称 3	//	//		//
名称 4	//	//		//
名称 5	//	//		//
列の設定	列設定 n/改ページ/無 (Max32(112)設定可) *1	無	帳票に表示する列	

**.実際のシステムデータ設定画面をご覧ください。

- *1. 帳票で使用する項目を列単位で設定をします。
 列の設定について、月報帳票（ブラウザ閲覧、FAX 通報）に表示する列を設定します。改ページも 1 列とし、また同じ列設定を複数回設定することもできます。()内は CSDX(S) をご利用の場合の最大値です。
 なお本項目は、設定されている列設定より選択しますので、先に列設定(月報)の設定を行ってください。
 改ページを設定すると帳票が複数ページになります。FAX 帳票では列の設定数により 1 ページ (A4) に表示しきれない場合がありますので、その場合は改ページを設定し複数ページにするか、列設定(月報)の列幅設定で調整してください。

注意

- マクロに誤りがある場合、マクロ文字がそのまま表示されたり、「ERR」と表示されます。(「設定」ボタンを押した時にエラーメッセージが表示されますが、設定内容は保存されます。)

 設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 帳票の設定方法」(P239)をご覧ください。

- *2. FAX帳票では表示制限があります。文字に“
”(ブラウザ表示用改行コード)が含まれている場合、1つめの“
”以降の文字は表示されません。
 また名称、単位共に、その他のHTML タグ (“<”、“>”で囲まれた文字列) は全て削除されます。

列設定（月報）

ブラウザ表示、Eメール通報、FAX 通報の月報帳票の列に関する設定をします。

【設定名称】帳票設定_月報スタイル_列設定 【No】1～24 ※.CSDX(S)は1～88

設定項目	設定内容	初期値	概要	*1	FAX 帳票表示 *2
名称	文字 (Max 半角 31 文字)	未設定	列の題目。		列幅による
列幅	0～512	75	列の列幅。		—
単位	文字 (Max 半角 31 文字)	未設定	列の単位。		列幅による
計算式	文字、マクロ (Max 半角 127 文字)	//	列に表示するデータ。		—
フッタ 1 計算式	//	//	列のフッタ 1 欄に表示するデータ。		—
フッタ 2 計算式	//	//	列のフッタ 2 欄に表示するデータ。		—
フッタ 3 計算式	//	//	列のフッタ 3 欄に表示するデータ。		—
フッタ 4 計算式	//	//	列のフッタ 4 欄に表示するデータ。		—
フッタ 5 計算式	//	//	列のフッタ 5 欄に表示するデータ。		—

*1. 帳票で使用する項目を列単位で設定をします。

列幅について、16 ピクセルで全角 1 文字（半角 2 文字）を目安に必要な文字数分を設定してください。

ご注意

- マクロに誤りがある場合、マクロ文字がそのまま表示されたり、「ERR」と表示されます。（「設定」ボタンを押した時にエラーメッセージが表示されますが、設定内容は保存されます。）

 設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 帳票の設定方法 (P239)」をご覧ください。

*2. FAX帳票では表示制限があります。文字に“
”（ブラウザ表示用改行コード）が含まれている場合、名称については1つめの“
”は有効となり改行されますが、2つめの“
”以降の文字は表示されません。単位については、1つめの“
”以降の文字は表示されません。また名称、単位共に、その他のHTMLタグ（“<”、“>”で囲まれた文字列）は全て削除されます。

異常帳票スタイルの設定

本設定は、CSDXのみ対応しています。

FAX 通報の異常帳票のスタイルに関する設定をします。

【設定名称】帳票設定_異常帳票スタイル 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要 *1	FAX 帳票表示 *2
タイトル(上段)	文字 (Max 半角 127 文字)	未設定	帳票に表示するタイトル文字 (上段)。	先頭から半角 34 文字
タイトル(中段)	文字 (Max 半角 127 文字)	**	帳票に表示するタイトル文字 (中段)。	//
タイトル(下段)	文字 (Max 半角 127 文字)	未設定	帳票に表示するタイトル文字 (下段)。	//
作成年月日	文字 (Max 半角 127 文字)	**	帳票に表示する作成年月日のマクロ。	先頭から半角 46 文字
作成情報	文字 (Max 半角 63 文字)	コルノスCSDX	帳票に表示する作成情報。	//
印章			印章欄の題目。	
名称 1	文字 (Max 半角 15 文字)	承認		先頭から半角 10 文字
名称 2	文字 (Max 半角 15 文字)	確認		//
名称 3	文字 (Max 半角 15 文字)	担当		//
名称 4	文字 (Max 半角 15 文字)	未設定		//

**実際のシステムデータ設定画面をご覧ください。

- *1. FAX帳票では、表示文字数に制限があります。また、文字に“
(ブラウザ表示用改行コード)が含まれている場合は、“
”の前までの文字列を表示します。その他のHTMLタグは削除されます。”
”>”で囲まれた文字列はすべてHTMLタグと判断します。

注意

- マクロに誤りがある場合、マクロ文字がそのまま表示されたり、「ERR」と表示されます。(「設定」ボタンを押した時にエラーメッセージが表示されますが、設定内容は保存されず)

設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 [帳票の設定方法](#) (P239)をご覧ください。

現在状態帳票スタイルの設定

本設定は、CSDXのみ対応しています。

FAX 通報の現在状態帳票のスタイルに関する設定をします。

【設定名称】帳票設定_現在状態帳票スタイル 【No】-

設定項目	設定内容	初期値	概要 *1	FAX 帳票表示 *2
タイトル(上段)	文字 (Max 半角 127 文字)	未設定	帳票に表示するタイトル文字 (上段)。	先頭から半角 34 文字
タイトル(中段)	文字 (Max 半角 127 文字)	**	帳票に表示するタイトル文字 (中段)。	//
タイトル(下段)	文字 (Max 半角 127 文字)	未設定	帳票に表示するタイトル文字 (下段)。	//
作成年月日	文字 (Max 半角 127 文字)	**	帳票に表示する作成年月日のマクロ。	先頭から半角 46 文字
作成情報	文字 (Max 半角 63 文字)	コルノスCSDX	帳票に表示する作成情報。	//
印章			印章欄の題目。	
名称 1	文字 (Max 半角 15 文字)	承認		先頭から半角 10 文字
名称 2	文字 (Max 半角 15 文字)	確認		//
名称 3	文字 (Max 半角 15 文字)	担当		//
名称 4	文字 (Max 半角 15 文字)	未設定		//

**実際のシステムデータ設定画面をご覧ください。

- *1. FAX帳票では、表示文字数に制限があります。また、文字に“
(ブラウザ表示用改行コード)が含まれている場合は、“
”の前までの文字列を表示します。その他のHTMLタグは削除されます。”<”>”で囲まれた文字列はすべてHTMLタグと判断します。

注意

- マクロに誤りがある場合、マクロ文字がそのまま表示されたり、「ERR」と表示されます。(「設定」ボタンを押した時にエラーメッセージが表示されますが、設定内容は保存されます。)

☞ 設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 [帳票の設定方法](#) (P239)をご覧ください。

データを設定する：共通設定方法

システムデータを設定に関する共通事項です。

通報先設定の考え方

通報先設定の考え方について、以下を参考にしてください。

1 通報先の設定手順と設定イメージ

1 必要な通報先（ダイヤル先、IPアドレス、Eメールアドレス）を各テーブルに設定します。

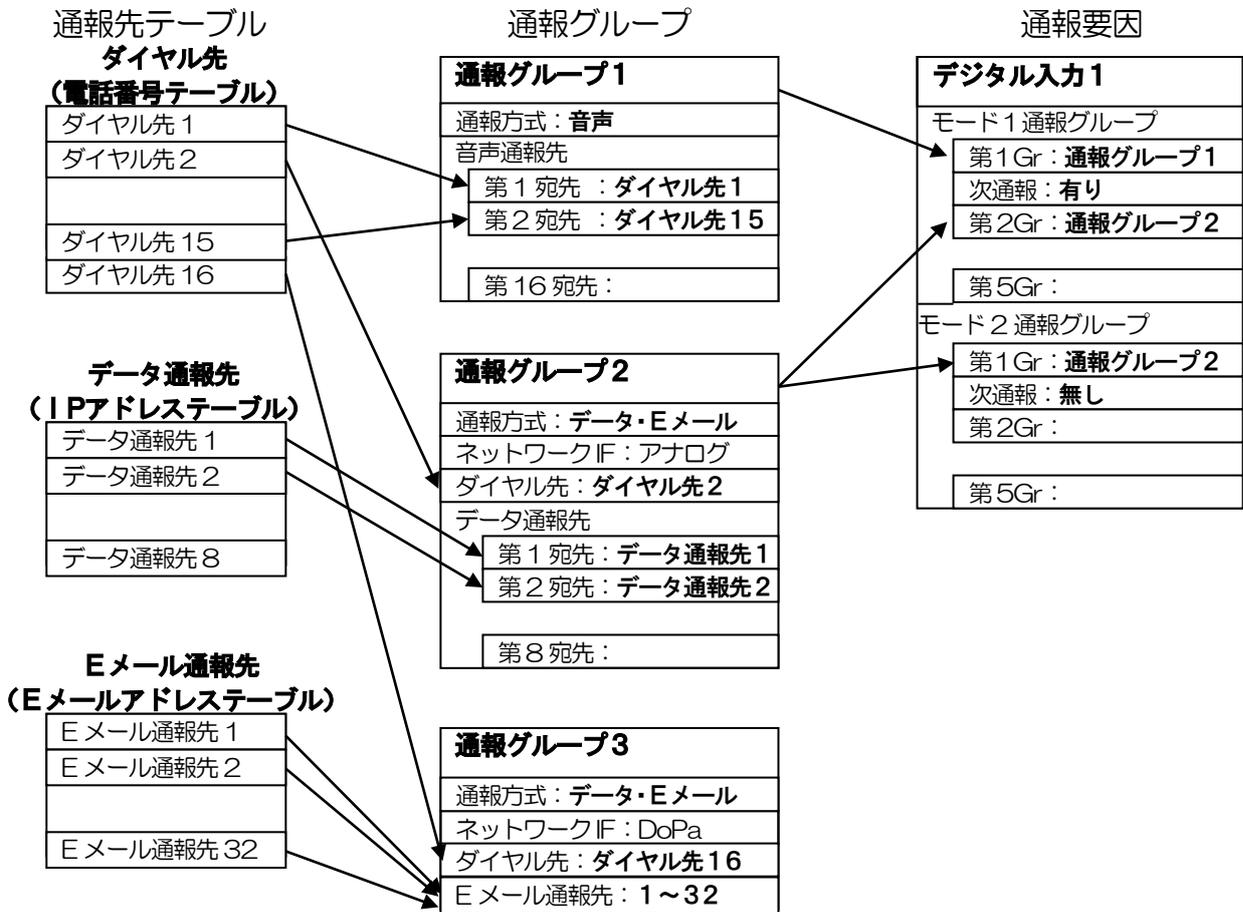
各テーブルには、本装置から通報するダイヤル先（音声通報先やダイヤルアップ先やFAX通報先）やデータ通報先（IPアドレス）、Eメール通報先（Eメールアドレス）を全て設定します。

2 通報グループを設定します。

通報グループは、通報方式（音声/データ・Eメール/FAX）の設定および各通報先テーブルより通報先を選択することで、通報先のグループ化を行います。（最大16グループ）

3 各通報要因に通報グループ（最大5グループ）を設定します。

各通報要因に、通報グループ（最大5グループ）を設定することで、各通報要因の通報先が設定されます。



各設定の詳細について、「データを設定する：設定内容」(P180)をご覧ください。

入力端子計算式の設定方法

各デジタル入力やアナログ入力、ワードデバイスの設定項目には、『計算式』設定があります。

『計算式』を設定すると、ブラウザコントロールの現在状態画面に『計算式』の設定内容（計算結果）が表示されます。

また、各入力の音声通報メッセージや E メール通報内容に「計算式マクロ」を設定することで、音声メッセージや E メール通報内容にも『計算式』の設定内容および計算結果が追加されます。

1 入力端子計算式 設定

計算式は、マクロを利用して設定します。なお、文字を組み合わせて設定することもできます。

2 マクロについて

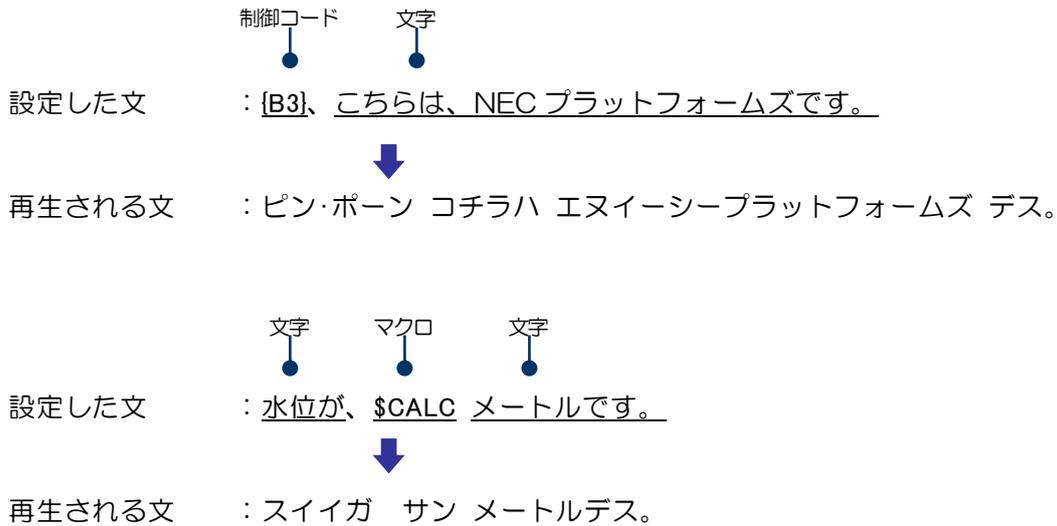
📖 マクロについて、「データを設定する：共通設定方法 [マクロについて](#)」(P250)をご覧ください。

音声メッセージの設定方法

音声メッセージの設定方法は、以下通りです。

1 音声メッセージに設定できる文字やコード

音声メッセージは、文字や制御コード、マクロを利用して設定することができます。
 なお、メッセージの声質は「女性音」となります。



1-1 文字

設定された文字（ひらがな、カタカナ、漢字、英数字など）を再生します。下表の文字が使用可能です。

使用できる文字 一覧

文字種	使用できる文字	記事
ひらがな	全角	
カタカナ	全角、半角可	
漢字	JIS 第1水準、JIS 第2水準	
英数字	全角、半角可	
句切り記号（ポーズ）	“。”(句点)：ポーズ大 “、”(読点)：ポーズ中 “、”(カンマ)：ポーズ小	数字間のカンマは桁区切りとなりポーズになりません。

ご注意

- 特殊文字は、使用できません。

1-2 制御コード

制御コードを設定することにより、メッセージ内に擬音（ピンポンなど）を入れたり、メッセージのスピード、アクセントなどを変えることができます。

使用できる制御コード 一覧

種別	書式	概要
合図音		
単周波音 1	{B0}	500Hz 160ms 正弦波
単周波音 2	{B1}	1kHz 160ms 正弦波
単周波音 3	{B2}	2kHz 160ms 正弦波
チャイム音 1	{B3}	ピンポン
チャイム音 2	{B4}	ポンポンポンポン（上がり調子）
チャイム音 3	{B5}	ポンポンポンポン（下がり調子）
発声のスピード	{Tn} 文字 {TD}	{Tn}文字{TD}間で囲んだ文字について、発声のスピードを変化させます。 n：0（遅い）～7（早い） ※デフォルト(制御コードなし)は“4”です。
発声の高さ	{Hn} 文字 {HD}	{Hn}文字{HD}間で囲んだ文字について、発声の高さを変化させます。 n：0（低い）～7（高い） ※デフォルト(制御コードなし)は“4”です。
母音の無声化	{Un} 文字 {UD}	{Un}文字{UD}間で囲んだ文字について、母音の無声化を指定できます。 n：0（無声化する）、1（無声化しない） ※デフォルト(制御コードなし)は“0”です。
アクセント	' (コーテーション)	アクセント位置を指定します。 (文字：カタカナ読み)のカタカナ読み文字に指定します。

ご注意

- 制御コードは、全て半角で入力してください。
- 制御コードは、文字数にカウントされます。文字およびマクロと合わせて、最大文字数を超えないように設定してください。

1-3 マクロ

デジタル入力やアナログ入力の音声通報メッセージやEメール通報メッセージにおいて、積算値やアナログ値から計算した値を再生させる場合に使用します。

 マクロについて、「データを設定する：共通設定方法 [マクロについて](#)」(P250)をご覧ください。

2 文字、数字などの読み方について

文字として漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベット、数字、区切り記号（カンマなど）の文字を利用できます。

2-1 漢字単語の読み方

漢字単語は、音声合成 IC の日本語解析辞書に登録されている単語に基づき読み上げます。以下の例を参考にしてください。

設定値	再生されるメッセージ
こちらは、神奈川県 です	コチラハ カナガワケン デス

ワンポイント

入力した漢字単語が意図しない読み方をした場合は、単語にフリガナ（半角カナ）を付けることができます。
書式：(単語：カタカナ読み) ※. 単語以外は全て半角

設定値	再生されるメッセージ
こちらは、(子留租業カ)です	コチラハ コルソス デス

2-2 数字またはマクロ（計算結果）の読み方

通常は、接尾語（単位など）や桁区切りのある数字は桁読みし、それ以外は棒読みします。設定値が全角または半角でも同様な読み方をします。

設定値	再生されるメッセージ
1234	イチニサンヨン
1234 回	センニヒャクサンジュウヨンカイ
1,234	センニヒャクサンジュウヨン
\$CALC	イチゼロゼロゼロ (計算結果が 1000 の場合)
\$CALCm	センメートル (計算結果が 1000 の場合)

2-3 単位記号の読み方

主な単位記号および読み方は、以下の通りです。設定値が全角または半角でも同様な読み方をします。

設定値	再生されるメッセージ
mm	ミリメートル
cm	センチメートル
m	メートル
Km	キロメートル
Hz	ヘルツ
mg	ミリグラム
g	グラム
Kg	キログラム

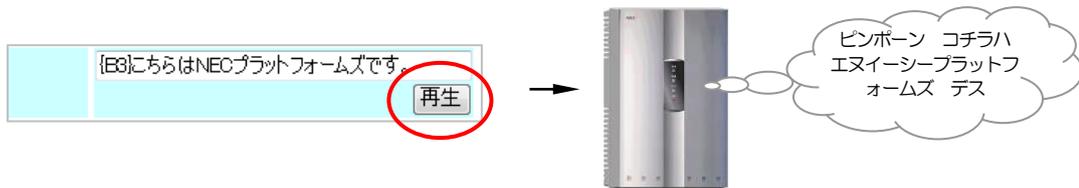
2-4 区切り記号について

区切り記号を使用すると、ポーズが入ります。

区切り記号	ポーズの大きさ	記 事
。(句点)	大	
、(読点)	中	
,(カンマ)	小	数字間のカンマは桁区切り

3 設定した音声メッセージの確認

各設定項目にある「再生」ボタンを押すと、本装置の内蔵スピーカより設定したメッセージを再生します。



ご注意

マクロを設定している設定項目で「再生」ボタンを押すと、マクロ部分は『計算式』の\$VALUE=100とした計算結果を再生します。

設定値	「再生」ボタンで再生されるメッセージ
水位が、\$CALC m です ※: 『計算式』の設定 \$FORM(\$VALUE*2,"%u")	スイイガ、ニヒャク メートル デス

4 音声メッセージの設定例

設定値	実際の音声メッセージ
{B3}こちらは、NEC プラットフォームです。	ピンポン コチラハ エヌイーシープラットフォーム デス
ポンプ1が、異常です。	ポンプイチガ イジョウ デス
ポンプ1が、運転です。総運転回数は、\$CALC 回です。 ※: 『計算式』の設定 \$FORM(\$VALUE,"%u")	ポンプイチガ ウンテン デス ソウウンテンカイスウハ センニヒャクゴジュッカイ デス ※: 数値は、一例です。
{T1}ポンプ1が{TD}、異常です。	ポンプイチガ イジョウ デス ※: 下線部の読み上げスピードが遅くなります。
ポンプ1が、{H1}異常です。{HD}	ポンプイチガ <u>イジョウ</u> デス ※: 下線部の声が高くなります。
{U1}ポンプ1が{UD}、異常です。	ポンプイチガ <u>イジョウ</u> デス ※: 下線部の母音無声化を禁止します。
ポンプ1が、復旧(しました){S1}。	ポンプイチガ フッキユウ シマシタ ※: シにアクセント。

現在状態画面の表示色の設定方法

ブラウザコントロールでデジタル入力やアナログ入力の端子状態を表示する場合に、文字色や背景色を設定できます。RGB 値で設定します。

ご注意

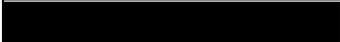
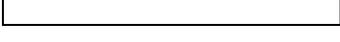
- 未設定の場合は色を指定しません。ご使用のブラウザの環境により表示される色が異なります。

1 RGB値について

Red(赤)／Green(緑)／Blue(青)の3原色をもとに色を表現する方式です。下表を参考に設定してください。

【書式】： RRGGBB (000000～ffffff)

基本的なカラーネームとRGB値の対応表

色	色	RGB 値
	黒	000000
	灰色	808080
	濃い青	000080
	青	0000ff
	薄い青	8080ff
	濃い緑	008000
	緑	00ff00
	薄い緑	80ff80
	濃い赤	800000
	赤	ff0000
	薄い赤	ff8080
	濃い黄色	808000
	黄	ffff00
	薄い黄色	ffff80
	白	ffffff

帳票の設定方法

各種帳票（ブラウザ表示や FAX 通報で利用）の設定方法は、以下の通りです。

1 日報・月報帳票

1-1 帳票を設定する前の確認

➔ 帳票にデータを表示する端子は、『定時記録』《有》に設定されているか？

『定時記録』《有》に設定されていないと、日報・月報データは作成されません。

➔ イベント回数を表示させる端子は、『動作記録』も《有》に設定されているか？

デジタル入力(イベント)の異常回数やデジタル出力の ON 回数などを表示させる場合は、『動作記録』も《有》に設定されていないと、データは作成されません。

※. 積算値やアナログ値データを使用する場合は、『動作記録』は《無》でも構いません。

1-2 設定項目の表示場所

日報・月報の各設定項目は、以下の場所に表示されます。

作成年月日
作成情報
印章名称
左から 1~4

タイトル(上段) 第1マンホールポンプ場
タイトル(中段) 日報 2008年5月2日
タイトル(下段) 天気 ()

時刻	ポンプ1 運転回数 (回)	ポンプ1 運転時間 (分:秒)	ポンプ1 流量 (m3)	ポンプ2 運転回数 (回)	ポンプ2 運転時間 (分:秒)	ポンプ2 流量 (m3)	総流量 (m3)
00:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
01:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
02:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
03:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
04:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
05:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
06:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
07:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
08:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
09:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
10:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
11:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
12:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
13:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
14:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
15:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
16:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
17:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
18:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
19:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
20:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
21:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
22:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
23:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
合計	2400	4000	6240.0	2400	4000	6240.0	12480.0
最大値	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
最小値	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
平均値	100.0	1:40	260.0	100.0	1:40	260.0	520.0
累計(時:分)		138:53	-	-	138:53	-	-

列幅(※1)
名称(※1)
単位(※1)
計算式(※1)

フッタ名称
上から 1~5

フッタ計算式(※1)
上から 1~5

列の設定

ご注意

- 時刻 0:00~23:00 (月報の場合は 1 日~31 日) は固定で表示されます。
- 「-」は、システムデータ設定されていない欄です。
- 「空白」は、システムデータ設定されているが表示するデータがない欄です。

※1. 設定種別『列設定(日報)または(月報)』で設定します。その他の項目は『日報(月報)スタイル』で設定します。

1-3 各帳票項目の設定

各項目は、文字やHTMLタグ、マクロを利用して、設定することができます。

1. 文字

設定された文字を表示します。

📖 使用できない文字について、「データを設定する：基本操作 設定値の設定や入力の方法」(P177)をご覧ください。

2. マクロ

各端子のデータや日付などを表示するために使用します。

📖 マクロについて、「データを設定する：共通設定方法 マクロについて」(P250)をご覧ください。

3. HTMLタグ

文字サイズの変更、改行、上付き文字などを行う場合に使用します。

📖 HTMLタグについて、「データを設定する：共通設定方法 帳票の設定方法 1-4 HTMLタグについて」(P241)をご覧ください。

文字やマクロ、HTMLタグの使用例

Annotations in the image:

- 文字およびサイズ変更のHTMLタグを利用 (指向: 第1マンホールポンプ場)
- 文字および日報の日付データを表示するマクロを利用 (指向: 日_報_2002年7月4日)
- 文字および改行のHTMLタグを利用 (指向: 作成年月日:2002年07月06日)
- 文字および日報データを数値で表示するマクロを使用 (指向: ポンプ1 運転回数)
- 文字および日報データを時間データで表示するマクロを使用 (指向: 時刻)

時刻	ポンプ1 運転回数 (回)	ポンプ1 運転時間 (分:秒)	ポンプ1 流量 (m3)	ポンプ2 運転回数 (回)	ポンプ2 運転時間 (分:秒)	ポンプ2 流量 (m3)	総流量 (m3)
0:00	4	00:08	23.4	7	00:03	23.4	31.2
1:00	2	00:20	52.0	31	00:36	52.0	145.6
2:00	0	00:12	31.2	0	00:00	31.2	31.2
3:00	0	00:04	10.4	0	00:14	10.4	46.8
4:00	0	00:08	20.8	2	00:09	20.8	44.2
5:00	0	00:15	39.0	0	00:06	39.0	54.6
6:00	0	00:12	31.2	0	00:18	31.2	78.0
7:00	0	00:00	0.0	0	00:04	0.0	10.4
8:00	0	00:00	0.0	1	00:02	0.0	5.2
9:00	0	00:00	0.0	0	00:00	0.0	0.0
10:00	11	00:04	10.4	4	00:02	10.4	15.6

📖 設定の例について、「データを設定する：共通設定方法 帳票の設定方法 1-5 帳票設定例」(P242)をご覧ください。

1-4 HTMLタグについて

HTML タグは、文字サイズを変更、改行して表示などを行う場合に使用します。

ご注意

- HTML タグは全て半角で入力してください。
- HTML タグは文字数にカウントされます。文字およびマクロと合わせて、最大文字数を超えないように設定してください。
- HTML タグはブラウザによって、正常に表示されない場合があります。

項目	書式	概要
文字サイズ変更	 ~ 	指定された文字のサイズを変更します
改行	 	改行します
上付き文字	[~]	指定された文字を上付き文字に変更します

1. 文字サイズ変更 【書式】： 文字

指定された文字の文字サイズを変更して表示します。タイトルを大きくするなどに使用します。

・サイズ指定：±1~3

設定例

- タイトルの「第1ポンプ場」を2ポイント大きくして表示

第1ポンプ場 ※. FONT と SIZE の間は半角スペース

2. 改行 【書式】：

指定以降を改行して表示します。列の名称などに使用します。

設定例

- 「ポンプ1運転回数」をポンプ1で改行して表示

ポンプ1
運転回数

3. 上付き文字 【書式】： ^{文字}

指定された文字を上付き文字に変更して表示します。

設定例

- 単位 (m³) を表示します。

(m³)

※1. FAX 帳票では、文字に“
”(ブラウザ表示用改行コード)が含まれている場合は、“
”の前までの文字列を表示します。その他の HTML タグは削除されます。”<”>”で囲まれた文字列はすべて HTML タグと判断します。

1-5 帳票設定例

「データを設定する：共通設定方法 帳票の設定方法 1-2 設定項目の表示場所」(P239)に記載されている帳票イメージの設定例です。

【設定名称】帳票設定_日報スタイル 【No】-

設定項目	設定内容	記事
タイトル(上段)	第1マンホールポンプ場	
タイトル(中段)	日 報 \$DATE(THEDATE,"&4y年&1m月&1d日")	
タイトル(下段)	天候()	
作成年月日	作成年月日:\$DATE(NOW,"&4y年&1m月&1d日")	
作成情報	管理センター	
印章	名称 1	承認
	名称 2	確認
	名称 3	確認
	名称 4	担当
	フッタ	名称 1
名称 2		最大値
名称 3		最小値
名称 4		平均値
名称 5		累計(時:分)
列の設定	列設定1	
	列設定2	
	列設定3	
	列設定4	
	列設定5	
	列設定6	
	列設定7	

【設定名称】帳票設定_日報スタイル_列設定 【No】1

名称	ポンプ1 運転回数	
列幅	75	
単位	(回)	
計算式	\$FORM(\$DAILY(DI1),"%u")	
フッタ1 計算式	\$FORM(\$SUM(\$DAILY(DI1),"%u")	
フッタ2 計算式	\$FORM(\$MAX(\$DAILY(DI1),"%u")	
フッタ3 計算式	\$FORM(\$MIN(\$DAILY(DI1),"%u")	
フッタ4 計算式	\$FORM(\$AVERAGE(\$DAILY(DI1),"%u")	
フッタ5 計算式	未設定	

【設定名称】帳票設定_日報スタイル_列設定 【No】2

名称	ポンプ1 運転時間	
列幅	75	
単位	(分秒)	
計算式	\$TIME(\$DAILY(DI2),"&3n:&2s")	
フッタ1 計算式	\$TIME(\$SUM(\$DAILY(DI2),"&3n:&2s")	
フッタ2 計算式	\$TIME(\$MAX(\$DAILY(DI2),"&3n:&2s")	
フッタ3 計算式	\$TIME(\$MIN(\$DAILY(DI2),"&3n:&2s")	
フッタ4 計算式	\$TIME(\$AVERAGE(\$DAILY(DI2),"&3n:&2s")	
フッタ5 計算式	\$TIME(\$DAILYRUI(DI2),"&3h:&2n")	

【設定名称】帳票設定_日報スタイル_列設定 【No】 3

名称	ポンプ1 流量	
列幅	75	
単位	(m3)	
計算式	\$FORM(\$DAILY(DI2)*2.6,"%.1f")	運転時間より流量を算出
フッタ1 計算式	\$FORM(\$SUM(\$DAILY(DI2)*2.6),"%.1f")	
フッタ2 計算式	\$FORM(\$MAX(\$DAILY(DI2)*2.6),"%.1f")	
フッタ3 計算式	\$FORM(\$MIN(\$DAILY(DI2)*2.6),"%.1f")	
フッタ4 計算式	\$FORM(\$AVERAGE(\$DAILY(DI2)*2.6),"%.1f")	
フッタ5 計算式	未設定	

・

・

列4～6は、省略。 列1～3と同様（名称、端子番号以外）

・

・

【設定名称】帳票設定_日報スタイル_列設定 【No】 7

名称	総流量 	
列幅	75	
単位	(m3)	
計算式	\$FORM((\$DAILY(DI2)*2.6)+(\$DAILY(DI4)*2.6),"%.1f")	ポンプ1、2の合計流量
フッタ1 計算式	\$FORM(\$SUM((\$DAILY(DI2)*2.6)+(\$DAILY(DI4)*2.6),"%.1f")	
フッタ2 計算式	\$FORM(\$MAX((\$DAILY(DI2)*2.6)+(\$DAILY(DI4)*2.6),"%.1f")	
フッタ3 計算式	\$FORM(\$MIN((\$DAILY(DI2)*2.6)+(\$DAILY(DI4)*2.6),"%.1f")	
フッタ4 計算式	\$FORM(\$AVERAGE((\$DAILY(DI2)*2.6)+(\$DAILY(DI4)*2.6),"%.1f")	
フッタ5 計算式	未設定	

ワンポイント

月報を作成する場合は、『月報スタイル』および『列設定(月報)』で設定します。
 上記設定例(日報)と同じ内容の月報を作成する場合は、設定例の“DAILY”部分を“MTHLY”に置き換えて、日報と同様に設定することで作成できます。

1-6 設定した帳票の確認

各帳票のスタイル設定画面で「プレビュー(ブラウザ)」ボタンを押すと、設定した帳票をブラウザ表示用のプレビュー画面で表示します。なお、マクロは以下の値で計算、表示されます。

- \$DAILY(), \$MTHLY()の値：100
- \$DAILYRUI(), \$MTHLYRUI()の値：1000
- \$DATE()で使用されるNOW、THEDATE：現在日時



第1マンホールポンプ場 作成年月日:2005年11月1日
管理センター

日報 2005年11月1日

時刻	ポンプ1 運転回数 (回)	ポンプ1 運転時間 (分:秒)	ポンプ1 流量 (m3)	ポンプ2 運転回数 (回)	ポンプ2 運転時間 (分:秒)	ポンプ2 流量 (m3)	流量(1+2) (m3)
00:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
01:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
02:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
03:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
04:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
05:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
06:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
07:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
08:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
09:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
10:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
11:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
12:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
13:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
14:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
15:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
16:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
17:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
18:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
19:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
20:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
21:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
22:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
23:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
合計	2400	40:00	6240.0	2400	40:00	6240.0	12480.0
最大値	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
最小値	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
平均値	100.0	1:40	260.0	100.0	1:40	260.0	520.0
累計(時:分)	-	0:16	-	-	0:16	-	-

次のページ
を表示します。

ウィンドウを閉じます。

各帳票のスタイル設定画面で「プレビュー(FAX)」ボタンを押すと、設定した帳票をFAX用のプレビュー画面で表示します。なお、マクロは以下の値で計算、表示されます。

- \$DAILY(), \$MTHLY()の値：100
- \$DAILYRUI(), \$MTHLYRUI()の値：1000
- \$DATE()で使用されるNOW、THEDATE：現在日時



第1マンホールポンプ場

作成年月日：2005年11月1日

日報 2005年11月1日

天候()

時刻	ポンプ1 運転回数 (回)	ポンプ1 運転時間 (分:秒)	ポンプ1 流量 (m3)	ポンプ2 運転回数 (回)	ポンプ2 運転時間 (分:秒)	ポンプ2 流量 (m3)	流量(1+2) (m3)
00:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
01:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
02:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
03:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
04:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
05:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
06:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
07:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
08:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
09:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
10:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
11:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
12:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
13:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
14:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
15:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
16:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
17:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
18:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
19:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
20:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
21:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
22:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
23:00	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
合計	2400	40:00	6240.0	2400	40:00	6240.0	12480.0
最大値	100	1:40	260.0	100	1:40	260.0	520.0
最小値	100.0	1:40	260.0	100.0	1:40	260.0	520.0
平均値	100.0	1:40	260.0	100.0	1:40	260.0	520.0
累計(時:分)	-	0:18	-	-	0:18	-	-

1/2

前ページ 次ページ 閉じる

ウィンドウを閉じます。

次のページ
を表示します。

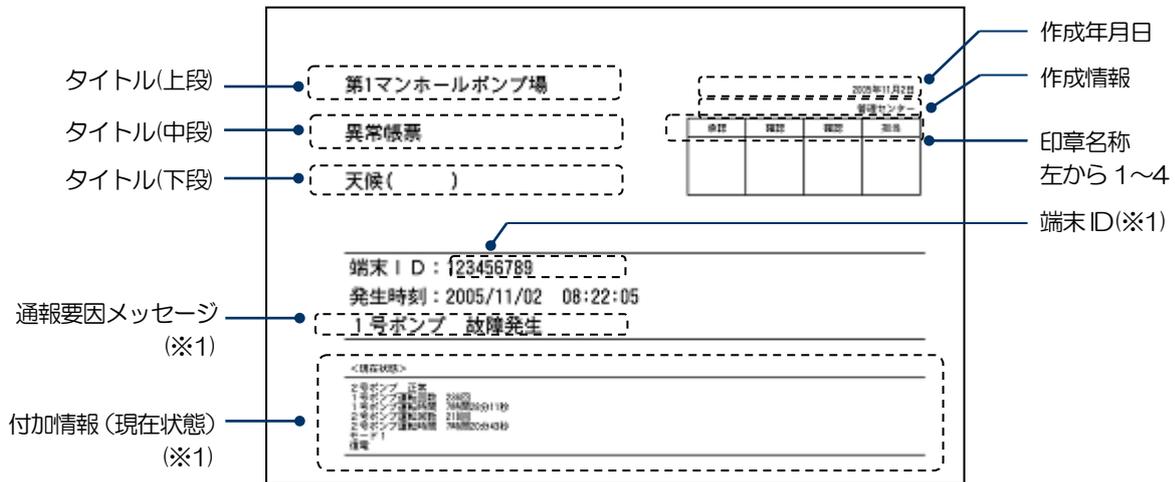
ご注意

- プレビュー画面が最前面に表示されない場合は、他に開いているブラウザ画面をご確認ください。
- 設定を変更後、「設定」ボタンを押して一時保存を行ってからプレビューをご覧ください。

2 異常帳票

2-1 設定項目の表示場所

異常帳票の各設定項目は、以下の場所に表示されます。



※1. 端末IDは設定種別『端末ID』、通報要因メッセージは起動要因設定、付加情報は起動要因設定および設定種別『通報グループ』で設定します。その他の項目は『異常帳票スタイル』で設定します。

2-2 各帳票項目の設定

各項目は、文字やマクロを利用して、設定することができます。

1. 文字

設定された文字を表示します。

📖 使用できない文字について、「データを設定する：基本操作 設定値の設定や入力の方法」(P177)をご覧ください。

2. マクロ

各端子のデータや日付などを表示するために使用します。

📖 マクロについて、「データを設定する：共通設定方法 マクロについて」(P250)をご覧ください。

文字やマクロの使用例

文字のみ利用

文字および帳票の作成日を表示するマクロを使用

2-3 帳票設定例

「データを設定する：共通設定方法 帳票の設定方法 1-2 設定項目の表示場所」(P239)の帳票を表示する場合の各項目の設定例です。

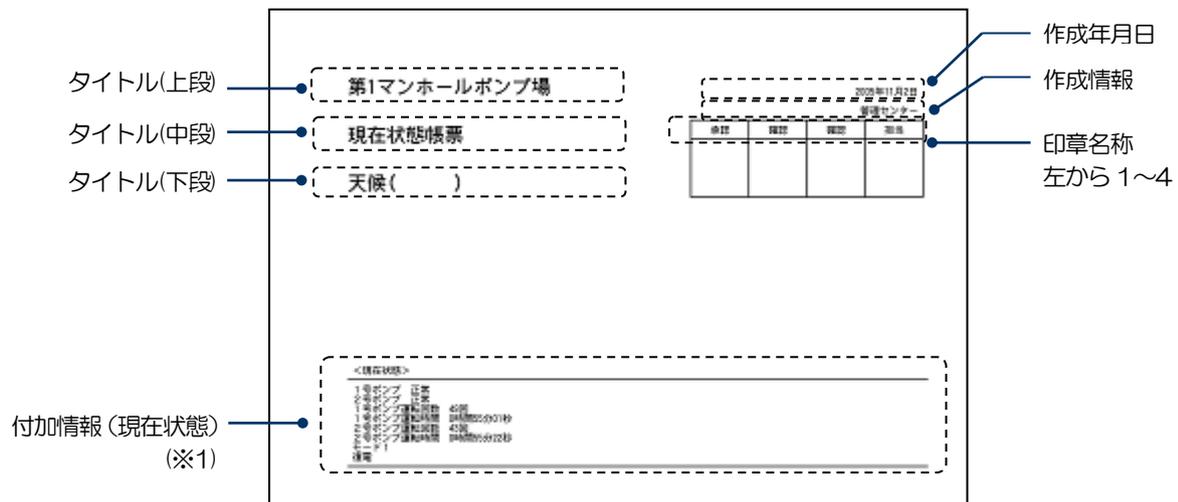
【設定名称】帳票設定_異常帳票スタイル

設定項目	設定内容	記事
タイトル(上段)	第1マンホールポンプ場	
タイトル(中段)	異常帳票	
タイトル(下段)	天候()	
作成年月日	\$DATE(NOW,"&4y年&1m月&1d日")	
作成情報	管理センター	
印章		
名称 1	承認	
名称 2	確認	
名称 3	確認	
名称 4	担当	

3 現在状態帳票

3-1 設定項目の表示場所

現在状態帳票の各設定項目は、以下の場所に表示されます。



※1. 付加情報は起動要因設定および設定種別『通報グループ』で設定します。その他の項目は『現在状態帳票スタイル』で設定します。

3-2 各帳票項目の設定

各項目は、文字やマクロを利用して、設定することができます。

1. 文字

設定された文字を表示します。

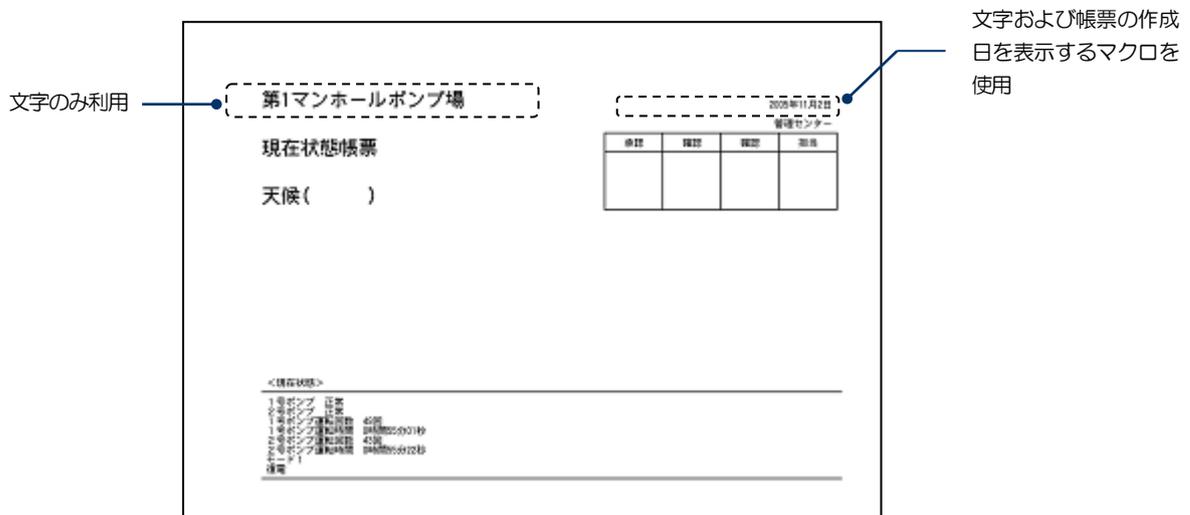
📖 使用できない文字について、「データを設定する：基本操作 設定値の設定や入力の方法」(P177)をご覧ください。

2. マクロ

各端子のデータや日付などを表示するために使用します。

📖 マクロについて、「データを設定する：共通設定方法 マクロについて」(P250)をご覧ください。

文字やマクロの使用例



3-3 帳票設定例

「データを設定する：共通設定方法 帳票の設定方法 1-2 設定項目の表示場所」(P239)の帳票を表示する場合の各項目の設定例です。

【設定名称】帳票設定_現在状態帳票スタイル

設定項目	設定内容	記事
タイトル(上段)	第1マンホールポンプ場	
タイトル(中段)	現在状態帳票	
タイトル(下段)	天候()	
作成年月日	\$DATE(NOW, "&4y年&1m月&1d日")	
作成情報	管理センター	
印章		
名称 1	承認	
名称 2	確認	
名称 3	確認	
名称 4	担当	

マクロについて

通報やコントロール動作において、文字以外の情報を送出したり、表示させる場合は、マクロを使用します。

ご注意

- マクロは全て半角で入力してください。
- マクロは文字数にカウントされます。文字およびHTMLタグと合わせて、最大文字数を超えないように設定してください。

1 マクロが使用できる主な設定項目

マクロ使用する主な設定項目は以下の通りです。なお、設定項目により使用できるマクロは制限されますので、よくお読みの上設定してください。

概要名	設定種別	設定項目	記事
端子の計算式	デジタル入力の設定 アナログ入力の設定 ビットデバイスの設定 ワードデバイスの設定	『計算式』	
端子のメッセージ	デジタル入力の設定 アナログ入力の設定 ビットデバイスの設定 ワードデバイスの設定	『音声メッセージ』 『Eメール・FAXメッセージ』	
帳票のスタイル	日報スタイルの設定 月報スタイルの設定 異常帳票スタイルの設定 現在状態帳票スタイルの設定	『タイトル』 『作成年月日』	
帳票の計算式	列設定（日報） 列設定（月報）	『計算式』	
帳票のフッタ計算式	列設定（日報） 列設定（月報）	『フッタ計算式』	

1-1 端子の計算式で利用できるマクロ

『計算式』では、マクロを使用することで、該当端子の値（異常回数／積算値／アナログ値など）を計算して、以下の運用を行うことができます。

- ブラウザの現在状態表示時に計算結果を表示します。
- 音声通報時に計算結果を通報メッセージの一部として送出できます。
※、『音声メッセージ』にも設定が必要です。
- Eメール、FAX通報時に計算結果を通報内容の一部として表示できます。
※、『Eメール、FAXメッセージ』にも設定が必要です。

利用できるマクロ

種別およびマクロ名	書式	概要
出力形式マクロ		
数値表示マクロ	\$FORM(出力データ,出力形式)	数値データとして指定した形式で表示
時間表示マクロ	\$TIME(出力データ,出力形式)	時間データとして指定した形式で表示
端子データマクロ		
付加データマクロ	\$VALUE	該当端子の積算値やアナログ値を使用

基本式：

出力形式マクロ（\$VALUE………，“XX”）

設定例：

例1 パルス積算で端子の積算値をそのまま表示する

『計算式』の設定	現在状態情報欄の表示
\$FORM(\$VALUE,"%u")回	1250 回
総運転回数\$FORM(\$VALUE,"%u")回	総運転回数 1250 回

例2 パルス積算で端子の積算値を演算し、小数点で表示する

『計算式』の設定	現在状態情報欄の表示
総流量\$FORM(\$VALUE/1000*3.5,"%1f")Km3	総流量 5.6Km3

例3 時間積算で端子の積算値を各時刻単位で表示する

『計算式』の設定	現在状態情報欄の表示
\$TIME(\$VALUE,"&3h 時間&2n 分")	110 時間 50 分
総運転時間\$TIME(\$VALUE,"&3h")時間	総運転時間 125 時間

例4 アナログ入力の現在値を演算し、小数点で表示する

『計算式』の設定	現在状態情報欄の表示
\$FORM((5-0)*(\$VALUE-0)/(1023-0)+0,"%1f")m	2.5m
水位\$FORM((10-0)*(\$VALUE-0)/(1023-0)+0,"%2f")m	水位 6.83m

1-2 端子のメッセージで使用できるマクロ

『音声メッセージ』『Eメール・FAXメッセージ』では、マクロを使用することで、『計算式』の設定内容および計算結果を各メッセージ内に挿入することができます。

- 音声通報時に計算結果を通報メッセージの一部として送付できます。

※.『計算式』にも設定が必要です。

- Eメール、FAX通報時に計算結果を通報内容の一部として表示できます。

※.『計算式』にも設定が必要です。

使用できるマクロ

種別およびマクロ名	書式	概要
計算式挿入マクロ	\$CALC	『計算式』の設定内容および計算結果を挿入

基本式：

\$CALC

設定例：

例1 音声メッセージに『計算式』の結果をいれる

『計算式』の設定	『音声メッセージ』の設定	音声メッセージ
\$FORM(\$VALUE,"%u")回	総運転回数は、\$CALCです	ソウンテンカイスウハ、ヒャクゴジュッカイ デス
\$TIME(\$VALUE,"%3h 時間&2n 分")	総運転時間は、\$CALCです	ソウンテンジカンハ、ニシュウジカンゴフン デス
\$FORM((5-0)*(\$VALUE-0)/(1023-0)+0,"%1f")m	水位は、\$CALCです	スイイハ、ニイテンゴメートル デス

例2 Eメール、FAXメッセージ内容に『計算式』の結果を表示させる

『計算式』の設定	『Eメール、FAXメッセージ』の設定	Eメール、FAXメッセージ
\$FORM(\$VALUE,"%u")回	総運転回数:\$CALC	総運転回数:150回
\$TIME(\$VALUE,"%3h 時間&2n 分")	総運転時間:\$CALC	総運転時間:20時間5分
\$FORM((5-0)*(\$VALUE-0)/(1023-0)+0,"%1f")m	水位:\$CALC	水位:2.5m

1-3 帳票のスタイルで使用できるマクロ

帳票スタイルの『タイトル』『作成年月日』では、以下のマクロを使用することで、日付情報を帳票に表示することができます。

タイトルに日付データ（日報 〇月〇日 など）を表示できます。

作成年月日に日付データ（通報した日や帳票を作成した日）を表示できます。

使用できるマクロ

種別およびマクロ名	書式	概要
出力形式マクロ		
日付時刻表示マクロ	\$DATE(出力データ,出力形式)	日付データを指定した形式で表示

基本式：

\$DATE（出力データ, "XX"）

設定例：

例1 タイトルに日付データを表示する

『タイトル』の設定	タイトルの表示
日報 \$DATE(THEDATE,"&2y 年&1m 月&1d 日(&3a)")	日報 05年7月1日(金)
月報 \$DATE(THEDATE,"&2y 年&1m 月")	月報 05年7月

例2 作成年月日に日付データを表示する

『作成年月日』の設定	作成年月日の表示
作成日 \$DATE(NOW,"&4y/&2m/&2d &3d")	作成日 2005/07/01 Fri
作成日 \$DATE(NOW,"&4y 年&2m 月&2d 日(&3a)")	作成日 2005年07月01日(金)

1-4 帳票の計算式で使用できるマクロ

帳票の『計算式』では、以下のマクロを使用することで、指定端子の統計データ（時間毎データや日付毎データ）を計算し、帳票に表示することができます。

日報や月報帳票のデータ欄（時間毎データや日付毎データ）に計算結果を表示します。

使用できるマクロ

種別およびマクロ名	書式	概要
出力形式マクロ		
数値表示マクロ	\$FORM(出力データ,出力形式)	数値データとして指定した形式で表示
時間表示マクロ	\$TIME(出力データ,出力形式)	時間データとして指定した形式で表示
端子データマクロ		
Daily 統計マクロ	\$DAILY(端子)	指定した端子の該当日のDaily 統計データ
Monthly 統計マクロ	\$MTHLY(端子)	指定した端子の該当月のMonthly 統計データ

基本式：

出力形式マクロ（端子データマクロ（ ）……………, “XX”）

※、端子データマクロは複数設定可（DI1 の統計データと DI2 の統計データを足算する など）

設定例：

例 1 日報帳票のデータ欄に計算結果を表示する

『計算式』の設定	日報帳票の時間毎データ欄の表示
\$FORM(\$DAILY(DI1),"%u")	10
\$TIME(\$DAILY(DI3),"&2n:&2s")	02:34

例 2 月報帳票のデータ欄に計算結果を表示する

『計算式』の設定	月報帳票の1日毎データ欄の表示
\$FORM(\$MTHLY(DI1)+ \$MTHLY(DI2),"%u")	20
\$FORM(40*\$MTHLY(AI1)/1023,"%1f")	18.5

1-5 帳票のフッタ計算式で使用できるマクロ

帳票の『フッタ計算式』では、以下のマクロを使用することで、指定端子の統計データ（時間毎データや日付毎データ）の合計や平均などを計算し、帳票に表示することができます。

日報や月報帳票のフッタ欄に計算結果を表示します。

使用できるマクロ

種別およびマクロ名	書式	概要
出力形式マクロ		
数値表示マクロ	\$FORM(出力データ,出力形式)	数値データとして指定した形式で表示
時間表示マクロ	\$TIME(出力データ,出力形式)	時間データとして指定した形式で表示
演算マクロ		
合計算出マクロ	\$SUM(演算データ)	指定した演算データの合計を算出
平均算出マクロ	\$AVERAGE(演算データ)	指定した演算データの平均を算出
最大値抽出マクロ	\$MAX(演算データ)	指定した演算データから最大値を抽出
最小値抽出マクロ	\$MIN(演算データ)	指定した演算データから最小値を抽出
端子データマクロ		
Daily 統計マクロ	\$DAILY(端子)	指定した端子の該当日のDaily 統計データ
Daily 累計マクロ	\$DAILYRUI(端子)	指定した端子の該当日までのDaily 累計データ
Monthly 統計マクロ	\$MTHLY(端子)	指定した端子の該当月のMonthly 統計データ
Monthly 累計マクロ	\$MTHLYRUI(端子)	指定した端子の該当月までのMonthly 累計データ

基本式：

出力形式マクロ（演算マクロ（端子データマクロ（ ））……………, “XX”）

※. 端子データマクロは複数設定可（DI1 の統計データと DI2 の統計データを足算する など）

設定例：

例1 日報帳票のフッタ欄に合計算出の結果を表示する

『計算式』の設定	日報帳票のフッタ欄の表示
\$FORM(\$SUM(\$DAILY(DI1)),"%u")	240
\$TIME(\$AVERAGE(\$DAILY(DI3)),"%2n:&2s")	02:20

例2 月報帳票のフッタ欄に計算結果を表示する

『計算式』の設定	月報帳票のフッタ欄の表示
\$FORM(\$SUM(\$MTHLY(DI1)+ \$MTHLY(DI2)),"%d")	600
\$FORM(40*\$MAX(\$DAILY(AI1))/1023,"%1f")	32.5

2 各マクロの説明

各マクロの書式および使用方法是以下の通りです。

2-1 出力形式マクロ

マクロ式を作成する場合は、必ず以下いずれかの出力形式マクロで始まります。

1. 数値表示マクロ 【書式】：\$FORM(出力データ, 出力形式)

指定した出力データを数値データとして、指定した形式で表示します。
指定した出力データが時間データ以外の場合は、このマクロを使用します。

・ **出力データ**

出力するデータを指定します。端子データマクロ、四則演算を組み合わせで指定できます。

・ **出力形式**

出力データを指定された出力形式に変換します。“型指定子(文字)…” で指定します。

型指定子	説明	設定例
%u	符号なし10進 整数 出力データ最大値：4,294,967,295	“%u”
%.*f	符号付き10進 小数(*は、小数点以下桁数) 出力データ最大値：整数 少数部合わせて7桁	“%.1f”、“%.2f”…

設定例

- 設定端子の積算値またはアナログ値を小数点1桁で表示
\$FORM(\$VALUE, “%.1f”)

2. 時間表示マクロ 【書式】：\$TIME(出力データ, 出力形式)

指定した出力データを時間データとして、指定した形式で表示します。
指定した出力データが時間データ（時間積算値など）の場合は、このマクロを使用します。

・ **出力データ**

出力するデータを指定します。端子データマクロ、演算マクロ、四則演算を組み合わせで指定できます。組み合わせで指定した結果の単位は秒とします。

・ **出力形式**

出力データを指定された出力形式に変換します。“型指定子(文字)…” で指定します。

型指定子	説明	設定例
&1h	時間 [0 ~ 23]	“&2n&2s” 分秒に変換 “&3n” (分に変換 60分以上可) “&2h&2n” (時間分に変換) “&3h” (時間に変換 24時間以上可)
&2h	時間 [00 ~ 23](0有り)	
&3h	時間 [0 ~ 9999…]	
&1n	分間 [0 ~ 59]	
&2n	分間 [00 ~ 59](0有り)	
&3n	分間 [0 ~ 9999…]	
&1s	秒間 [0 ~ 59]	
&2s	秒間 [00 ~ 59](0有り)	
&3s	秒間 [0 ~ 9999…]	

設定例

- 設定端子の積算値を(分:秒)で表示
\$TIME(\$VALUE, “&3n:&2s”)

3. 日付時刻表示マクロ 【書式】：\$DATE(出力データ, 出力形式)

指定した出力データを日付データとして、指定した形式で表示します。
日付を表示する場合は、このマクロを使用します。

・出力データ

出力するデータを以下より指定します。

出力データ	説明
NOW	マクロを実行する時点の日付データ
THEDATE	該当する日付データ

・出力形式

出力データを指定された出力形式に変換します。“型指定子(文字)…” で指定します。

型指定子	説明	設定例
&2y	西暦年 [00 ~ 99]	• “&2y/&2m/&2d” (例 02/01/01 の形で表示)
&4y	西暦年 [2000 ~ 9999]	
&1g	和暦年 [平成0 ~ 99]	• “&4y年&1m月&1d日” (例 2002年1月1日の形で表示)
&1m	月 [1 ~ 12]	
&2m	月 [01 ~ 12] (0有り)	
&3m	月 [Jan ~ Dec]	
&1d	日付 [1 ~ 31]	
&2d	日付 [01 ~ 31] (0有り)	
&3a	曜日 [日~土]	
&3d	曜日 [Sun ~ Sat]	
&1h	時 [0 ~ 23]	
&2h	時 [00 ~ 23] (0有り)	
&1n	分 [0 ~ 59]	
&2n	分 [00 ~ 59] (0有り)	
&1s	秒 [0 ~ 59]	
&2s	秒 [00 ~ 59] (0有り)	

設定例

- 帳票の作成日を 2002年01月01日(月)の形で表示

\$DATE(NOW, “&4y年&2m月&2d日(&3a)”) ※. (&3a)の()は全角

2-2 演算マクロ

合計や平均値算出など特定の演算を行う場合、使用します。

1. 合計算出マクロ 【書式】：\$SUM(演算データ)

指定したデータを合計します。

日報データ（0：00～23：00の時間毎データ）や月報データ（1日～31日の1日毎データ）の合計値を算出する場合は、このマクロを使用します。

・演算データ

演算するデータを指定します。端子データマクロ、四則演算を組み合わせで指定できます。

設定例

- デジタル入力1（パルス積算やイベント）の1日分データの合計を10進整数で表示
\$FORM(\$SUM(\$DAILY(DI1)),"%u")
- デジタル入力1（時間積算）の1日分データの合計を(分)で表示
\$TIME(\$SUM(\$DAILY(DI1)),"%&3n")
- デジタル入力1（パルス積算やイベント）の（1日分データ-100）の合計を10進整数で表示
\$FORM(\$SUM(\$DAILY(DI1)-100,"%u")

※参考

-100の位置を変えると… \$FORM(\$SUM(\$DAILY(DI1))-100,"%u")
1日分データの合計を算出してから100を引きます。

2. 平均算出マクロ 【書式】：\$AVERAGE(演算データ)

指定したデータを平均します。

日報データ（0：00～23：00の時間毎データ）や月報データ（1日～31日の1日毎データ）の平均値を算出する場合は、このマクロを使用します。

・演算データ

演算するデータを指定します。端子データマクロ、四則演算を組み合わせで指定できます。

設定例

- デジタル入力1（パルス積算やイベント）の1日分データの平均を10進整数で表示
\$FORM(\$AVERAGE(\$DAILY(DI1)),"%u")
- デジタル入力1（時間積算）の1日分データの平均を(分：秒)で表示
\$TIME(\$AVERAGE(\$DAILY(DI1)),"%&2n:&2s")

3. 最大値抽出マクロ 【書式】：\$MAX(演算データ)

指定したデータから最大値を抽出します。

日報データ（0：00～23：00の時間毎データ）や月報データ（1日～31日の1日毎データ）から最大値を抽出する場合は、このマクロを使用します。

・演算データ

演算するデータを指定します。端子データマクロ、四則演算を組み合わせで指定できます。

設定例

- デジタル入力1（パルス積算やイベント）の1日分データから最大値を抽出、10進整数で表示
\$FORM(\$MAX(\$DAILY(DI1)),"%u")
- デジタル入力1（時間積算）の1日分データから最大値を抽出、(分：秒)で表示
\$TIME(\$MAX(\$DAILY(DI1)),"%&2n:&2s")

4. 最小値抽出マクロ 【書式】：\$MIN(演算データ)

指定したデータから最小値を抽出します。

日報データ（0：00～23：00の時間毎データ）や月報データ（1日～31日の1日毎データ）から最小値を抽出する場合は、このマクロを使用します。

・演算データ

演算するデータを指定します。端子データマクロ、四則演算を組み合わせで指定できます。

設定例

- デジタル入力1（パルス積算やイベント）の1日分データから最小値を抽出、10進整数で表示
\$FORM(\$MIN(\$DAILY(DI1)),"%u")
- デジタル入力1（時間積算）の1日分データから最小値を抽出、(分：秒)で表示
\$TIME(\$MIN(\$DAILY(DI1)),"%2n:&2s")

2-3 端子データマクロ

使用するデータおよび端子名を指定します。（付加データマクロは端子名を指定しません）

端子名

端子名	説明
DIn	デジタル入力nのデータ
AIn	アナログ入力nのデータ
DOn	デジタル出力nのデータ
SQn	ビットデバイスnまたはワードデバイスnのデータ

※.nは端子番号

※.SQnはCSDX(S)のみ使用可

※.アナログ入力でデジタルとして運用している場合もAInとなります。

1. 付加データマクロ 【書式】：\$VALUE

設定端子の積算値やアナログ値（現在値）データを使用します。

2. Daily統計マクロ 【書式】：\$DAILY(端子名)

Daily 統計履歴データから指定した端子の該当日の時間毎データを抽出します。

3. Daily累計マクロ 【書式】：\$DAILYRUI(端子名) ※.AInは使用不可

Daily 統計履歴データから指定した端子の該当日までの累計データを抽出します。

4. Monthly統計マクロ 【書式】：\$MTHLY(端子名)

Monthly 統計履歴データから指定した端子の該当月の日毎データを抽出します。

5. Monthly累計マクロ 【書式】：\$MTHLYRUI(端子) ※.AInは使用不可

Monthly 統計履歴データから指定した端子の該当月までの累計データを抽出します。

3 (参考) アナログ入力の計算式作成について

アナログ入力の『計算式』や帳票の『計算式』『フッタ計算式』においてアナログ端子を指定する場合について、アナログデータを変換する基本的な計算式を記載しますので、参考にしてください。アナログデータ値(0-1023)と変換値から計算式を作成します。

アナログ入力値に対するデータ値

入力電圧または電流値に対するデータ値(0-1023)は、各アナログ入力の『検出モード』により異なります。

《電圧0-5V》または《電流0-20mA》の場合

0V (または0mA) : 5V (または20mA) = 0 : 1023 となります。

本装置に入力されている電圧値または電流値からデータを算出するには、ブラウザコントロールの現在状態画面に表示させるかまたは以下の計算式で推測します。

電圧： データ=1023/5*電圧値V (例 2.5Vの場合 1023/5*2.5=511)
 電流： データ=1023/20*電流値mA (例 8mAの場合 1023/20*8=409)

《電圧1-5V》または《電流4-20mA》の場合

1V (または4mA) : 5V (または20mA) = 0 : 1023 となります。

本装置に入力されている電圧値または電流値からデータを算出するには、ブラウザコントロールの現在状態画面に表示させるかまたは以下の計算式で推測します。

電圧： データ=1023/4*(電圧値V-1) (例 2.5Vの場合 1023/4*(2.5-1)=384)
 電流： データ=1023/16*(電流値mA-4) (例 8mAの場合 1023/16*(8-4)=255)

3-1 端子の計算式で使用する場合

アナログ入力の『計算式』でマクロを使用することで、該当のアナログ入力端子の値を計算します。

基本式

$\$FORM((最大変換値-最小変換値)*(\$VALUE-最小データ)/(最大データ-最小データ)+最小変換値,出力形式)$

最大変換値 : 最大データに対する変換値 (例 1023 の時に 10m)
 最小変換値 : 最小データに対する変換値 (例 0 の時に 0m)
 最大データ : 最大変換値に対するデータ (0-1023)
 最小データ : 最小変換値に対するデータ (0-1023)
 最大・最小データの算出方法『検出モード』により異なります。上記を参照願います。

 数値表示マクロ\$FORMの出力形式について、「データを設定する：共通設定方法 マクロについて 2 各マクロの説明」(P256)をご覧ください。

設定例：

例1 データ0時：0m、データ1023時：10mと表示する計算式

$\$FORM((10-0)*(\$VALUE-0)/(1023-0)+0, ".1f")m$
 または $\$FORM(10*\$VALUE/1023, ".1f")m$

例2 データ0の時：2m、データ1023時：15mと表示する計算式

$\$FORM((15-2)*(\$VALUE-0)/(1023-0)+2, ".1f")m$
 または $\$FORM((15-2)*\$VALUE/1023+2, ".1f")m$

3-2 帳票の計算式で使用する場合

帳票の『計算式』でマクロを使用することで、該当のアナログ入力端子の値を計算します。

基本式

$\$FORM((\text{最大変換値}-\text{最小変換値}) * (\text{端子データマクロ}-\text{最小データ}) / (\text{最大データ}-\text{最小データ}) + \text{最小変換値}, \text{出力形式})$

最大変換値 : 最大データに対する変換値 (例 1023 の時に 10m)

最小変換値 : 最小データに対する変換値 (例 0 の時に 0m)

最大データ : 最大変換値に対するデータ (0-1023)

最小データ : 最小変換値に対するデータ (0-1023)

最大・最小データの算出方法『検出モード』により異なります。上記を参照願います。

 数値表示マクロ\$FORMの出力形式について、「データを設定する：共通設定方法 マクロについて 2 各マクロの説明」(P256)をご覧ください。

設定例：

例1 データ0の時：1m、データ1023時：30mと表示する日報の計算式

$\$FORM((30-1)*(\$DAILY(AI1)-0)/(1023-0)+1, ".1f")m$

または $\$FORM((30-1)*\$DAILY(AI1)/1023+1, ".1f")m$

例2 データ5の時：0m、データ1000の時：10mと表示する月報の計算式

$\$FORM((10-0)*(\$MTHLY(AI2)-5)/(1000-5)+0, ".1f")m$

または $\$FORM(10* \$MTHLY(AI2)-5)/(1000-5), ".1f")m$

3-3 帳票のフッタ計算式で使用する場合

帳票の『フッタ計算式』でマクロを使用することで、該当のアナログ入力端子の値を計算します。

基本式

$\$FORM(\text{演算マクロ}((\text{最大変換値}-\text{最小変換値}) * (\text{端子データマクロ}-\text{最小データ}) / (\text{最大データ}-\text{最小データ}) + \text{最小変換値}), \text{出力形式})$

最大変換値 : 最大データに対する変換値 (例 1023 の時に 10m)

最小変換値 : 最小データに対する変換値 (例 0 の時に 0m)

最大データ : 最大変換値に対するデータ (0-1023)

最小データ : 最小変換値に対するデータ (0-1023)

最大・最小データの算出方法『検出モード』により異なります。上記を参照願います。

 数値表示マクロ\$FORMの出力形式について、「データを設定する：共通設定方法 マクロについて 2 各マクロの説明」(P256)をご覧ください。

設定例：

例1 データ0時：0m、データ1023時：10mと表示する時間毎データの最大値を抽出するフッタ計算式

$\$FORM((10-0)*(\$MAX(\$DAILY(AI1))-0)/(1023-0)+0, ".1f")m$

または $\$FORM(10* \$MAX(\$DAILY(AI1))/1023, ".1f")m$

例2 データ0の時：10m、データ1023時：100mと表示する日毎データの最大値を抽出するフッタ計算式

$\$FORM((100-10)*(\$MIN(\$MTHLY(AI2))-0)/(1023-0)+10, ".1f")m$

または $\$FORM((100-10)*(\$MIN(\$MTHLY(AI2)))/1023+10, ".1f")m$

シーケンサプログラムについて

シーケンサ接続は、CSDX(S)のみ対応しています。

本装置からシーケンサに対して一括読み出しを行うため、シーケンサ側では入力デバイスや出力デバイスを内部リレーやデータレジスタに割り当て、本装置からは内部リレーやデータレジスタに対して読み出しや書き込みを行います。

1 シーケンサ監視情報のデバイスへの割り当て

シーケンサプログラムにおいて、監視する情報を各々ビットデバイス（内部リレー：Mxxxx）およびワードデバイス（データレジスタ：Dxxxx）に割り当ててください。

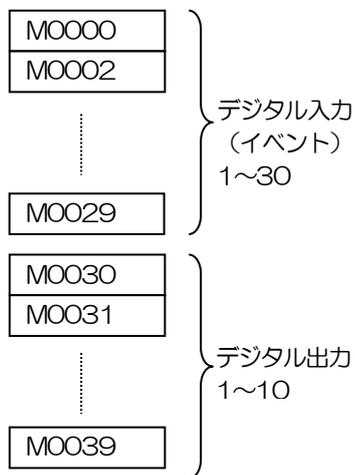
1-1 割り当てに関する条件など

- ・監視情報は、最大 64 端子です。（ビットデバイスとワードデバイスの合計）
- ・割り当ては、各々先頭アドレスより連続したアドレスに割り当ててください。
- ・ワードデバイスについて、ワードデバイスは 16 ビットですが、CSDX では値を全て 32 ビットで扱っているため、1 端子で 2 つのワードデバイスを使用してください。
- ・ビットデバイスについて、デジタル入力（イベント）とデジタル出力は分けて割り当てるようにしてください。
- ・ワードデバイスの積算値クリア用として、増設端子（最大 64）とは別にビットデバイスを使用できます。（データ書き込み専用）

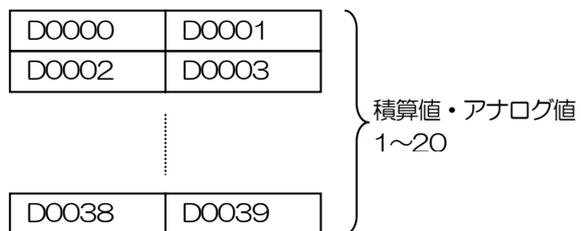
（参考）以下のような端子増設を行う場合のデバイスへの割り当て例

- ・デジタル入力（イベント） : 30 入力
- ・デジタル出力 : 10 出力
- ・積算値、アナログ値 : 20 入力

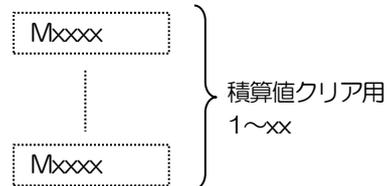
ビットデバイス（内部リレー）



ワードデバイス（データレジスタ）



※積算値クリア用ビットデバイス（内部リレー）



※本ビットデバイスは書き込み専用であり、増設端子数にカウントせず、利用できます。

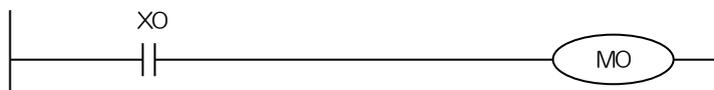
2 入力監視方法

デジタル入力(イベント)、デジタル出力はビットデバイス(内部リレー)として割り当て、アナログ入力やデジタル入力(時間積算、パルス積算)はワードデバイス(データレジスタ)として割り当てを行います。シーケンサのプログラムでは入力の変化をビットデバイス(Mxxxx)やワードデバイス(Dxxxx)に書き込む必要があります。

プログラム例：

2-1 デジタル入力 イベント・メークとして監視

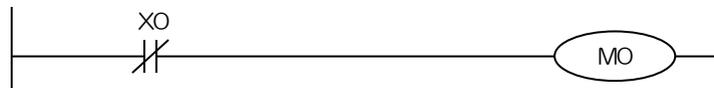
入力デバイス X0000 を内部リレー M0000 に割り当てる場合、シーケンサのプログラムでは X0000 の変化を M0000 に書込みます。



※より確実な検出を行うために、シーケンサプログラムにより入力検出タイマを設定する、また本装置ポーリング間隔(1~60 秒)を考慮して内部リレーに書き込む、などの設計を行うことを推奨します。

2-2 デジタル入力 イベント・ブレイクとして監視

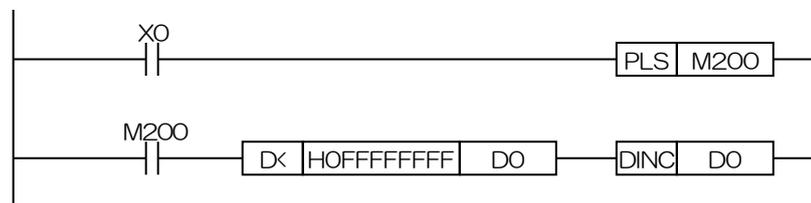
入力デバイス X0000 の反転を内部リレー M0000 に割り当てる場合、シーケンサのプログラムでは X0000 の変化を M0000 に書込みます。



※より確実な検出を行うために、シーケンサプログラムにより入力検出タイマを設定する、また本装置ポーリング間隔(1~60 秒)を考慮して内部リレーに書き込む、などの設計を行うことを推奨します。

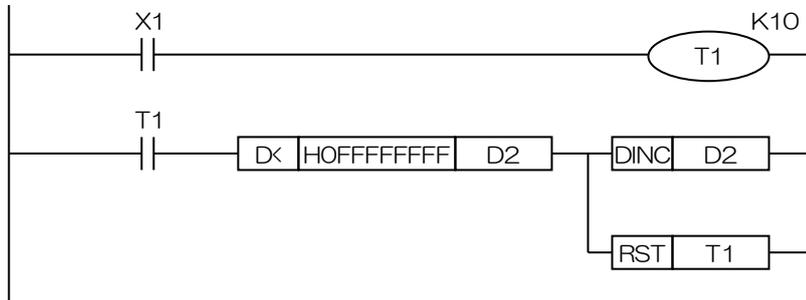
2-3 パルス積算として監視

入力デバイス X0000 をデータレジスタ D0000(32bit)に割り当てる場合、シーケンサのプログラムでは X0000 の立ち上がり回数をカウントし、D0000 に積算します。



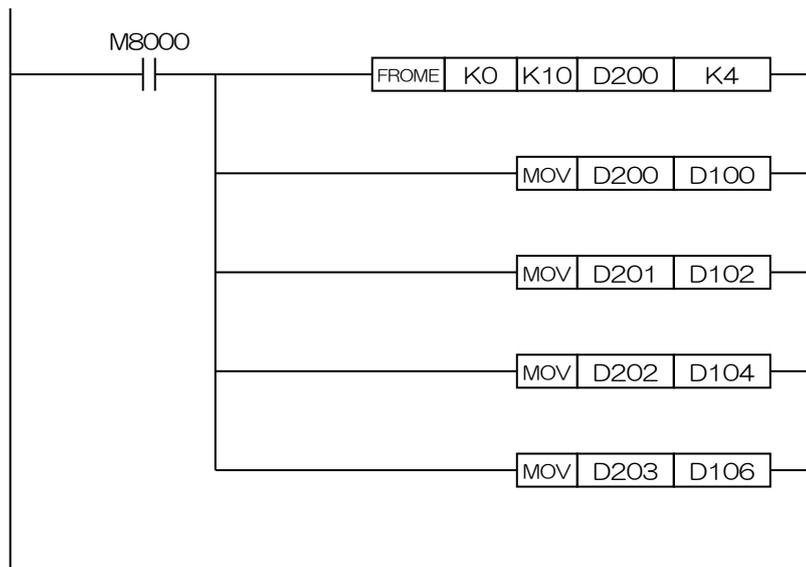
2-4 時間積算として監視

入力デバイス X0001 をデータレジスタ D0002(32bit)に割り当てる場合、シーケンサのプログラムでは X0001 のオン時間(秒)をカウントし、D0002 に積算します。



2-5 アナログ入力として監視

アナログ端子データ（4 チャンネル）をデータレジスタ D0100~D0106(32bit)に割り当てる場合、シーケンサのプログラムでは 4 チャンネルのバッファメモリを D0100~D0106 に書込みます。



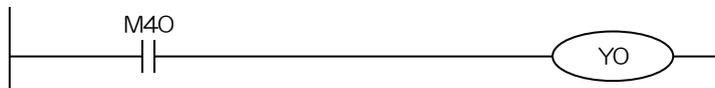
3 出力制御方法

コントロールによるデジタル出力制御操作により、CSDX はシーケンサに対して対応するビットデバイスに 1（ON 要求）/0（OFF 要求）を書込みます。シーケンサのプログラムでは 1/0 が書込まれたビットデバイスに対応する出力デバイスに 1/0 を出力する必要があります。
 なお、CSDX の設定により 1（ON 要求）のみ書き込むことも可能です。（ワンショット用）

プログラム例：

3-1 デジタル出力出力動作

出力デバイス Y0000 を内部リレー M0040 に割り当てる場合、シーケンサのプログラムでは M0040 を Y0000 に出力します。



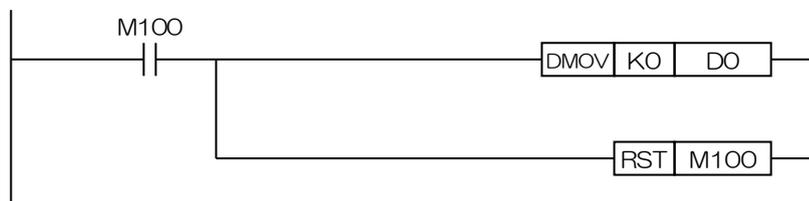
4 積算値クリア方法

コントロールによる積算値クリア操作により、CSDX はシーケンサに対して対応するビットデバイスに 1（積算値クリア要求）を書込みます。シーケンサのプログラムでは 1 が書込まれたビットデバイスに対応するデバイスのカウント値をクリアする必要があります。クリア後ビットデバイスには 0 を書込んでリセットしてください。

プログラム例：

4-1 積算値クリア動作

データレジスタ D0000(32bit)の積算値クリアデバイスを内部リレー M0100 に割り当てる場合、シーケンサのプログラムでは M0100 に 1 がセットされたら D0000 に 0 を書込みます。



データを設定する：セーブ／ロードする

システムデータを PC や CF カードにファイルとしてセーブ、逆に PC や CF カードにあるシステムデータをファイルで本装置にロードすることができます。

複数の装置を設定する場合やシステムデータの管理に活用してください。

データのセーブ（コルソス → PCやCFカード）

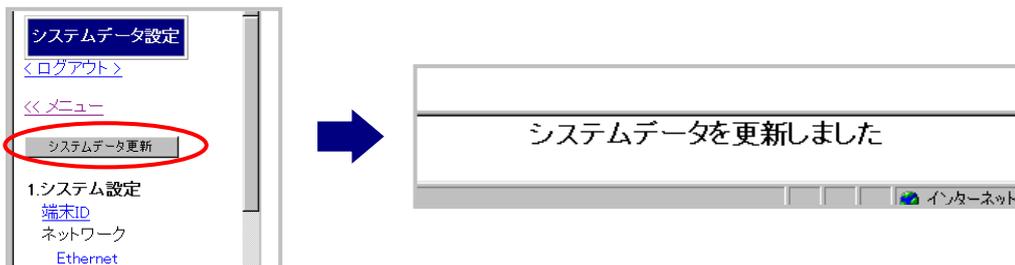
本装置に設定してあるシステムデータを PC（パソコン）や CF カードにファイルとしてセーブします。

ご注意

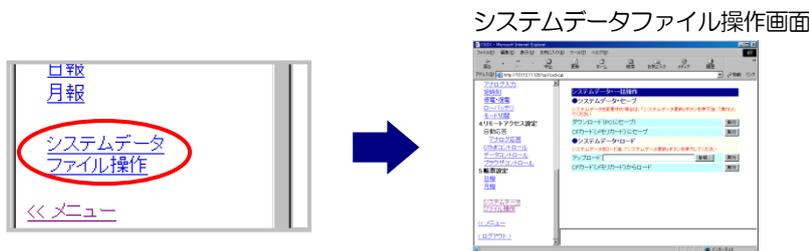
- セーブしたシステムデータファイルは、パソコン上で編集（設定値の変更）変更することはできません。編集する場合は、本装置にロードして行ってください。

1 パソコンにセーブする

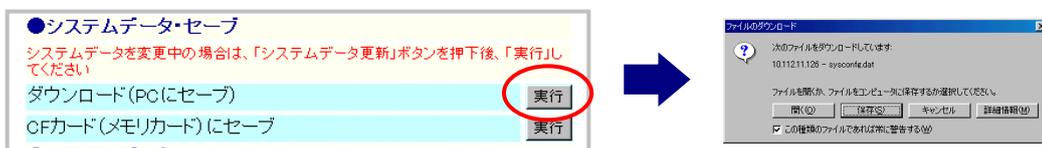
- 1 左フレームの「システムデータ更新」ボタンを押します。下フレームにシステムデータを更新した旨のメッセージが表示されます。



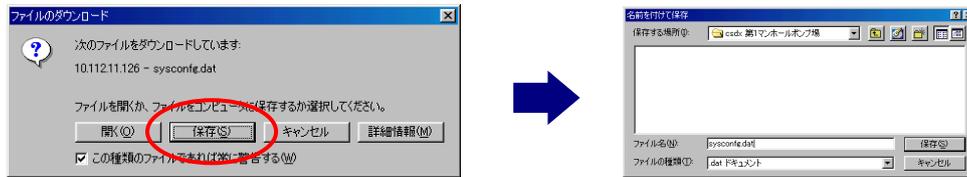
- 2 システムデータ設定画面より、「システムデータファイル操作」をクリックします。システムデータファイル操作画面が表示されます。



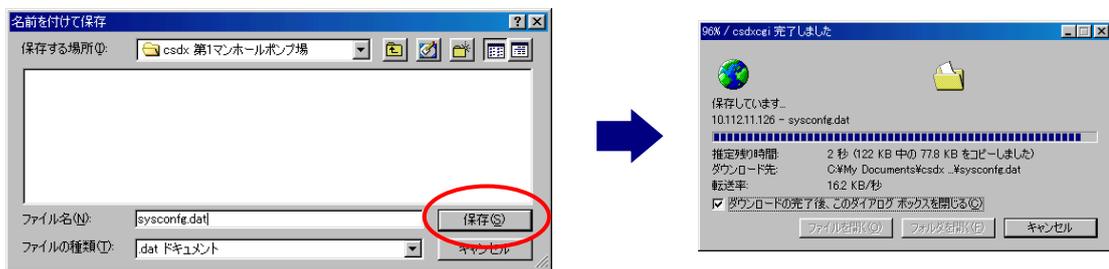
- 3 「ダウンロード（PCにセーブ）」の「実行」ボタンをクリックします。ファイルダウンロード確認画面が表示されます。



4 「保存」ボタンをクリックします。保存場所指定画面が表示されます。



5 ファイル名を変更し「保存」ボタンをクリックします。システムデータファイルをセーブします。 ファイル名：XXXXXXXX.dat



6 セーブが正しく行われているか確認するため、セーブしたファイルを本装置にロードします。

ご注意

- 正しくセーブされていないと、ロードできませんので、本操作は必ず実行してください。

📖 システムデータのロードについて、「データを設定する：セーブ／ロードする データのロード（PCやCFカード → コルソス）」(P270)をご覧ください。

2 CFメモ리카ードにセーブする

- 1 本装置の電源を切り（SOFT_SW をOFF）、システムデータファイル（sysconfig.dat）が保存されていないCFメモ리카ードをCFカードスロット2に差し込み、電源を入れます。（SOFT_SW をON）

- ☞ 電源を入/切について、「電源を入れる/切る」(P172)をご覧ください。
- ☞ CFカードの取付け方法について、「本装置を取付ける CFカードを取り付ける」(P153)をご覧ください。

ご注意

- システムデータファイル（sysconfig.dat）が保存されているCFメモ리카ードを使用すると、上書きされます。

システムデータ設定画面にアクセスしてください。（手順省略）

- 2 システムデータ設定画面より、「システムデータファイル操作」をクリックします。システムデータファイル操作画面が表示されます。



- 3 「CFカード（メモ리카ード）にセーブ」の「実行」ボタンをクリックします。しばらくすると、下フレームにシステムデータをセーブした旨のメッセージが表示されます。



ご注意

- 「ファイルに書き込めませんでした。」というメッセージが表示された場合、CFメモ리카ードが壊れている可能性があります。CFメモ리카ードを確認してください。

- 4 セーブが正しく行われているか確認するため、セーブしたファイルを本装置にロードします。

ご注意

- 正しくセーブされていないと、ロードできませんので、本操作は必ず実行してください。
- ☞ システムデータのロードについて、「データを設定する：セーブ／ロードする データのロード(PCやCFカード → コルソス)」(P270)をご覧ください。

データのロード（PCやCFカード → コルソス）

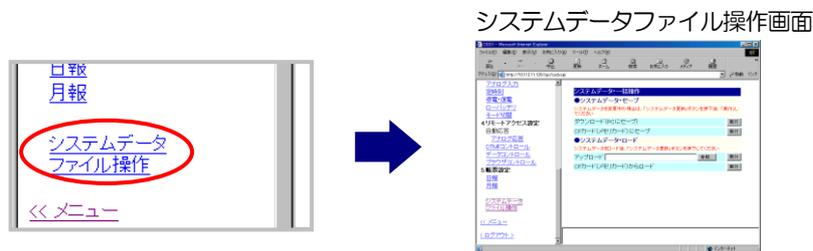
PC や CF カードに保存してあるシステムデータファイルをコルソスに書き込みます。

1 パソコンからロードする

ご注意

- LAN 以外の回線では、アップロードに時間がかかる場合があります。ブラウザコントロールの『再ログイン要求タイマ』で設定した値を超えると自動ログアウトしますので、アップロードの前に『再ログイン要求タイマ』を長めに変更してください。アップロード終了後、適当な値に変更してください。

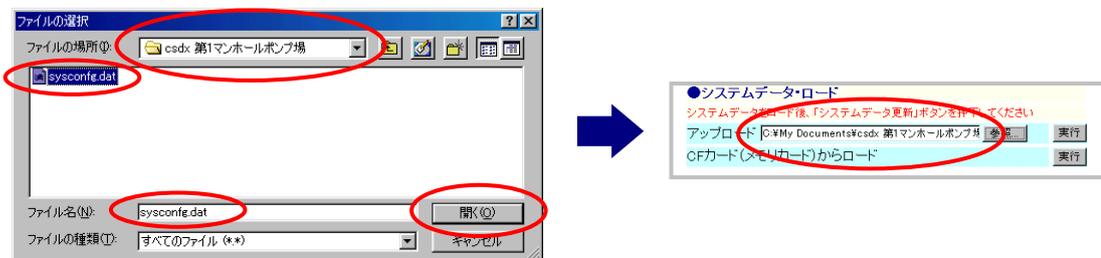
- システムデータ設定画面より、「システムデータファイル操作」をクリックします。システムデータファイル操作画面が表示されます。



- 「アップロード」の「参照..」ボタンをクリックします。ファイル選択画面が表示されます。



- システムデータファイル (XXXXXX. dat) を選択して「開く」ボタンをクリックします。アップロードのファイル名ボックスに選択したファイルが表示されます。



4 「実行」ボタンをクリックします。しばらくすると、下フレームにシステムデータを一時保存した旨のメッセージが表示されます。

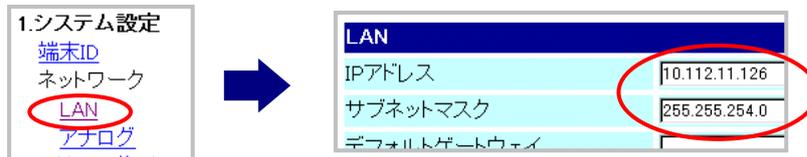


ご注意

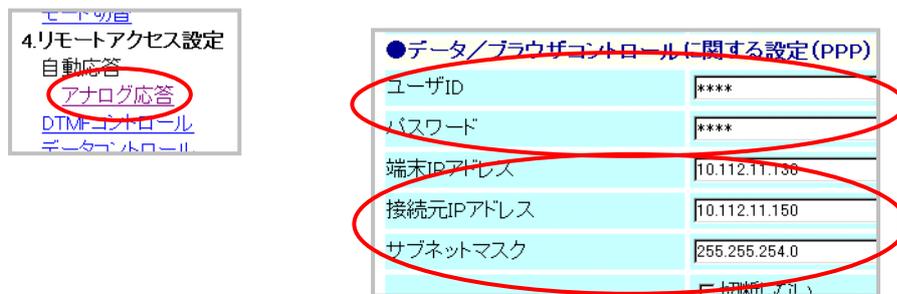
- 「アップロードに失敗しました。」というメッセージが表示された場合、システムデータファイルが壊れている可能性があります。何度か実行してもうまくいかない場合は、再度システムデータファイルを作成する必要があります。

5 重要なシステムデータをチェックします。（IPアドレス、ID・パスワードなど） 以下の設定項目を必ずチェックしてください。

LANに設定されているIPアドレス体系をパソコンのIPアドレス体系に合わせて設定変更してください。IPアドレス体系が異なると「システムデータ更新」以降、LANポート接続による**ブラウザコントロールができなくなります。**



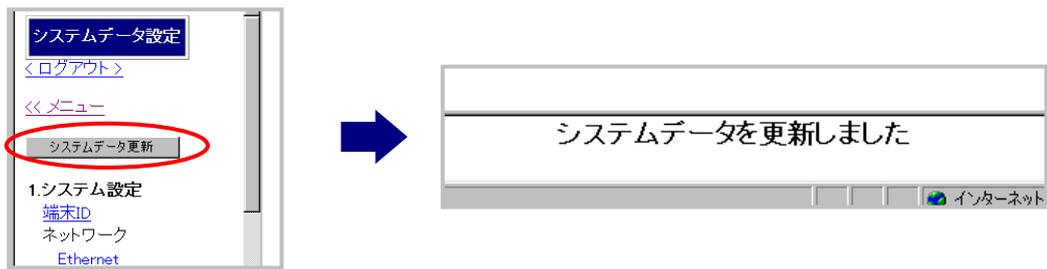
アナログ応答に設定されている『ユーザID』『パスワード』を設定変更してください。
また IP アドレス体系をパソコンの IP アドレス体系に合わせて設定変更してください。
IP アドレス体系が異なると「システムデータ更新」以降、**アナログポート接続によるブラウザコントロールができなくなります。**



ブラウザコントロールに設定されている『ポート番号』『管理者ID』『管理者パスワード』を確認し、メモする または 設定変更してください。確認せずにログアウトすると、再度アクセスしたときに**管理者でログインできなくなります。**



- 6 左フレームの「システムデータ更新」ボタンを押します。下フレームにシステムデータを更新した旨のメッセージが表示されます。



ご注意

- 設定変更後、本装置を再起動しないと設定が有効とならない設定種別が変更されている場合、「重要な設定が変更されています。設定終了後、再起動を行ってください。」というメッセージが表示されます。ブラウザコントロール終了後に本装置を再起動してください。

2 CFメモ리카ードからロードする

- 1 本装置の電源を切り（SOFT_SWをOFF）、システムデータファイル（sysconfig.dat）が保存されているCFメモ리카ードをCFカードスロット2に差し込み、電源を入れます。（SOFT_SWをON）

ファイル名：sysconfig.dat

ご注意

- CFカードからロードする場合は、必ず上記ファイル名にしてください。ファイル名が違う場合、正しくロードできません。

📖 電源を入/切について、「電源を入れる/切る」(P172)をご覧ください。

📖 CFカードの取付け方法について、「本装置を取付ける CFカードを取り付ける」(P153)をご覧ください。

システムデータ設定画面にアクセスしてください。（手順省略）

- 2 システムデータ設定画面より、「システムデータファイル操作」をクリックします。システムデータファイル操作画面が表示されます。



- 3 「実行」ボタンをクリックします。しばらくすると、下フレームにシステムデータを一時保存した旨のメッセージが表示されます。

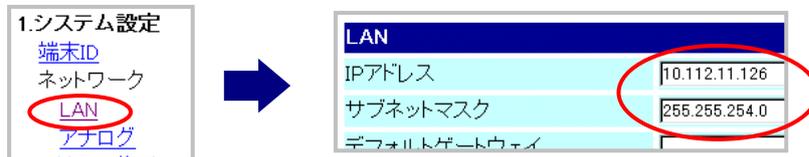


ご注意

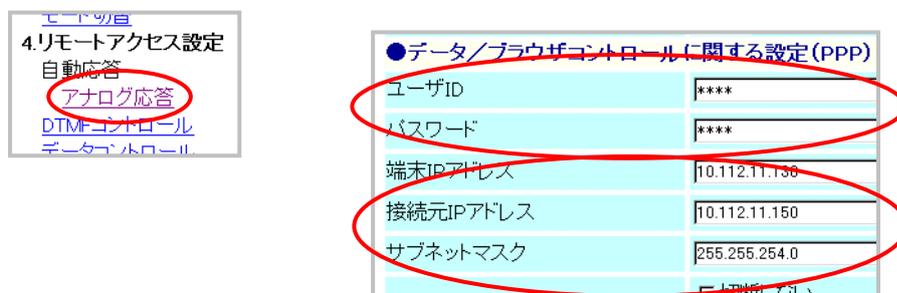
- 「アップロードに失敗しました。」というメッセージが表示された場合、システムデータファイルが壊れている可能性があります。何度か実行してもうまくいかない場合は、再度システムデータファイルを作成する必要があります。

4 重要なシステムデータをチェックします。（IPアドレス、ID・パスワードなど） 以下の設定項目を必ずチェックしてください。

LANに設定されているIPアドレス体系をパソコンのIPアドレス体系に合わせて設定変更してください。IPアドレス体系が異なると「システムデータ更新」以降、LANポート接続による**ブラウザコントロールができなくなります。**



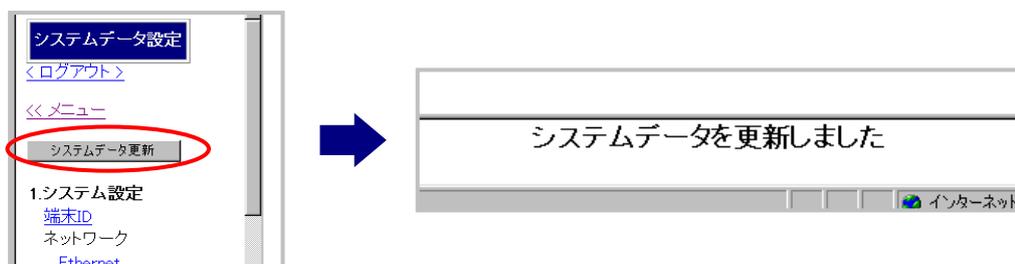
アナログ応答に設定されている『ユーザID』『パスワード』を設定変更してください。またIPアドレス体系をパソコンのIPアドレス体系に合わせて設定変更してください。IPアドレス体系が異なると「システムデータ更新」以降、**アナログポート接続によるブラウザコントロールができなくなります。**



ブラウザコントロールに設定されている『ポート番号』『管理者ID』『管理者パスワード』を確認し、メモするまたは設定変更してください。確認せずにログアウトすると、再度アクセスしたときに**管理者でログインできなくなります。**



5 左フレームの「システムデータ更新」ボタンを押します。 下フレームにシステムデータを更新した旨のメッセージが表示されます。



ご注意

- 設定変更後、本装置を再起動しないと設定が有効とならない設定種別が変更されている場合、「重要な設定が変更されています。設定終了後、再起動を行ってください。」というメッセージが表示されます。ブラウザコントロール終了後に本装置を再起動してください。

動作チェックを実施する

本設置工事の要求内容通りに動作するか動作チェックを実施してください。

動作チェック内容は、システムデータ設定内容により異なります。

以下の基本動作チェック内容を参考に必要な動作チェックを実施してください。

1 起動要因の基本的な動作チェック

チェック項目	チェック方法	主なチェック内容
デジタル入力		
イベント	実際に信号を入力	ブラウザコントロールの現在状態画面/動作履歴画面、デジタル出力連動、通報動作などで、各入力が異常・復旧検出しているか確認。
パルス積算	実際に信号を入力	ブラウザコントロールの現在状態画面/積算値クリア画面などで、各入力が積算しているか確認。
時間積算	実際に信号を入力	ブラウザコントロールの現在状態画面/積算値クリア画面などで、各入力が積算しているか確認。
アナログ入力	実際に信号を入力	ブラウザコントロールの現在状態画面/動作履歴画面、デジタル出力連動、通報動作などで、各しきい値が異常・復旧検出しているか確認。
定時刻	時計データを設定変更	ブラウザコントロールの動作履歴画面、デジタル出力連動、通報動作などで各定時刻を検出しているか確認。
停電・復電	電源の供給停止・開始	ブラウザコントロールの現在状態画面/動作履歴画面、デジタル出力連動、通報動作などで、停電・復電検出しているか確認。
ローバッテリー	停電状態で数十分待機	ブラウザコントロールの動作履歴画面、デジタル出力連動、通報動作などでローバッテリーを検出しているか確認。
モード切替	モードを切り替える ※カレンダーの場合は時計データを設定変更	ブラウザコントロールの現在状態画面/動作履歴画面、デジタル出力連動、通報動作などで、モード切替検出しているか確認。
ビットデバイス		
イベント	実際に信号を入力	ブラウザコントロールの現在状態画面/動作履歴画面、通報動作などで、各デバイスが異常・復旧検出しているか確認。
ワードデバイス		
アナログ入力	実際に信号を入力	ブラウザコントロールの現在状態画面/動作履歴画面、通報動作などで、各しきい値が異常・復旧検出しているか確認。
パルス積算	実際に信号を入力	ブラウザコントロールの現在状態画面/積算値クリア画面などで、各デバイスが積算しているか確認。
時間積算	実際に信号を入力	ブラウザコントロールの現在状態画面/積算値クリア画面などで、各デバイスが積算しているか確認。

2 デジタル出力の基本的な動作チェック

チェック項目	チェック方法	主なチェック内容
連動制御		
回線断連動	アナログ回線断状態 30秒待機	設定通りにデジタル出力が連動しているか確認。
要因連動	各要因起動（上表）	設定通りにデジタル出力が連動しているか確認。
通報連動	通報動作を起動	設定通りにデジタル出力が連動しているか確認。
任意制御	コントロールで制御	操作通りにデジタル出力がON・OFFしているか確認。

3 通報の基本的な動作チェック

チェック項目	チェック方法	主なチェック内容
通報動作	各要因起動（上表）	設定通りに通報動作を行っているか確認。 <ul style="list-style-type: none"> • 全ての宛先に通報するか確認 • 音声メッセージやEメールやFAX内容の確認 • 通報パターン（通報完了条件や次通報、モードによる通報先）の確認など

4 動作記録の基本的な動作チェック

チェック項目	チェック方法	主なチェック内容
動作履歴	各要因起動（上表）	ブラウザコントロールの動作履歴に設定通り記録を行っているか確認。

5 帳票の基本的な動作チェック

チェック項目	チェック方法	主なチェック内容
日報・月報	プレビュー（ブラウザ）	ブラウザコントロールの日報や月報が設定通り表示を行っているか確認。
	プレビュー（FAX）	FAX 帳票用の日報や月報が設定通り表示を行っているか確認。

チェック項目	チェック方法	主なチェック内容
日報・月報	時計データ設定変更 22:00 に変更 ↓ 各端子に実際に信号入力 ↓ 1分以上待機 ↓ 時計データ設定変更 23:00 に変更 ↓ 各端子に実際に信号入力 ↓ 1分以上待機 ↓ 時計データ設定変更 次の日の22:00 に変更 ↓ 各端子に実際に信号入力 ↓ 1分以上待機 ↓ 時計データ設定変更 23:00 に変更 ↓ 各端子に実際に信号入力 ↓ 1分以上待機 ↓ 時計データ設定変更 次の日の00:00 に変更	ブラウザコントロールの日報や月報に設定通り表示を行っているか確認。 日報：2時間分(22:00 および 23:00)のデータ表示 月報：2日分のデータ表示

6 遠隔によるコントロールの基本的な動作チェック

チェック項目	チェック方法	主なチェック内容
DTMF 音声コントロール	「コントロールする：DTMF音声」(P129)の操作手順参照	DTMF 音声コントロールが正しく行えるか確認。
ブラウザコントロール	「コントロールする：ブラウザ」(P87)の操作手順参照	ブラウザコントロールが正しく行えるか確認。

運用を開始する

動作チェックを完了後、運用を開始する前に以下の手順を行い、運用を開始してください。

1 時計データを合わせる

時計データを現在の時刻に合わせて設定してください。

📖 時計の変更について、「コントロールする:ブラウザ [時計を設定する](#)」(P123)をご覧ください。

2 積算値をクリアする

各入力の積算値をクリアすることにより、動作チェックで積算した値を0に戻します。

📖 積算値のクリアについて、「コントロールする:ブラウザ [端子の積算値をクリアする](#)」(P119)をご覧ください。

3 履歴をクリアする

履歴をクリアすることにより、動作チェックで発生した履歴を全て消去します。

📖 履歴のクリアについて、「コントロールする:ブラウザ [履歴・帳票データをクリアする](#)」(P121)をご覧ください。

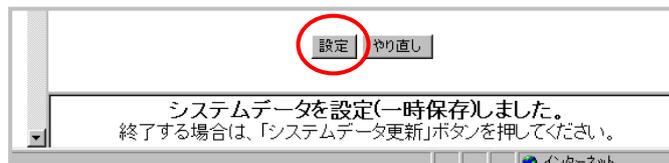
- 5 左フレームの「アナログ」をクリックします。 右フレームに「アナログ」の設定項目が表示されます。



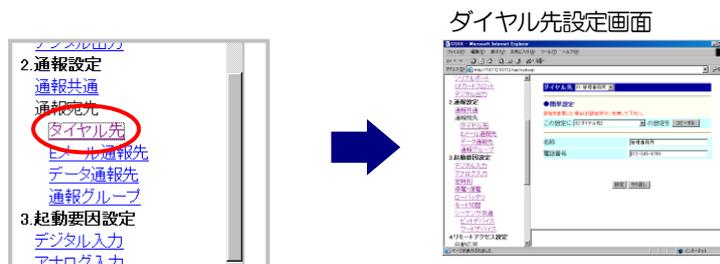
- 6 「ダイヤルモード」を設定します。本装置が接続されているダイヤル種別をクリックします。



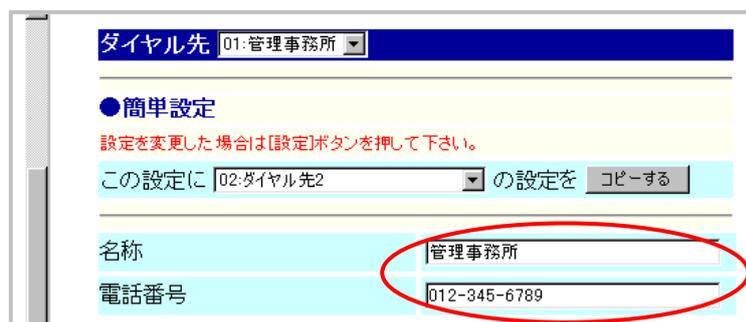
- 7 「設定」ボタンを押します。（設定変更しなかった場合は、必要ありません）しばらくすると画面が切り替わり、一時保存した旨のメッセージが表示されます。



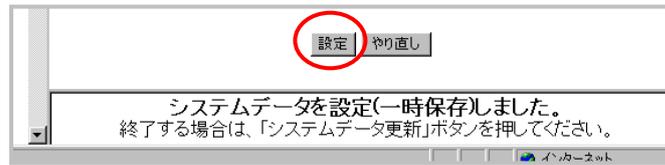
- 8 左フレームの「ダイヤル先」をクリックします。 右フレームに「ダイヤル先」の設定項目が表示されます。



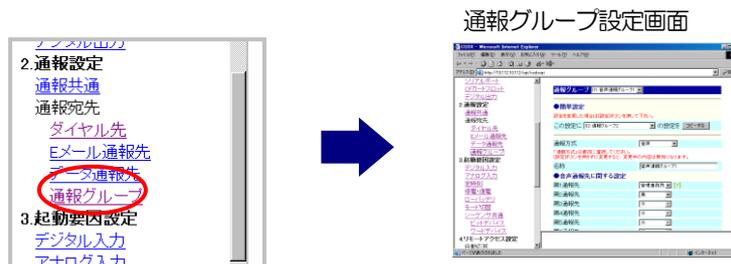
- 9 『名称』および『電話番号』設定欄に、通報先名称と通報先電話番号を入力します。



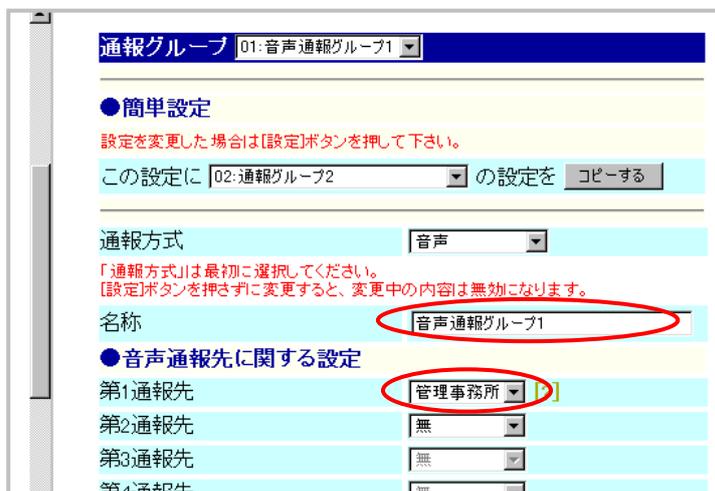
- 10 「設定」ボタンを押します。しばらくすると画面が切り替わり、一時保存した旨のメッセージが表示されます。



- 11 左フレームの「通報グループ」をクリックします。右フレームに「通報グループ」の設定項目が表示されます。



- 12 『名称』設定欄にこの通報グループのグループ名を設定します。次に『第1 通報先』のリストボックス(▼部)をクリックします。リストの中に「通報先設定で設定した通報先名称」が表示されますので、クリックします。



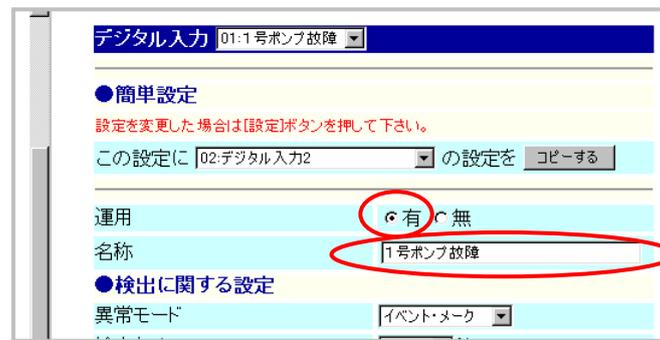
- 13 画面を下の方にスクロールし、「設定」ボタンを押します。しばらくすると画面が切り替わり、下フレームに一時保存した旨のメッセージが表示されます。



- 14 左フレームの「デジタル入力」をクリックします。 右フレームに「デジタル入力」の設定項目が表示されます。



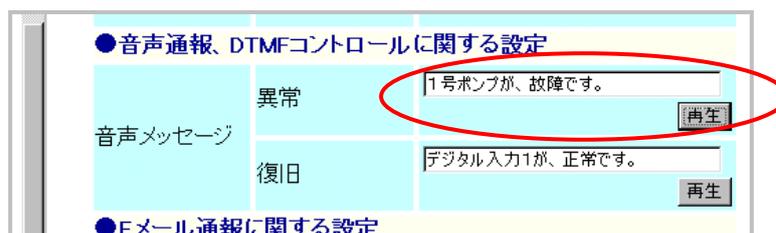
- 15 『運用』設定の《有》をクリックします。次に『名称』設定欄にこのデジタル入力の名称を設定します。



- 16 画面を少し下の方にスクロールし『モード1 通報』設定でチェックボックスをクリックして設定を有効にします。次に『第1 通報Gr』のリストボックス (▼部) をクリックします。リストの中に「通報グループ設定で設定した通報グループ名称」が表示されますので、クリックします。



- 17 画面を少し下の方にスクロールし『音声メッセージ』設定欄に、通報時の要因メッセージを入力します。「再生」ボタンをクリックすると、本装置のスピーカよりメッセージが再生されます。意図する音声メッセージになっているか確認してください。

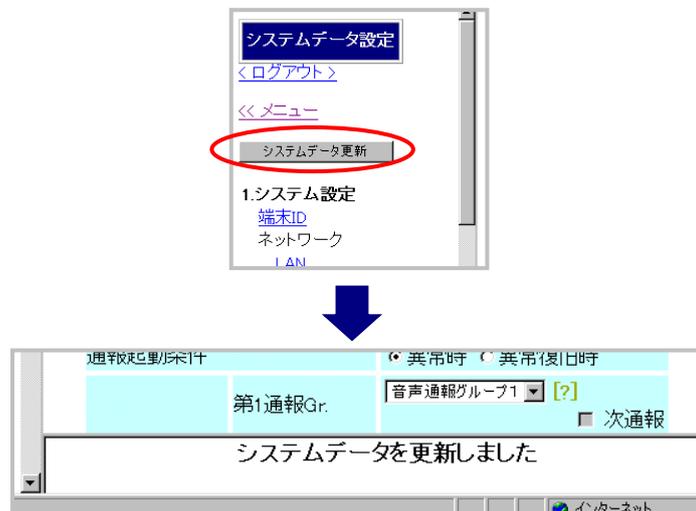


📖 音声メッセージの設定方法について、「データを設定する：共通設定方法 音声メッセージの設定方法」(P234)をご覧ください。

18 画面を少し下の方にスクロールし「設定」ボタンを押します。しばらくすると画面が切り替わり、下フレームに一時保存した旨のメッセージが表示されます。



19 左フレームを上の方にスクロールし「システムデータ更新」ボタンを押します。下フレームにシステムデータを更新した旨のメッセージが表示されます。



以上で設定は終了です。

デジタル入力1に信号（メーク）を入力し、通報動作を行うか確認してください。

その他

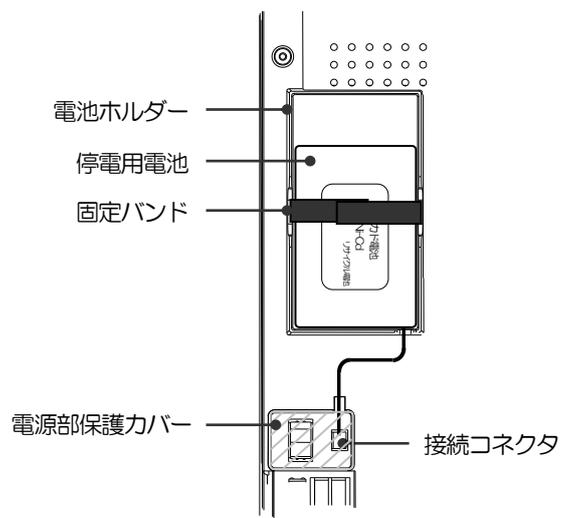
保守メンテナンス

停電用電池の交換

停電用電池（ニカド電池またはニッケル水素電池）は、以下の手順で交換してください。
 確実な停電動作を保持するため、3年毎に交換してください。

📖 停電用電池の型番および交換時期の詳細に関しては、「製品について オプション・関連品/保守用品等」(P12)もご覧ください。

- 1 装置カバーを外します。
- 2 電源部保護カバーを外し、接続コネクタからケーブルを抜きます。
 ケーブルは、できる限りコネクタの根元をもって抜いてください。
- 3 固定バンドを外し、古い電池を外します。
- 4 新しい電池を電池ホルダーに収納し、固定バンドで固定します。
- 5 接続コネクタにケーブルを接続し、電源部保護カバーを取り付けます。
 コネクタは、確実に接続してください。
- 6 装置カバーを取り付けます。
- 7 交換日をメモなどし、保管してください。



ご注意

- 指定の電池以外は絶対に接続しないでください。
- 完全充電に要する時間は、標準電池(ニカド電池)：48時間以上、長時間電池(ニッケル水素電池)：96時間以上です。従って、電池交換後すぐに停電が起きた場合は、停電保証時間が短くなる場合がありますのでご了承ください。

リサイクルについて



この製品には、ニカド電池またはニッケル水素電池を使用しています。ニカド電池及びニッケル水素電池はリサイクル可能な貴重な資源です。交換後不要になったニカド電池及びニッケル水素電池、及び使用済み製品から取り外したニカド電池及びニッケル水素のリサイクルに際しては、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るかポリ袋に入れて、当社販売店または当社修理受付窓口にお持ちください。
 詳細は、NECプラットフォームズ(株)環境ホームページをご覧ください。
<https://www.necplatforms.co.jp/kankyo/index.html>

お問い合わせは、製品、ニカド電池またはニッケル水素電池をご購入いただいた当社販売店または当社修理受付窓口へお願い致します。

リサイクル時の注意

ニカド電池及びニッケル水素電池はショートしないようにしてください。火災・感電の原因となります。
 また、外装カバー（被覆・チューブなど）をはがしたり、ニカド電池及びニッケル水素電池を分解したりしないでください。

CFカードの交換

データ保管などのため、CFカードを交換する場合は、必ず以下の手順で交換してください。

 CFカードのご注文に関しては、「製品について [オプション・関連品/保守用品等](#)」(P12)をご覧ください。

CFカードを交換する前に必ずお読みください。

ご注意

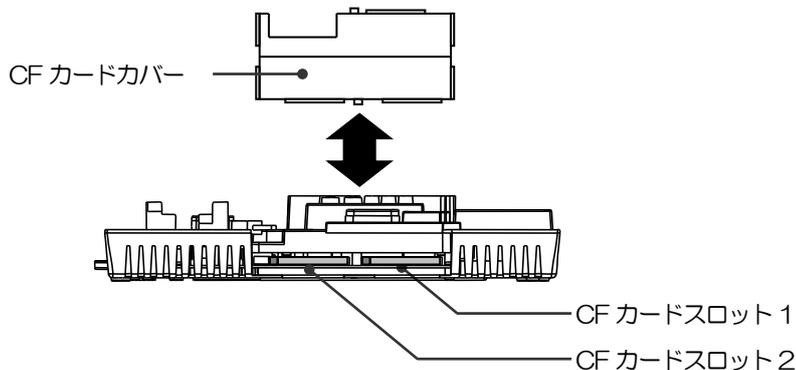
- CFカードは誤った取り出し方をすると、カード本体や蓄積されているデータが破壊する可能性があります。必ず手順に従って行ってください。
- CFメモリカードを交換するタイミング
CFメモリカードを交換すると、古い履歴が見れなくなります。特に日報や月報帳票などを運用している場合は、交換するタイミングを間違えると帳票データが古いカードと新しいカードに分割され、運用に支障をきたす場合があります。極力帳票データに影響が出ないように、以下のタイミングで交換することをお勧めします。

日報のみ運用している場合

××月××日 00 時 00 分が理想です。00 時 00 分を基準とし、前日のできる限り遅い時間帯かその日のできる限り早い時間帯に交換することをお勧めします。

月報を運用している場合

××月 1 日の 00 時 00 分が理想です。1 日の 00 時 00 分を基準とし、前日（前月）のできる限り遅い時間帯か 1 日のできる限り早い時間帯に交換することをお勧めします。



1 本体カバーを外します。

2 SOFT_SWをOFFにします。

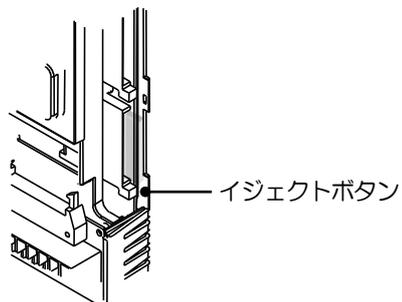
終了処理を行い、しばらくすると全てのランプが消灯状態となります。

ご注意

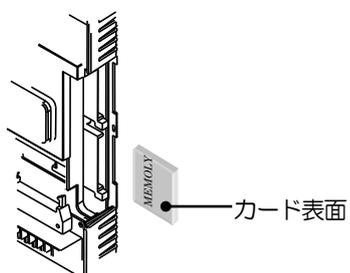
- CFカードは、必ずSOFT_SWOFF状態で、抜き差ししてください。カードの故障原因となります。

3 CFカードカバーを外します。

4 イジェクトボタンを押し、古いCFカードを取り出します。



5 新しいCFカードの表ラベル面を上にし、スロットに奥まで確実に差し込みます。



ご注意

- CFカードは、種類により対応するスロットが決まっています。違うスロットに差し込むと正常に動作しません。

6 CFカードカバーを取り付けます。

7 SOFT_SWをONにします。

8 装置カバーを取り付けます。

システムデータの初期化

コルソスの IP アドレスや ID・パスワードを忘れたなどでコルソスにアクセスできなくなった場合は、システムデータの初期化（出荷時のシステムデータ初期値）が必要です。以下の手順で実施してください。なお本機能は、下表のバージョン以降に搭載されている機能です。

機種名	機能対応バージョン
CSDX	1.17140310 以降
CSDX(P)	4.17140310 以降（初回リリースバージョン以降）
CSDX(D)	3.17140310 以降
CSDX(S)	2.17140310 以降

システムデータを初期化する前に必ずお読みください。

ご注意

- システムデータ初期化を行うと初期化前のシステムデータは全て消去されますので、十分考慮して実施してください。
- 初期化するのはシステムデータのみです。積算値や履歴は初期化されませんので、必要により積算値クリアや履歴クリア機能で行ってください。

1 電源ON（瞬間的にLED全点灯→全消灯）

2 電源LED点灯

3 LAN以外のLED全点灯後、以下のボタン操作を行う。

[SET] → [CANCEL] → [CANCEL] → [CANCEL] → [SET]

※. [] 内のボタン操作は、ON/OFF 操作です。

※. 上記③のLED点灯時間は約3秒です。その間に最初の[SET]を押さないと通常通り起動します。また[SET]押下後は、1秒以内に次のボタン操作を行う必要があります。

4 LAN以外のLED全点滅（0.5秒周期）後、以下のボタン操作を行う。

[SET]

※. [] 内のボタン操作は、ON/OFF 操作です。

※. 上記④のLED点滅時間は約6秒です。その間に[SET]を押さないと通常通り起動します。

5 システムデータを初期化し、起動します。

故障かなと思われたら

以下の内容を参考にもう一度説明書をお読みください。

それでも直らない場合や故障と判明した場合は、「保守メンテナンス アフターサービス」(P292)をご覧の上、販売店または最寄の弊社窓口にご連絡下さい。

電源

電源が入らない

- MAIN_SW、SOFT_SW がONになっているか。(P172)
- 電源線が正しく配線されているか、また動作範囲内の電源が供給されているか。(P169)
停電用電池の容量が残っていても、電源線からの電源が供給されていない状態では電源は入りません。
停電時に SOFT_SW を切ってしまうと復電するまで起動できなくなりますので注意してください。

停電時動作しない

- 停電用電池が正しく接続されているか、また電池の充電状態に問題はないか。(P152)
- 停電用電池は、交換時期（3年）ではないか。(P284)

入出力検出

デジタル入力が検出しない

- 正しく配線されているか、また信号が正しく入力されているか。(P162)
- 該当するデジタル入力のシステムデータは、正しく設定されているか。(P197)
『運用』、『異常モード』、『検出タイム』など

アナログ入力が検出しない

- 正しく配線されているか、また信号が正しく入力されているか。(P163)
- 該当するアナログ入力のシステムデータは、正しく設定されているか。(P201)
『運用』、『端子用途』、『検出モード』、『しきい値』、『検出タイム』など
- アナログ入力切替用スイッチ(本体カバー内スイッチ)は正しく設定されているか。(P163、201)
アナログ入力切替用スイッチの設定は、『端子用途』（システムデータ）と同じに設定する必要があります。
- 電流入力で使用している場合、電流調整用ボリューム(本体カバー内スイッチ)を正しく調整されている。(P163)

デジタル出力が動作しない

- 正しく配線されているか。(P166)
デジタル出力には、(+)と(-)がありますので、注意してください。
- 該当するデジタル出力のシステムデータは、正しく設定されているか。(P186)
『運用』、『出力方式』など
- 連動動作が正しく動作しない場合は、各要因の『デジタル出力連動』の設定が正しく設定されているか。

シーケンサが動作しない

- 正しく配線されているか、また信号が正しく入力されているか。(P155)
- 該当するシーケンサ(ビットデバイス、ワードデバイス)のシステムデータは、正しく設定されているか。(P217、218)
『運用』、『端子用途』など
- シーケンサのプログラムと合っているか。(P263)

通報

通報起動しない（LINEランプが点滅しない）

- 各要因が正しく検出していることを確認してください。
- 各通報要因に通報先（第1 通報グループ～第5 通報グループ）が正しく設定されているか。(P232)
通報先が正しく設定されていないと、通報起動しません。

アナログポートから通報できない（ダイヤルしない）

- アナログ回線が正しく接続されているか。(P157)
- アナログポートの『ダイヤル種別』（DP10/DP20/DTMF）が正しく設定されているか。(P183)
ダイヤル種別が正しくないと、ダイヤルできません。
- ダイヤル先、通報グループなど正しく設定されているか。(P232)

LANポートから通報できない

- LAN ポートに正しく接続されているか。(P157)
「LAN」ランプが点灯していることを確認してください。「LAN」ランプが点灯していない場合は、接続しているネットワークの確認を行ってください。
- 通報先、通報グループなど正しく設定されているか。(P232)
LANポートからの通報は、データ・Eメールのみです

PHSで通報できない

- PHS カードは指定のカードを使用しているか。(P12)
指定以外のPHSカードでは、正しく動作しません。
- PHS カードがCF カードスロット1 に正しく接続されているか。(P158)
本装置CF カードスロット1 に取付け、電源をONした場合、PHSカードの「圏内」ランプが点灯していることを確認してください。「圏内」ランプが点灯していない場合は、PHSカードや設置場所の確認を行ってください。
- 通報先、通報グループなど正しく設定されているか。(P232)
PHSカード（CF カードスロット）からの通報は、データ・Eメールのみです。

DoPa・FOMAで通報できない

- 指定のDopa またはFOMA 機器を使用しているか。(P12)
指定以外の機器では、正しく動作しません。
- シリアル機器の場合、シリアルポート1（RS-232C）に正しく接続されているか。(P158)
シリアルポートにストレートケーブルで正しく接続されていること、また機器の電源をONして「圏内」ランプが点灯していることを確認してください。「圏内」ランプが点灯していない場合は、機器や設置場所の確認を行ってください。
- CF カードの場合、CF カードスロット1 に正しく接続されているか。(P158)
本装置CF カードスロット1 に取付け、電源をONした場合、カードの「圏内」ランプが点灯していることを確認してください。「圏内」ランプが点灯していない場合は、カードや設置場所の確認を行ってください。
- 通報先、通報グループなど正しく設定されているか。(P232)
DoPa・FOMA（シリアルポート・CF カードスロット）からの通報は、データ・Eメールのみです。また、データ通報にはビジネス mopera アクセスプレミアムの契約が必要です。ビジネス mopera アクセスプレミアムについては、(株)NTT ドコモホームページなどをご覧ください。

音声通報できない

- アナログポートを使用しているか。(P22)
音声通報はアナログポートからのみ送出可能です。
- 応答検出方式は、正しく設定されているか。(P192)
- 音声メッセージは、正しく設定されているか。(P197)

Eメール通報できない

- Eメール通報先に関する設定が正しく設定されているか。(P191、192)
Eメール通報先の『Eメールアドレス』や通報グループの『SMTPサーバアドレス』『Eメール通報先』など。
- ダイヤルアップの場合、プロバイダ接続に関する設定は正しく設定されているか。(P192)
通報グループの『ダイヤル先』、『ユーザID』、『パスワード』など。
- 日報・月報の添付ファイルが通報できない場合、帳票を添付するように、正しく設定されているか。(P206)
定時刻通報の『日報・月報 Eメール添付』など。

FAX通報できない

- アナログポートを使用しているか。(P22)
FAX 通報はアナログポートからのみ送出可能です。
- 日報・月報帳票が通報できない場合、帳票を送信するように、正しく設定されているか。(P206)
定時刻通報の『日報・月報 FAX 帳票』など。
- 通報先のFAXはG3対応となっているか。(P16、59)
FAX 通報は、G3 機対応です。スーパーG3 や G4FAX へは、通信できませんのでご注意ください。

コントロール起動

アナログポートで自動応答しない

- 自動応答の設定は、正しく設定されているか。(P220)
アナログ応答の『自動応答機能』など

LANポートでアクセスできない

- LANポートに正しく接続されているか。(P157)
「LAN」ランプが点灯していることを確認してください。「LAN」ランプが点灯していない場合は、接続しているパソコンの設定（ネットワークデバイスが使用不可になっていないか）、接続ケーブル、接続しているネットワークの確認を行ってください。

DTMFコントロールができない

- CSDXのDTMF受信条件は別紙の通りです。(P16)
- アナログポート自動応答後、5秒以内に電話機から何らかのDTMF信号を押しているか。(P129)
5秒以内に何らかのDTMF信号を押さないと、データ/ブラウザコントロールが起動します。
- 暗証番号など正しく設定されているか。(P223)

ブラウザコントロールができない（ログイン画面が表示されない）

- ブラウザコントロールに使用するパソコンの設定は正しく行っているか。(P89)
本装置の各ポートのIPアドレス体系とアクセスするパソコンのIPアドレス体系は、一致していないとアクセスできません。
- ブラウザのURL欄に、正しいIPアドレスを入力しているか。(P94)
LANポートへのアクセスの場合はLANポートのIPアドレス、アナログポートへのアクセスの場合はアナログ応答のIPアドレスです。
- パソコン(A)でアクセスした直後に、(A)と同一のIPアドレスに設定した違うパソコン(B)でアクセスしていないか。(P94)
パソコン(A)でアクセスした直後に、(A)と同一のIPアドレスに設定した違うパソコン(B)でアクセスすると、MACアドレスが異なるため、一定時間アクセスできない場合があります。パソコン(B)のIPアドレスを替えてください。

ブラウザコントロール内容

メニュー画面で帳票をクリックできない

- CFカードスロットの設定が、正しく設定されているか。(P185)

システムデータ設定画面が正しく表示されない

- ブラウザ以外のアプリケーションなどが複数起動していないか。(P94)
複数のアプリケーションが起動していたり常駐していると、メモリ不足となり、正常に表示されない場合があります。

帳票が正しく表示されない

- CFカードスロットにメモリカードが正しく取り付けられているか。(P78、153)
帳票を表示するには、CFカードが必要です。
- 帳票に表示する端子は各端子の『定時記録』や『動作記録』の設定が正しく設定されているか。
正しく設定されていないと、記録が取れないため表示されません。
- 帳票の設定は、正しく設定されているか。(P226、228)
正しく設定されていないと、帳票に表示されません。

エラー画面が表示される

- エラー画面の内容により対処してください。(P127)

アフターサービス

1 保証書について

この製品には、保証書が添付されています。

保証書は、販売代理店や最寄りの営業所からお渡ししますので、所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日より1年間です。

2 保証の内容について

保証書の記載内容に基づいて、修理させていただきます。

ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、有償修理とさせていただきます。

3 修理について

販売店または最寄りの弊社窓口にご連絡下さい。

3-1 連絡していただきたい内容

- 型名：コルソス CSDX / CSDX(P) / CSDX(S) / CSDX(D) のいずれか
- ご住所・ご氏名（事業所）・電話番号
- ご購入日：（保証書をご覧ください）
- 故障の内容：（できるだけ詳しく）
- その他、バージョンなどお聞きする場合がございます。

3-2 データバックアップについて

修理に出す際には、履歴や帳票、システムデータなどのデータバックアップ（CF カード保管、印刷など）をお願いいたします。

弊社の修理により、上記データが消去された場合であっても、弊社は、一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

なお、CF カードやメモリなど記録媒体そのものの故障の場合には、データの修復はできませんので、あらかじめご了承ください。

4 補修用部品の保有期間について

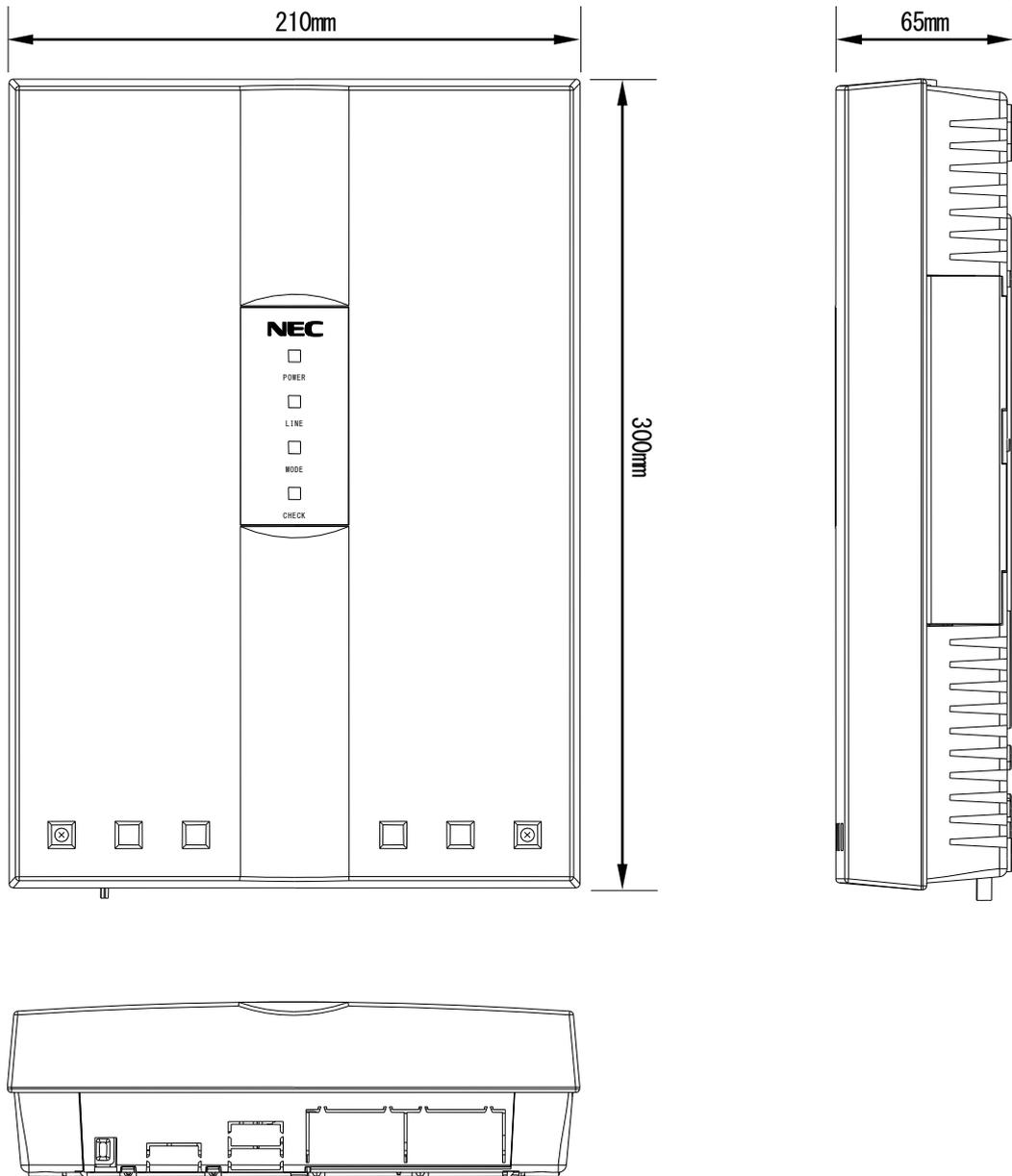
この製品の補修用性能部品は（製品の性能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後、7年間保有しております。原則として、部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。

5 商品廃棄について

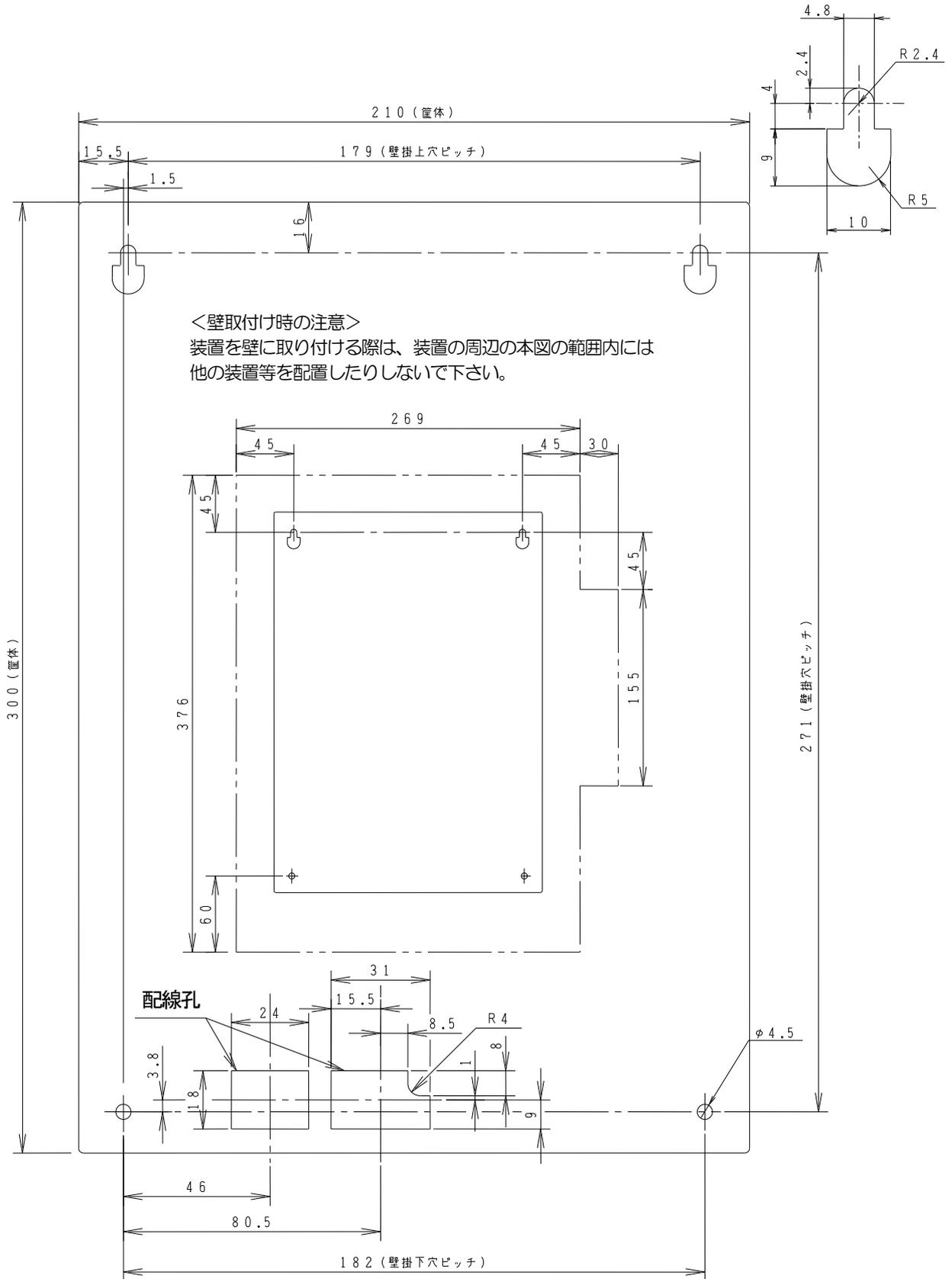
本製品を廃棄するときには地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは各地方自治体にお問い合わせください。

寸法図

1 外形寸法



2 取付け寸法



Web 対応型 遠隔監視制御システム コルソス CSDX
コルソス CSDX(P)
コルソス CSDX(D)
コルソス CSDX(S)

NECプラットフォームズ株式会社

ホームページ
<https://www.necplatforms.co.jp/>
